

平成 29 年度

防災に関する県民意識調査報告書

三 重 県

目次

第1章	調査の概要	1
1.1	調査目的	1
1.2	調査方法	1
1.3	調査期間	1
1.4	調査票の配布と回収	1
1.5	集計結果	1
1.6	本報告書における結果数値等の取扱い	2
第2章	調査結果の概要	3
2.1	災害に対する意識	3
2.1.1	東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり	3
2.1.2	内陸直下型地震の危険性の認知度	5
2.1.3	気象庁の大雨警報（浸水害）、洪水警報の危険度分布HPの認知度	6
2.2	災害時の避難行動	7
2.2.1	夜間の大地震に遭遇した際の避難行動	7
2.2.2	局地的大雨等の避難行動	8
2.3	「自助」の状況	9
2.3.1	家庭での防災対策の状況	9
2.3.2	地域や職場での防災活動への参加状況	11
2.3.3	住まいの耐震診断および地震対策の状況	12
2.3.4	家具固定の進捗および家具固定をしていない危険性の認識	14
2.4	「公助」や県の施策の認知度	15
2.4.1	「公助」による防災・減災の取組	15
2.4.2	「防災みえ.jp」ホームページの認知度	16
2.4.3	学校の防災教育の家庭での認知度	17
第3章	調査結果	18
3.1	地震・津波対策について	18
3.1.1	東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり	18
3.1.2	夜間の大地震に遭遇した際の避難行動	20
3.1.3	すぐに避難する理由	24
3.1.4	避難を遅らせる理由	25
3.1.5	避難しない理由	26
3.1.6	三重県地震被害想定調査結果の認知度	28
3.1.7	浸水深30cm到達時間予測図の認知度	29
3.1.8	内陸直下型地震の危険性の認知度	30
3.2	風水害対策について	31
3.2.1	気象庁の大雨・洪水警報の危険度分布HPの認知度	31
3.2.2	お住まいの地域の風水害による危険性の認知度	32
3.2.3	風水害の危険性の情報入手先	33
3.2.4	局地的大雨等の避難行動	34

3.2.5	台風時等の避難行動.....	36
3.2.6	台風時等に避難しない理由.....	37
3.3	防災全般について.....	39
3.3.1	家庭での防災対策の状況.....	39
3.3.2	家具固定の不備による危険度.....	46
3.3.3	家屋からの脱出.....	49
3.3.4	安全ではないのに家具を固定しない理由.....	50
3.3.5	防災みえ.jp の認知度.....	52
3.3.6	防災みえ.jp のどのようなコンテンツを見たことがあるか.....	54
3.3.7	防災みえ.jp を活用しない理由.....	55
3.3.8	災害時にインターネットで知りたい情報.....	56
3.3.9	防災情報メール配信サービスの認知度.....	57
3.3.10	県が気象や災害の情報を発信している Twitter の認知度.....	58
3.3.11	気象や災害の情報の入手先.....	60
3.3.12	避難場所や避難所の認知度.....	68
3.3.13	避難場所や避難所までの経路についての認知度.....	70
3.3.14	地域や職場での防災活動への参加状況.....	71
3.3.15	地域の防災活動に参加した内容.....	75
3.3.16	地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったか.....	78
3.3.17	防災活動に参加しなかった理由.....	79
3.3.18	今後の地域の防災活動への参加.....	81
3.3.19	地域・職場で必要と思う防災活動.....	83
3.3.20	防災活動や防災対策で企業・事業所に期待すること.....	84
3.3.21	地域の消防団に期待する活動内容.....	86
3.3.22	自主防災組織の有無と活動状況.....	88
3.3.23	就学している児童生徒の有無.....	90
3.3.24	学校の防災教育の家庭での認知度.....	91
3.3.25	防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの.....	94
3.3.26	防災に関する啓発活動等の認知度.....	97
3.3.27	啓発活動は防災意識の向上に役立ったか.....	99
3.3.28	「公助」による防災・減災の取組.....	100
3.4	あなたのお住まいの耐震化について.....	103
3.4.1	住まいの状況.....	103
3.4.2	耐震化に向けた補助制度の認知度.....	104
3.4.3	耐震診断の受診の有無と診断結果.....	106
3.4.4	耐震診断を受けない理由.....	108
3.4.5	補強工事を行ったか.....	109
3.4.6	耐震補強工事の補助制度を利用したか.....	110
3.4.7	どのような補強工事を行ったか.....	111
3.4.8	耐震補強を行った時の工事費.....	112

3.4.9	耐震補強をしない理由	113
3.4.10	耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事）	115
3.4.11	一部分のみの耐震補強工事	116
3.4.12	耐震補強工事費の許容自己負担額（一部分のみ）	117
3.4.13	住まいの耐震化を進める取組	118
3.5	アンケート調査回答者の属性	119
3.5.1	住所	119
3.5.2	性別	120
3.5.3	年齢	120
3.5.4	家族人員	121
資	料	123
	○津波危険地域一覧	124
	○使用した調査票	127

第1章 調査の概要

1.1 調査目的

三重県では、県民の皆さんの自然災害に対する備えの状況や防災に関する意識を把握し、県の防災・減災対策に活用するため、平成 14 年度から「防災に関する県民意識調査」を実施しています。

平成 29 年度の調査内容は、設問ごとの経年変化を捉える必要があることから、原則として昨年度の設問項目を踏襲しています。

1.2 調査方法

郵送によるアンケート調査

調査対象は、各市町の選挙人名簿から等間隔無作為抽出法により、5,000 人を抽出

なお、各市町の対象者数は市町別推計人口の比率を参考に割り当てています。

1.3 調査期間

平成 29 年 10 月 6 日から平成 29 年 10 月 20 日まで

1.4 調査票の配布と回収

調査票の配布数と回収数は以下のとおりです。

	配布数	回収数	有効回収率
一般地域	3,375	1,808	53.6%
津波危険地域	1,625	833	51.3%
合計（全県分）	5,000	2,641	52.8%

注 有効回答率は、回収した調査票の中から白紙回答を無効として算出しています。

1.5 集計結果

調査結果の集計は、全県分、一般地域分、津波危険地域分（伊勢市以北）、津波危険地域分（鳥羽市以南）の 4 通りについて行っています。（一部の設問を除く）

なお、過去の調査における同じ設問または同趣旨の設問については、全県（一部設問では地域別）の経年変化を可能な範囲で掲示しています。

また、その他属性等による集計や設問間のクロス集計も行っています。

1.6 本報告書における結果数値等の取扱い

- (1) アンケートの回答には、単数回答（1つだけ選択する回答）と複数回答（該当するものすべてを選択する回答）があり、複数回答の場合は、その質問項目に関して、最初に提示する全体結果を示す図表に「(複数回答)」と表記しています。
- (2) 調査結果の数値は、回答数をもとに、原則、パーセント（%）値で表記しています。（% 値の母数は、その質問項目の該当標本数（有効回答数））
- (3) %値は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表記しています。
したがって、合計が必ずしも 100%とにならない場合（99.9%または 100.1%など）があります。
同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計などでは、内訳の%値を単純加算した数値とは異なる場合があります。
また、第 2 章調査結果の概要での約〇割は、1 割より小さい端数を四捨五入した値で表しています。
- (4) 図中の「n」は、単数回答（1つだけ選択する回答）では有効回答数、複数回答（該当するものすべてを選択する回答）では回答者数を表しています。
図中の「N」は、複数回答（該当するものすべてを選択する回答）の総回答数を表しています。
- (5) 全県と地域別等の表中では、地域別等の無回答者数は地域別等の集計から除外するため、地域別等の合計と全県の数字が合わない場合があります。
全県回答数と地域別等回答数の合計値との差が、地域別等の設問について、回答をいただけなかった方の数となります。

第2章 調査結果の概要

調査結果の詳細は、第3章のとおりですが、この章では特に注目した調査結果を抽出し、その主な概要と特徴を記載しています。

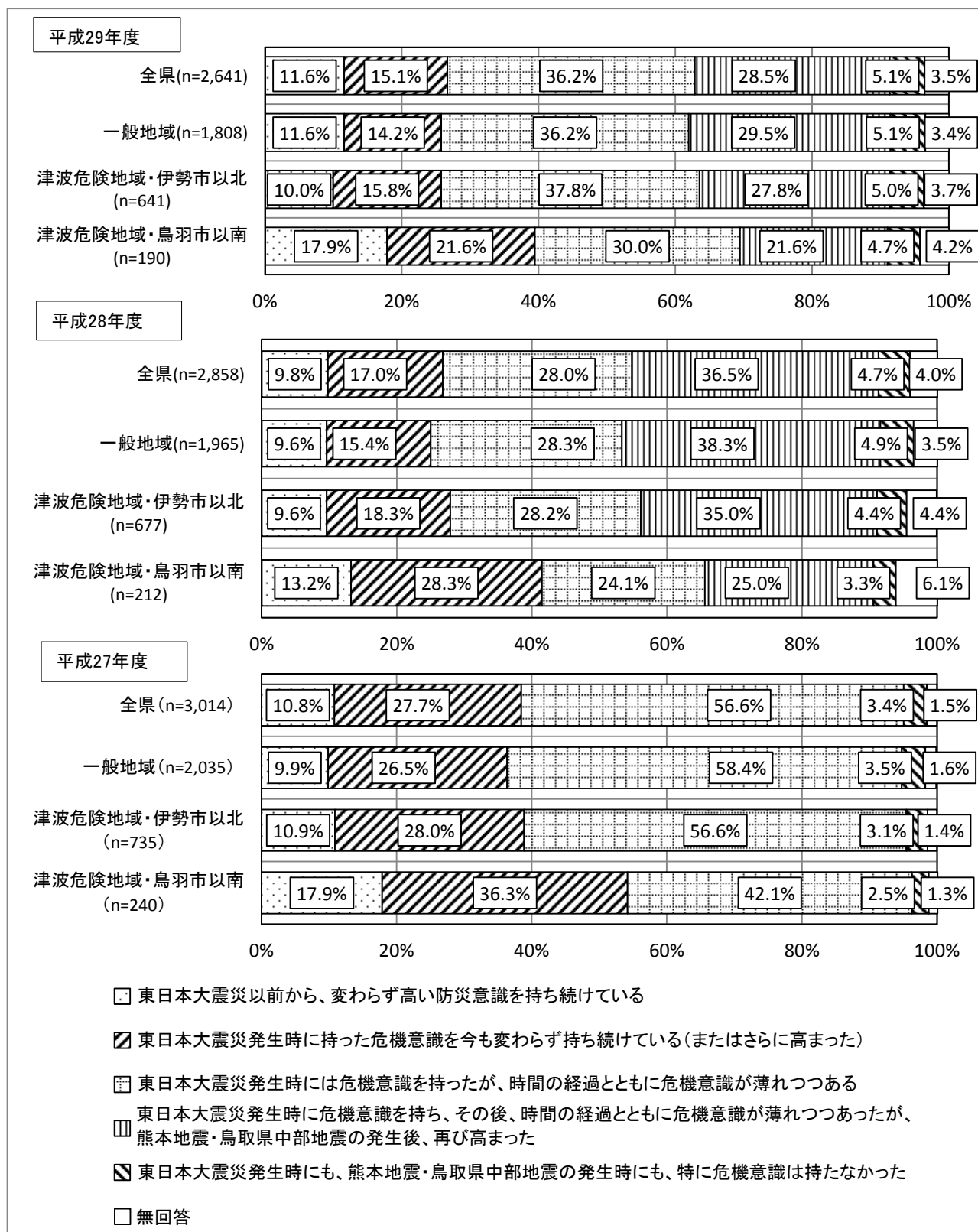
2.1 災害に対する意識

2.1.1 東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり

東日本大震災の発生から6年半あまりが経過し、昨年は4月に熊本地震、10月には鳥取県中部地震が発生しましたが、この大震災と地震を受け、あなたの防災意識に変化はありますか。(一つだけ○) ※問1

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を維持している
2. 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)
3. 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、熊本地震・鳥取県中部地震の発生後、再び高まった
5. 東日本大震災発生時にも、熊本地震・鳥取県中部地震の発生時にも、特に危機意識は持たなかった

図 2.1.1 東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり - 全県及び地域別経年変化 -



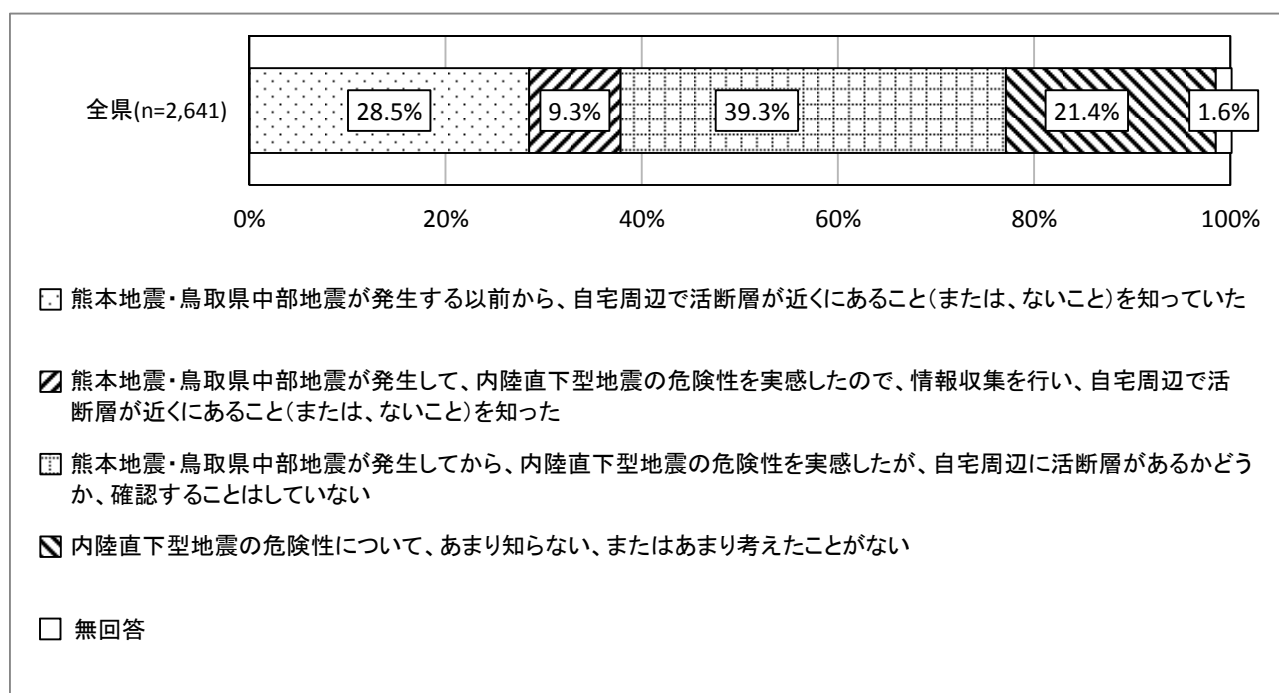
- 「東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、熊本地震・鳥取県中部地震の発生後、再び高まった」と答えた方の割合は昨年度から減少し、28.5%となっています。
- 熊本地震や鳥取県中部地震が発生する前(平成27年度)には56.6%であったところ、当該地震発生後の平成28年度には28.8%と低下しましたが平成29年度は36.2%と増加に転じました。

2.1.2 内陸直下型地震の危険性の認知度

昨年は4月に熊本地震、10月には鳥取県中部地震が発生しましたが、これらの地震を受け、あなたはお住まいの地域での内陸直下型地震の危険性についてどの程度知っていますか。(一つだけ○) ※問5<新規>

1. 熊本地震・鳥取県中部地震が発生する以前から、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知っていた
2. 熊本地震・鳥取県中部地震が発生して、内陸直下型地震の危険性を実感したので、情報収集を行い、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知った
3. 熊本地震・鳥取県中部地震が発生してから、内陸直下型地震の危険性を実感したが、自宅周辺に活断層があるかどうか、確認することはしていない
4. 内陸直下型地震の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えたことがない

図 2.1.2 内陸直下型地震の危険性の認知度 -全県-



- ・「熊本地震・鳥取県中部地震が発生してから、内陸直下型地震の危険性を実感したが、自宅周辺に活断層があるかどうか、確認することはしていない」と答えた方の割合が39.3%と最も多くなっています。
- ・「熊本地震・鳥取県中部地震が発生する以前から、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知っていた」と答えた方の割合が次に多く、28.5%となっています。

2.1.3 気象庁の大雨警報（浸水害）、洪水警報の危険度分布 HP の認知度

気象庁は、平成29年7月から大雨警報（浸水害）の危険度分布、洪水警報の危険度分布をホームページで提供しています。この情報について、あなたはどの程度ご存じですか。（一つだけ〇）

※問6<新規>

1. 耳にしたことはあるが、実際に見たことはない
2. 「平成29年7月九州北部豪雨」等の際に、ニュースなどテレビ番組の解説で見たことがある
3. 実際の大雨時に、気象庁ホームページで危険度分布を確認した事がある
4. 知らない

※大雨警報（浸水害）、洪水警報の危険度分布：

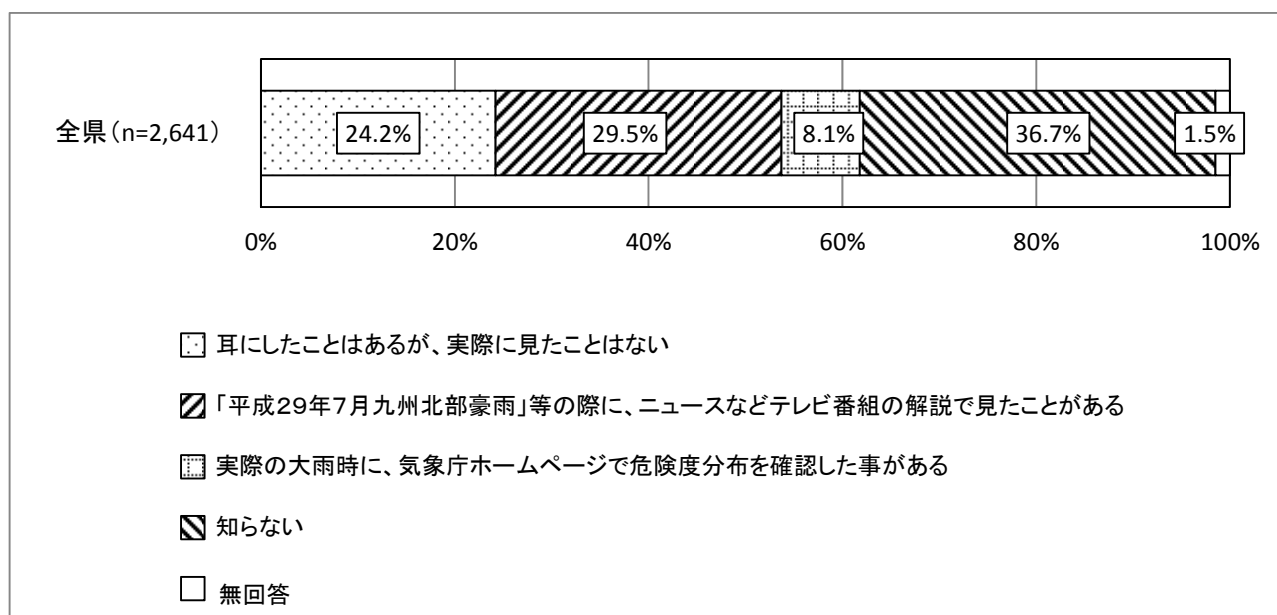
大雨警報や洪水警報が発表されるような重大な災害が発生するおそれがある状況で、お住まい等の地域における危険度の高まりを把握するための情報

なお、気象庁ホームページの該当アドレスは次のとおりです。

大雨警報（浸水害）の危険度分布 <http://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html>

洪水警報の危険度分布 <http://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>

図 2.1.3 気象庁の大雨・洪水警報の危険度分布 HP の認知度 -全県-



- 気象庁の大雨・洪水警報の危険度分布HPの認知度について、「知らない」と答えた方の割合が36.7%と最も多くなっていますが、認知度は61.8%と非常に高くなっています。

2.2 災害時の避難行動

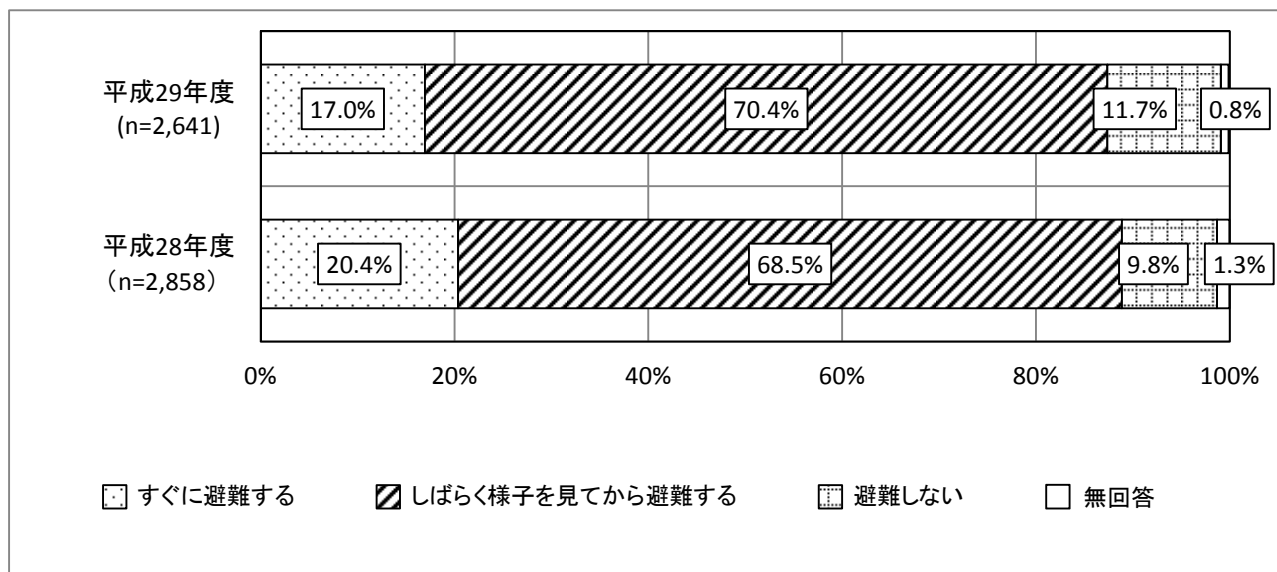
2.2.1 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動

夜遅くあなたのご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続き、停電もしたとします。揺れが収まった後、あなたは避難しますか。

(一つだけ〇) ※問2

1. すぐに避難する
2. しばらく様子を見てから避難する
3. 避難しない

図 2.2.1 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 -全県（前年度との比較）-



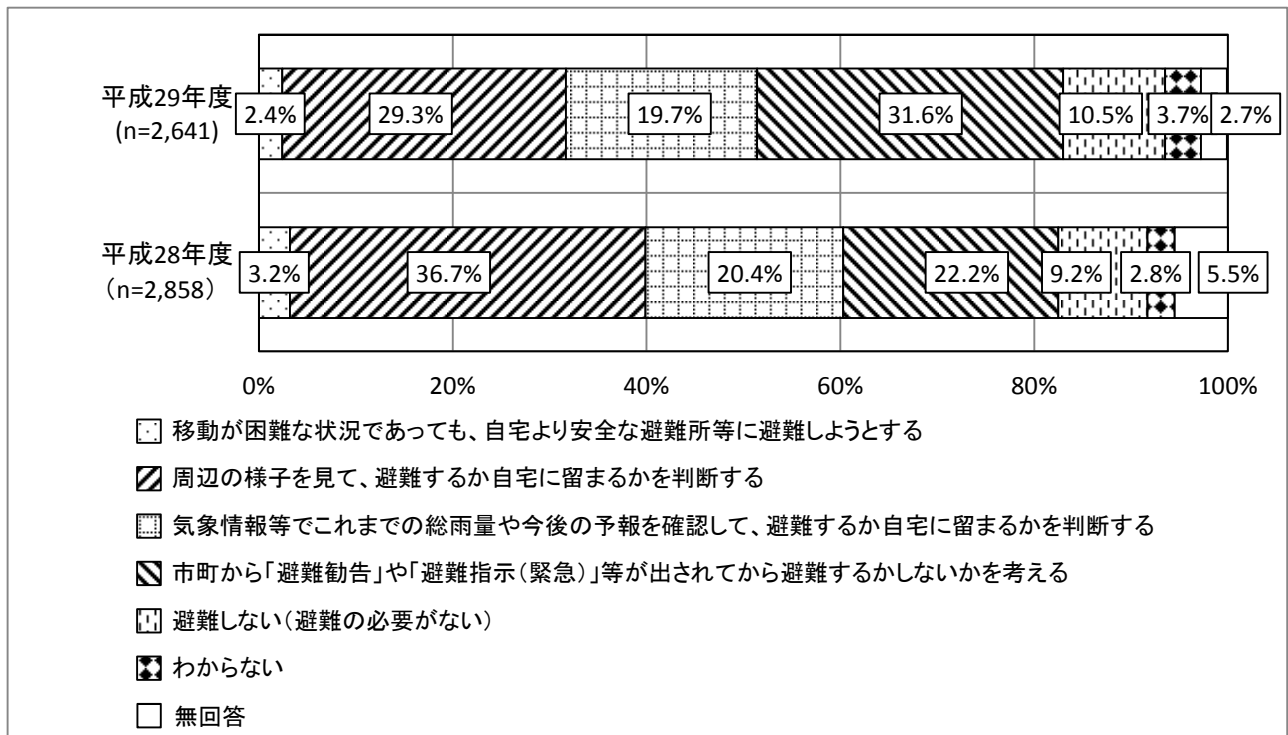
- 「すぐに避難する」と答えた方の割合が、昨年度から3.4%減少し、17.0%と2割を割りました。
- 「しばらく様子を見てから避難する」と答えた方の割合は、1.9%増加し70.4%になりました。

2.2.2 局地的大雨等の避難行動

近年、国内では局地的な大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どのような避難行動を取りますか。(一つだけ○) ※問8

1. 移動が困難な状況であっても、自宅より安全な避難所等に避難しようとする
2. 周辺の様子を見て、避難するか自宅に留まるかを判断する
3. 気象情報等でこれまでの総雨量や今後の予報を確認して、避難するか自宅に留まるかを判断する
4. 市町から「避難勧告」や「避難指示(緊急)」等が出されてから避難するかしないかを考える
5. 避難しない(避難の必要がない)
6. わからない

図 2.2.2 局地的大雨等の避難行動 -全県(前年度との比較)-



- 「市町から「避難勧告」や「避難指示(緊急)」等が出されてから避難するかしないかを考える」と答えた方が最も多く31.6%で、続いて、「周辺の様子を見て、避難するか自宅に留まるかを判断する」29.3%、「気象情報等でこれまでの総雨量や今後の予報を確認して、避難するか自宅に留まるかを判断する」19.7%となっています。
- これら3項目を合算した計80.6%の方が、受身ではなく、自ら必要な情報を収集し、避難の要否を検討しようとしています。
- 一方で、10.5%の方が「避難しない(避難する必要がない)」と答えています。

2.3 「自助」の状況

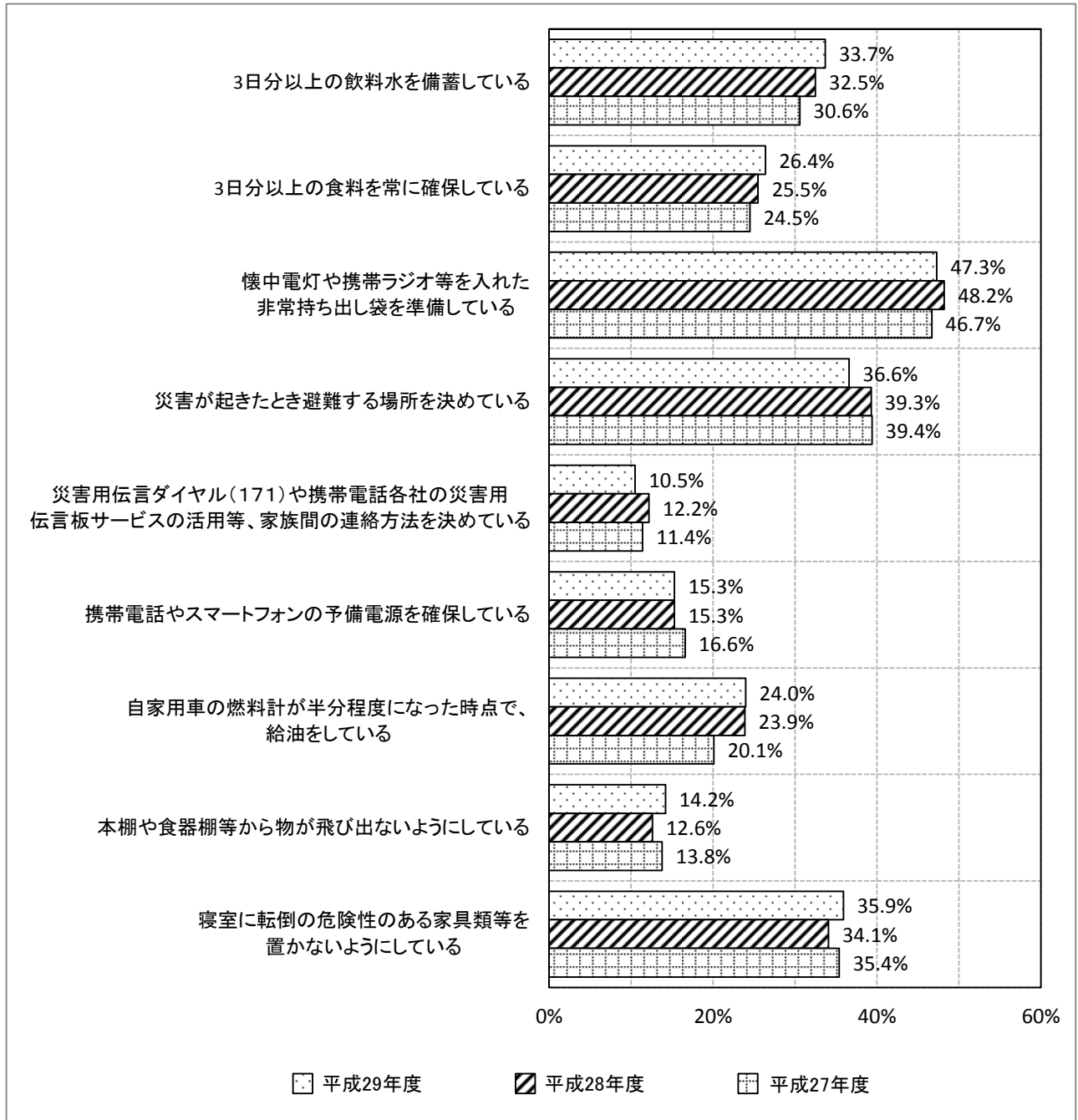
2.3.1 家庭での防災対策の状況

あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。

(いくつでも○) ※問 10

1. 3日以上の飲料水を備蓄している(ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください)
2. 3日以上の食料を常に確保している
3. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
4. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
5. 災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
6. 家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている
7. 携帯電話やスマートフォンの予備電源を確保している
8. 自家用車の燃料計が半分程度になった時点で、給油をしている
9. お風呂にいつも水を入れている
10. ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
11. 消火器を用意している
12. 懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している
13. 枕元にスリッパを置いている
14. いつも笛を身につけている
15. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
16. 寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている
17. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
18. 感震ブレーカーを設置している
19. ペットの餌や水、ケージ等、ペットの防災用品の準備や、避難先の検討等を行っている
20. その他 具体的に：
21. 特に対策をとっていない

図 2.3.1 家庭での防災対策の状況 -全県経年変化- (複数回答)



- 「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」が 47.3%と最も多く、「災害が起きたとき避難する場所を決めている」36.6%、「寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている」35.9%と続いています。
- 家庭での備蓄に関する設問である「3日以上の飲料水を備蓄している」、「3日以上の食料を常に確保している」については、昨年度から引き続き増加になりました。

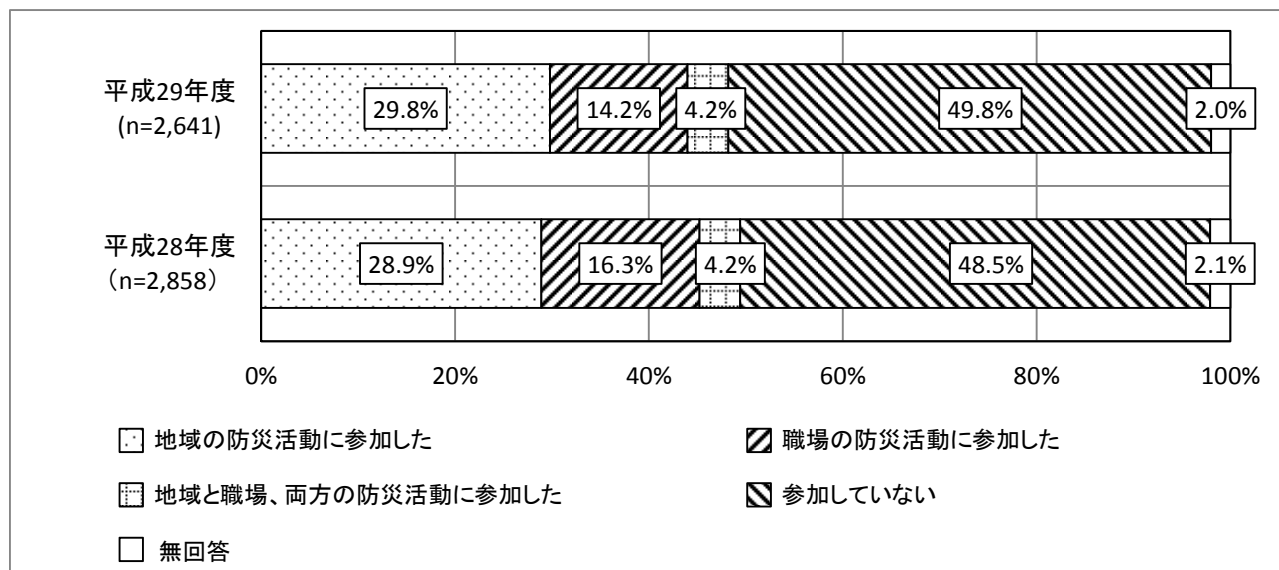
2.3.2 地域や職場での防災活動への参加状況

あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動に参加したことがありますか。

(一つだけ○) ※問 18

1. 地域の防災活動に参加した
2. 職場の防災活動に参加した
3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した
4. 参加していない

図 2.3.2 地域や職場での防災活動への参加状況 -全県（前年度との比較）-



- 地域や職場で何らかの防災活動に参加した方の割合が、昨年度から 1.2ポイント減少し、48.2%（内訳：地域 29.8%、職場 14.2%、地域・職場 4.2%）となりました。
- 「参加していない」と答えた方の割合は、49.8%でした。

2.3.3 住まいの耐震診断および地震対策の状況

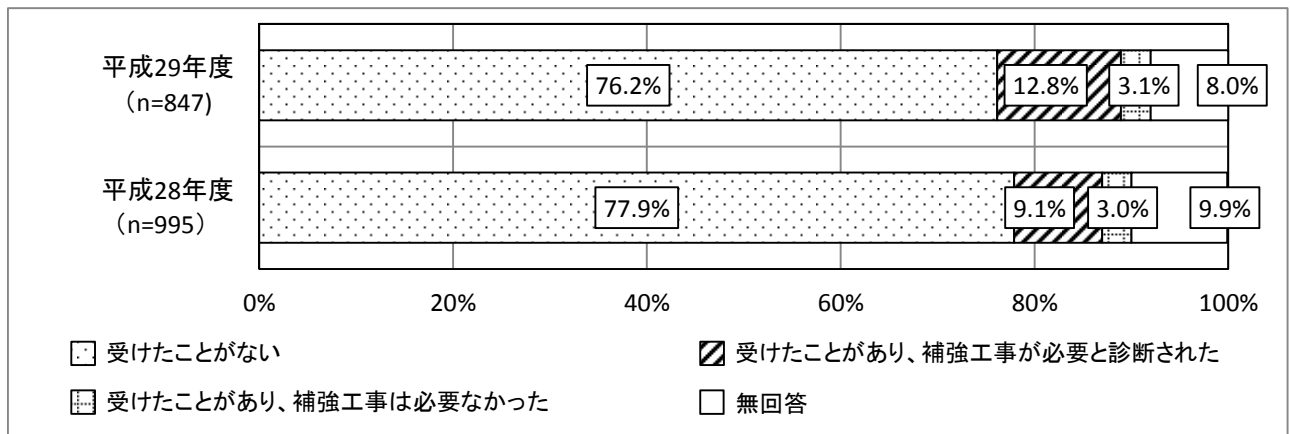
あなたのご自宅（同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む）は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。

（一つだけ〇）※問 30

1. 受けたことがない
2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された
3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった

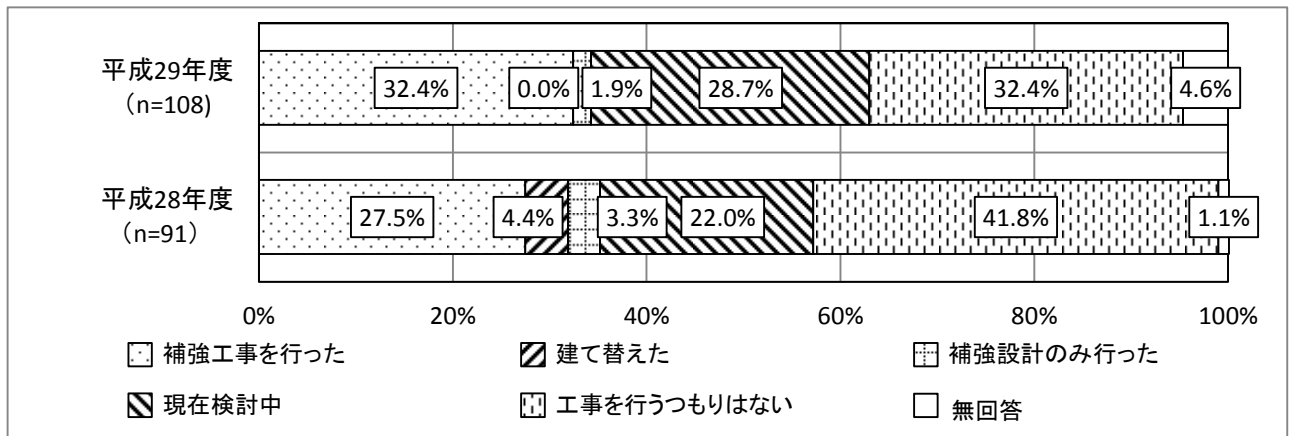
※一戸建ての持ち家・借家で昭和56年5月以前に着工・建築された木造の家と回答された方を対象としています。

図 2.3.3 住まいの耐震診断および地震対策の状況 -全県（前年度との比較）-



「2.受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。（一つだけ〇）※問 30-2

1. 補強工事を行った
2. 建て替えた
3. 補強設計のみ行った
4. 現在検討中
5. 工事を行うつもりはない



- 「耐震診断を受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」方のうち、「補強工事を行った」方が32.4%、「建て替えた」方が0.0%で、計32.4%となり、昨年度の計31.9%から、0.5ポイント増加しました。

一方で「工事を行うつもりはない」と答えた方は、32.4%でした。

- 耐震診断や耐震補強工事の補助対象となる「昭和56年5月以前に着工・建築された木造の一戸建ての持ち家・借家」について、「耐震診断を受けたことがない」と答えた方の割合が最も多く、76.2%でした。

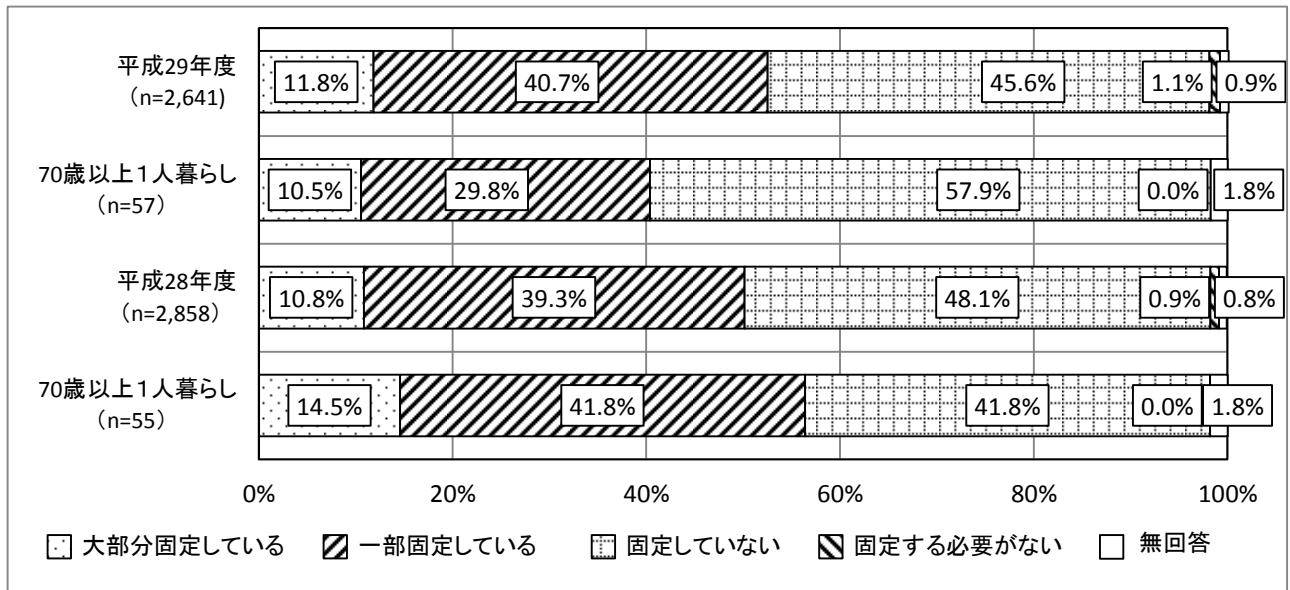
2.3.4 家具固定の進捗および家具固定をしていない危険性の認識

ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビ等が転倒しないよう固定をしていますか。

(一つだけ○) ※問 11

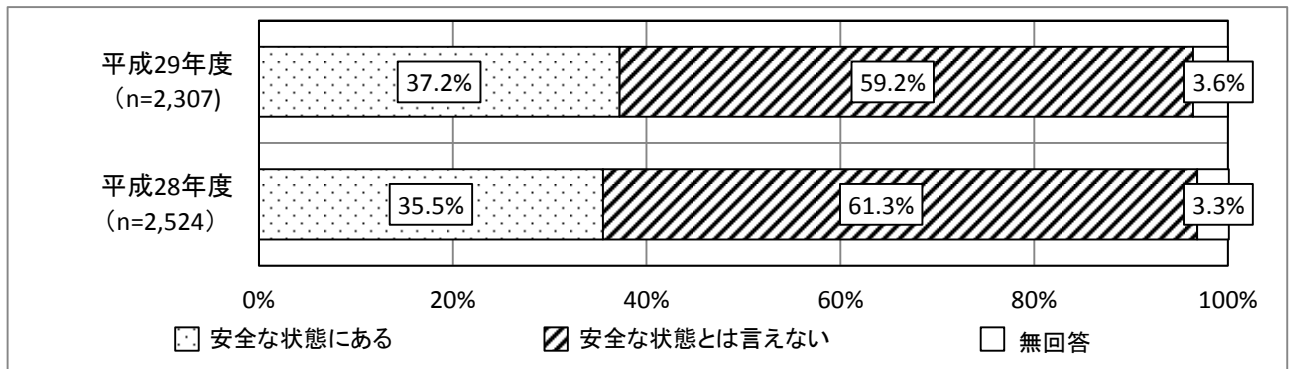
1. 大部分固定している
2. 一部固定している
3. 固定していない
4. 固定する必要がない

図 2.3.4 家具固定の進捗および家具固定をしていない危険性の認識
-全県（前年度との比較）-



「2.一部固定している」、「3.固定していない」、「4.固定する必要がない」と回答された方にお尋ねします。あなたのご自宅は、一部の家具固定や家具固定なしでも、ケガをしない、家屋から脱出できなくなることはない等、安全な状態にありますか。(一つだけ○) ※問 11-1

1. 安全な状態にある
2. 安全な状態とは言えない



- 「大部分固定している」と答えた方の割合は、11.8%に留まっています。
- 「固定していない」と答えた方の割合が45.6%と最も多く、関連設問においても、うち59.2%の方が、家具の固定について「安全な状態とは言えない」と答えています。

2.4 「公助」や県の施策の認知度

2.4.1 「公助」による防災・減災の取組

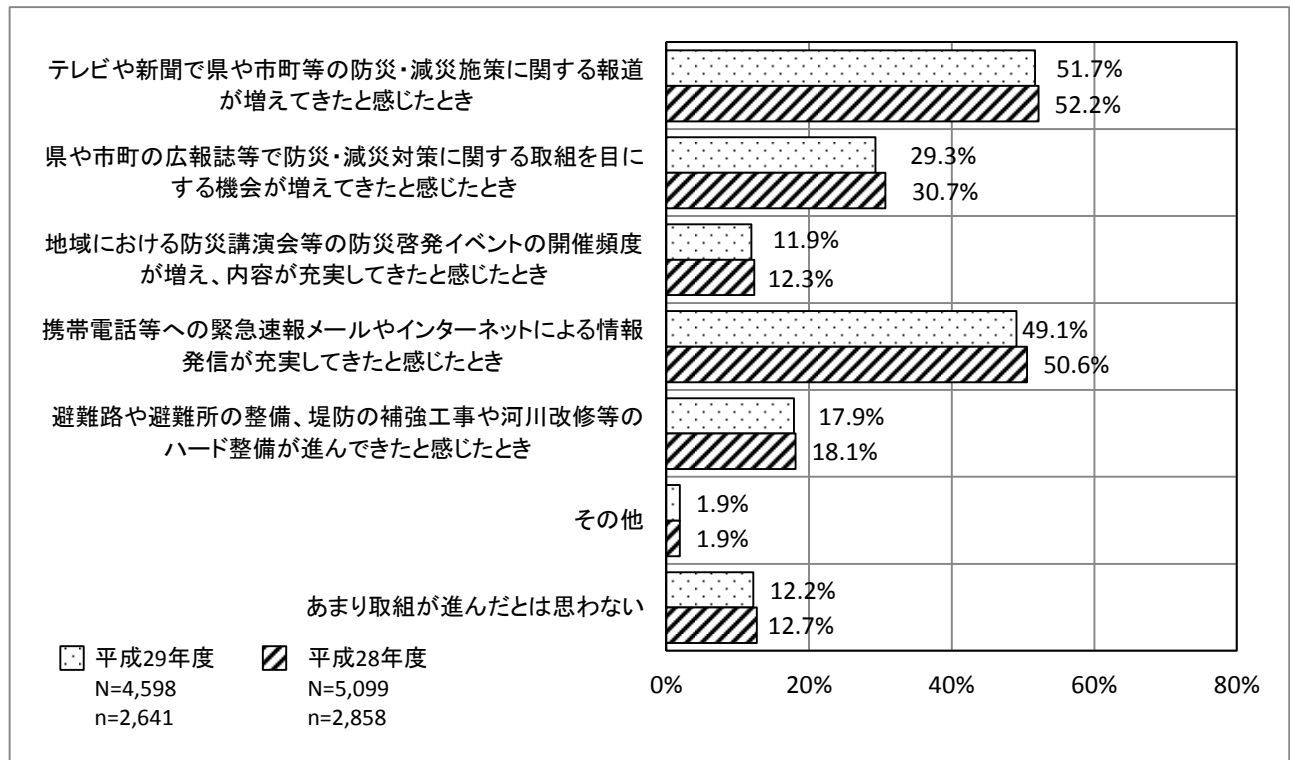
東日本大震災や紀伊半島大水害の発生を受け、三重県では防災・減災対策を県政の最重要課題に掲げて、国や市町等関係機関と連携しながらさまざまな取組を進めているところです。

あなたは、どのようなときに、以前よりも防災・減災の取組が進んできたと感じましたか。

(いくつでも○) ※問 27

1. テレビや新聞で県や市町等の防災・減災施策に関する報道が増えてきたと感じたとき
2. 県や市町の広報誌等で防災・減災対策に関する取組を目にする機会が増えてきたと感じたとき
3. 地域における防災講演会等の防災啓発イベントの開催頻度が増え、内容が充実してきたと感じたとき
4. 携帯電話等への緊急速報メールやインターネットによる情報発信が充実してきたと感じたとき
5. 避難路や避難所の整備、堤防の補強工事や河川改修等のハード整備が進んできたと感じたとき
6. その他 具体的に：
7. あまり取組が進んだとは思わない

図 2.4.1 「公助」による防災・減災の取組 - 全県 (前年度との比較) -



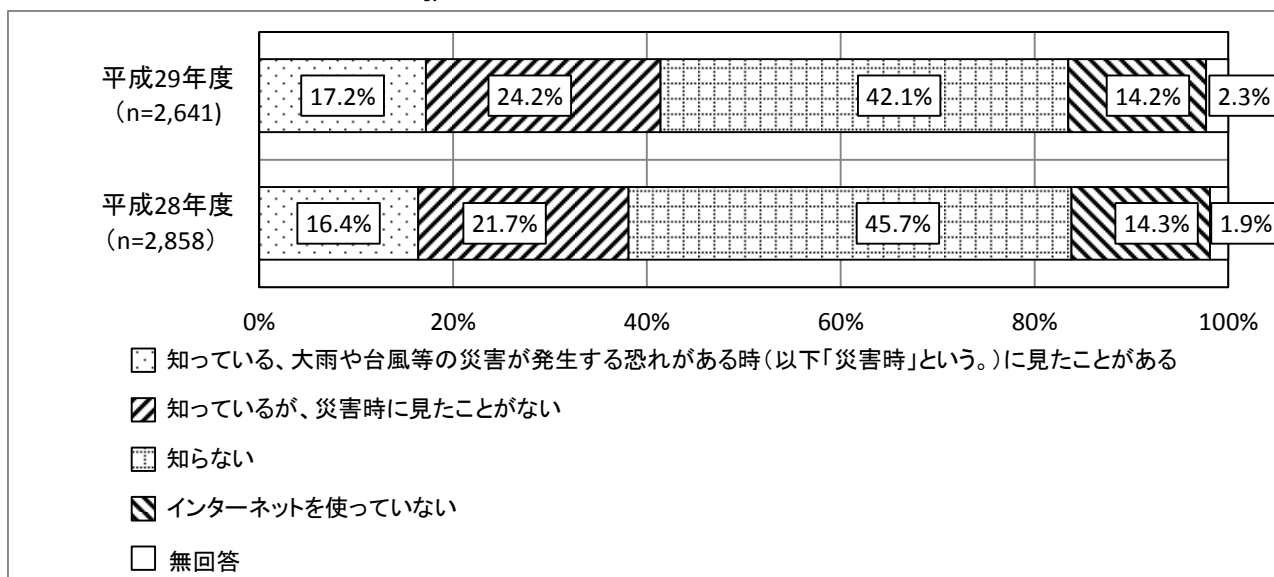
・「テレビや新聞による報道」と答えた方の割合が 51.7%と最も多く、「メールやインターネットによる情報発信」が 49.1%、「県や市町の広報誌等」が 29.3%と続いています。

2.4.2 「防災みえ.jp」ホームページの認知度

「防災みえ.jp」ホームページをご存知ですか。(一つだけ○) ※問 12

1. 知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時(以下「災害時」という。)に見たことがある
2. 知っているが、災害時に見たことがない
3. 知らない
4. インターネットを使っていない

図 2.4.2 「防災みえ.jp」ホームページの認知度 -全県(前年度との比較)-



- 「知っている、災害時に見たことがある」と答えた方の割合が、昨年度から増加し、17.2%となりました。
- 「知らない」と答えた方の割合が最も多く、45.7%でした。

2.4.3 学校の防災教育の家庭での認知度

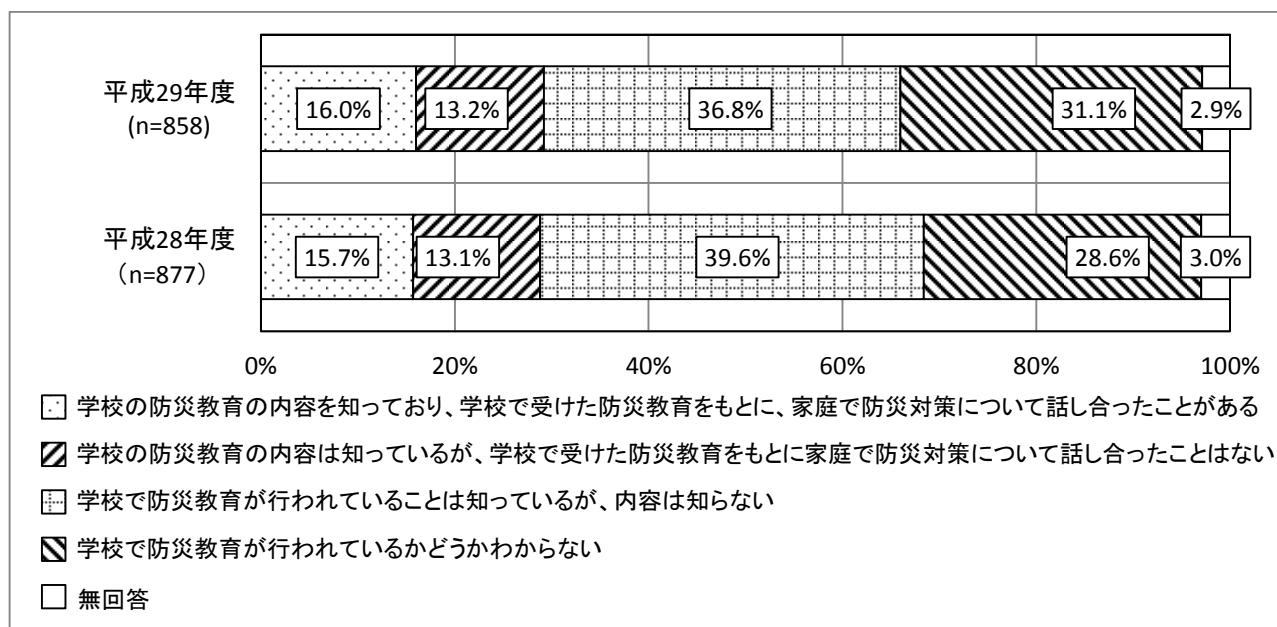
三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し、これらの教材を学校で活用するよう要請する等、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたのお住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育について、あなたはどの程度ご存知ですか。

(一つだけ〇) ※問 25-1

※ 複数の児童生徒がいる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
2. 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
4. 学校で防災教育が行われているかどうか分からない

図 2.4.3 学校の防災教育の家庭での認知度 -全県（前年度との比較）-



- 小学生から高校生までの児童生徒がいる家庭の約7割の方が、学校で防災教育が行われていることを認知しています。
- そのうち、「学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」16.0%、「学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない」13.2%と、学校の防災教育の内容まで認知している家庭は、あわせて約3割となっています。

第3章 調査結果

3.1 地震・津波対策について

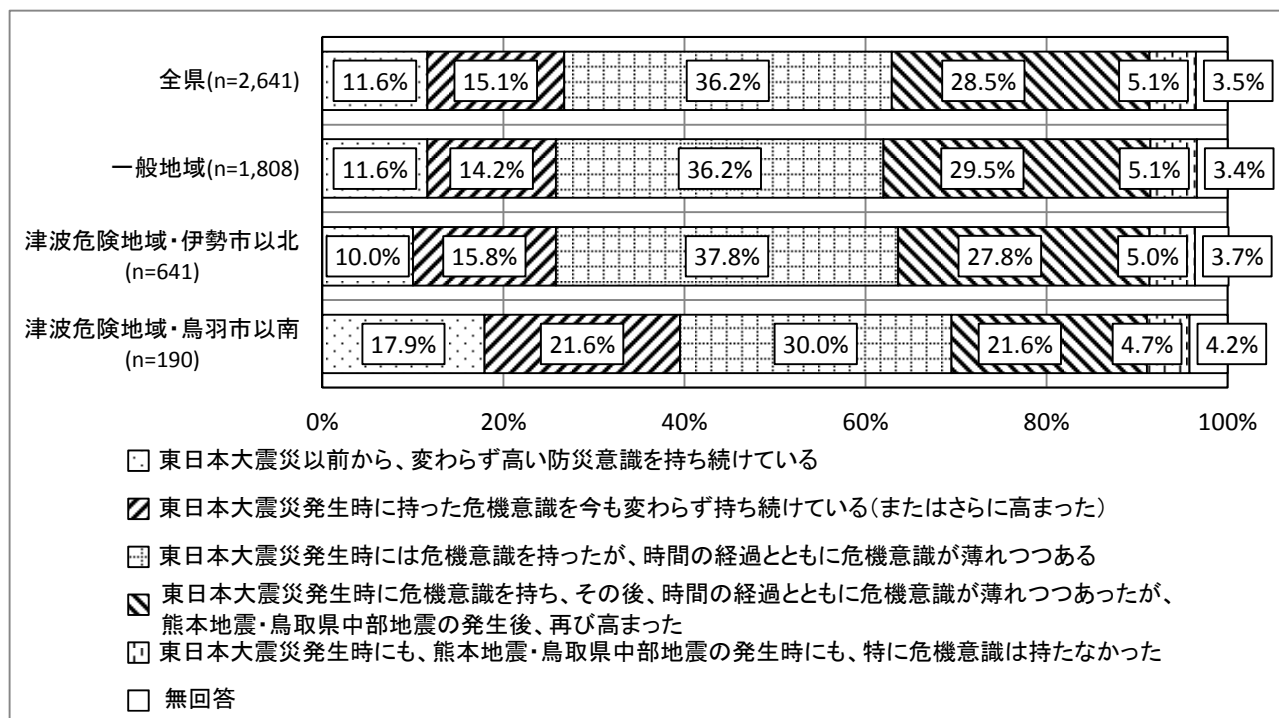
3.1.1 東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり

【問 1】 東日本大震災の発生から6年半あまりが経過し、昨年は4月に熊本地震、10月には鳥取県中部地震が発生しましたが、この大震災と地震を受け、あなたの防災意識に変化はありますか。(一つだけ○)

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
2. 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった)
3. 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、熊本地震・鳥取県中部地震の発生後、再び高まった
5. 東日本大震災発生時にも、熊本地震・鳥取県中部地震の発生時にも、特に危機意識は持たなかった

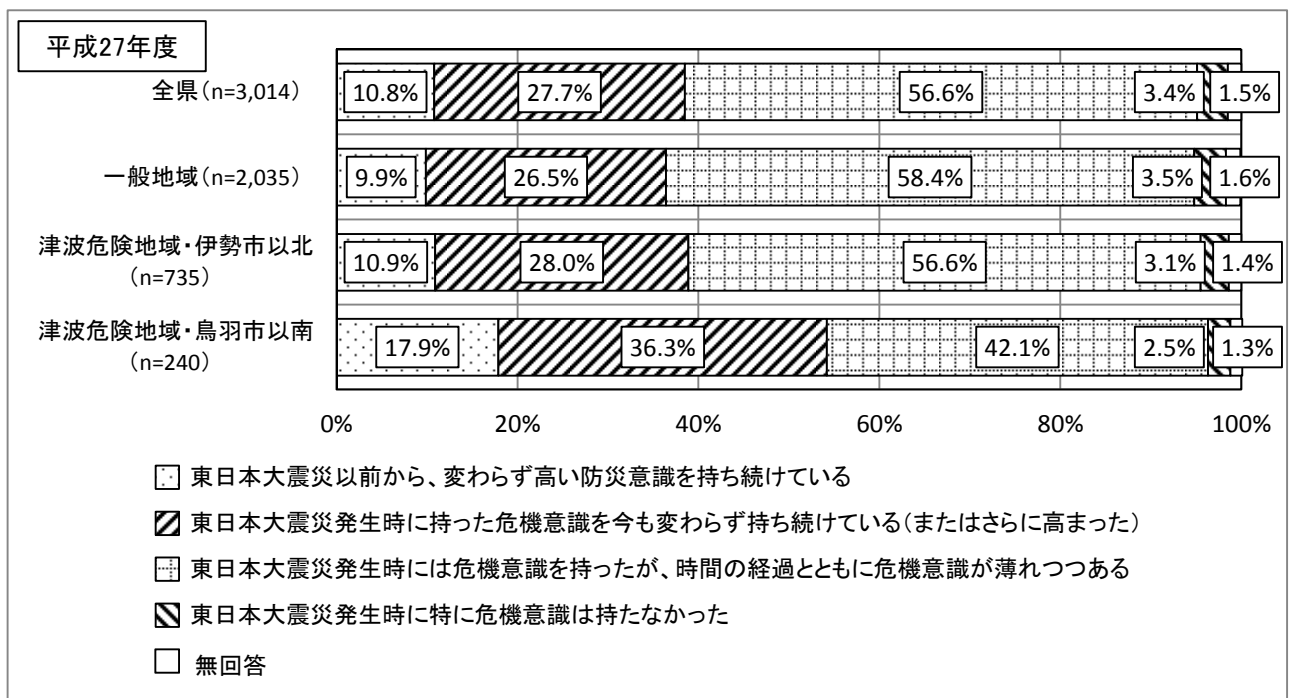
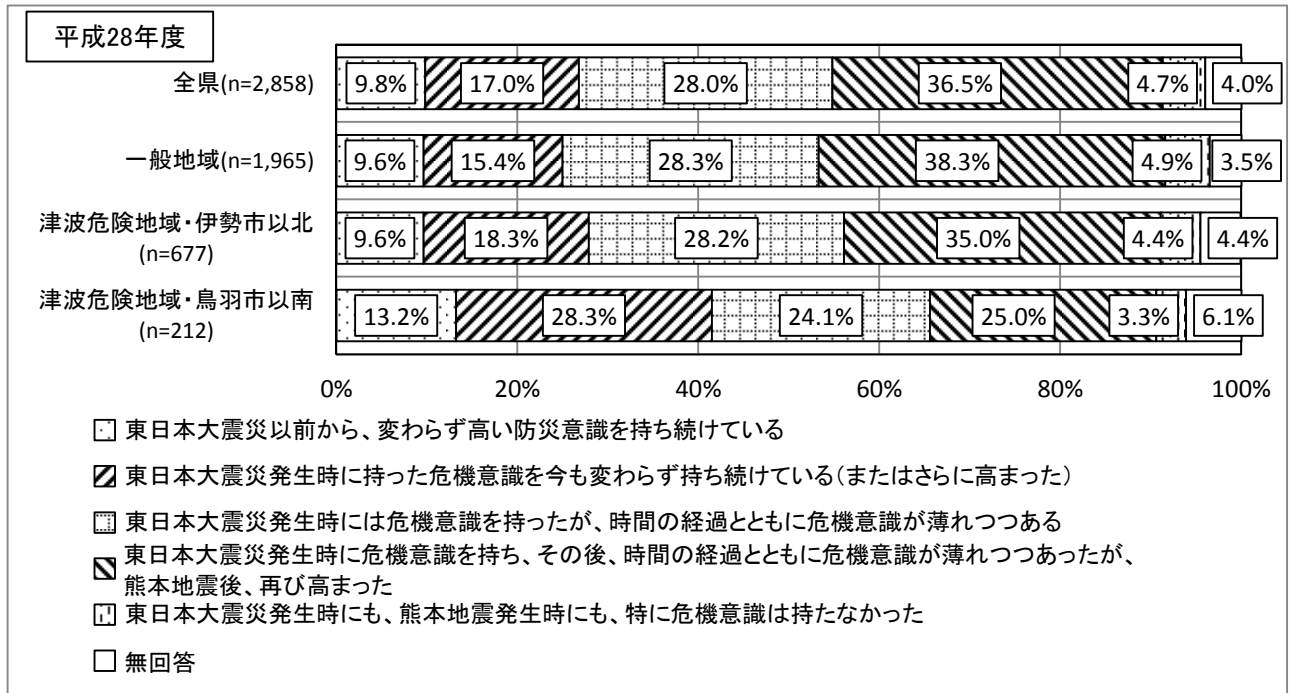
調査結果

図 3.1.1 (1) 東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり -全県及び地域別-



- 全県のデータでは、「東日本大震災発生時に危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」と答えた方の割合が、36.2%と最も多く、次いで「東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、熊本地震・鳥取県中部地震の発生後、再び高まった」が 28.5%、「東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている(またはさらに高まった)」が 15.1%となっています。
- 地域別にみると、津波危険地域(鳥羽市以南)では、「変わらず高い防災意識を持ち続けている」が、全県の11.6%とくらべ、約6%多く、17.9%となっています。また、地域間の比較をすると、津波危険地域(鳥羽市以南)にくらべ、主要な活断層が多い地域を多く含む一般地域および津波危険地域(伊勢市以北)で「東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」と答えた方の割合が約8%程度高くなっています。

(参考) 図 3.1.1 (2) 平成28年度及び平成27年度の防災意識の経年変化



- 経年変化をみると、「東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」と答えた方の割合が、平成27年には56.6%と非常に高い割合でしたが、昨年は熊本地震の発生もあり、28.0%と大幅に減少しましたが、今年度は36.2%とまた増加に転じました。

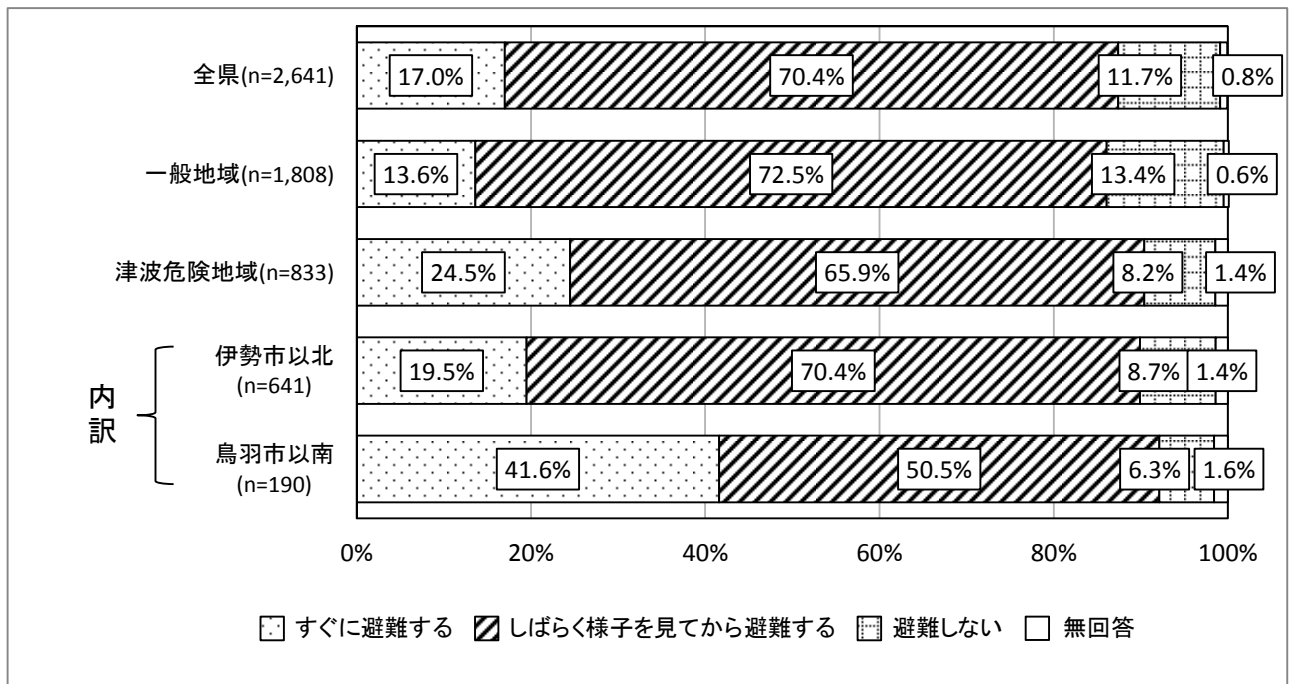
3.1.2 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動

【問2】 夜遅くあなたがご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続き、停電もしたとします。揺れが収まった後、あなたは避難しますか。(一つだけ○)

- 1. すぐに避難する →問2-1へ
- 2. しばらく様子を見てから避難する →問2-2へ
- 3. 避難しない →問2-3へ

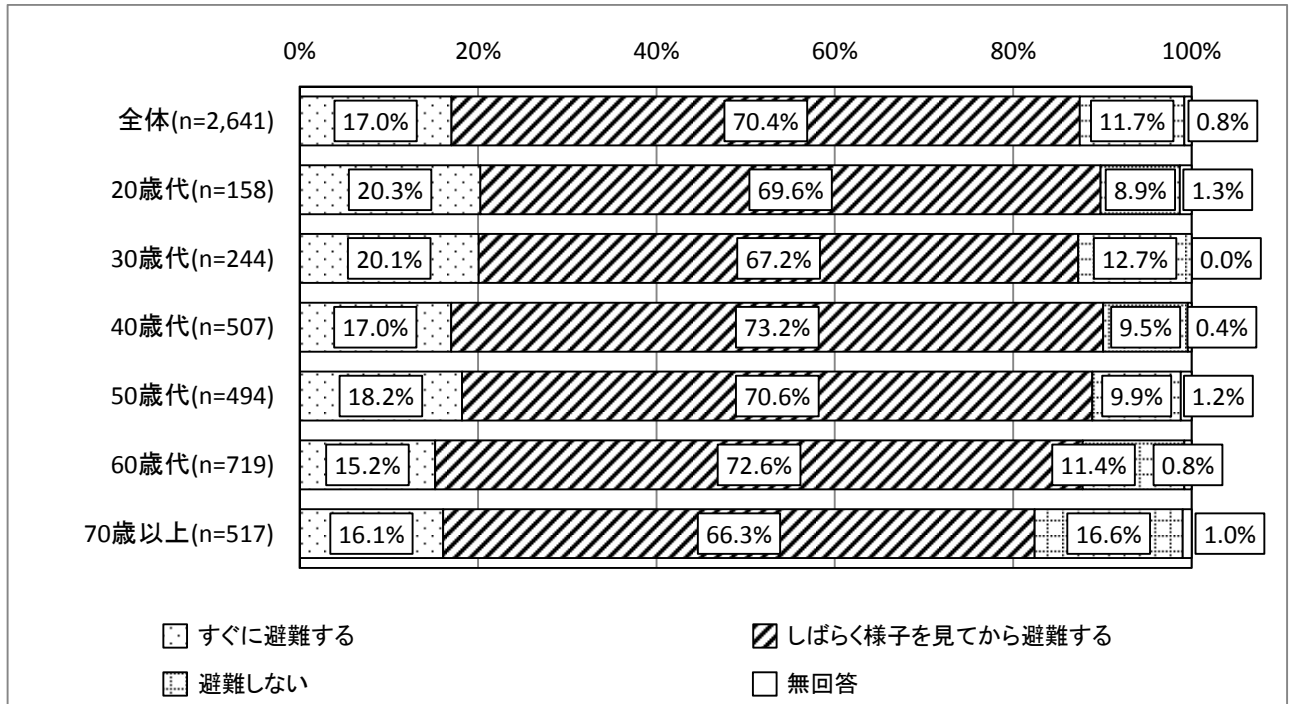
調査結果

図 3.1.2 (1) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 -全県及び地域別-



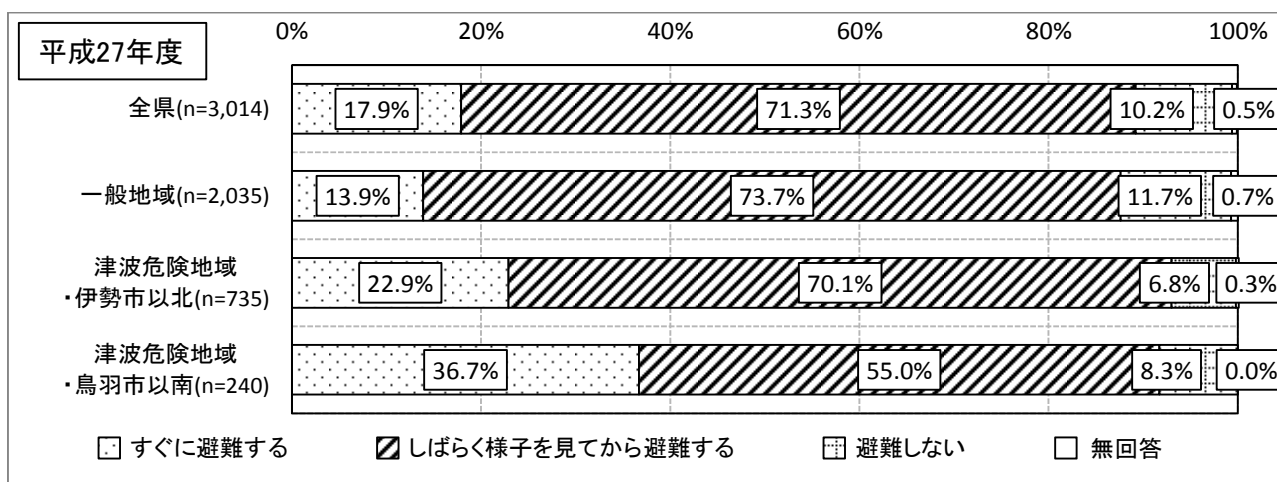
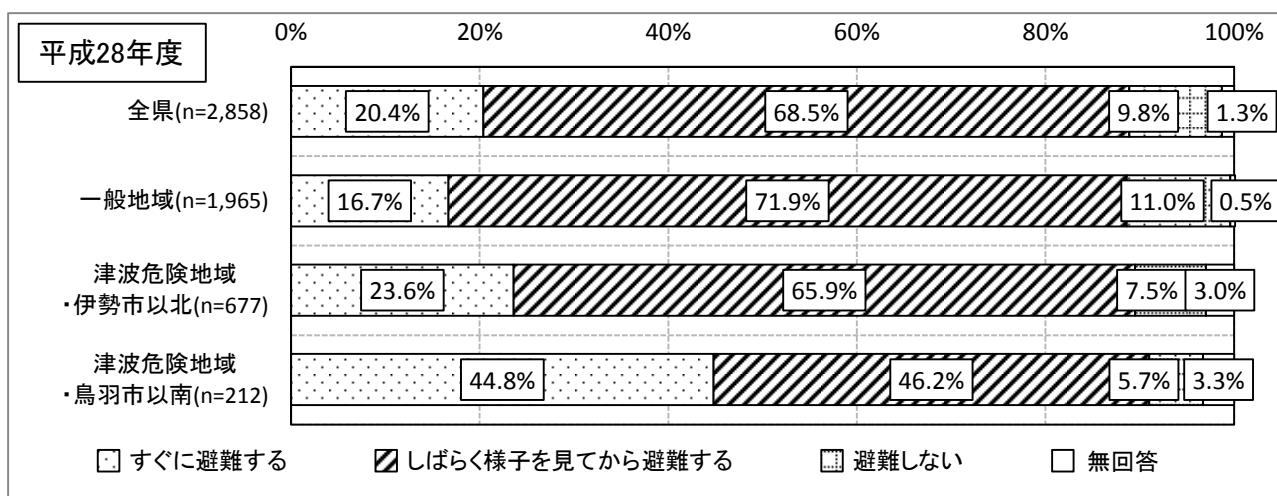
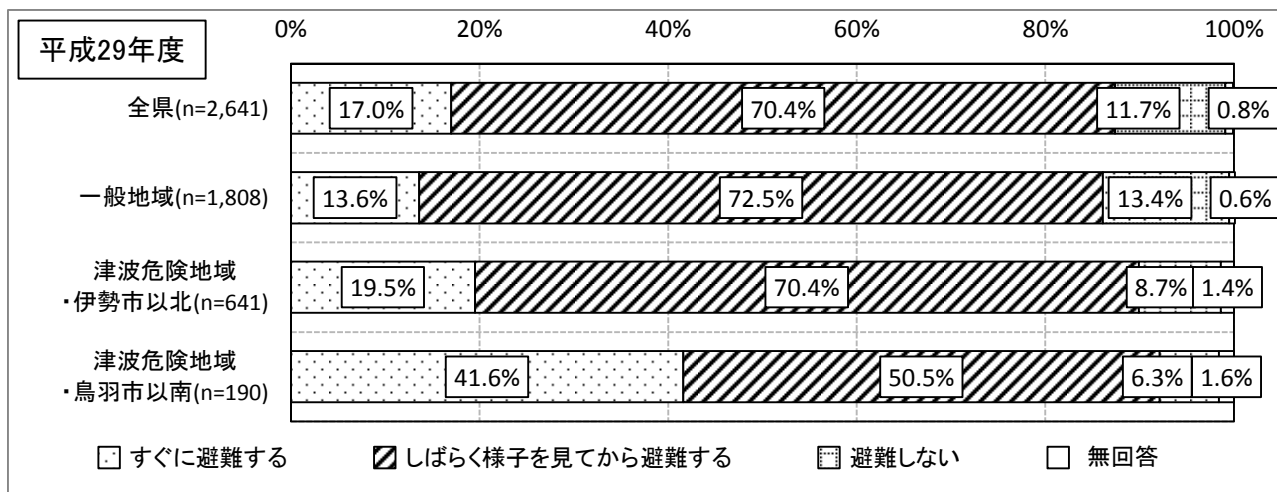
- 全県で見ると、「しばらく様子を見てから避難する」と答えた方の割合が70.4%と最も多く、次いで「すぐに避難する」が17.0%と、避難すると答えた方の割合の合計が約9割となっています。
- 地域別にみると、他の地域にくらべ、津波の危険性がない、または低い一般地域においては、「しばらく様子を見てから避難する」と答えた方の割合が多い傾向にあります。
- 津波危険地域では、「すぐに避難する」と答えた方の割合が多く、危険度の高い鳥羽市以南でその傾向が強くなっています。

図 3.1.2 (2) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 -全体及び年代別-



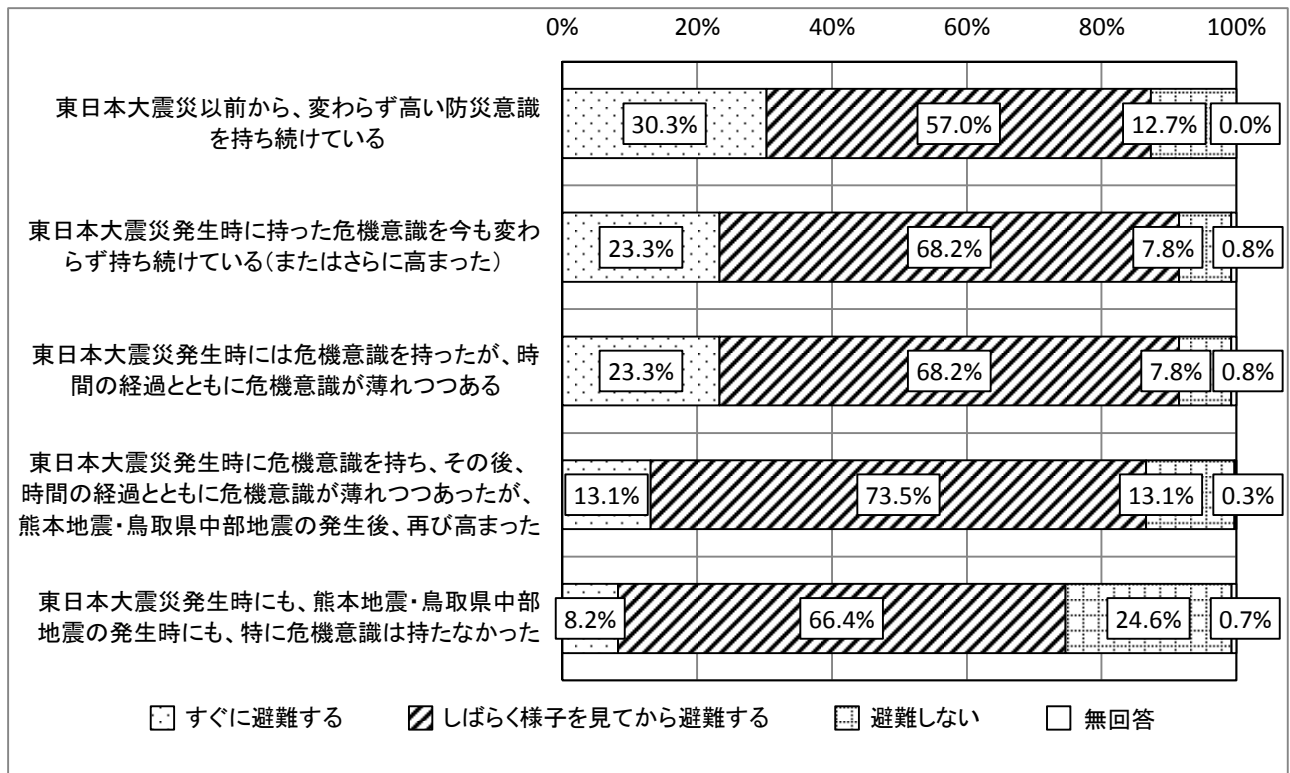
- 年代別でみると、20歳代で「すぐに避難する」が20.3%と最も高くなりました。
- 「しばらく様子を見てから避難する」がすべての年代で多くなっていますが、年代別の顕著な違いはみられませんでした。

図 3.1.2 (3) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動 - 全県及び地域別経年変化 -



- 経年変化をみると、平成 28 年度にすべての地域において「すぐに避難する」が増加していましたが、平成 29 年度は再びすべての地域で「しばらく様子を見てから避難する」が増加しています。さらに「避難しない」も増加しています。傾向としては、「すぐに避難する」が全県で昨年度から約 3 ポイント減少し、「しばらく様子を見てから避難する」が昨年度から約 2 ポイント増加しました。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）では、「すぐに避難する」が昨年度の 44.8%より約 3 ポイント減少し、41.6%となっています。

図 3.1.2 (4) 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動
 -問 1 (東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり) とのクロス集計-



- 問 1 (東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり) とのクロス集計をみると、「東日本大震災発生時にも、熊本地震・鳥取県中部地震の発生時にも、特に危機意識は持たなかった」と答えた方で「すぐに避難する」と答えた方は、全体の 17.0% (図 3.1.2 (1) 参照) とくらべ、大幅に少なく 8.2% となっています。
- 「東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を維持している」と答えた方の約 3 割、「東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず維持している(またはさらに高まった)」「東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」と答えた方のそれぞれ約 2 割が、「すぐに避難する」と答えており、全体の 17.0% にくらべ高くなっています。
- 一方、「熊本地震・鳥取県中部地震の発生後、再び高まった」と答えた方では、7 割を超える方が「しばらく様子を見てから避難する」と答えています。「熊本地震・鳥取県中部地震の発生後、再び高まった」と答えた方、および「しばらく様子を見てから避難する」と答えた方の地域別の特徴をそれぞれみてみると、図 3.1.1 (1) および図 3.1.2 (1) から、一般地域および津波危険地域 (伊勢市以北) の方の占める割合がそれぞれ多いことがうかがえます。

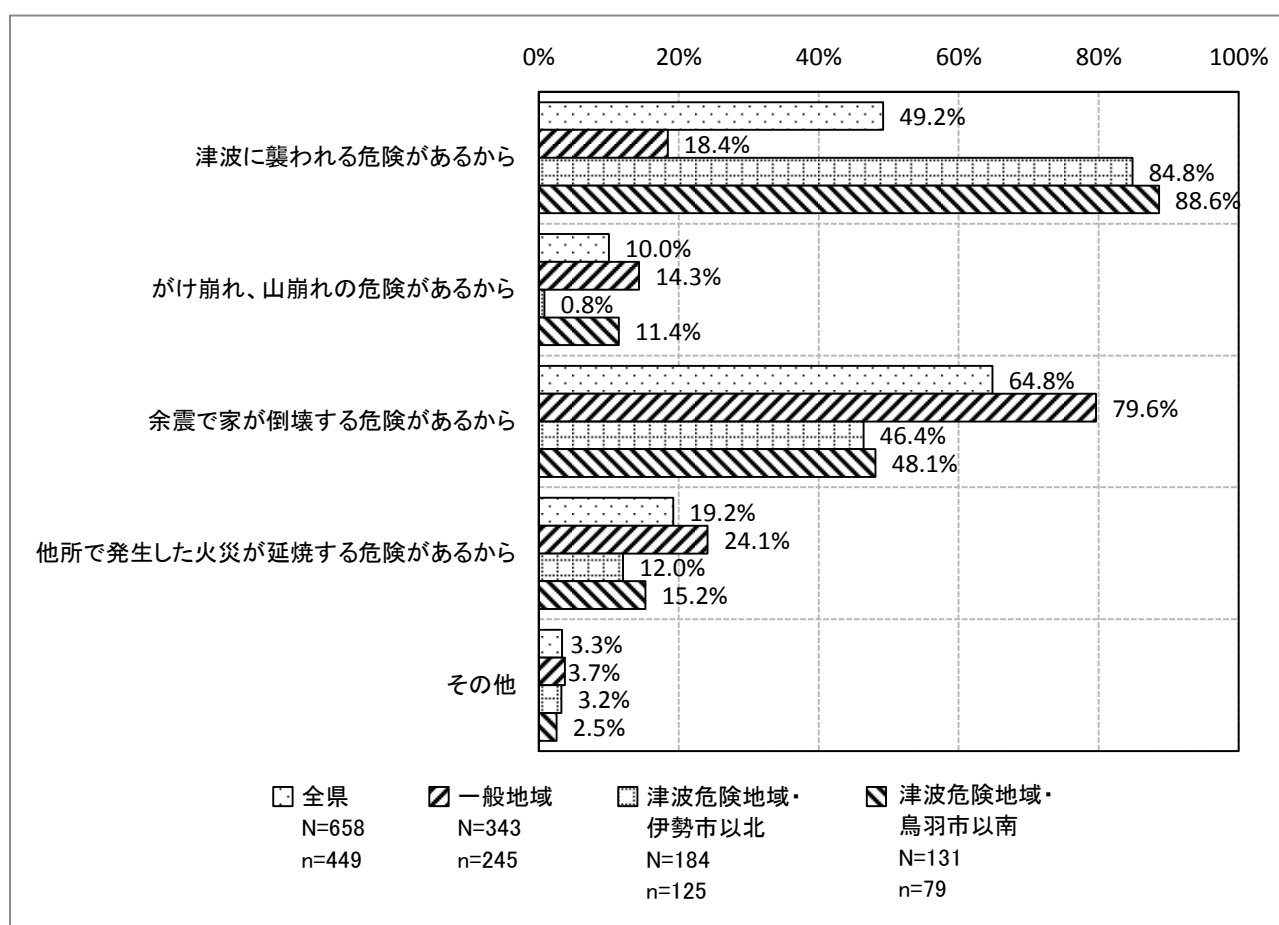
3.1.3 すぐに避難する理由

【問2-1】 問2で「1.すぐに避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難する主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 津波に襲われる危険があるから
2. がけ崩れ、山崩れの危険があるから
3. 余震で家が倒壊する危険があるから
4. 他所で発生した火災が延焼する危険があるから
5. その他 具体的に：

調査結果

図 3.1.3 すぐに避難する理由 -全県及び地域別- (複数回答)



- 全県では「余震で家が倒壊する危険があるから」が最も多く 64.8%、次いで「津波に襲われる危険があるから」が 49.2%となっています。
- 地域別にみると、一般地域では「余震で家が倒壊する危険があるから」が最も多く 79.6%となっている一方、津波危険地域（伊勢市以北、鳥羽市以南）では、「津波に襲われる危険があるから」がそれぞれ、84.8%、88.6%と最も多くなっています。
- 「その他」の理由について、「避難する道幅が狭く、ブロック塀のある道でしか避難できない為、子供の歩く早さとかを考えると、少しでも余裕をもちたいから。」、「一人暮らしなので、誰かがいるところに行きたい」等の回答がありました。

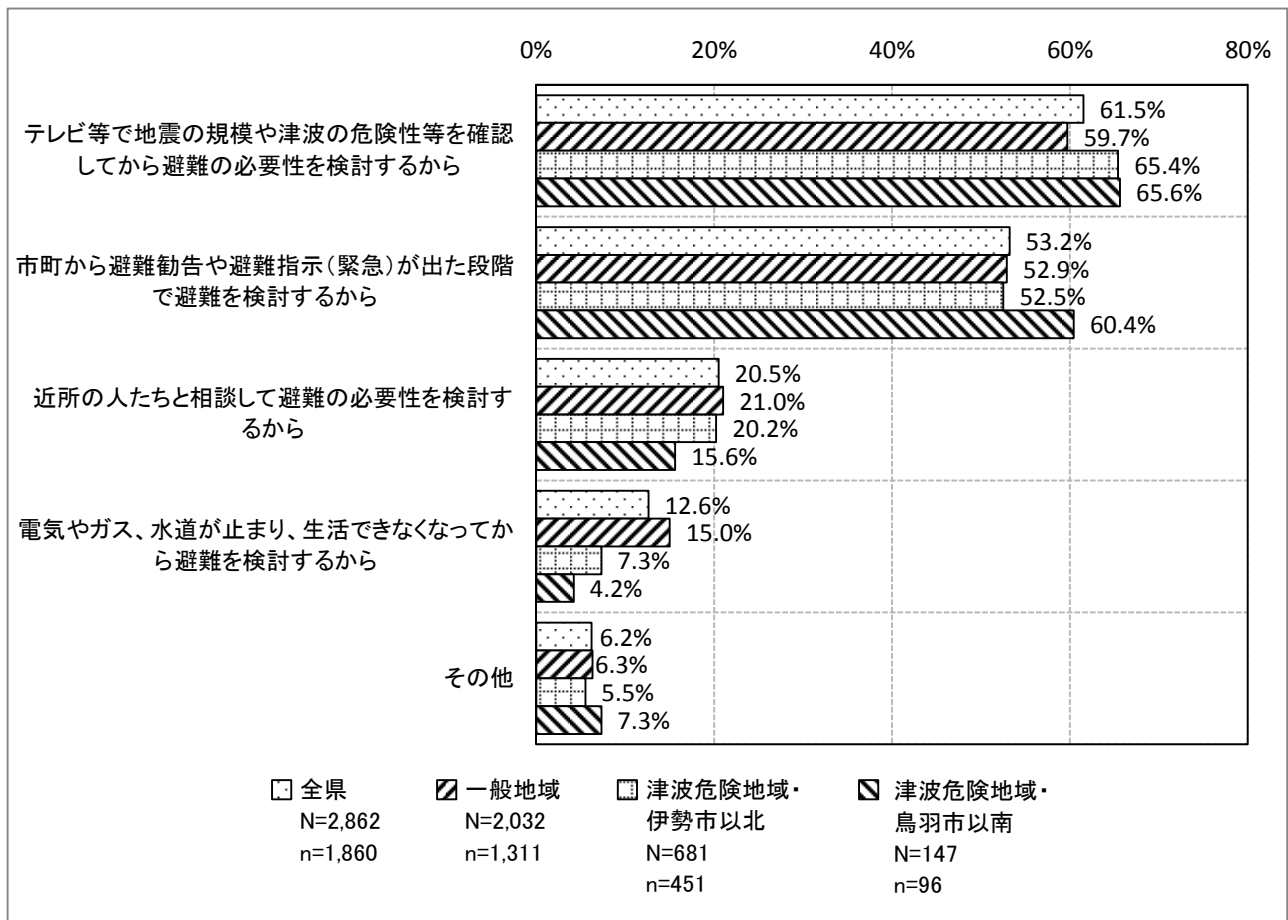
3.1.4 避難を遅らせる理由

【問2-2】 問2で「2.しばらく様子を見てから避難する」と答えた方にお尋ねします。あなたが避難を遅らせる主な理由は何ですか。（いくつでも○）

1. テレビ等で地震の規模や津波の危険性等を確認してから避難の必要性を検討するから
2. 市町から避難勧告や避難指示（緊急）が出た段階で避難を検討するから
3. 近所の人たちと相談して避難の必要性を検討するから
4. 電気やガス、水道が止まり、生活できなくなってから避難を検討するから
5. その他 具体的に：

調査結果

図 3.1.4 避難を遅らせる理由 -全県及び地域別-（複数回答）



- 避難を遅らせる理由について、すべての地域で同様の傾向となっており、「テレビ等で地震の規模や津波の危険性等を確認してから避難の必要性を検討するから」が最も多く、次いで「市町から避難勧告や避難指示（緊急）が出た段階で避難を検討するから」が多くなっています。その数値は、全県では、それぞれ61.5%、53.2%です。
- 「その他」の理由については、「夜間の時、停電にて周辺が不明の時にあえて避難はさけ明るくなってから行動するから」、「余震がくるかもしれない中、避難するのは怖いから」、「避難場所が海側に向かって行かなければならないから」等の回答がありました。

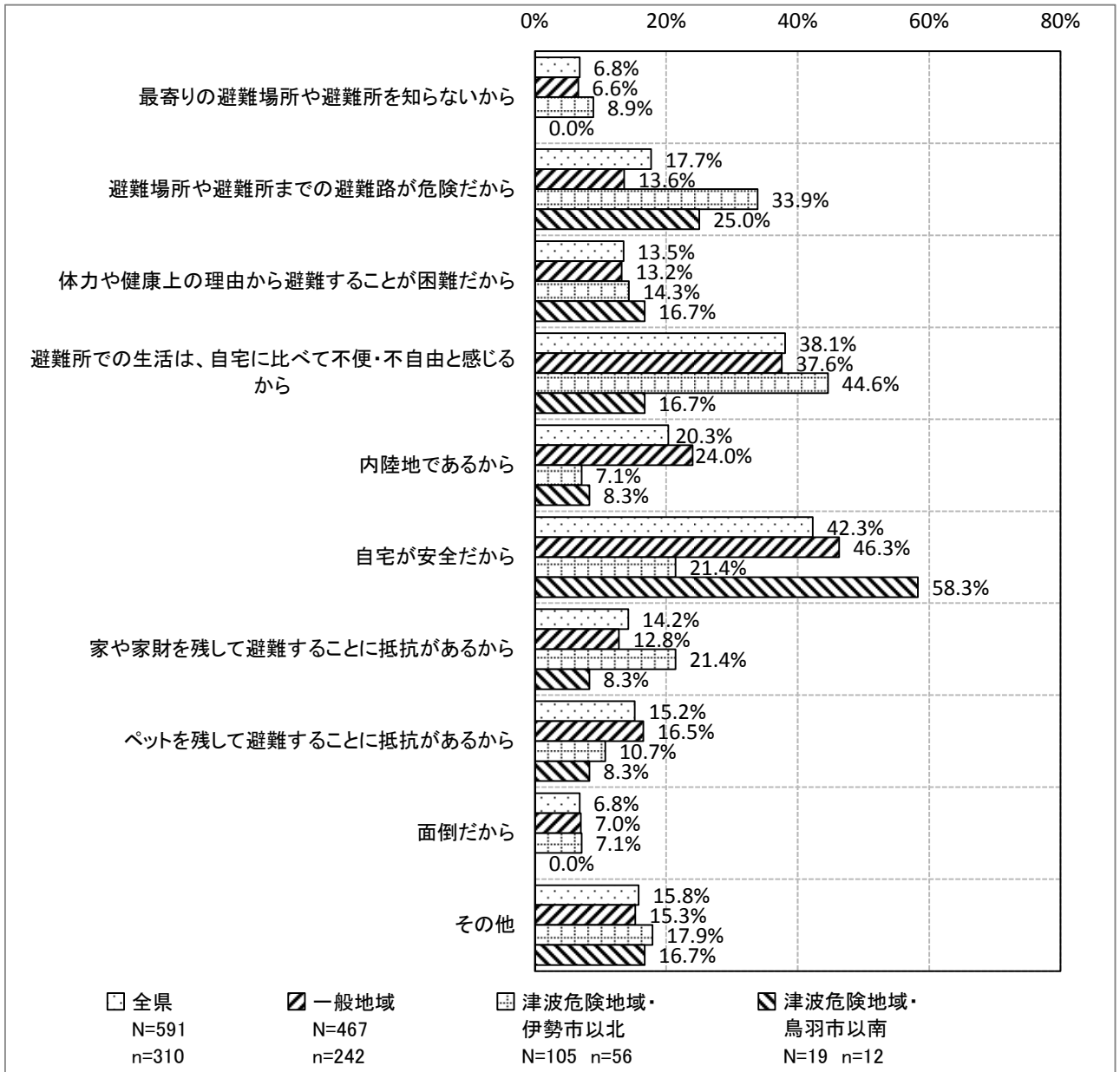
3.1.5 避難しない理由

【問 2-3】 問 2 で、「3.避難しない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(いくつでも〇)

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから
5. 内陸地であるから
6. 自宅が安全だから
7. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
8. ペットを残して避難することに抵抗があるから
9. 面倒だから
10. その他 具体的に：

調査結果

図 3.1.5 避難しない理由 -全県及び地域別- (複数回答)



- 避難しない理由について、全県では「自宅が安全だから」が 42.3%と最も多くなっています。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）でも、「自宅が安全だから」が 58.3%と最も多くなっています。津波危険地域（伊勢市以北）では「家や家財を残して避難することに抵抗があるから」が 21.4%と、他の地域とくらべ約 7~13 ポイント高くなっています。
- 「その他」の理由について、津波危険地域では「すぐ近くが海だから逃げても意味ないと感じる」、一般地域では「高齢者が 2 人おり、夜間避難することが難しい」等の回答がありました。

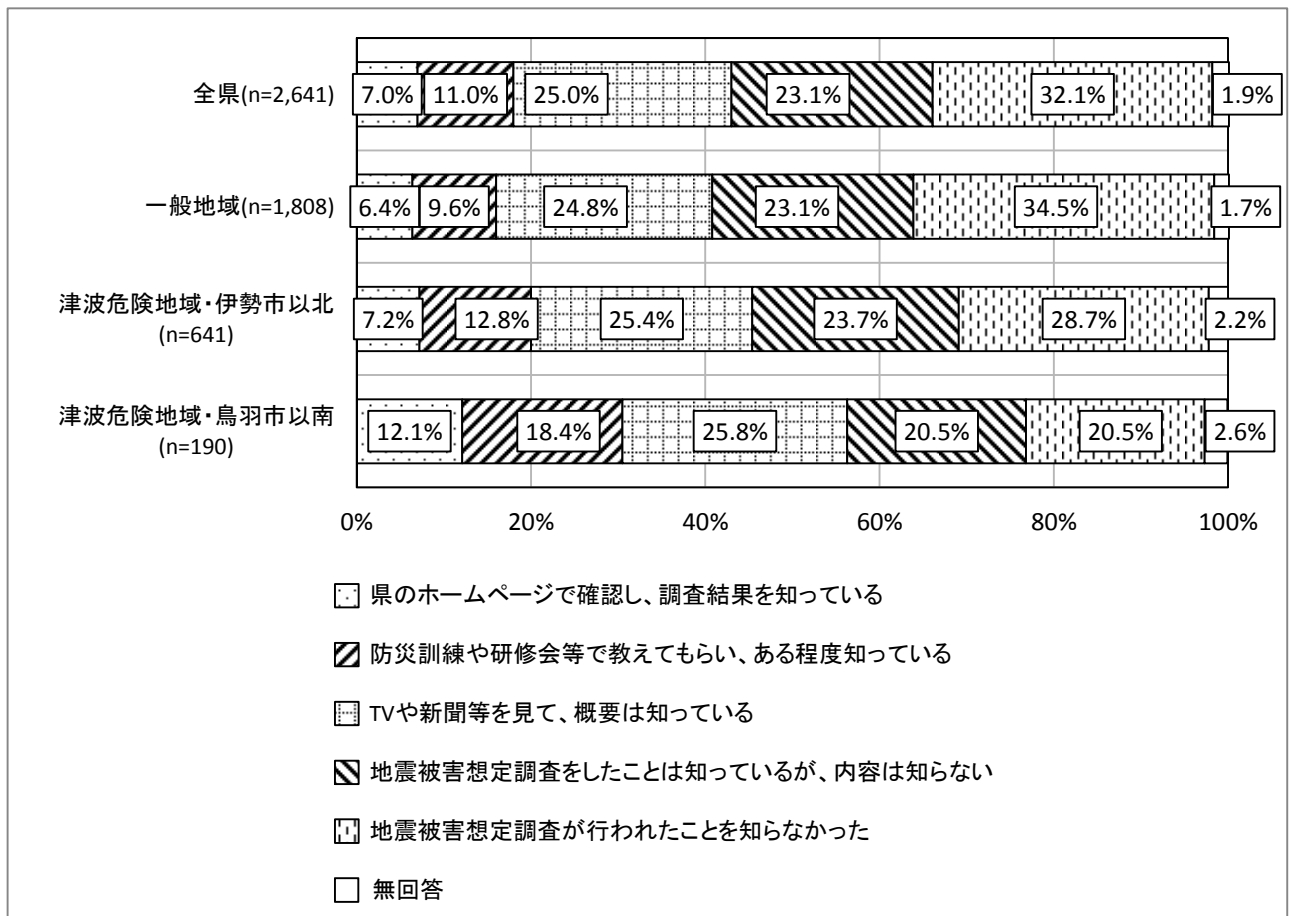
3.1.6 三重県地震被害想定調査結果の認知度

【問 3】 三重県では、「三重県地震被害想定調査結果」として、各地の震度予測や津波浸水予測等を公表しています。あなたは、この調査結果をご存知ですか。（一つだけ○）

1. 県のホームページで確認し、調査結果を知っている
2. 防災訓練や研修会等で教えてもらい、ある程度知っている
3. TVや新聞等を見て、概要は知っている
4. 地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない
5. 地震被害想定調査が行われていたことを知らなかった

調査結果

図 3.1.6 三重県地震被害想定調査結果の認知度 -全県及び地域別-



- 「調査結果を知っている」「ある程度知っている」「概要は知っている」と答えた方の割合の合計が、全県で 43.0%となっており、地域別では特に津波危険地域（鳥羽市以南）では 56.3%と半数を超えています。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）を除いた地域では、「地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない」と「地震被害想定調査が行われていたことを知らなかった」と答えた方の割合の合計が、一般地域で 57.6%、津波危険地域（伊勢市以北）で 52.4%と半数を超えています。

3.1.7 浸水深 30cm 到達時間予測図の認知度

【問 4】 問 3 の「三重県地震被害想定調査結果」では沿岸地域にある市町について、津波浸水予測図や津波により浸水深 30cm に到達するまでの到達予測時間分布図（※1）を公表しています。

あなたは、ご自宅や職場、親族や友人の家等がどのように浸水するかを確認しましたか。
（一つだけ〇）

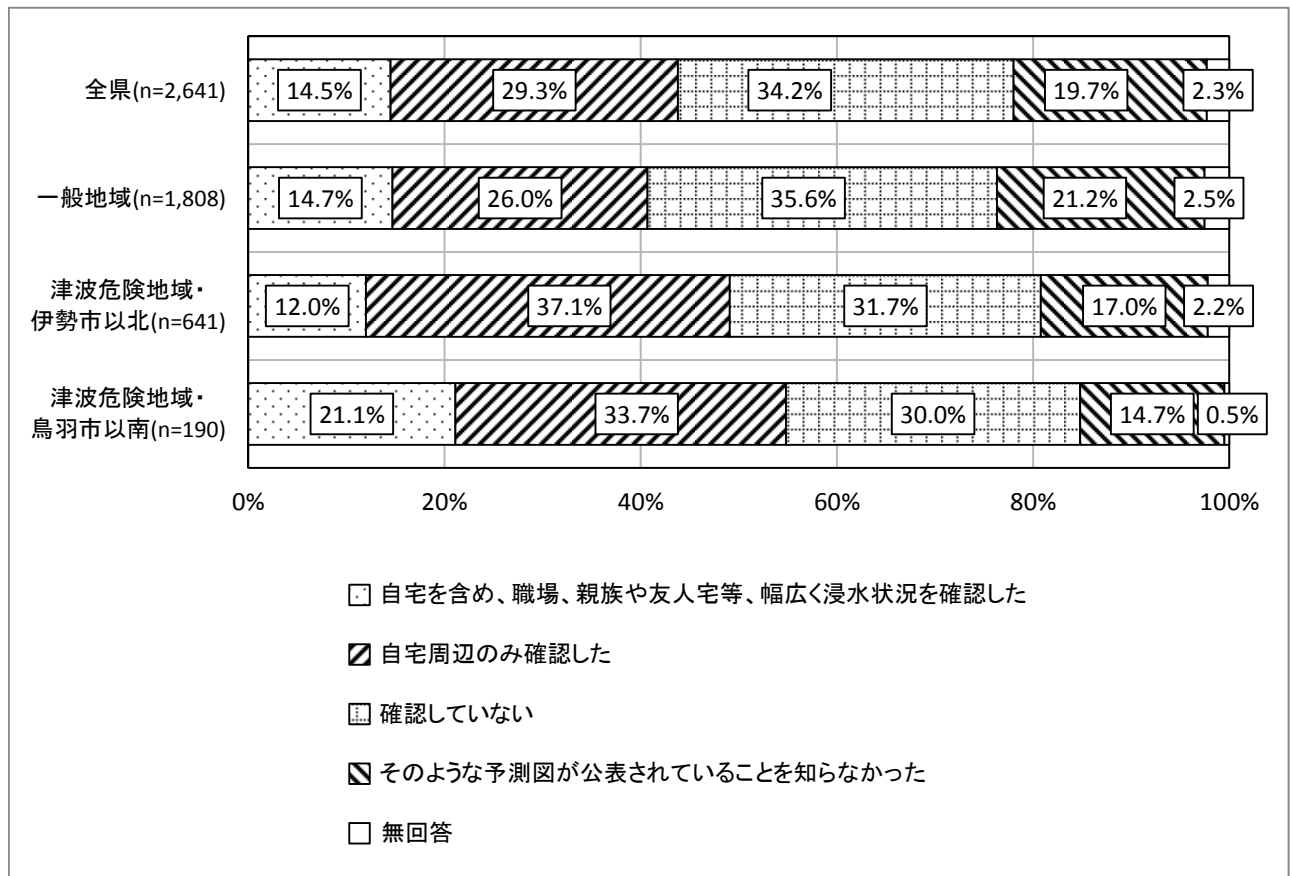
1. 自宅を含め、職場、親族や友人宅等、幅広く浸水状況を確認した
2. 自宅周辺のみ確認した
3. 確認していない
4. そのような予測図が公表されていることを知らなかった

※ 津波浸水深 30cm 到達予測時間分布図：

津波からの避難行動がとれなくなる（動くことができなくなる）一つの目安とされている津波浸水深 30cm に、どの場所がどのくらいの時間で達するかを時間に応じて色分けした予測図です。

調査結果

図 3.1.7 浸水深 30cm 到達時間予測図の認知度 -全県及び地域別-



- 「自宅を含め、職場、親族や友人宅等、幅広く浸水状況を確認した」と答えた方の割合が 14.5%、「自宅周辺のみ確認した」が 29.3%と、全県で約 4 割を超える方が浸水深 30cm 到達時間予測図を確認しています。
- 地域別では、特に、津波危険地域（鳥羽市以南）で 54.8%と半数以上の方が確認しています。

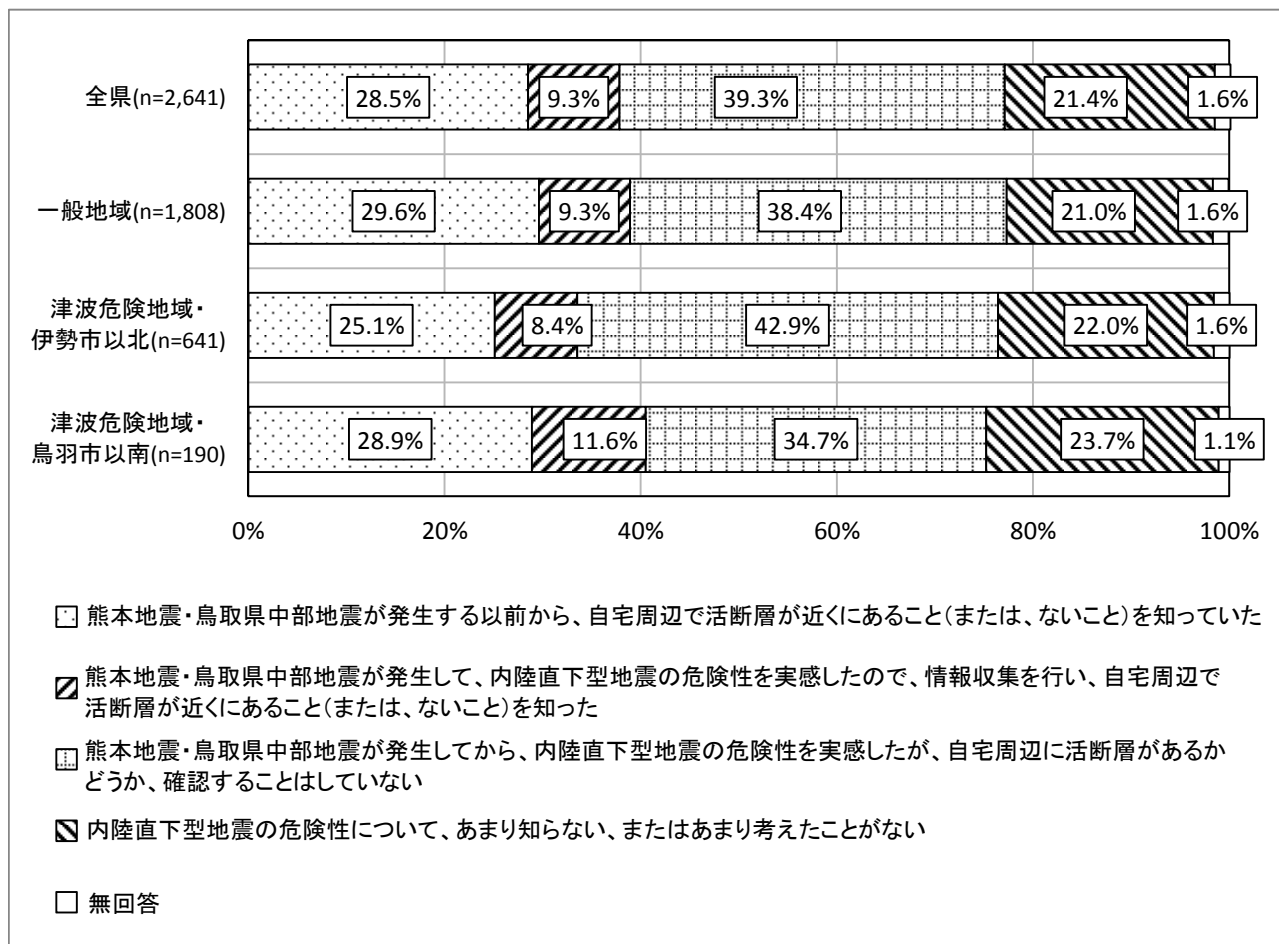
3.1.8 内陸直下型地震の危険性の認知度

【問5】 昨年は4月に熊本地震、10月には鳥取県中部地震が発生しましたが、これらの地震を受け、あなたはお住まいの地域での内陸直下型地震の危険性についてどの程度知っていますか。(一つだけ○) <新規>

1. 熊本地震・鳥取県中部地震が発生する以前から、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知っていた。
2. 熊本地震・鳥取県中部地震が発生して、内陸直下型地震の危険性を実感したので、情報収集を行い、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知った。
3. 熊本地震・鳥取県中部地震が発生してから、内陸直下型地震の危険性を実感したが、自宅周辺に活断層があるかどうか、確認することはしていない
4. 内陸直下型地震の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えたことがない

調査結果

図 3.1.8 内陸直下型地震の危険性の認知度 -全県及び地域別-



- 全ての地域において、「熊本地震・鳥取県中部地震が発生してから、内陸直下型地震の危険性を実感したが、自宅周辺に活断層があるかどうか、確認することはしていない」と答えた方の割合が最も多く、次いで「熊本地震・鳥取県中部地震が発生する以前から、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知っていた」「内陸直下型地震の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えたことがない」となっており、答えた方の割合は全県でそれぞれ 39.3%、28.5%、21.4% となっています。

3.2 風水害対策について

3.2.1 気象庁の大雨・洪水警報の危険度分布 HP の認知度

【問 6】 気象庁は、平成29年7月から大雨警報（浸水害）の危険度分布、洪水警報の危険度分布をホームページで提供しています。この情報について、あなたはどの程度ご存じですか。

（一つだけ〇）＜新規＞

1. 耳にしたことはあるが、実際に見たことはない
2. 「平成29年7月九州北部豪雨」等の際に、ニュースなどテレビ番組の解説で見たことがある
3. 実際の大雨時に、気象庁ホームページで危険度分布を確認した事がある
4. 知らない

※大雨警報（浸水害）、洪水警報の危険度分布：

大雨警報や洪水警報が発表されるような重大な災害が発生するおそれがある状況で、お住まい等の地域における危険度の高まりを把握するための情報

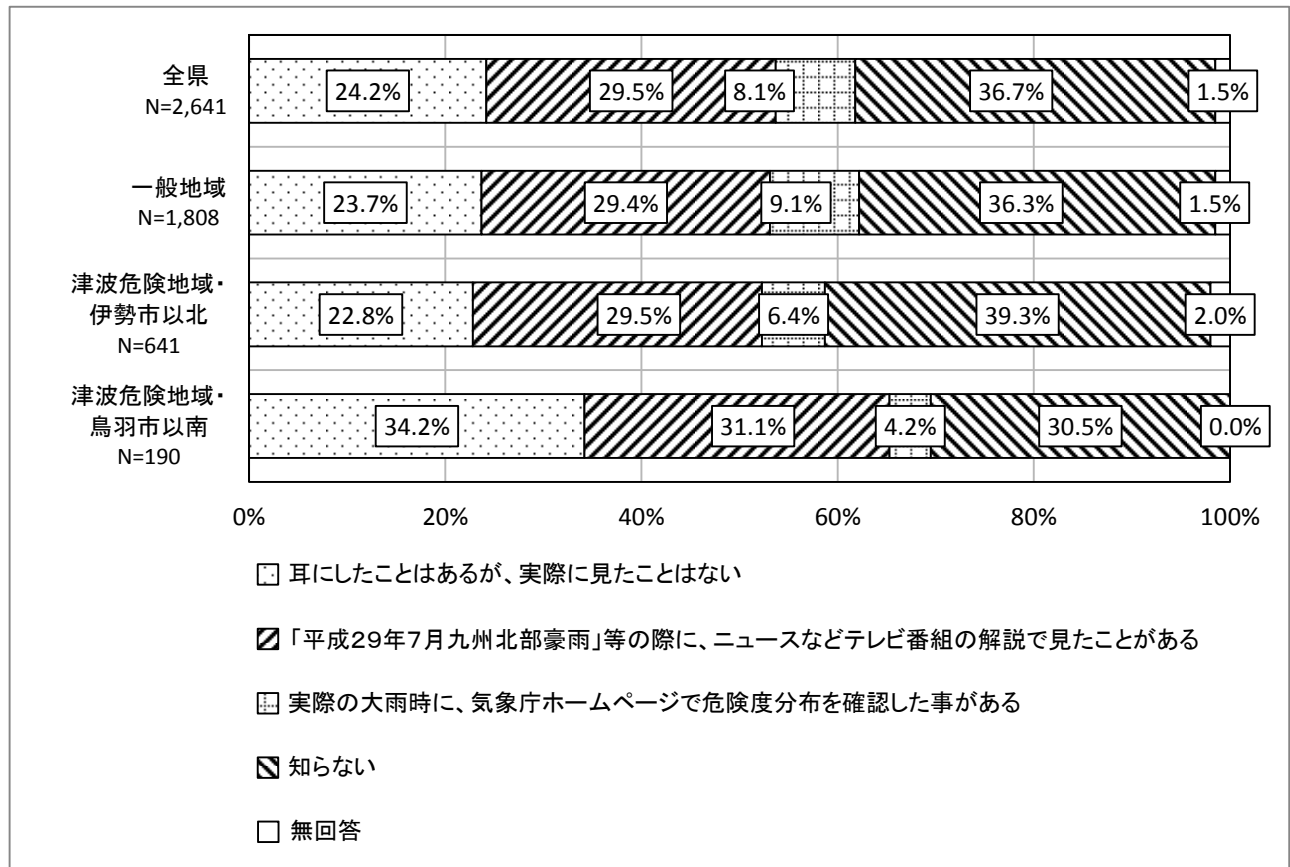
なお、気象庁ホームページの該当アドレスは次のとおりです。

大雨警報（浸水害）の危険度分布 <http://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html>

洪水警報の危険度分布 <http://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>

調査結果

図 3.2.1 気象庁の大雨・洪水警報の危険度分布 HP の認知度 -全県及び地域別-



- ・ 「耳にしたことはあるが、実際に見たことはない」、「平成29年7月九州北部豪雨」等の際に、ニュースなどテレビ番組の解説で見たことがある」、「実際の大雨時に、気象庁ホームページで危険度分布を確認した事がある」と答えた方の割合の合計が全県では61.8%と6割以上の方が認知しています。

3.2.2 お住まいの地域の風水害による危険性の認知度

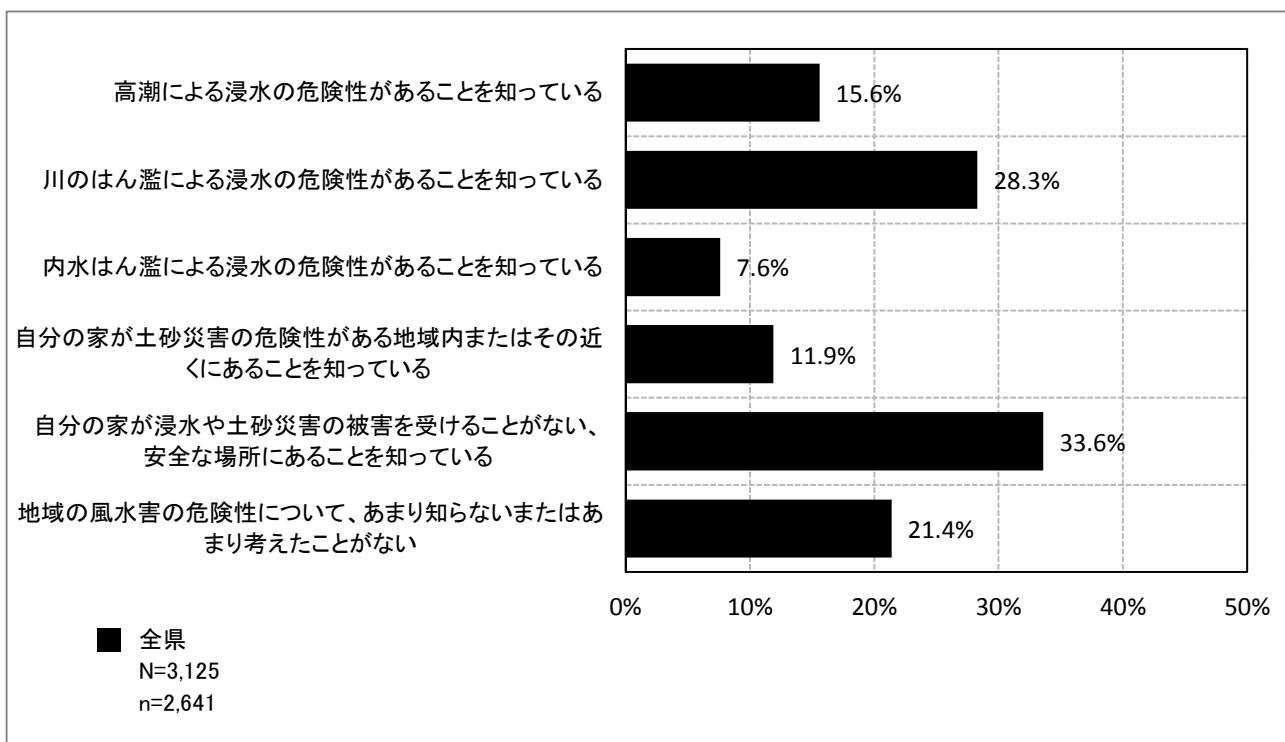
【問 7】 あなたがお住まいの地域の風水害（高潮や川のはん濫、土石流、がけ崩れ、地すべり等）の危険性について、どの程度ご存知ですか。（いくつでも〇）

- | | | |
|--|---|----------|
| 1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている | } | →問 7-1 へ |
| 2. 川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている | | |
| 3. 内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている | | |
| 4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあることを知っている | | →問 7-1 へ |
| 5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている | | →問 8 へ |
| 6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らないまたはあまり考えたことがない | | →問 8 へ |

※内水はん濫：局地的大雨等で下水道施設や小河川の水位が増加し、排水が間に合わずに溢れ出した水により、建物や土地、道路等が浸水する風水害

調査結果

図 3.2.2 お住まいの地域の風水害による危険性の認知度 -全県-（複数回答）



- 「自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている」と答えた方の割合が 33.6%、「川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」と答えた方の割合が 28.3%と他の選択肢にくらべ多くなっています。

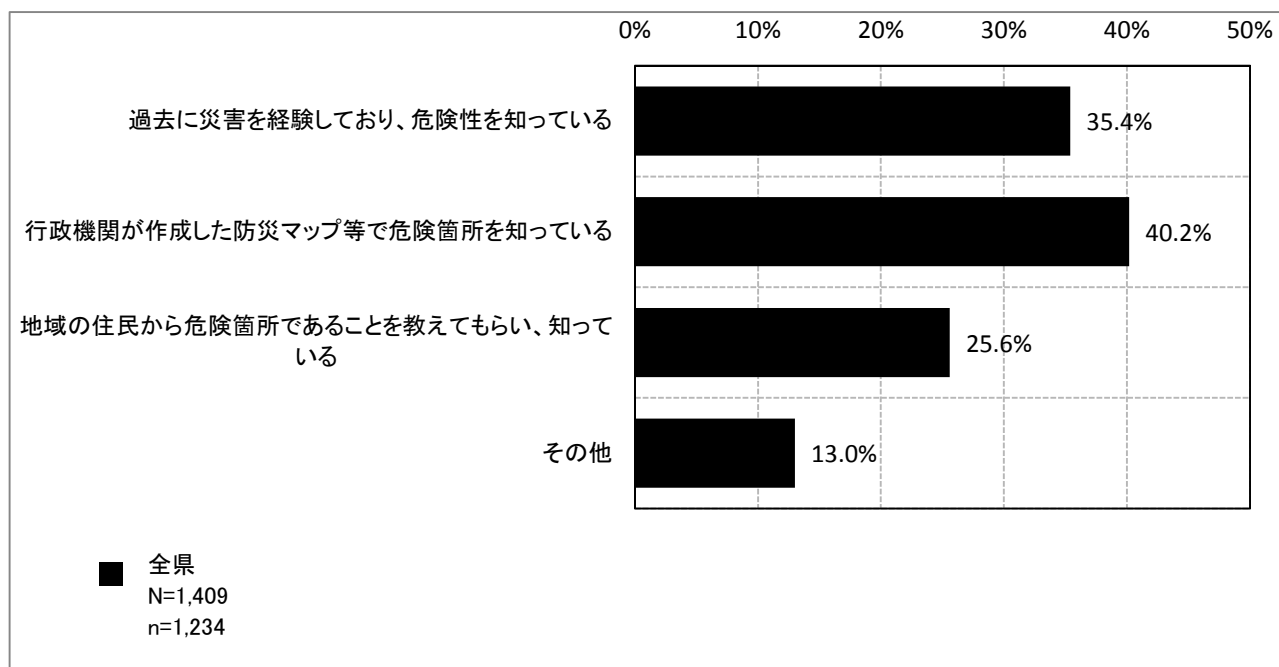
3.2.3 風水害の危険性の情報入手先

【問 7-1】 問 7 で、「1.高潮による浸水の危険性があることを知っている」、「2.川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「3.内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「4.自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあることを知っている」と回答された方にお尋ねします。あなたのお住まいの地域に危険があることを何でお知りになりましたか。(いくつでも〇)

1. 過去に災害を経験しており、危険性を知っている
2. 行政機関が作成した防災マップ等で危険箇所を知っている
3. 地域の住民から危険箇所であることを教えてもらい、知っている
4. その他 具体的に：

調査結果

図 3.2.3 風水害の危険性の情報入手先 -全県- (複数回答)



- 全県では、「行政機関が作成した防災マップ等で危険箇所を知っている」が 40.2%と最も多くなっています。次いで「過去に災害を経験しており、危険性を知っている」が 35.4%となっています。
- 「その他」の理由について、「川がそう遠くはないし、海拔が低い」、「住宅裏山が急傾斜地に指定されている」等の回答がありました。

3.2.4 局地的大雨等の避難行動

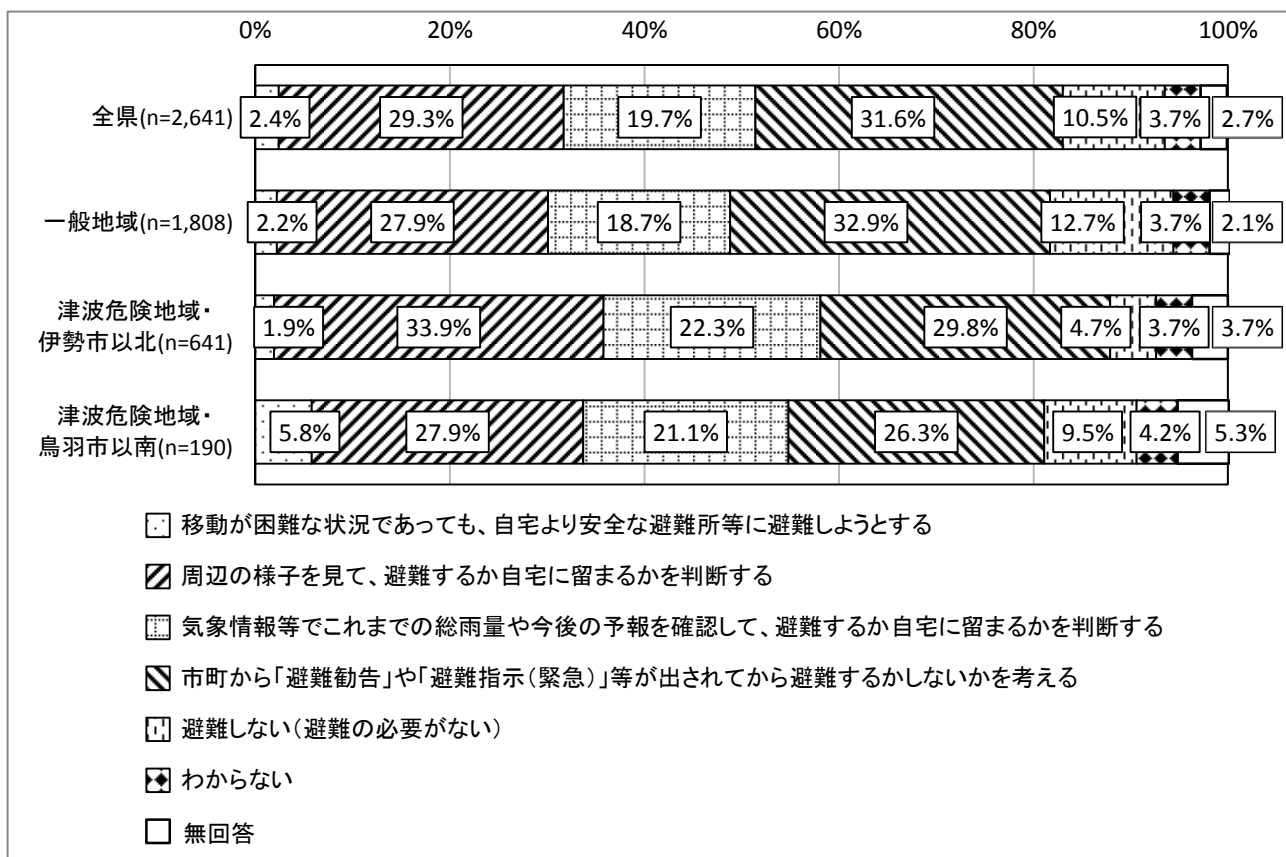
【問 8】 近年、国内では局地的な大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どのような避難行動を取りますか。

(一つだけ〇)

1. 移動が困難な状況であっても、自宅より安全な避難所等に避難しようとする
2. 周辺の様子を見て、避難するか自宅に留まるかを判断する
3. 気象情報等でこれまでの総雨量や今後の予報を確認して、避難するか自宅に留まるかを判断する
4. 市町から「避難勧告」や「避難指示（緊急）」等が出されてから避難するかしないかを考える
5. 避難しない（避難の必要がない）
6. わからない

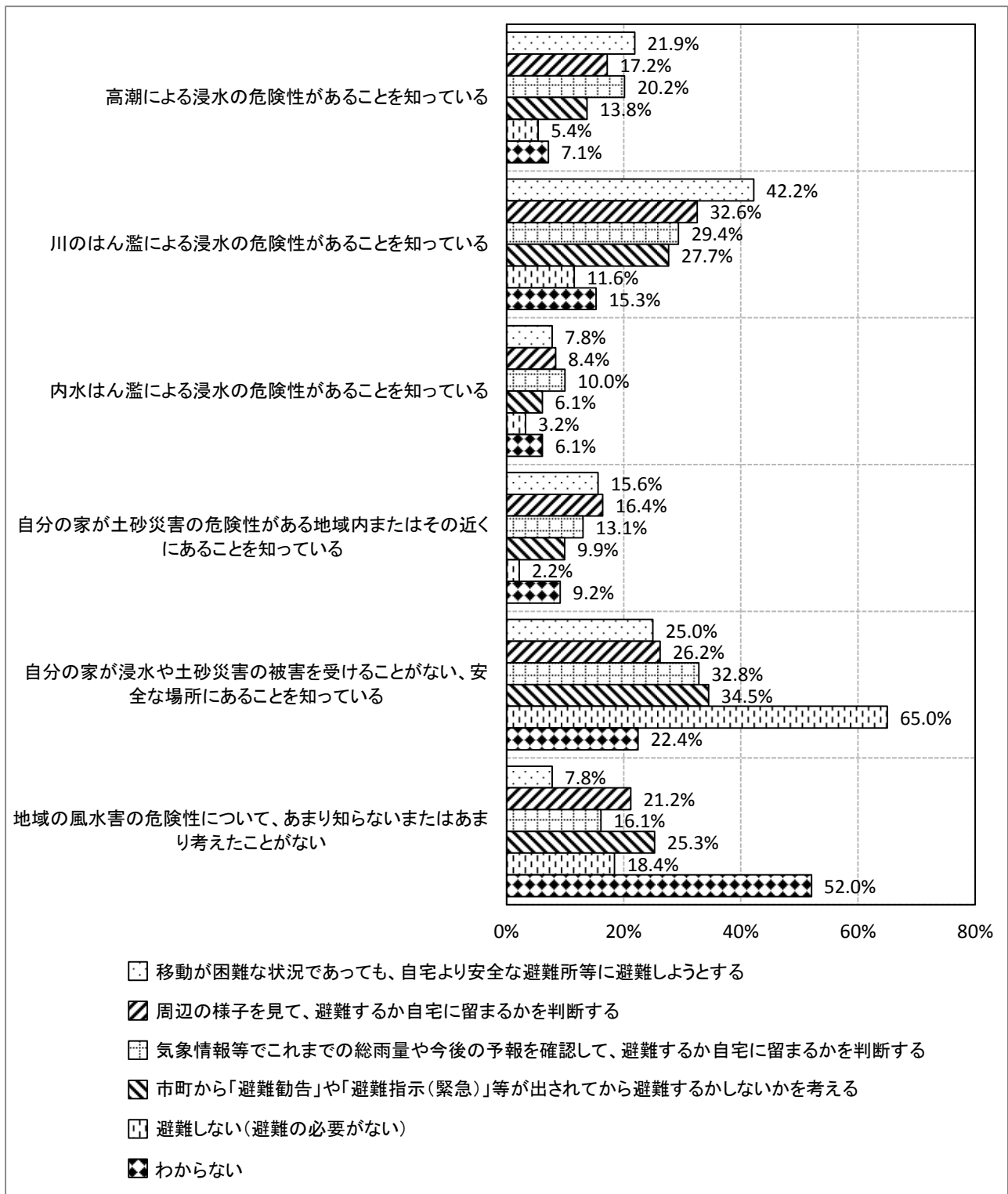
調査結果

図 3.2.4 (1) 局地的大雨等の避難行動 -全県及び地域別-



- 局地的な大雨等からの避難について、全県で「市町から「避難勧告」や「避難指示（緊急）」等が出されてから避難するかしないかを考える」と答えた方の割合が31.6%と最も多くなっています。

図 3.2.4 (2) 局地的大雨等の避難行動 -
-問 7 (お住まいの地域の風水害による危険性の認知度) とのクロス集計-



- 「川のはん濫による浸水」の危険性があることを知っている方では、「安全な避難所等に避難する」と答えた方の割合が42.2%と最も多くなっています。
- 「自分の家が安全な場所にあることを知っている」方では、「避難しない(避難の必要がない)」と答えた方の割合が65.0%と最も多くなっています。
- さらに「危険性を考えたことがない」方では、「わからない」が52.0%と最も高くなっていることから、危険性の認知度が避難行動の判断に繋がっていることがうかがえます。

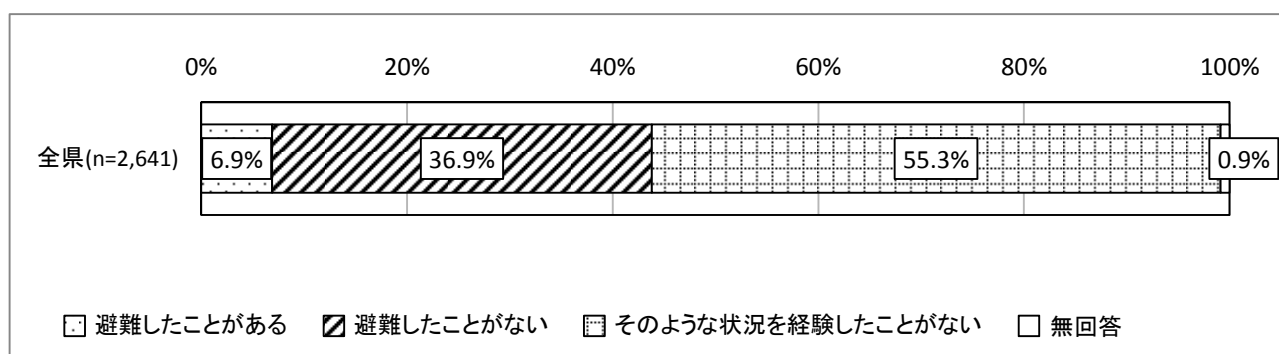
3.2.5 台風時等の避難行動

【問 9】 あなたは、台風や大雨等による避難勧告等がお住まいの地域に発表される等、身の回りに危険が近づいている状況で、自宅から離れた安全な場所に避難した経験がありますか。
(一つだけ〇)

- | | |
|----------------------|----------|
| 1. 避難したことがある | →問 10 へ |
| 2. 避難したことがない | →問 9-1 へ |
| 3. そのような状況を経験したことがない | →問 10 へ |

調査結果

図 3.2.5 台風時等の避難行動 -全県-



- 避難勧告等を経験した人のうち、「避難したことがない」と答えた方の割合は約8割となっています。(「避難したことがある」、「避難したことがない」と答えた方)

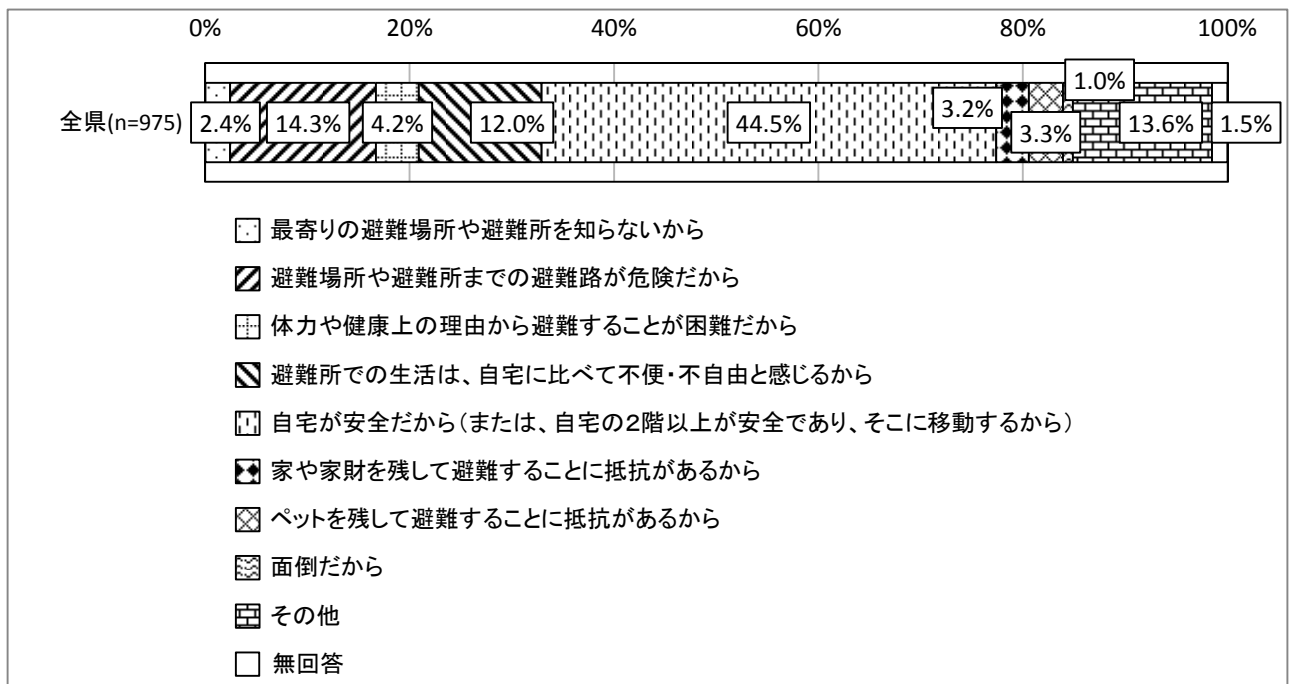
3.2.6 台風時等に避難しない理由

【問 9-1】 問 9 で、「2.避難したことがない」と回答された方にお尋ねします。あなたが台風時等に避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(一つだけ〇)

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから
5. 自宅が安全だから（または、自宅の2階以上が安全であり、そこに移動するから）
6. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
7. ペットを残して避難することに抵抗があるから
8. 面倒だから
9. その他 具体的に：

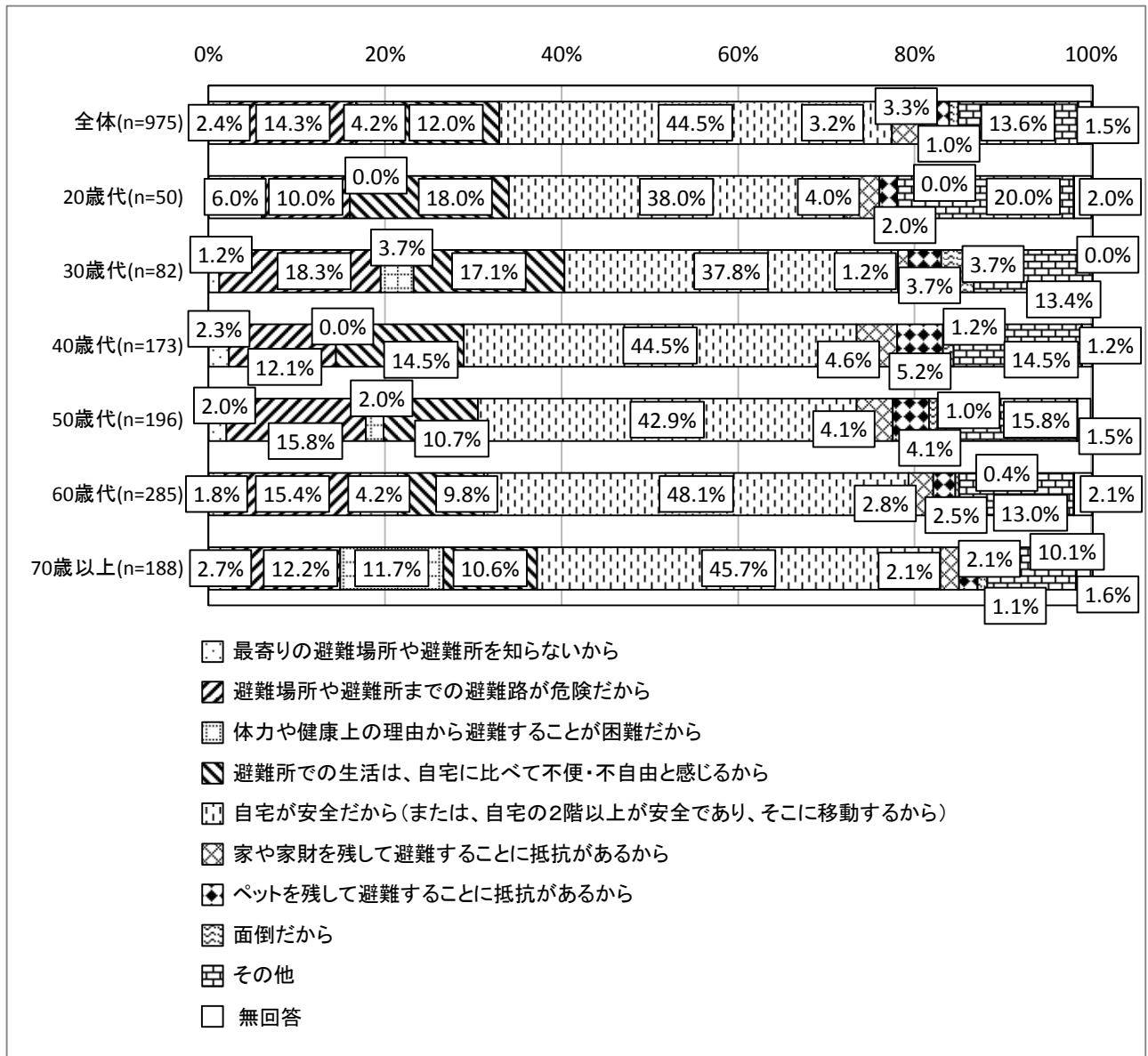
調査結果

図 3.2.6 (1) 台風時等に避難しない理由 -全県-



- 「自宅が安全だから（または、自宅の2階以上が安全であり、そこに移動するから）」が 44.5% と最も多くなっています。
- 「避難場所や避難所までの避難路が危険だから」14.3%、「避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから」12.0%も割合の多い理由の一つとなっています。
- 「その他」の理由として、「少し大げさに感じるから」、「自宅より避難所の方が危険だから」などの回答がありました。

図 3.2.6 (2) 台風時等に避難しない理由 -全体及び年代別-



- 年代別にみると、「自宅が安全だから(または、自宅の2階以上が安全であり、そこに移動するから)」と答えた方の割合がすべての年代で最も多くなっています。
- なお、70歳以上では、「体力や健康上の理由から避難することが困難だから」が11.7%と他の年代とくらべ大幅に多くなっています。

3.3 防災全般について

3.3.1 家庭での防災対策の状況

【問 10】 あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。

(いくつでも○)

1. 3 日以上飲料水を備蓄している(ご家族ひとり一日あたり 3 リットルとして計算してください)
2. 3 日以上食料を常に確保している
3. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
4. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
5. 災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
6. 家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている
7. 携帯電話やスマートフォンの予備電源を確保している
8. 自家用車の燃料計が半分程度になった時点で、給油をしている
9. お風呂にいつも水を入れている
10. ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
11. 消火器を用意している
12. 懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している
13. 枕元にスリッパを置いている
14. いつも笛を身につけている
15. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
16. 寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている
17. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
18. 感震ブレーカーを設置している
19. ペットの餌や水、ケージ等、ペットの防災用品の準備や、避難先の検討等を行っている
20. その他 具体的に：
21. 特に対策をとっていない

図 3.3.1 (1) ① 家庭での防災対策の状況 -全県及び地域別- (複数回答)

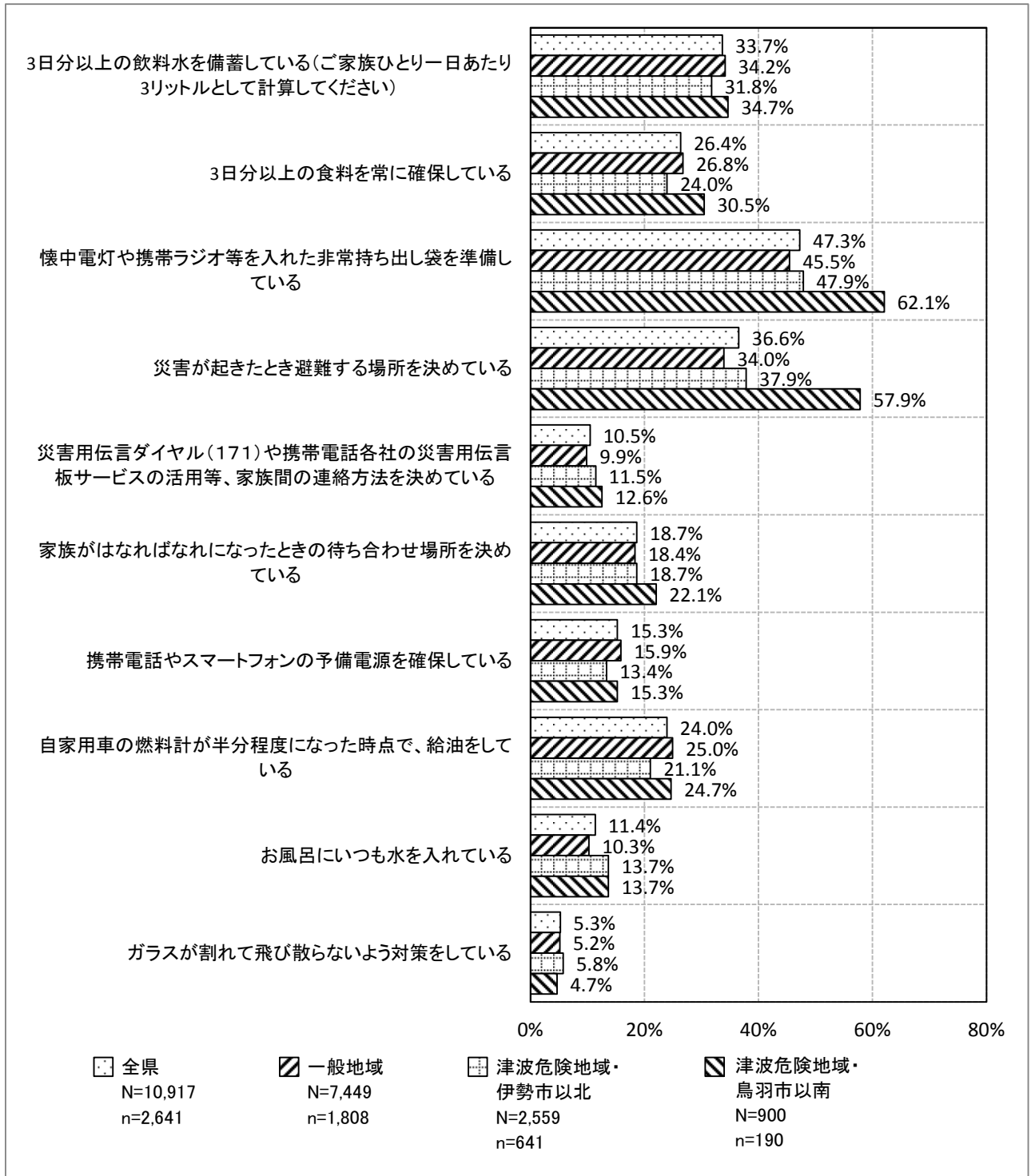
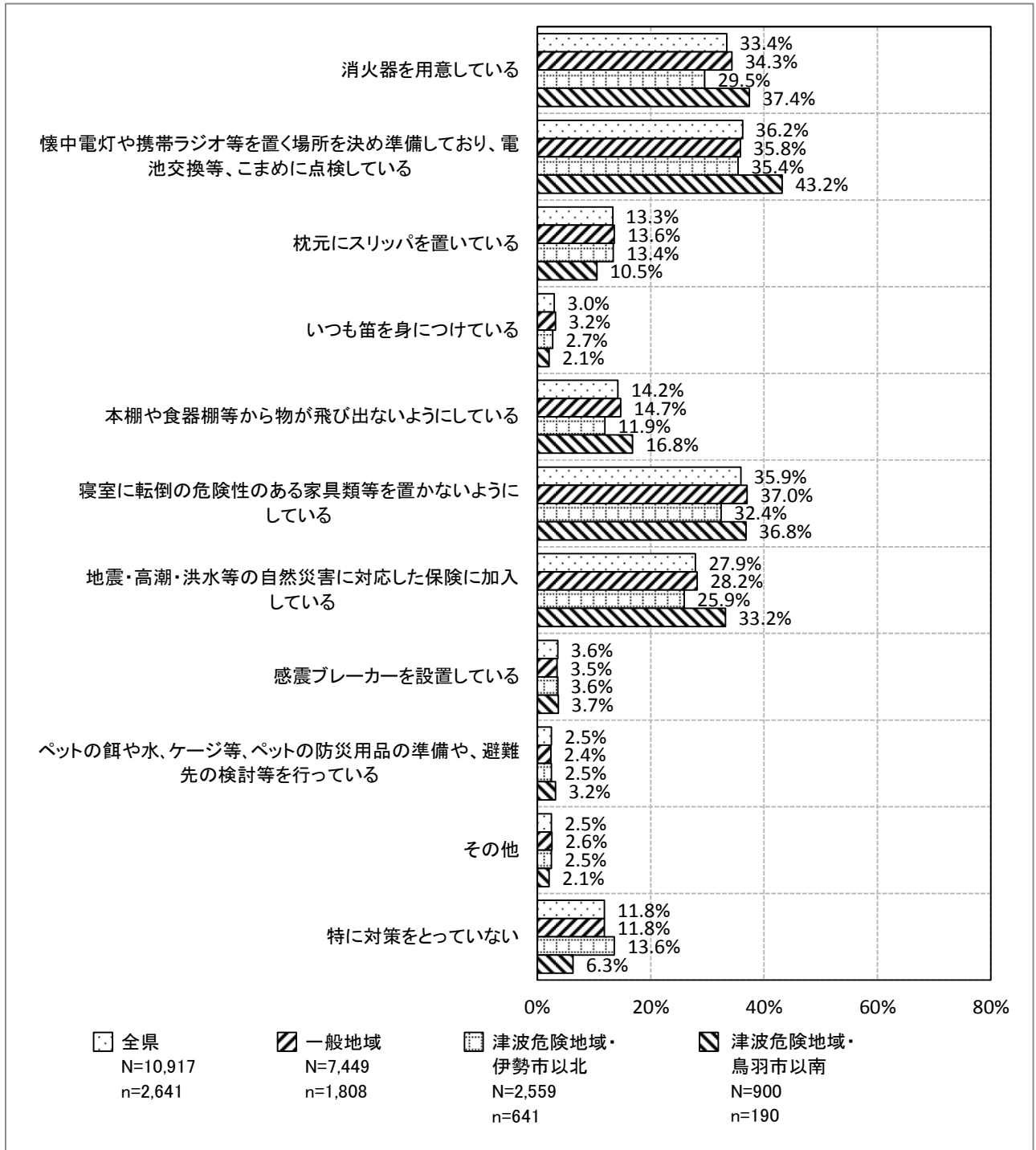


図 3.3.1 (1) ② 家庭での防災対策の状況 -全県及び地域別- (複数回答)



- すべての地域において「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」と答えた方の割合が最も多くなっており、全県で47.3%と約半数近くの方が準備しています。
- 地域別でみると、津波危険地域（鳥羽市以南）では、「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」が62.1%と他の地域よりも10%以上も高くなっています。それ以外にも「災害が起きたとき避難する場所を決めている」が57.9%、「懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している」が43.2%、「消火器を用意している」が37.4%「地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している」が33.2%と他の地域を上回っています。
- 「その他」の防災対策について、「車中泊が可能な準備を一式してある。（簡易トイレ・寝袋・シャワー用ポリタンク）等、緊急脱出用ハンマー（車）」、「敷地内の高台まで通路を作り7.5畳の地震の避難場所を建てた。」、「個人用・発電機（2300W）1台用意している」などの回答がありました。

図 3.3.1 (2) ① 家庭での防災対策の状況 -全県経年変化- (複数回答)

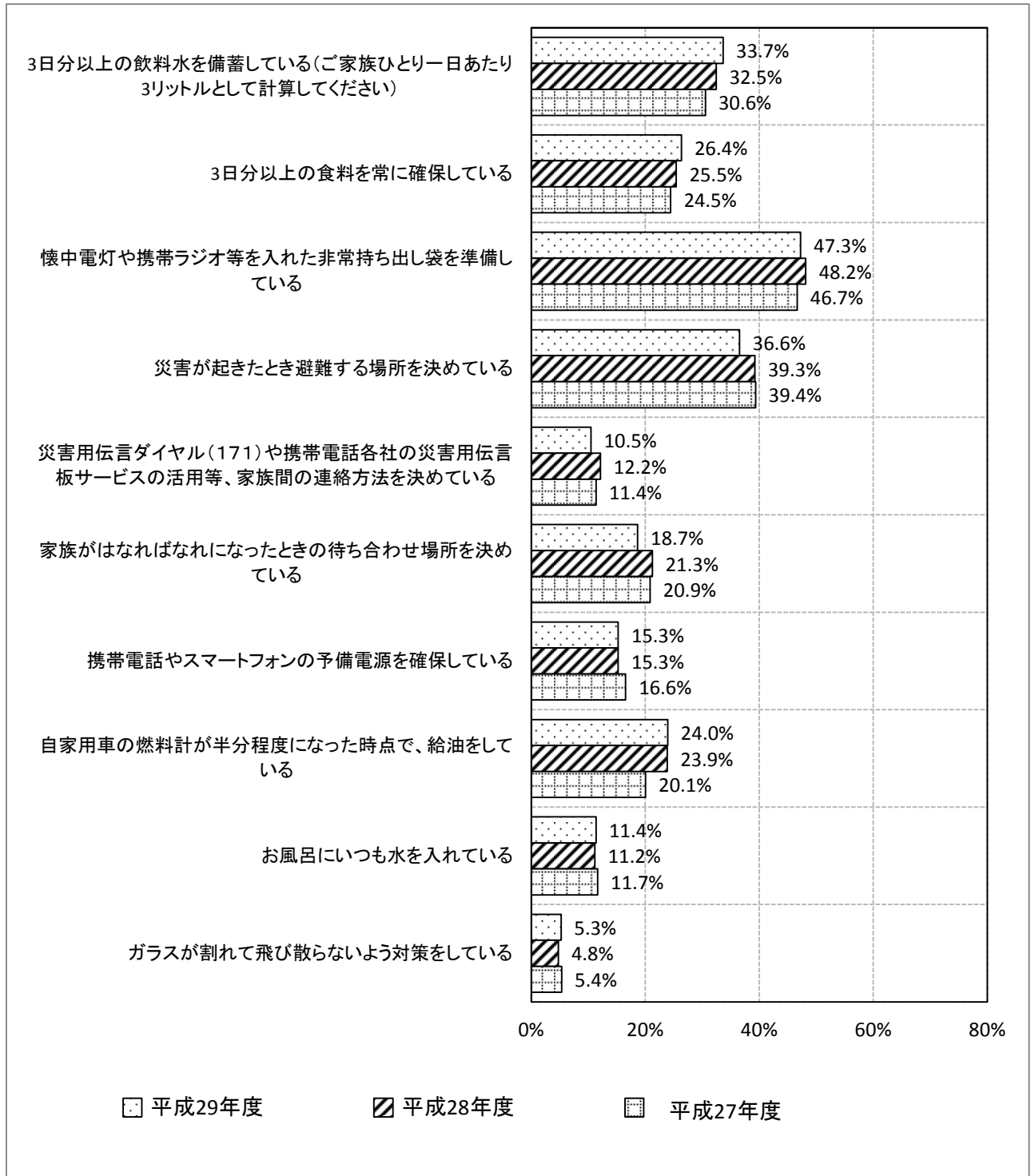
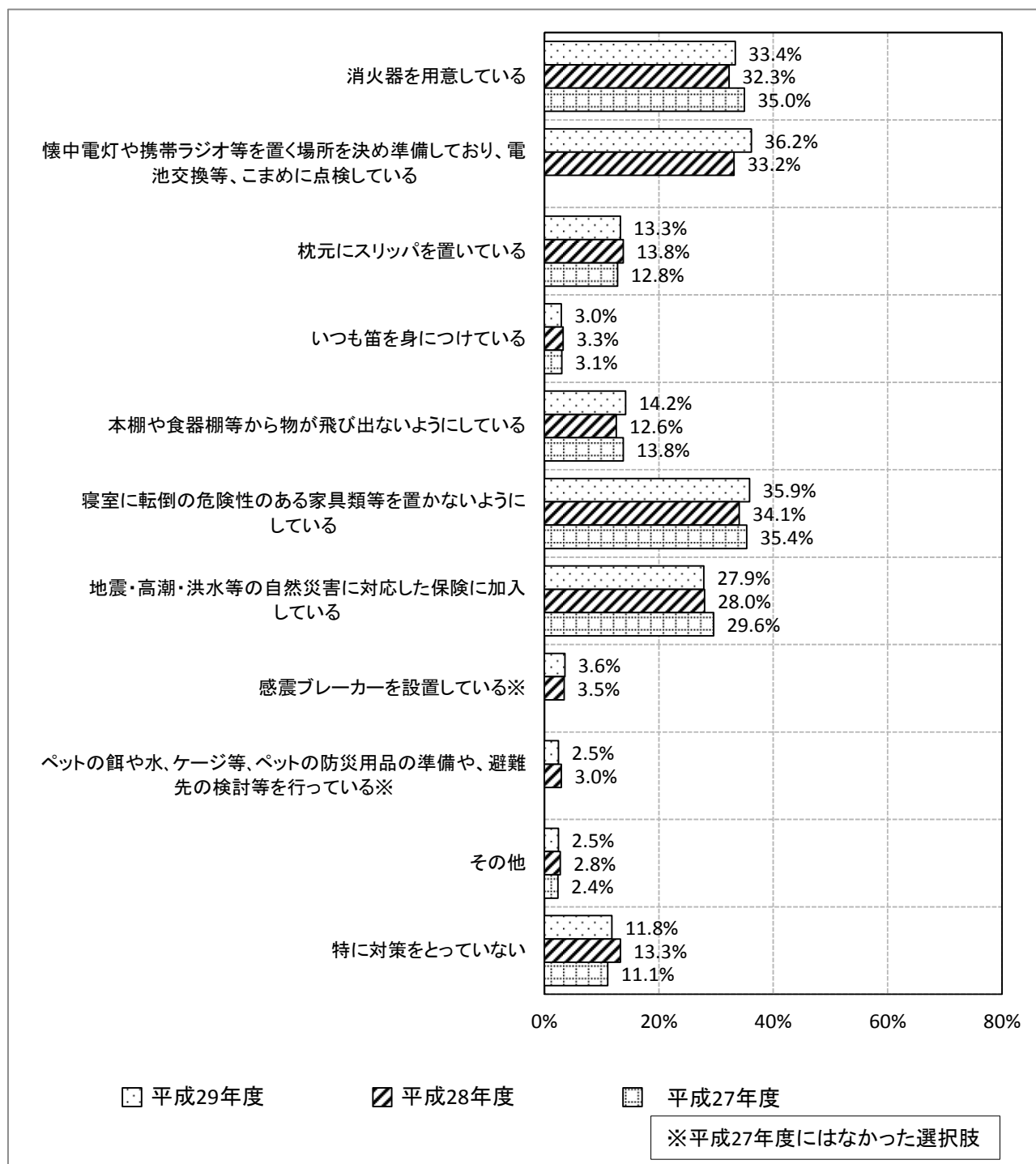


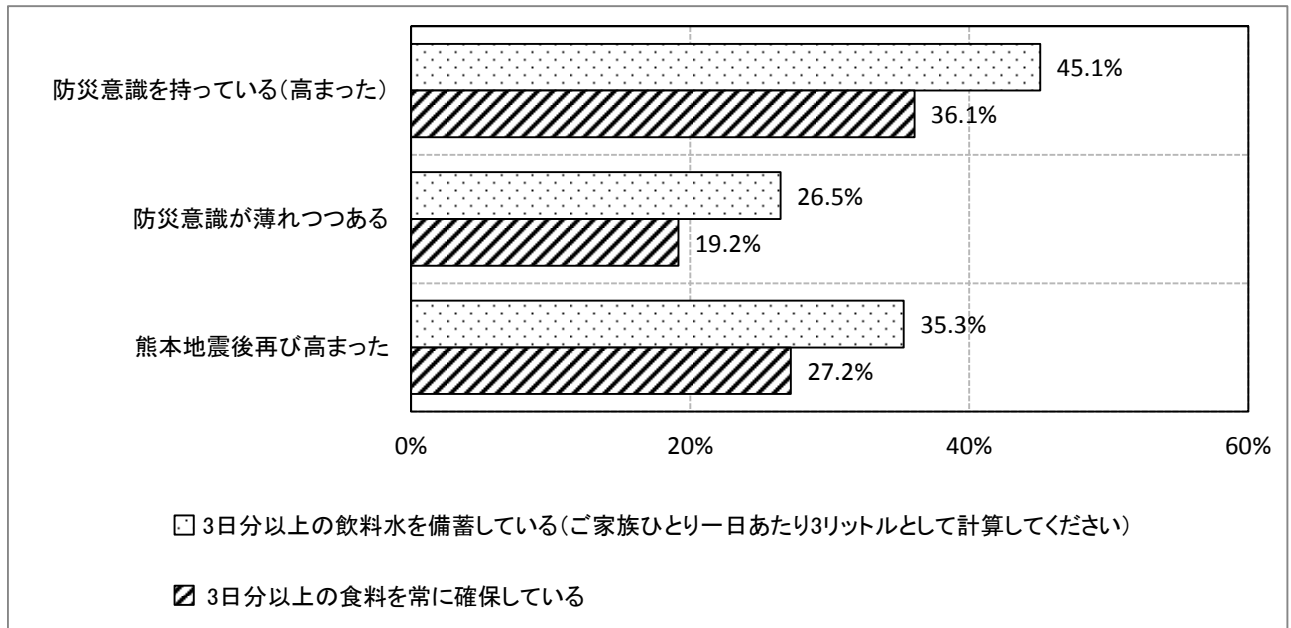
図 3.3.1 (2) ② 家庭での防災対策の状況 -全県経年変化- (複数回答)



- 経年変化をみると、3日以上の飲料水と食料の備蓄率は年々増加傾向にありますが、「災害が起きたとき避難する場所を決めている」、「家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている」、「災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている」、「災害が起きたとき避難する場所を決めている」を選んだ方の割合は、昨年度より減少しています。

図 3.3.1 (3) 家庭での防災対策の状況

-問 1 (東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり) とのクロス集計-



- 問 1 (東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり) とのクロス集計をみると、防災意識が高いほど、「3日以上の飲料水を備蓄している」方が多くなる傾向がうかがえます。

3.3.2 家具固定の不備による危険度

【問 11】 ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビ等が転倒しないよう固定をしていますか。
(一つだけ〇)

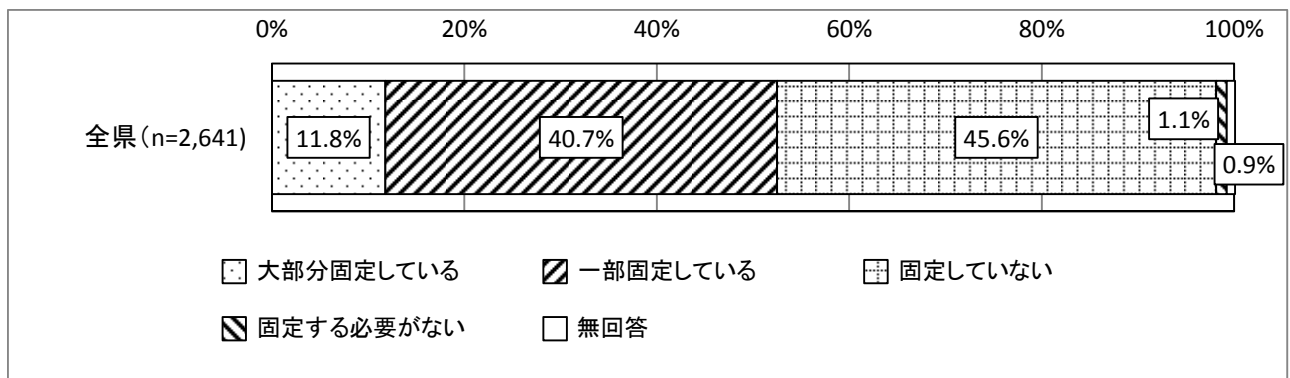
1. 大部分固定している
2. 一部固定している
3. 固定していない
4. 固定する必要がない

→問 12 へ

→問 11-1 へ

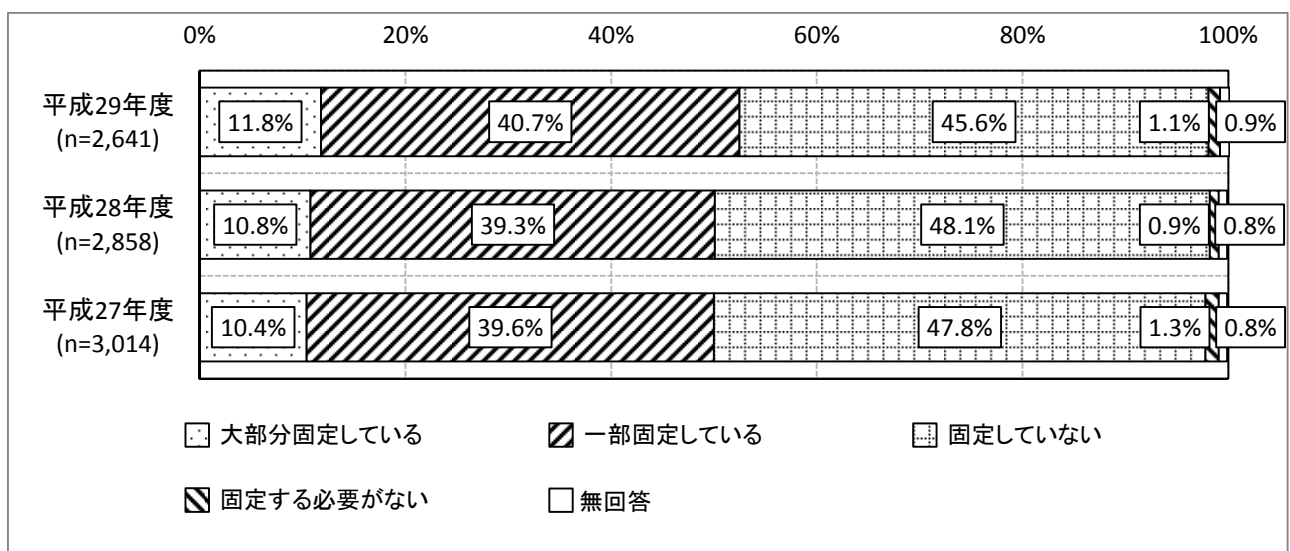
調査結果

図 3.3.2 (1) 家具固定の不備による危険度 -全県-



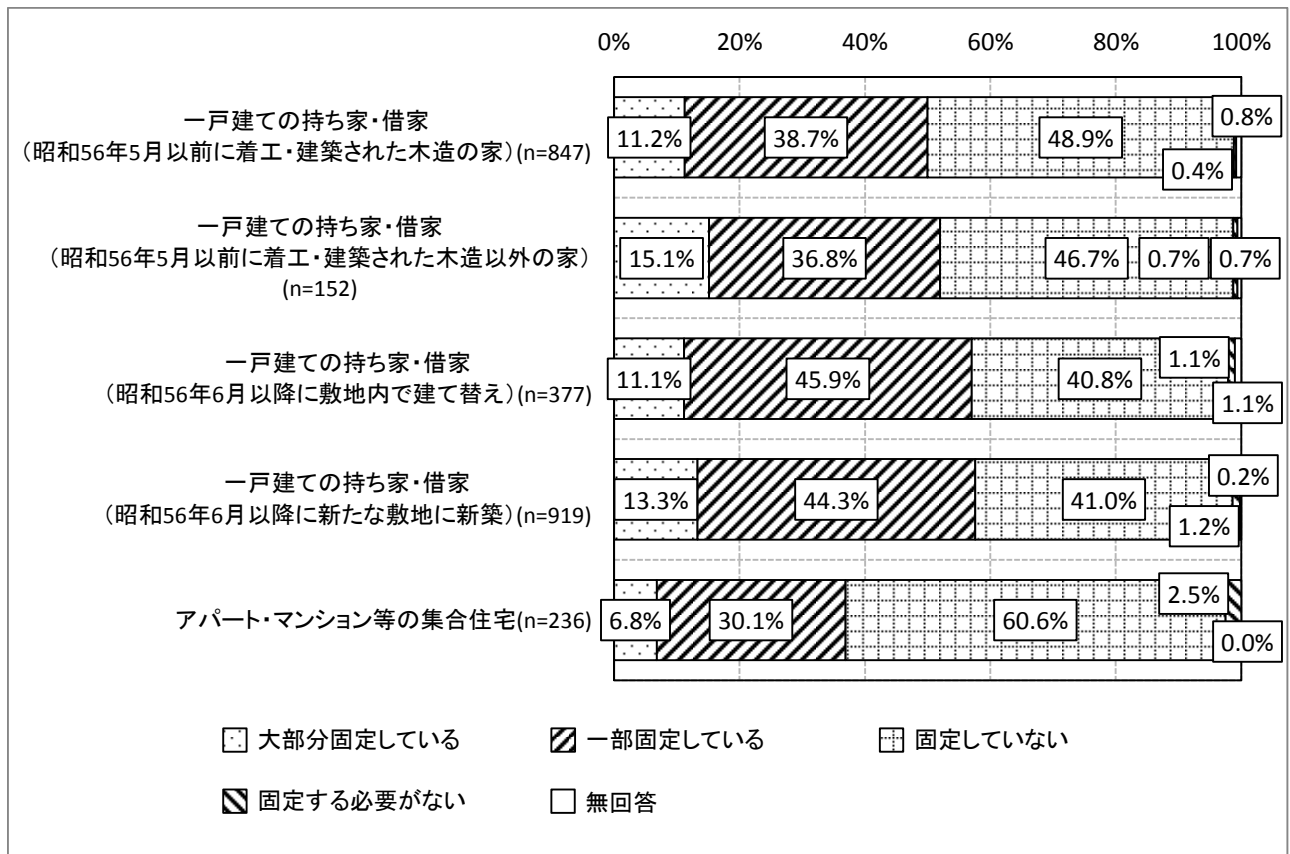
- ・ 「大部分固定している」と答えた方 11.8%と、「一部固定している」と答えた方 40.7%の合計が 52.5%と、約半数を超える方が一部でも「固定している」と答えています。
- ・ 一方、「固定していない」と答えた方の割合は 45.6%となっています。

図 3.3.2 (2) 家具固定の不備による危険度 -全県経年変化-



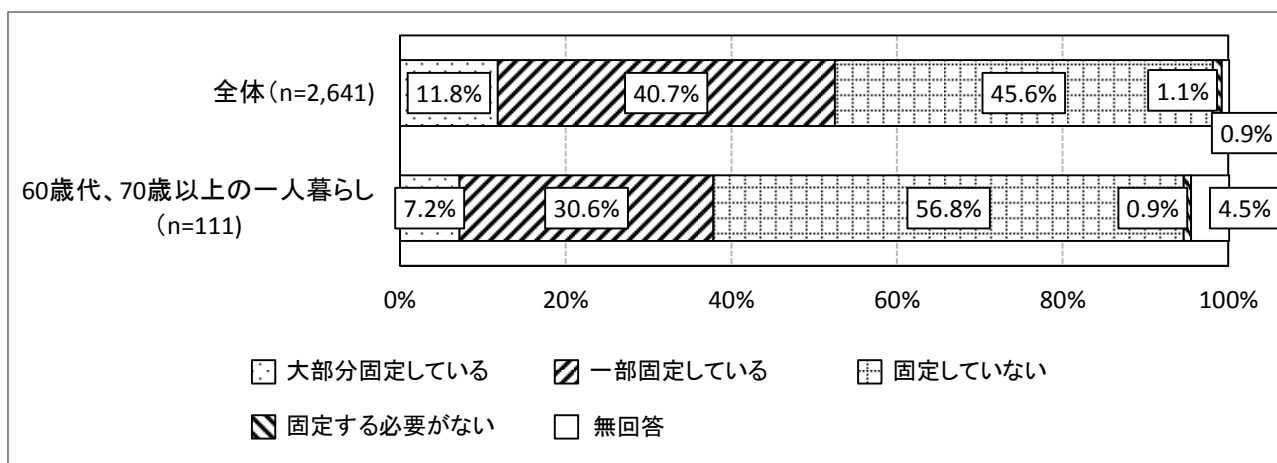
- ・ 経年変化をみると、今年度は「一部固定している」と回答した方が4割を超え、「固定していない」が昨年度より 2.5 ポイント減少しています。

図 3.3.2 (3) 家具固定の不備による危険度
-問 28 (住まいの状況) とのクロス集計-

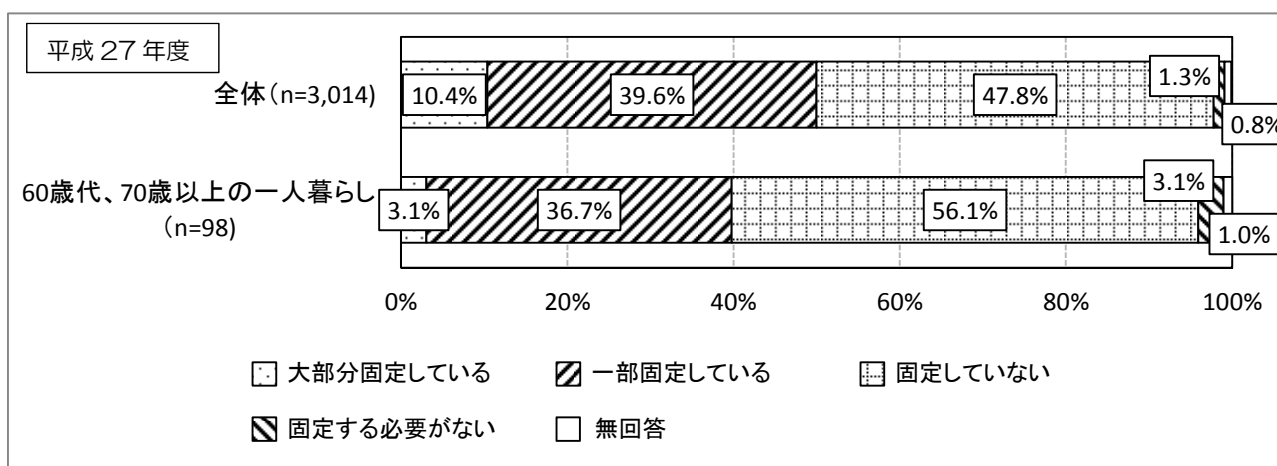
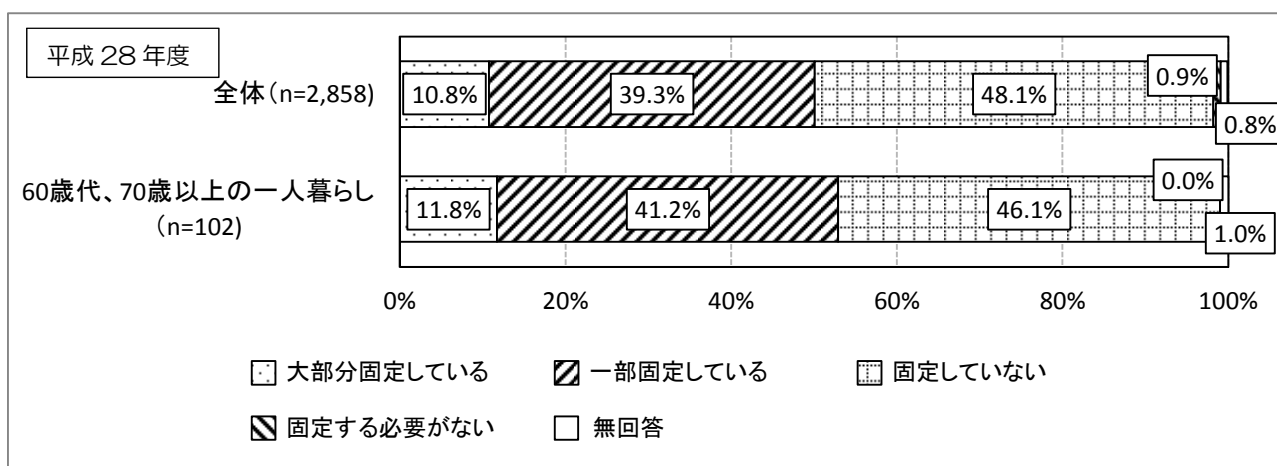


- 家具類の固定状況を問 28 (住まいの状況) とのクロス集計でみると、一戸建てについては建築年度等での大きな違いは見られず、いずれの場合も「大部分固定している」「一部固定している」と答えた方が半数となっています。
- 一方、「アパート・マンション等の集合住宅」では、「固定していない」と答えた方の割合が約 6 割になっており、一戸建て住宅と集合住宅の間には、約 10 ポイントの差が見られました。

図 3.3.2 (4) 家具固定の不備による危険度
-全体と 60 歳代、70 歳以上の一人暮らしの方の比較-



(参考) 家具類の固定状況 平成28年度及び平成27年度との経年変化



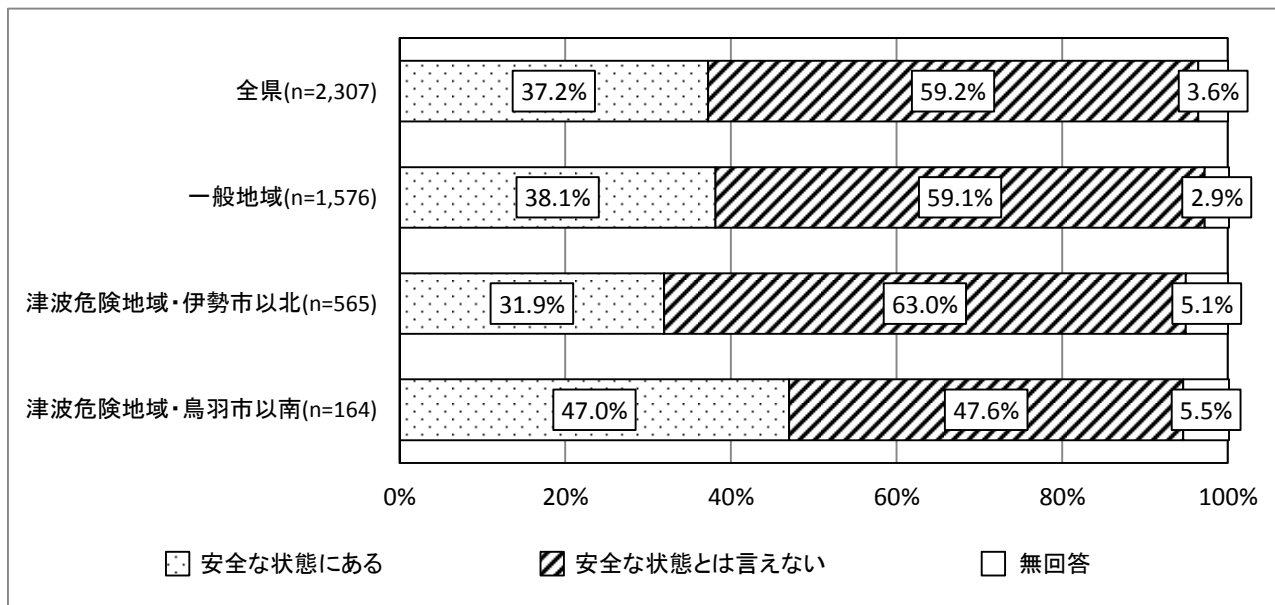
- 全体と 60 歳代・70 歳以上の一人暮らしの方の経年変化をみると、全体では、大きな変化はありません。
- 60 歳代・70 歳以上の一人暮らしの方では、「固定していない」と答えた方の割合が 46.1%から 56.8%へ昨年度より大幅に増加しています。

3.3.3 家屋からの脱出

【問 11-1】 問 11 で、「2.一部固定している」、「3.固定していない」、「4.固定する必要がない」と回答された方にお尋ねします。あなたのご自宅は、一部の家具固定や家具固定なしでも、ケガをしない、家屋から脱出できなくなることはない等、安全な状態にありますか。（一つだけ〇）

1. 安全な状態にある →問 12 へ
 2. 安全な状態とは言えない →問 11-2 へ

図 3.3.3 家屋からの脱出 -全県及び地域別-



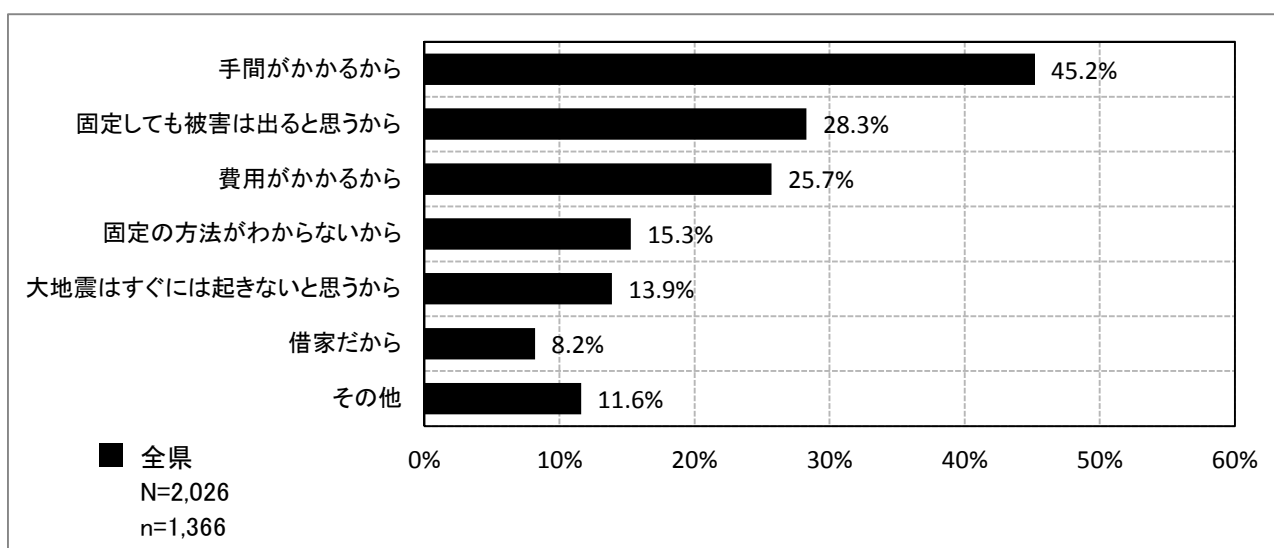
- 全県で「安全な状態にある」と答えた方の割合が 37.2%に対し、「安全な状態とは言えない」が 59.2%となっており、すべての地域で同様の傾向になっています。
- 地域別にみると津波危険地域（鳥羽市以南）では、他の地域にくらべ「安全な状態にある」と答えた方の割合が多く、47.0%となっています。

3.3.4 安全ではないのに家具を固定しない理由

【問 11-2】 問 11-1 で「2.安全な状態とは言えない」と回答された方にお尋ねします。家具類の固定をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

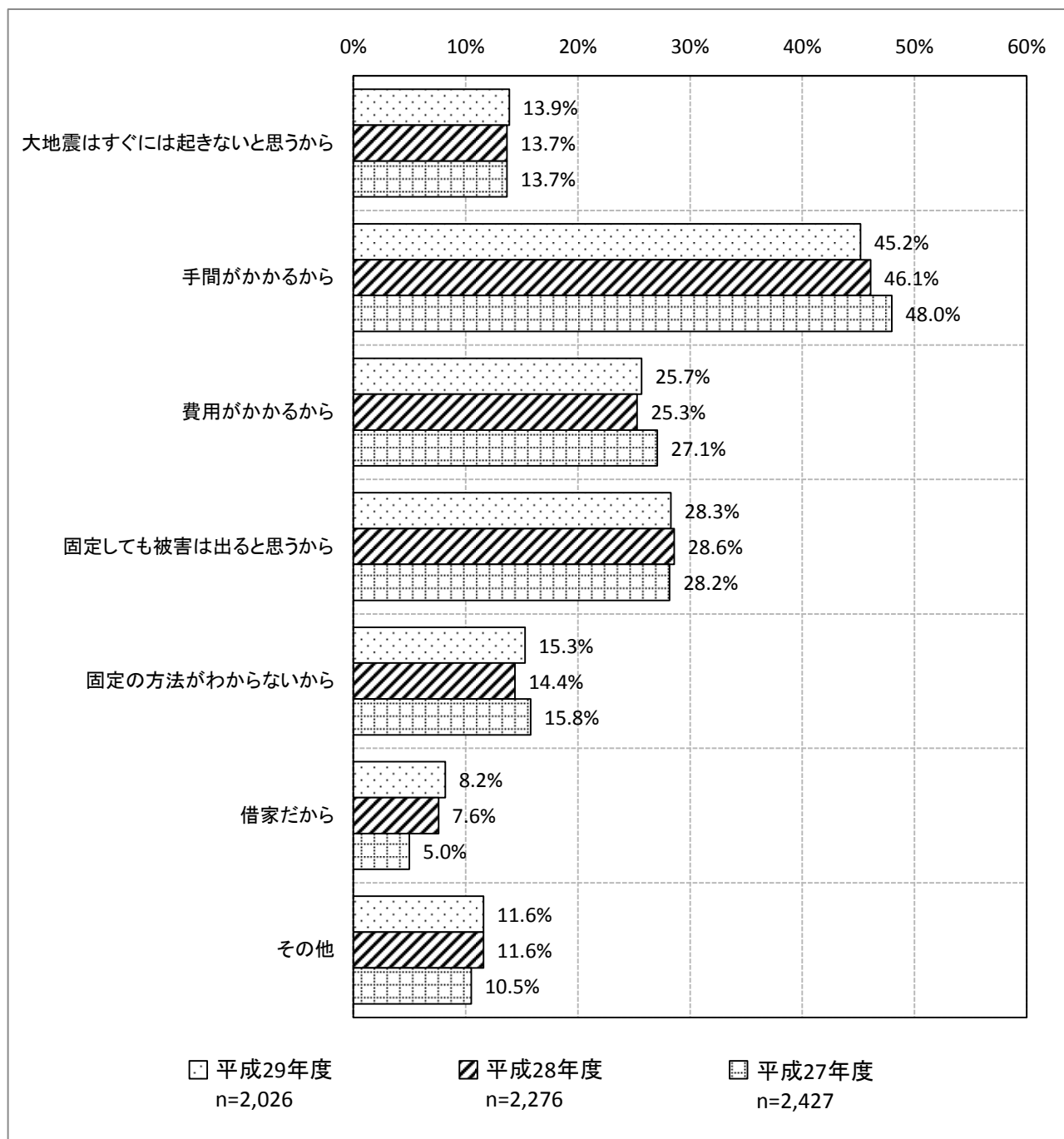
1. 大地震はすぐには起きないと思うから
2. 手間がかかるから
3. 費用がかかるから
4. 固定しても被害は出ると思うから
5. 固定の方法がわからないから
6. 借家だから
7. その他 具体的に：

図 3.3.4 (1) 安全ではないのに家具を固定しない理由 -全県(多い順) - (複数回答)



- 「手間がかかるから」と答えた方の割合が半数近い 45.2%で最も多く、次に、「固定しても被害は出ると思うから」が 28.3%で、「費用がかかるから」は 25.7%となっています。
- その他の意見として、「固定すると、家具が移動できなくなるのと、女性1人では、取り付け、取りはずしが簡単にできない」、「壁がコンクリートボードでクギが使えない」などの回答がありました。

図 3.3.4 (2) 安全ではないのに家具を固定しない理由 -全県経年変化- (複数回答)



- 経年変化をみると、全体的な傾向としては、大きな変化は見られません。
- すべての年度で、「手間がかかるから」と答えた方の割合が約5割と最も多くなっています。
- また「借家だから」と答えた方の割合が年々増加しています。

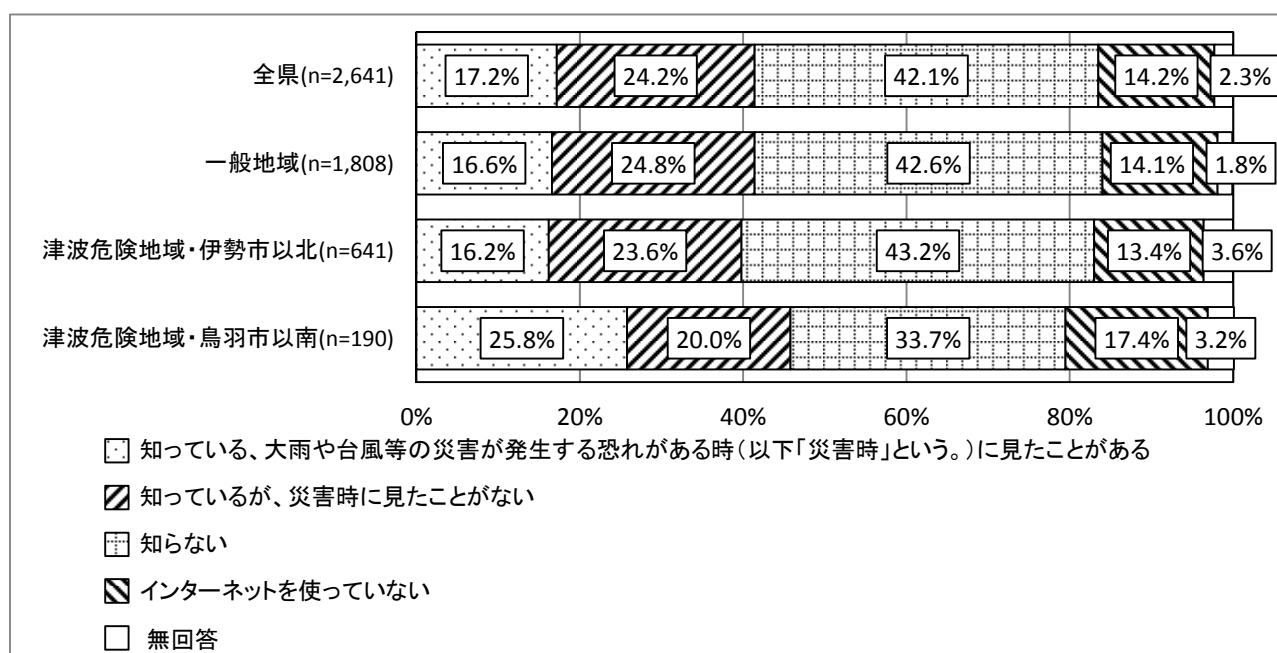
3.3.5 防災みえ.jp の認知度

【問 12】 「防災みえ.jp」 ホームページをご存知ですか。(一つだけ○)

1. 知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時（以下「災害時」という。）に見たことがある →問 13 へ
2. 知っているが、災害時に見たことがない →問 13-1 へ
3. 知らない →問 14 へ
4. インターネットを使っていない →問 14 へ

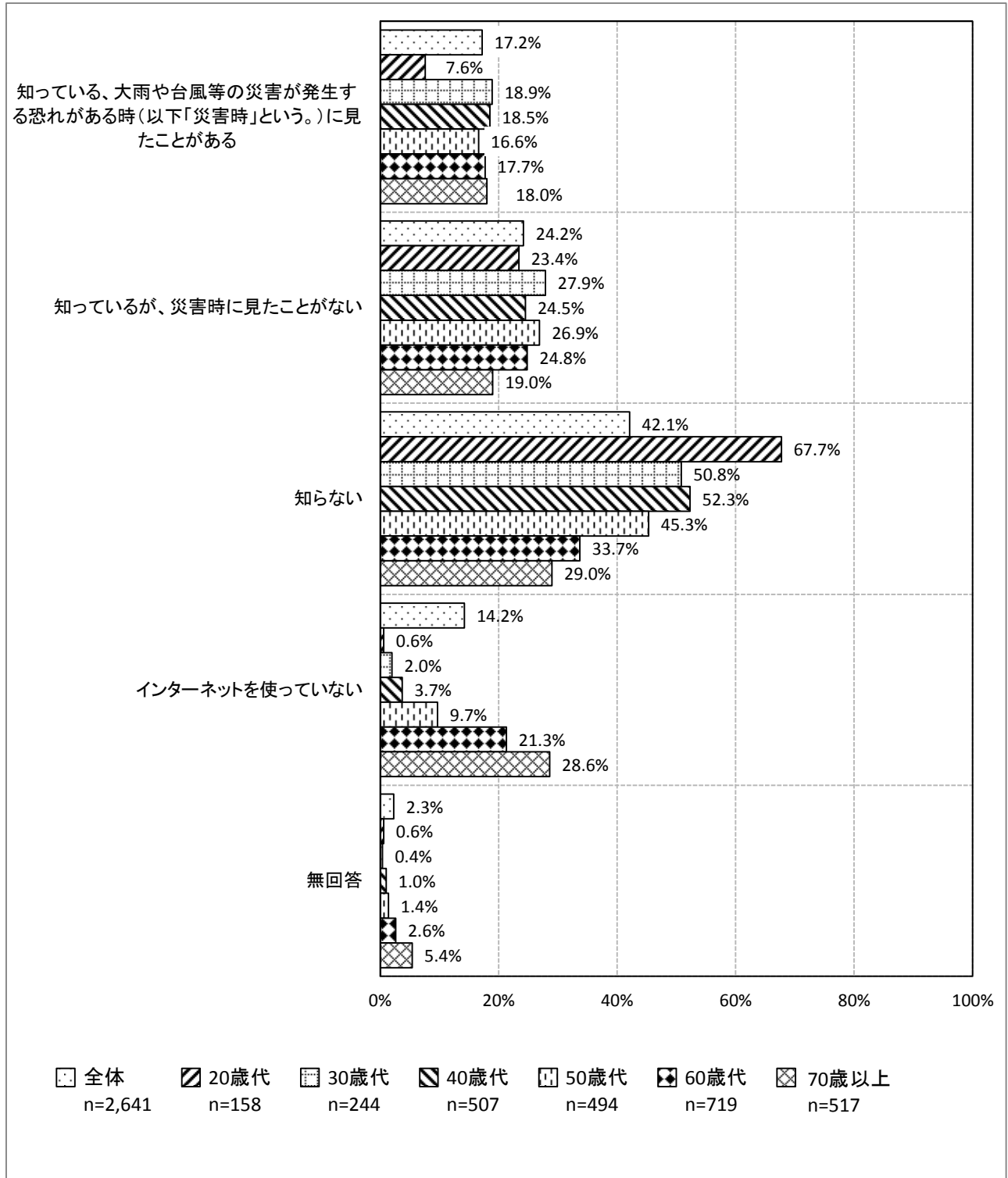
調査結果

図 3.3.5 (1) 防災みえ.jp の認知度 -全県及び地域別-



- 全県では、「知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時に見たことがある」17.2%と「知っているが、災害時に見たことがない」24.2%を合わせた「知っている」方の割合は、41.4%でした。一方、「知らない」方の割合は、42.1%となっています。
- 地域別にみると、「知っている」方は、すべての地域で約4割で地域間の差は見られませんでした。津波危険地域・鳥羽市以南では、「知らない」と答えた方の割合が、33.7%と最も低い割合になりました。

図 3.3.5 (2) 防災みえ.jp の認知度 -年代別-

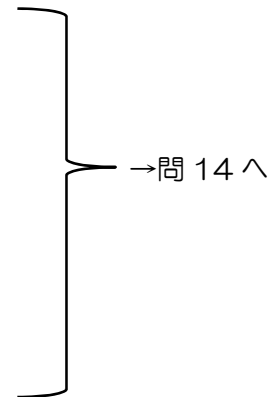


- 年代別にみると、すべての年代で「知らない」と答えた方の割合が最も多くなっています。
- 特に 20 歳代では、他の年代よりも「知らない」と答えた割合が高く、67.7%となっています。
- 70 歳以上では「インターネットを使っていない」と答えた方の割合が 28.6%と他の年代より大幅に多くなっています。
- 「知っている、災害時に見たことがある」については、30 歳代が 18.9%で最も多く、次いで 40 歳代 18.5%、70 歳以上の 18.0%となっています。

3.3.6 防災みえ.jp のどのようなコンテンツを見たことがあるか

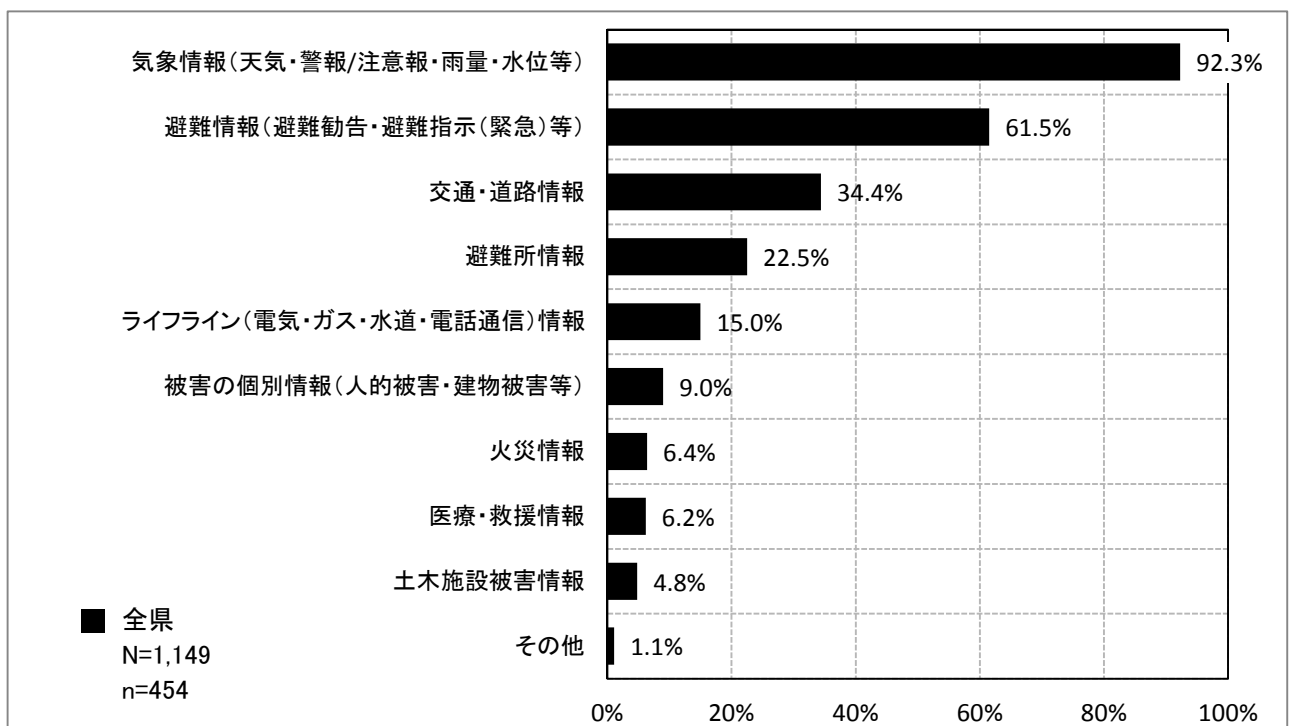
【問 13】 問 12 で「1. 災害時に見たことがある」と答えた方にお尋ねします。「防災みえ.jp」ホームページのどのようなコンテンツを見ていますか。(いくつでも○)

1. 気象情報（天気・警報/注意報・雨量・水位等）
2. 避難情報（避難勧告・避難指示（緊急）等）
3. 避難所情報
4. 医療・救援情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン（電気・ガス・水道・電話通信）情報
7. 被害の個別情報（人的被害・建物被害等）
8. 火災情報
9. 土木施設被害情報
10. その他 具体的に：



調査結果

図 3.3.6 防災みえ.jp のどのようなコンテンツを見たことがあるか
-全県（多い順）-（複数回答）



- 「気象情報」と答えた方の割合が最も多く、92.3%とほとんどの方が閲覧しています。
- 続いて、「避難情報」61.5%、「交通・道路情報」34.4%となっています。
- 「その他」としては、「川の水位のライブカメラ」等の回答がありました。

3.3.7 防災みえ.jp を活用しない理由

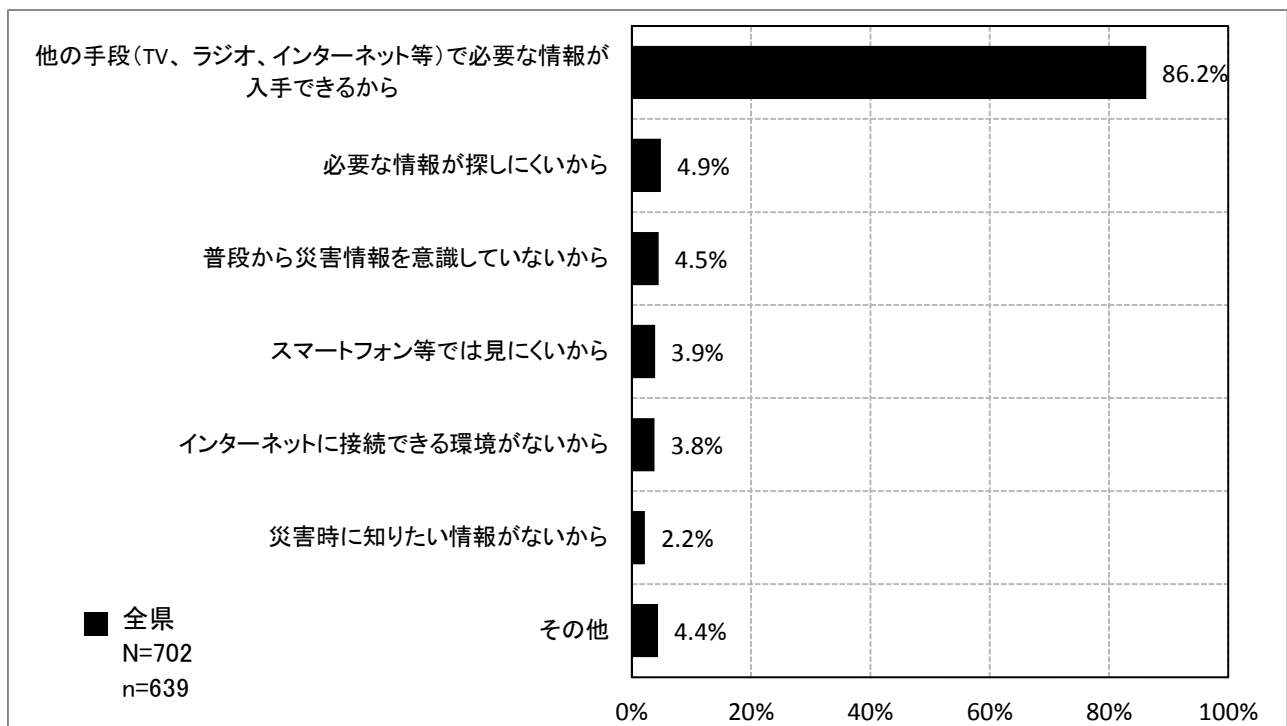
【問 13-1】 問 12 で「2.知っているが、災害時に見たことがない」と答えた方にお尋ねします。
 災害時に「防災みえ.jp」ホームページを活用しない理由をお聞かせください。
 (いくつでも〇)

1. 他の手段(TV、ラジオ、インターネット等)で必要な情報が入手できるから →問 14 へ
2. 災害時に知りたい情報がないから
3. 必要な情報が探しにくいから
4. スマートフォン等では見にくいから
5. インターネットに接続できる環境がないから
6. 普段から災害情報を意識していないから
7. その他 具体的に：

} →問 14 へ

調査結果

図 3.3.7 防災みえ.jp を活用しない理由 -全県(多い順) - (複数回答)



- 「他の手段で必要な情報が入手できるから」と答えた方の割合が86.2%と最も多く、他の理由についてはすべて5%以下となっています。
- 「その他」としては、「防災みえの携帯電話のメール版を見るためホームページはあまり見ない」、「市のホームページを見る」等の回答がありました。

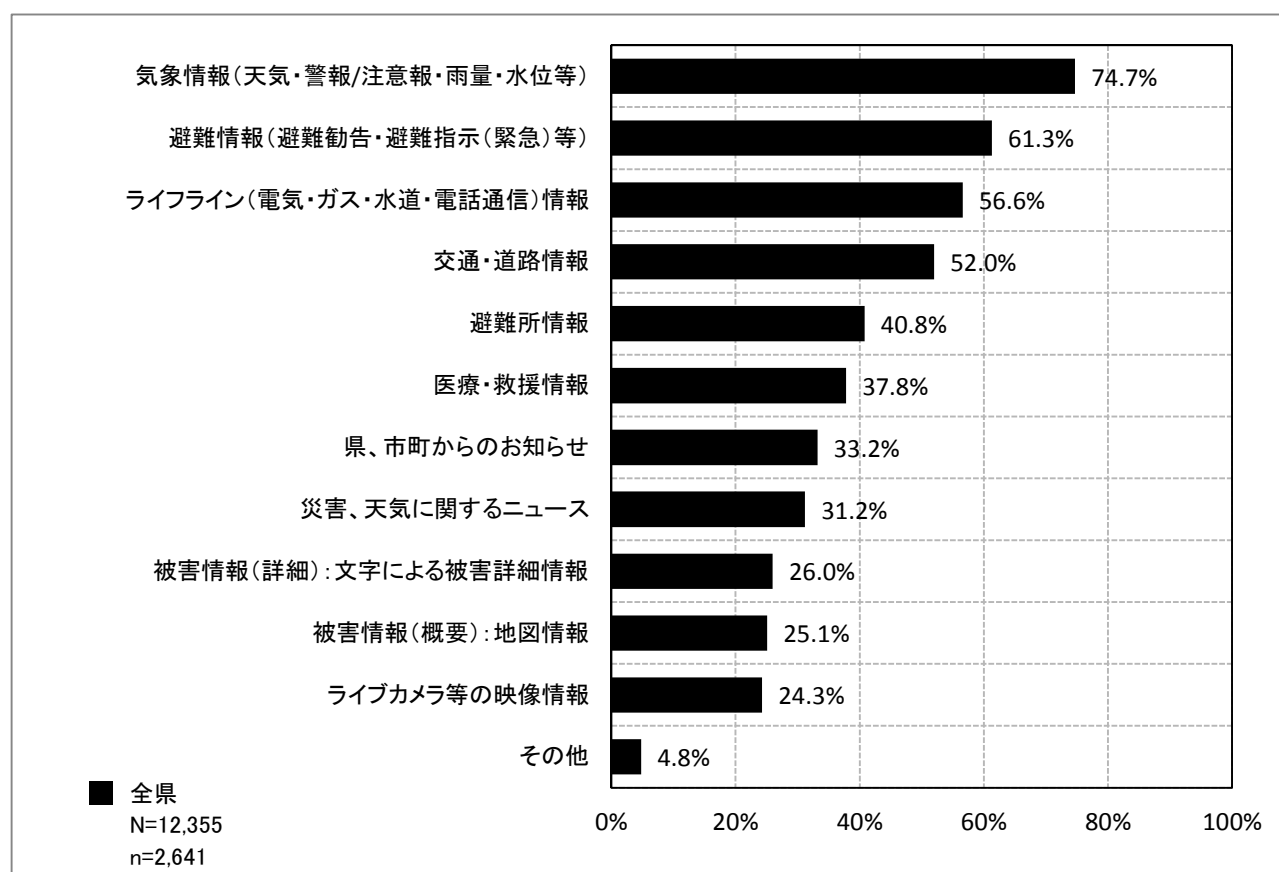
3.3.8 災害時にインターネットで知りたい情報

【問 14】 災害時にインターネットで、どのような情報をお知りになりたいかお答えください。
(いくつでも○)

1. 気象情報（天気・警報/注意報・雨量・水位等）
2. 避難情報（避難勧告・避難指示（緊急）等）
3. 避難所情報
4. 医療・救援情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン（電気・ガス・水道・電話通信）情報
7. 被害情報（詳細）：文字による被害詳細情報
8. 被害情報（概要）：地図情報
9. ライブカメラ等の映像情報
10. 災害、天気に関するニュース
11. 県、市町からのお知らせ
12. その他 具体的に

調査結果

図 3.3.8 災害時にインターネットで知りたい情報 -全県（多い順）-（複数回答）



- 「気象情報」と答えた方の割合が74.7%で最も多く、次いで「避難情報」61.3%、「ライフライン」56.6%、「交通・道路情報」52.0%となっています。
- 「その他」としては、「食糧、生活用品等の配布場所の情報」、「各避難場所の連絡の取り方」等の回答がありました。

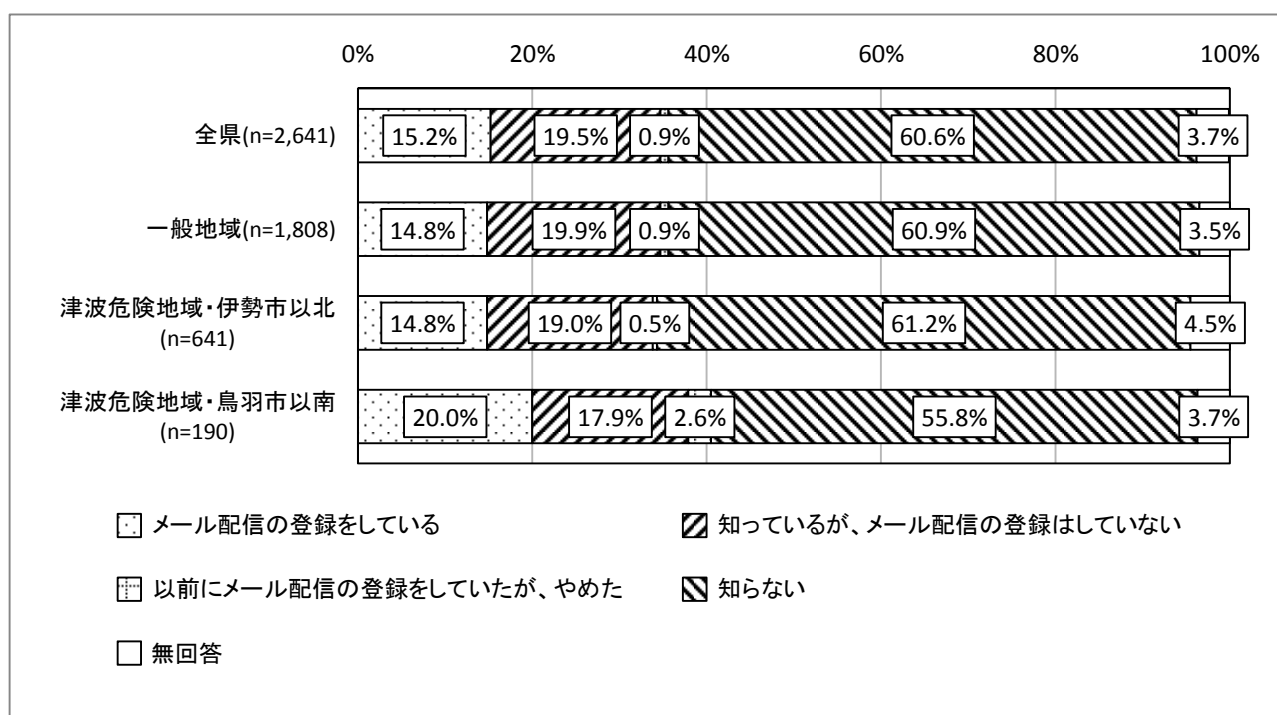
3.3.9 防災情報メール配信サービスの認知度

【問 15】 県では、大雨や洪水に関する注意報や警報発令等の気象情報や全国の地震情報等の防災情報を、「防災みえ.jp」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご存知ですか。（一つだけ○）

1. メール配信の登録をしている
2. 知っているが、メール配信の登録はしていない
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、やめた
4. 知らない

調査結果

図 3.3.9 防災情報メール配信サービスの認知度 -全県及び地域別-



- 「メール配信の登録をしている」と答えた方の割合は、一般地域、津波危険地域（伊勢市以北）で15%前後となっていますが、津波危険地域（鳥羽市以南）では20.0%と多くなっています。
- 「知らない」と答えた方の割合が最も多く全県で60.6%となっています。
- 問12の防災みえ.jpを「知らない」（42.1%）「インターネットを使っていない」（14.2%）と答えた方の割合（56.3%）と、「防災情報メール配信サービス」で「知らない」と答えた方の割合（60.6%）は、ほぼ同じとなっています。

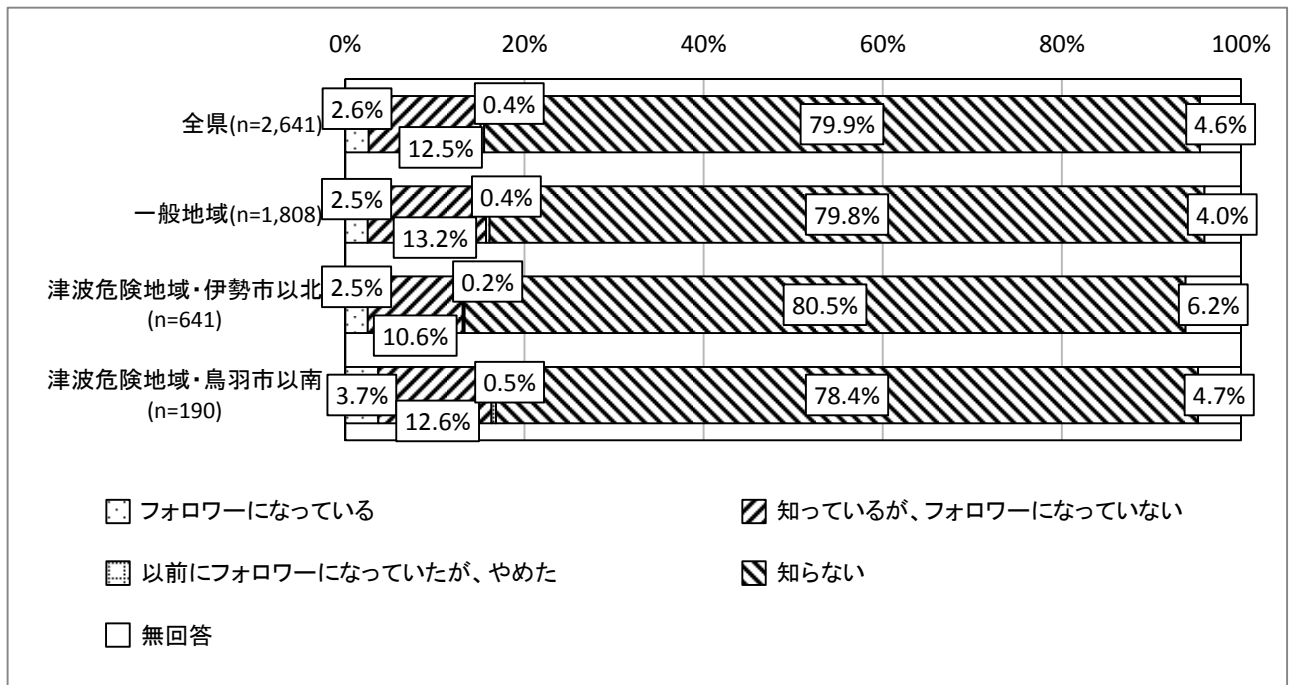
3.3.10 県が気象や災害の情報を発信している Twitter の認知度

【問 15-1】 県では、大雨や洪水に関する注意報や警報発令等の気象情報や全国の地震情報等の防災情報を、「防災みえ.jp」の Twitter（ツイッター）で発信しています。あなたは、このことをご存知ですか。（一つだけ○）〈新規〉

1. フォロワーになっている
2. 知っているが、フォロワーになっていない
3. 以前にフォロワーになっていたが、やめた
4. 知らない

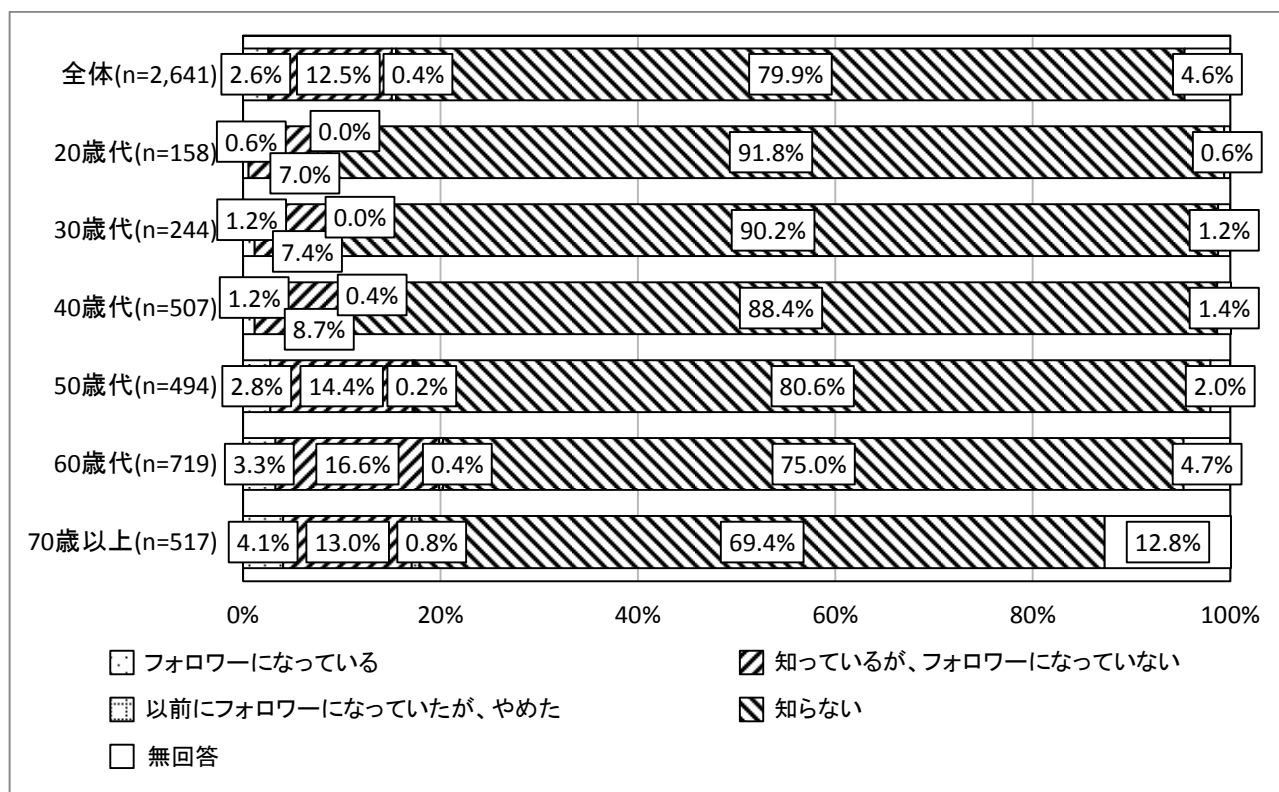
調査結果

図 3.3.10 (1) 県が気象や災害の情報を発信している Twitter の認知度
-全県及び地域別-



- 「フォロワーになっている」と答えた方の割合は、すべての地域で 3%前後となっています。「知っているが、フォロワーになっていない」、「以前にフォロワーになっていたが、やめた」を加えた、「防災みえ.jp」の Twitter（ツイッター）を認知している方の割合は全県で 15.5%と低い割合となっています。
- 「知らない」と答えた方の割合は、すべての地域で約 8 割となっています。

図 3.3.10 (2) 県が気象や災害の情報を発信している Twitter の認知度
-全体及び年代別-



- 「フォロワーになっている」と答えた方の割合は、70歳以上で4.1%、60歳代で3.3%、50歳代で2.8%と高齢になるほどポイントが増加しています。20歳代、30歳代の「知らない」と答えた方の割合は9割以上とほとんどの方に知られていません。

3.3.11 気象や災害の情報の入手先

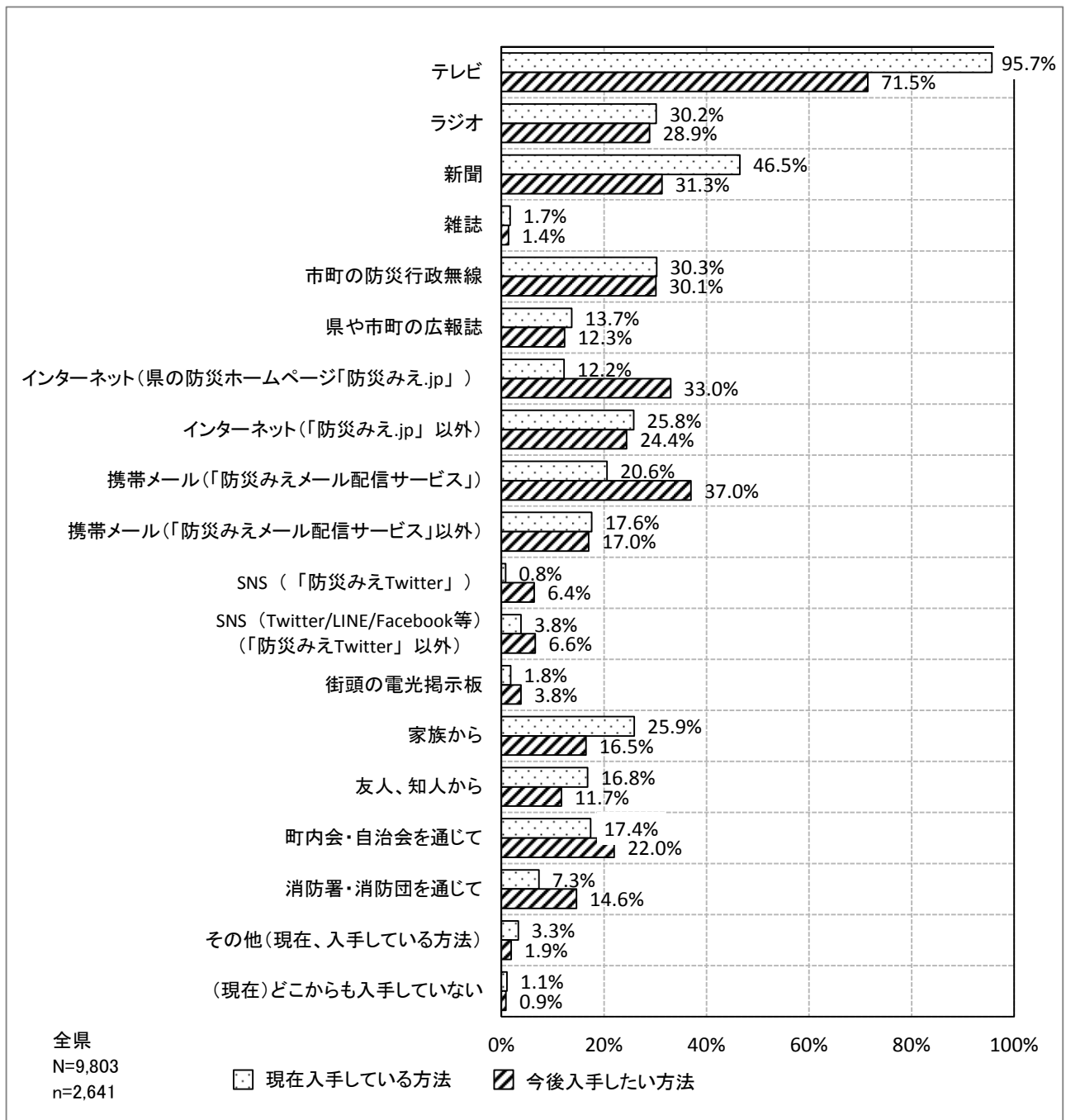
【問 16】 気象や災害についての情報の入手先についてお尋ねします。

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. 雑誌
5. 市町の防災行政無線
6. 県や市町の広報誌
7. インターネット（県の防災ホームページ「防災みえ.jp」）
8. インターネット（「防災みえ.jp」以外）
9. 携帯メール（「防災みえメール配信サービス」）
10. 携帯メール（「防災みえメール配信サービス」以外）
11. SNS（「防災みえ Twitter」）
12. SNS（Twitter/LINE/Facebook 等）（「防災みえ Twitter」以外）
13. 街頭の電光掲示板
14. 家族から
15. 友人、知人から
16. 町内会・自治会を通じて
17. 消防署・消防団を通じて
18. その他 具体的に：（現在、入手している方法）（今後、入手したい方法）
19. （現在）どこからも入手していない（今後）特に入手したいと思わない

【問 16-1】 現在どこから入手することが多いかお答えください。

【問 16-2】 今後どこから入手したいかお答えください。

図 3.3.11 (1) 気象や災害の情報の入手先 -全県- (複数回答)



- 現在入手している方法では、「テレビ」と答えた方の割合が 95.7%と最も多く、次いで「新聞」が 46.5%、「市町の防災行政無線」が 30.3%となっています。
- 今後入手したい方法では、「テレビ」と答えた方の割合が 71.5%と最も多く、次いで「携帯メール(「防災みえメール配信サービス」)」が 37.0%、「インターネット(県の防災ホームページ「防災みえ.jp」)」が 33.0%となっています。
- 現在にくらべ今後入手したい方法の割合が増加している項目については、「インターネット(県のホームページ「防災みえ.jp」)」が 33.0%と現在の 12.2%より大幅に増加しています。
- 「その他」では、現在入手している方法としては、「インターネット」、今後入手したい方法は、「防災みえ Twitter インターネット」等の回答がありました。

図 3.3.11 (2) ① 気象や災害の情報の入手先（現在入手している方法） -年代別-

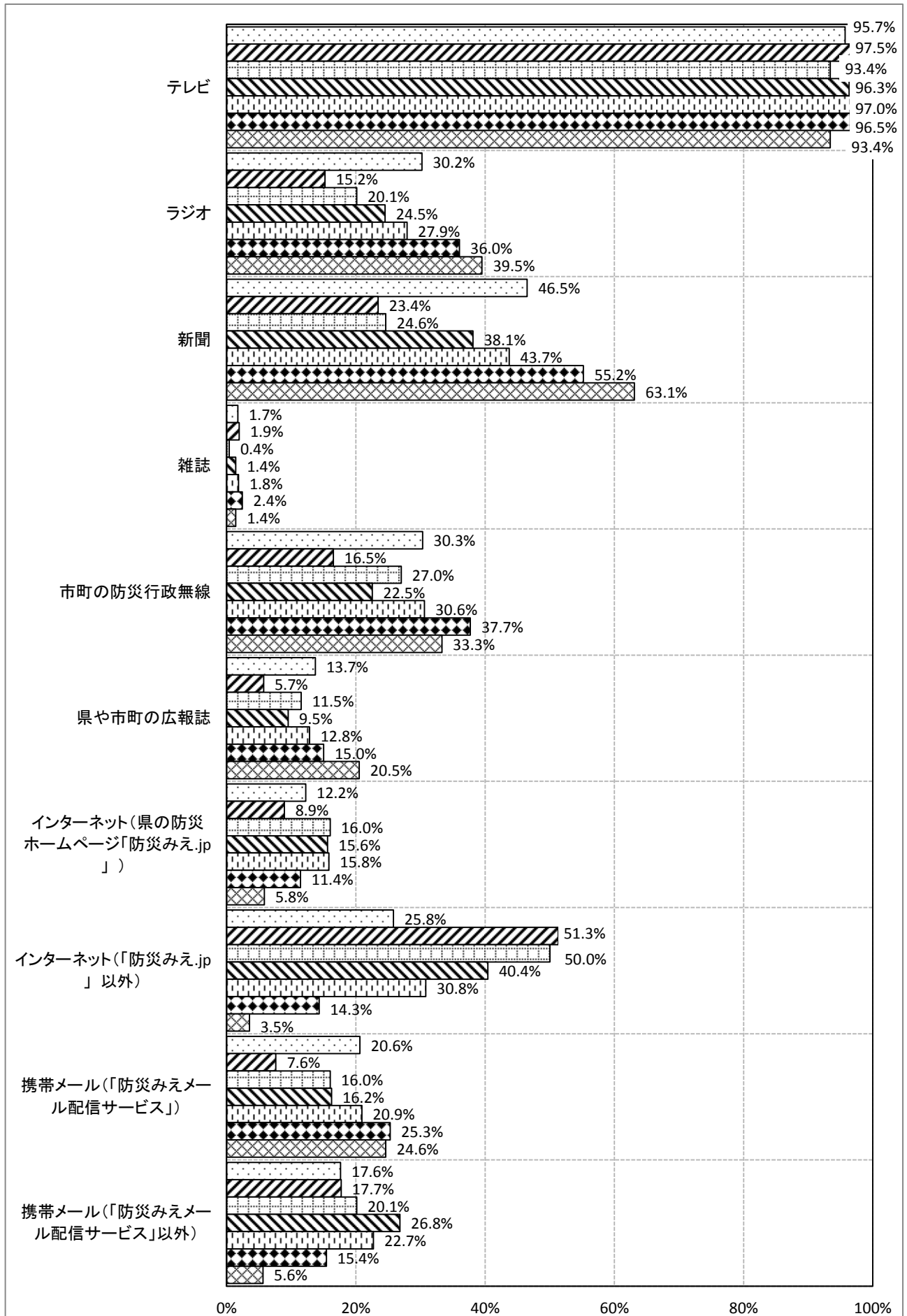
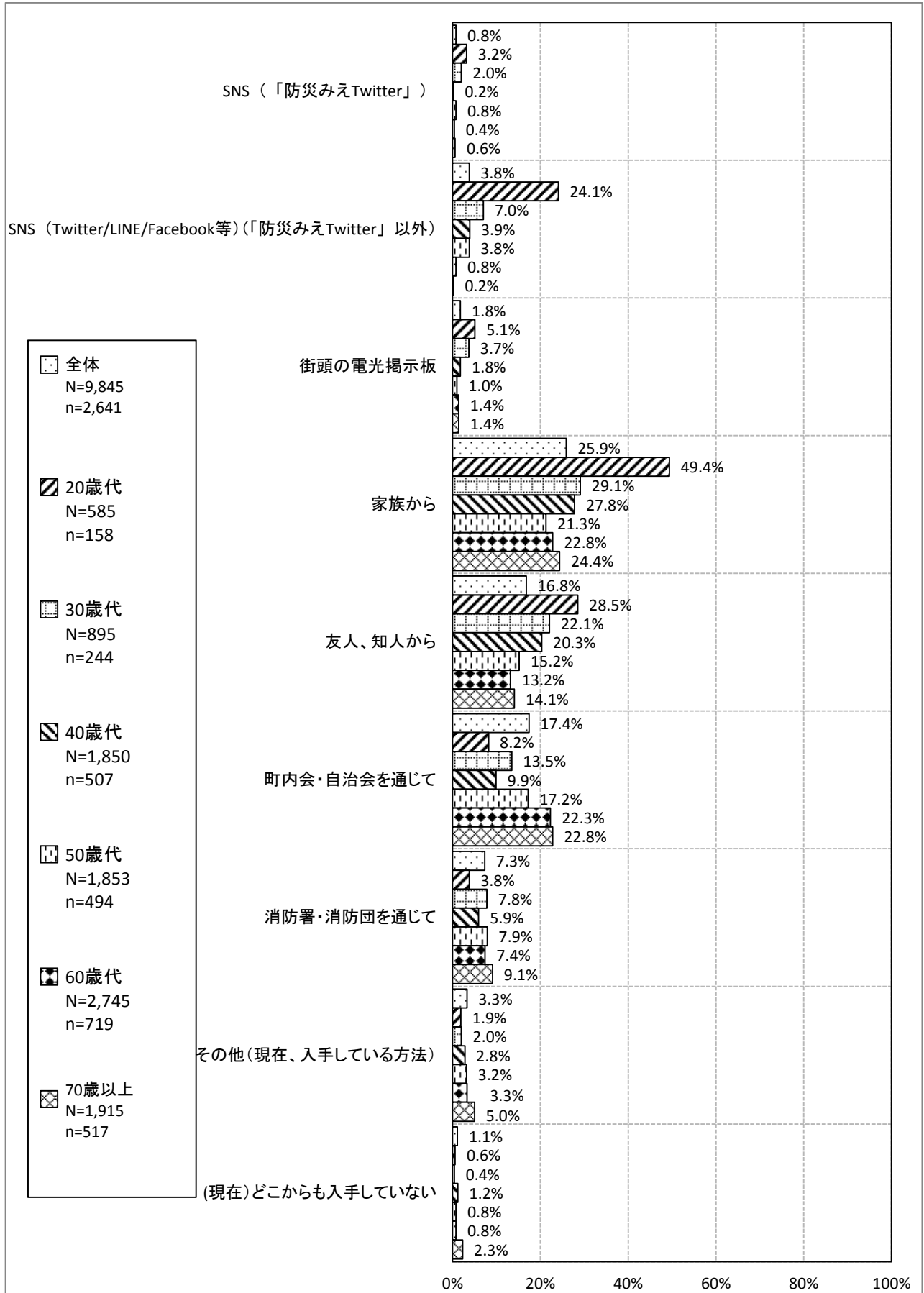


図 3.3.11 (2) ② 気象や災害の情報の入手先（現在入手している方法） -年代別-



- 年代別にみると、各年代とも「テレビ」が90%以上となっており最も多くなっています。
- その他の選択肢では、20歳代は「インターネット」と答えた方の割合が多くなっています。70歳以上では、「新聞」が多くなっています。

図 3.3.11 (3) ① 気象や災害の情報の入手先 (今後入手したい方法) -年代別-

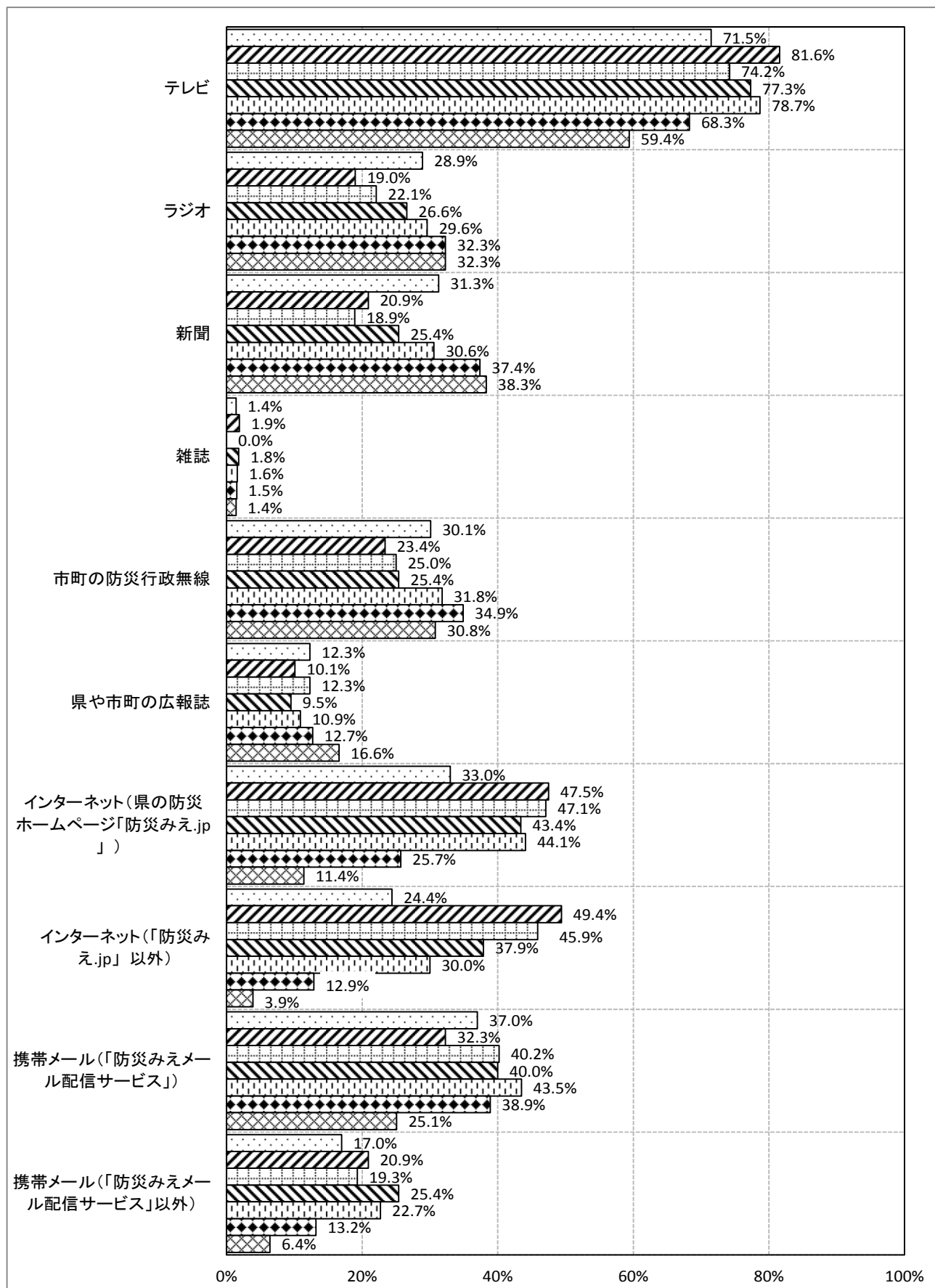
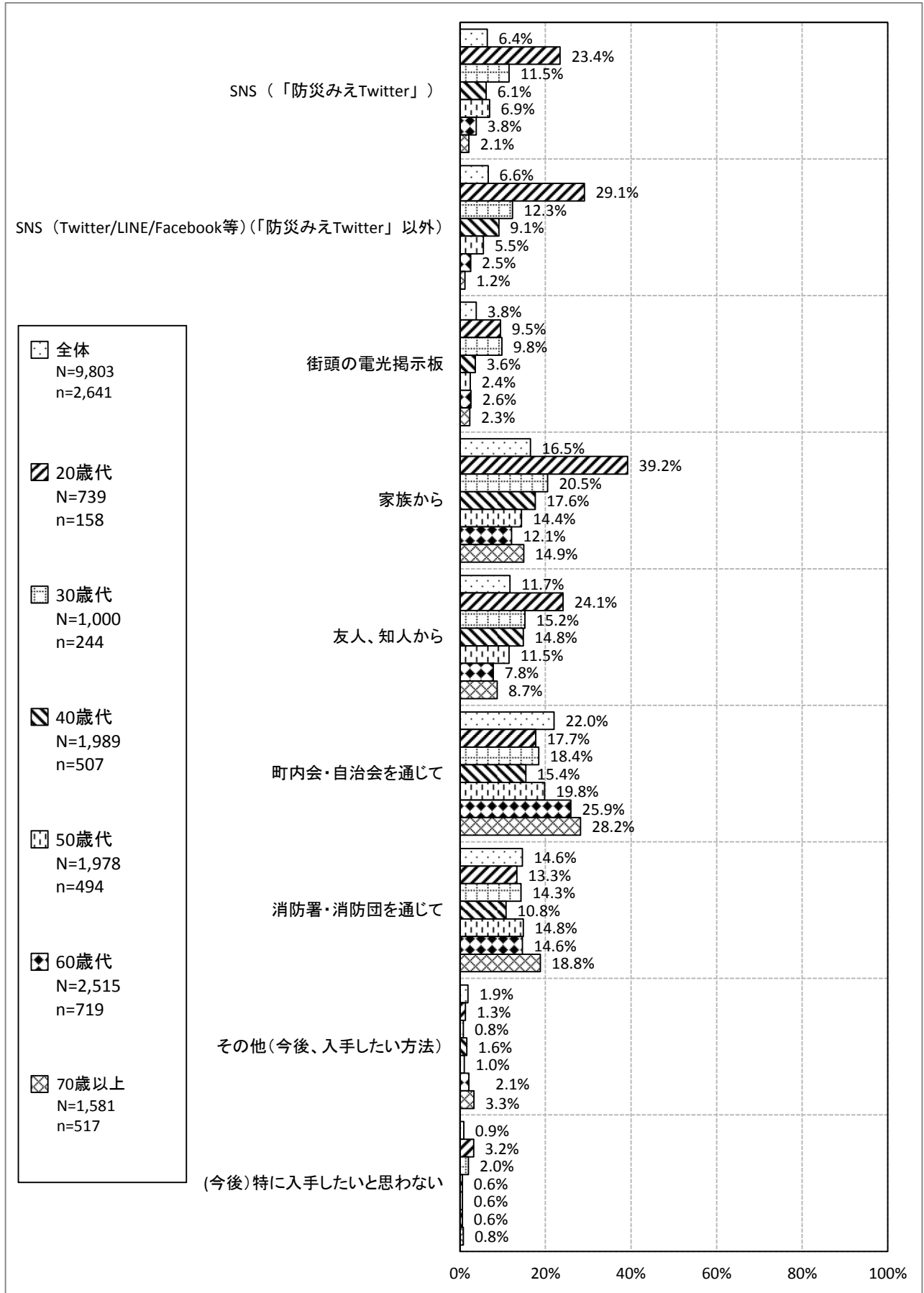


図 3.3.11 (3) ② 気象や災害の情報の入手先 (今後入手したい方法) -年代別-



- 年代別にみると、すべての年代で「テレビ」と答えた方の割合が最も多くなっています。
- 「テレビ」以外では、20歳代、30歳代、40歳代では「インターネット（「防災みえ.jp」およびそれ以外）」「携帯メール」が多く、50歳代では「インターネット（「防災みえ.jp）」」「携帯メール（「防災みえメール配信サービス）」」「市町の防災行政無線」が多く、60歳代では「携帯メール（「防災みえメール配信サービス）」」「新聞」「市町の防災行政無線」が多く、70歳以上では「新聞」「ラジオ」「市町の防災行政無線」が多くなっています。
- また選択肢ごとの特徴としては、「インターネット（「防災みえ.jp」およびそれ以外）」は20歳代、30歳代が多く、「SNS（Twitter/LINE/Facebook等）」「家族から」「友人・知人から」と答えた方は、20歳代が多い傾向にあります。

また、「町内会・自治会」「新聞」と答えた方は、60歳代および70歳以上の方が多く傾向にあります。

3.3.12 避難場所や避難所の認知度

【問 17】 あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存知ですか。

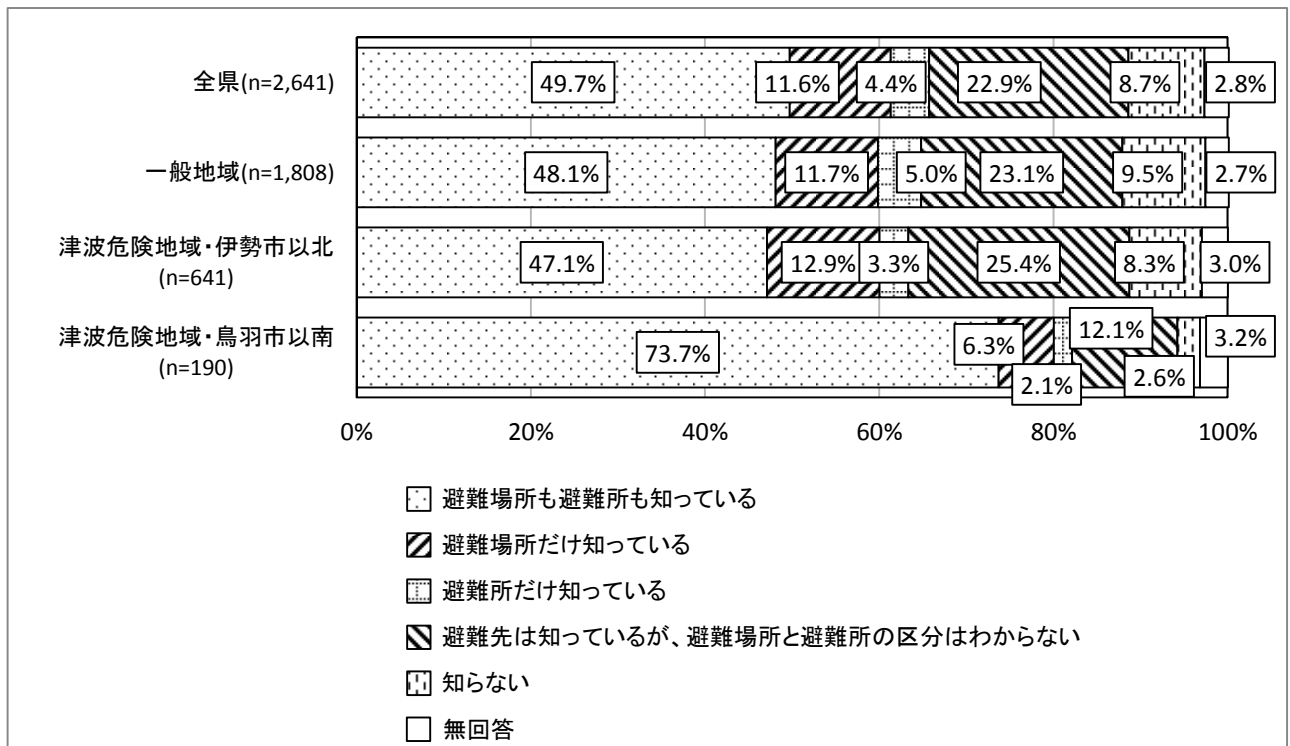
(一つだけ〇)

1. 避難場所も避難所も知っている
2. 避難場所だけ知っている
3. 避難所だけ知っている
4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない
5. 知らない

} 問 17-1 へ
 } 問 18 へ

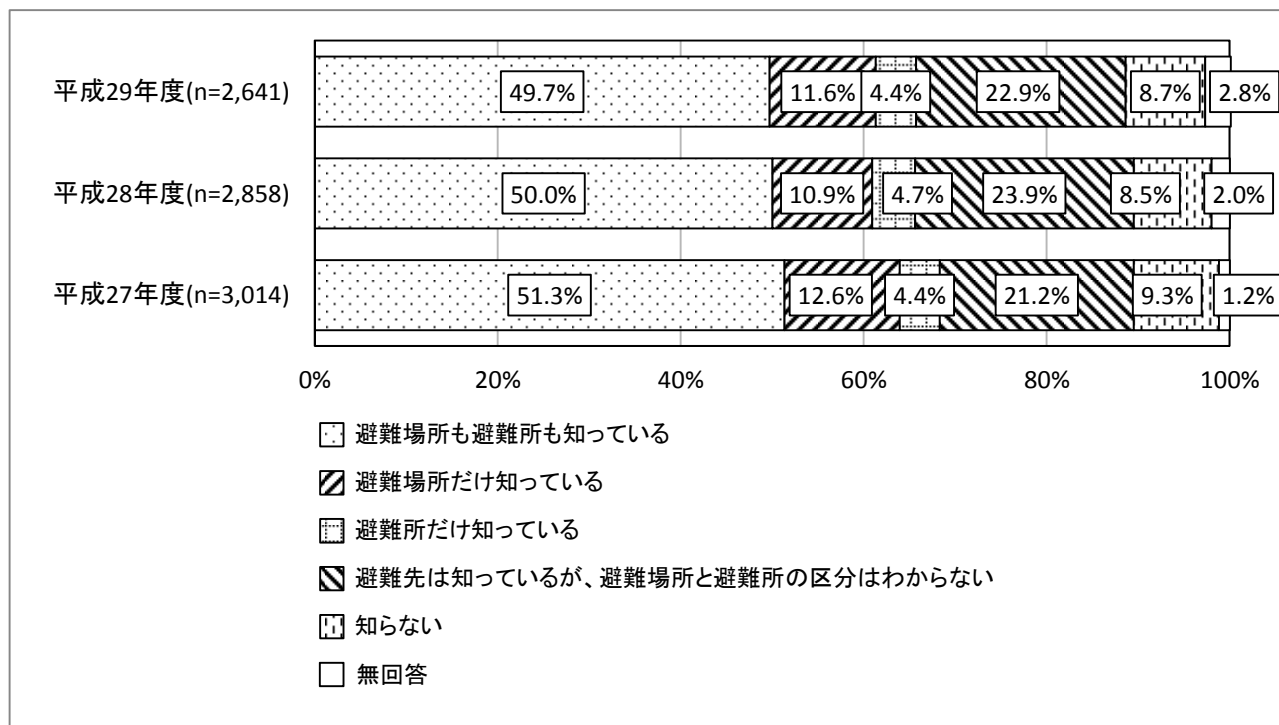
調査結果

図 3.3.12 (1) 避難場所や避難所の認知度 -全県及び地域別-



- 全県では、避難場所か避難所を知っていると答えた方の割合は、その区分がわからない方も含めると約9割と、ほとんどの方が避難場所か避難所のどちらかを知っています。
- 特に、津波危険地域（鳥羽市以南）では、「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が73.7%と、他の地域にくらべて約1.5倍と大幅に多くなっています。

図 3.3.12 (2) 避難場所や避難所の認知度 -全県経年変化-



- 避難場所か避難所を知っていると答えた方の割合は、その区分がわからない方も含め約 9 割と、経年変化はほとんどありません。

3.3.13 避難場所や避難所までの経路についての認知度

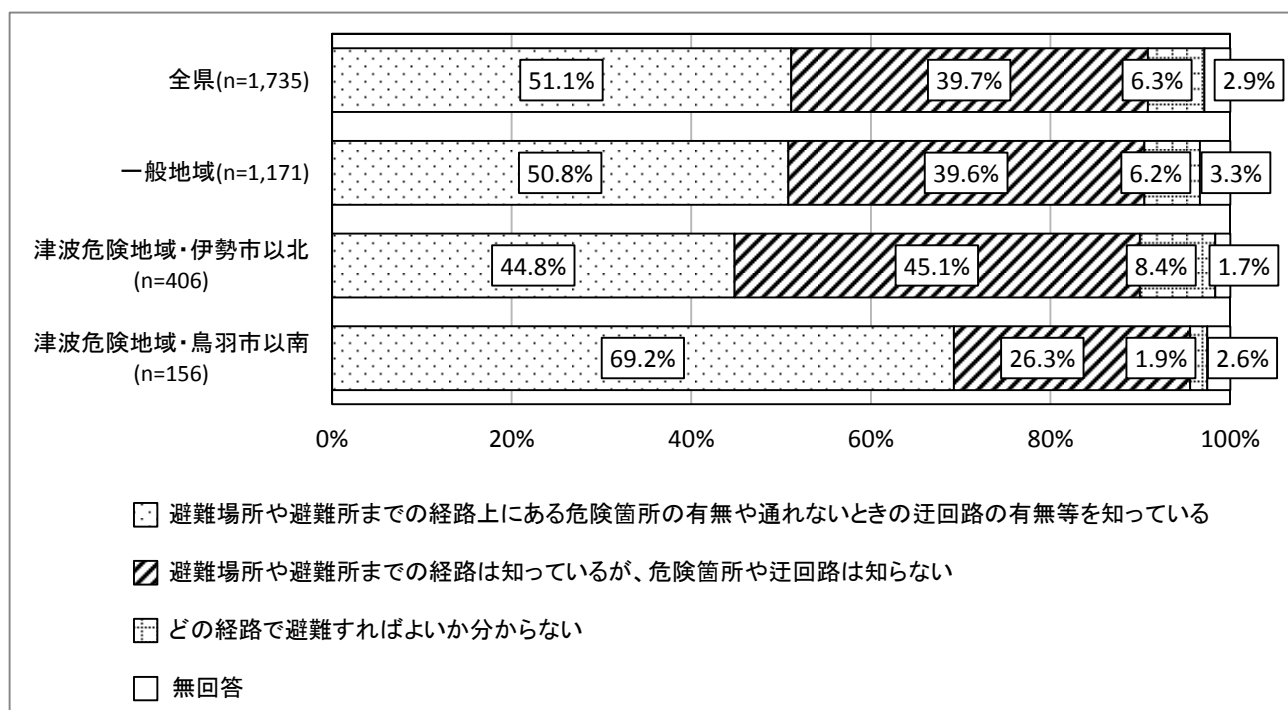
【問 17-1】 問 17 で「1.避難場所も避難所も知っている」、「2.避難場所だけ知っている」、「3.避難所だけ知っている」と回答された方にお尋ねします。

あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度ご存知ですか。
(一つだけ〇)

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無等を知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

調査結果

図 3.3.13 避難場所や避難所までの経路についての認知度 -全県及び地域別-



- 全県で「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無等を知っている」と答えた方の割合が51.1%と半数を超えています。
- さらに「避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない」の39.7%を加えると「経路を知っている」方は約9割となっており、すべての地域で同様の傾向となっています。
- 特に、津波危険地域（鳥羽市以南）で、「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や通れないときの迂回路の有無等を知っている」が69.2%と他の地域にくらべて大幅に多くなっています。

3.3.14 地域や職場での防災活動への参加状況

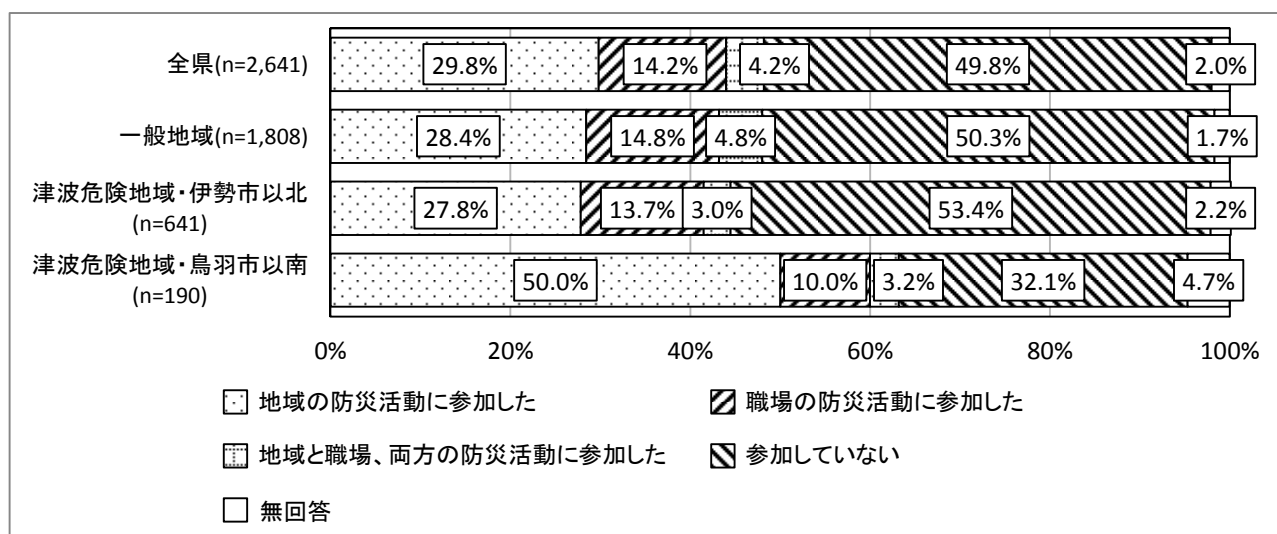
【問 18】 あなたは、過去 1 年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問 19 の選択肢参照）に参加したことがありますか。（一つだけ）

※今年の秋に開催される地域や職場の防災訓練等への参加予定がある場合は 1～3 に○を付けてください。

1. 地域の防災活動に参加した →問 19 へ
2. 職場の防災活動に参加した →問 19 へ
3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した →問 19 へ
4. 参加していない →問 20 へ

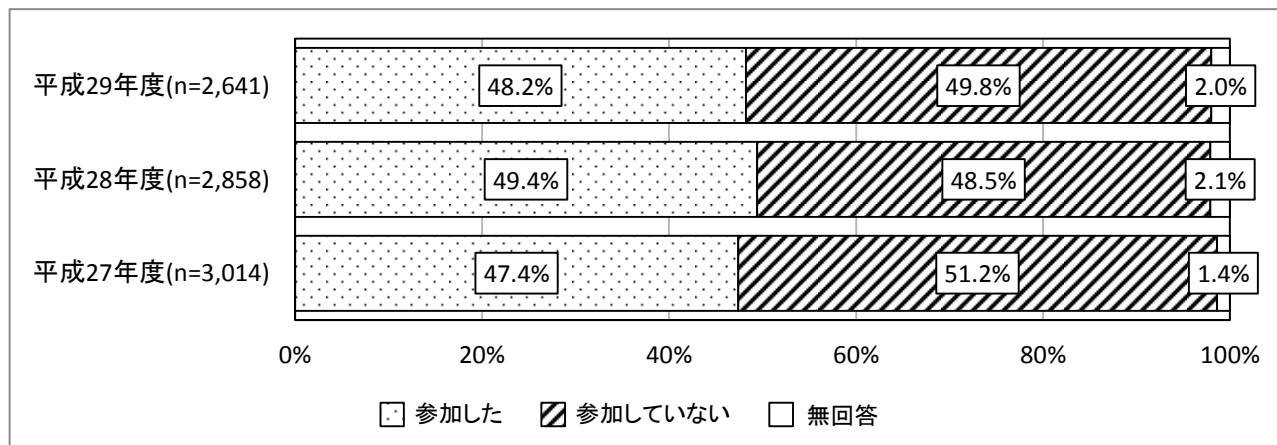
調査結果

図 3.3.14 (1) 地域や職場での防災活動への参加状況 -全県及び地域別-



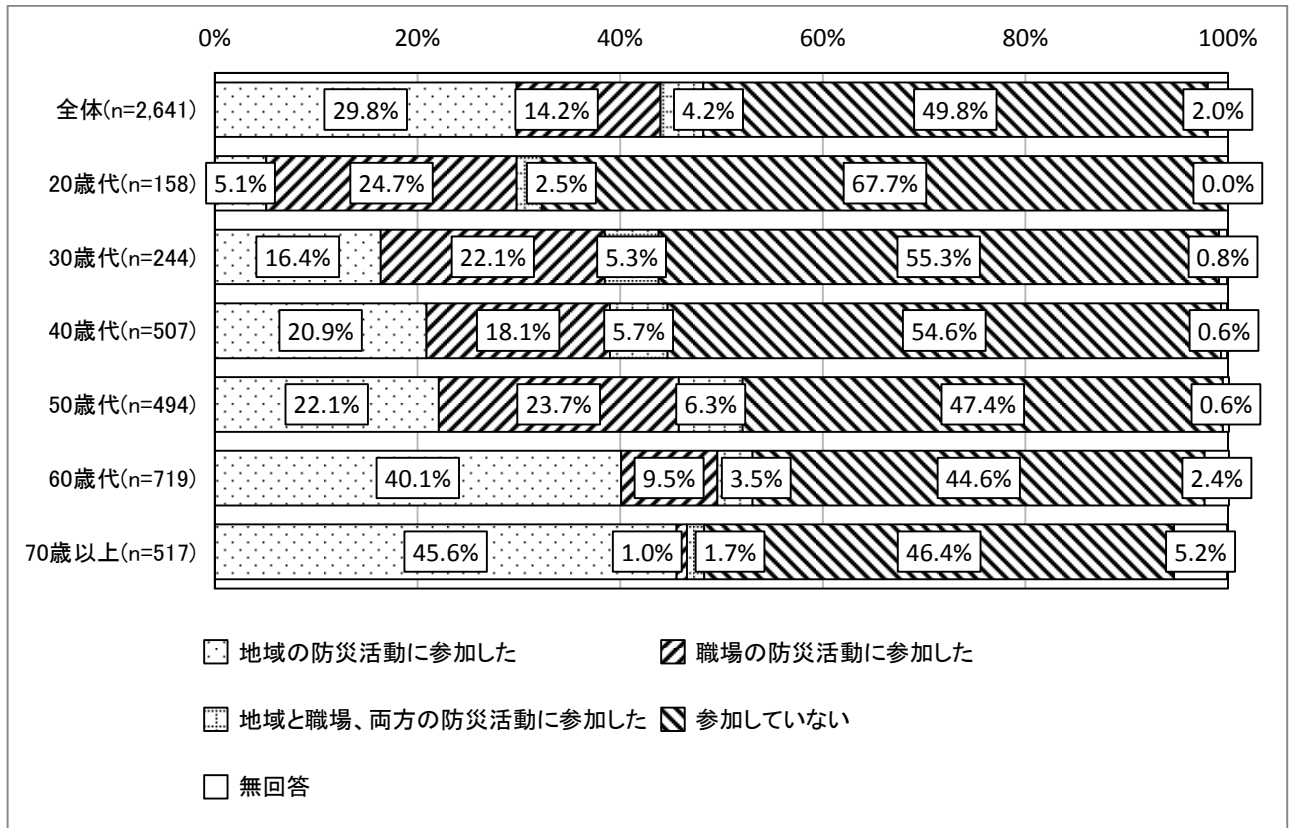
- 全県では、何らかの防災活動に「参加した」と答えた方の割合の合計が 48.2%（内訳:地域 29.8%、職場 14.2%、地域・職場 4.2%）となっています。
- 特に、津波危険地域（鳥羽市以南）では、いずれかの防災活動に「参加した」と答えた方の割合が 63.2%と他の地域に比べ 2 倍近くになっています。

図 3.3.14 (2) 地域や職場での防災活動への参加状況 -全県経年変化-



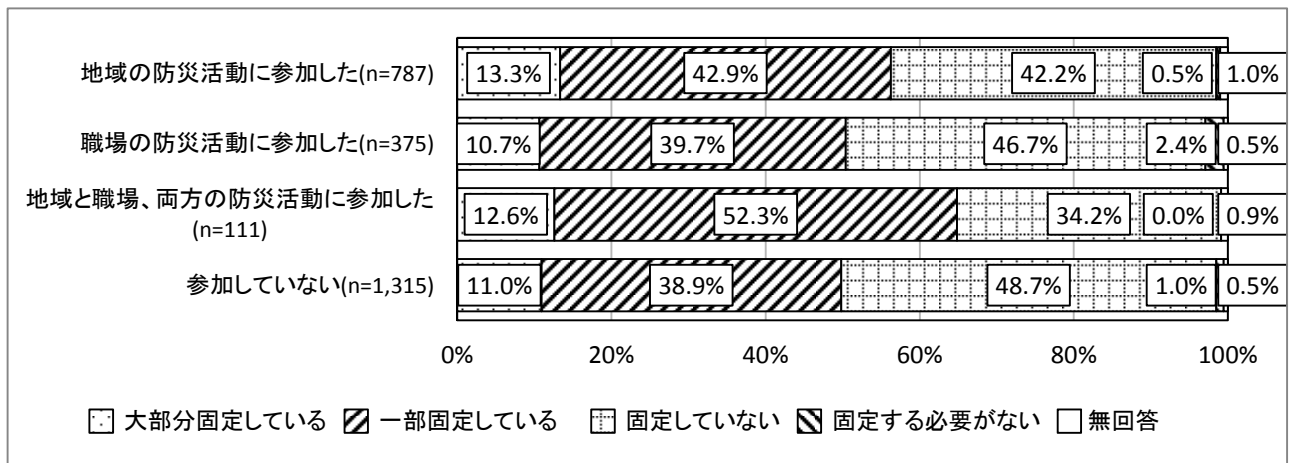
- 経年変化を見ると、「参加した」と答えた方の割合が昨年度から 1.2 ポイント減少し 48.2%となりました。

図 3.3.14 (3) 地域や職場での防災活動への参加状況 -全体及び年代別-



- 年代別をみると、何らかの防災活動に「参加した」と答えた方の割合の合計は、60歳代の53.1%が最も多く、次いで50歳代52.1%となっており、他の年代では、半数を下回っています。

図 3.3.14 (4) 地域や職場での防災活動への参加状況 -問 11 (家具固定の不備による危険度) のクロス集計-



- 問 11 (家具固定の不備による危険度) とのクロス集計で、大部分または一部家具を「固定している」方の割合の合計を比較すると、何らかの防災活動に「参加した」と答えた方では、最も少ない場合の「職場の防災活動に参加した」場合でも合計 50.4% (大部分 10.7%、一部 39.7%) と、防災活動に「参加していない」と答えた方の 49.9% (大部分 11.0%、一部 38.9%) を 0.5 ポイント上回っています。

図 3.3.14 (5) ① 地域や職場での防災活動への参加状況

-問 10 (家庭での防災対策の状況) のクロス集計-

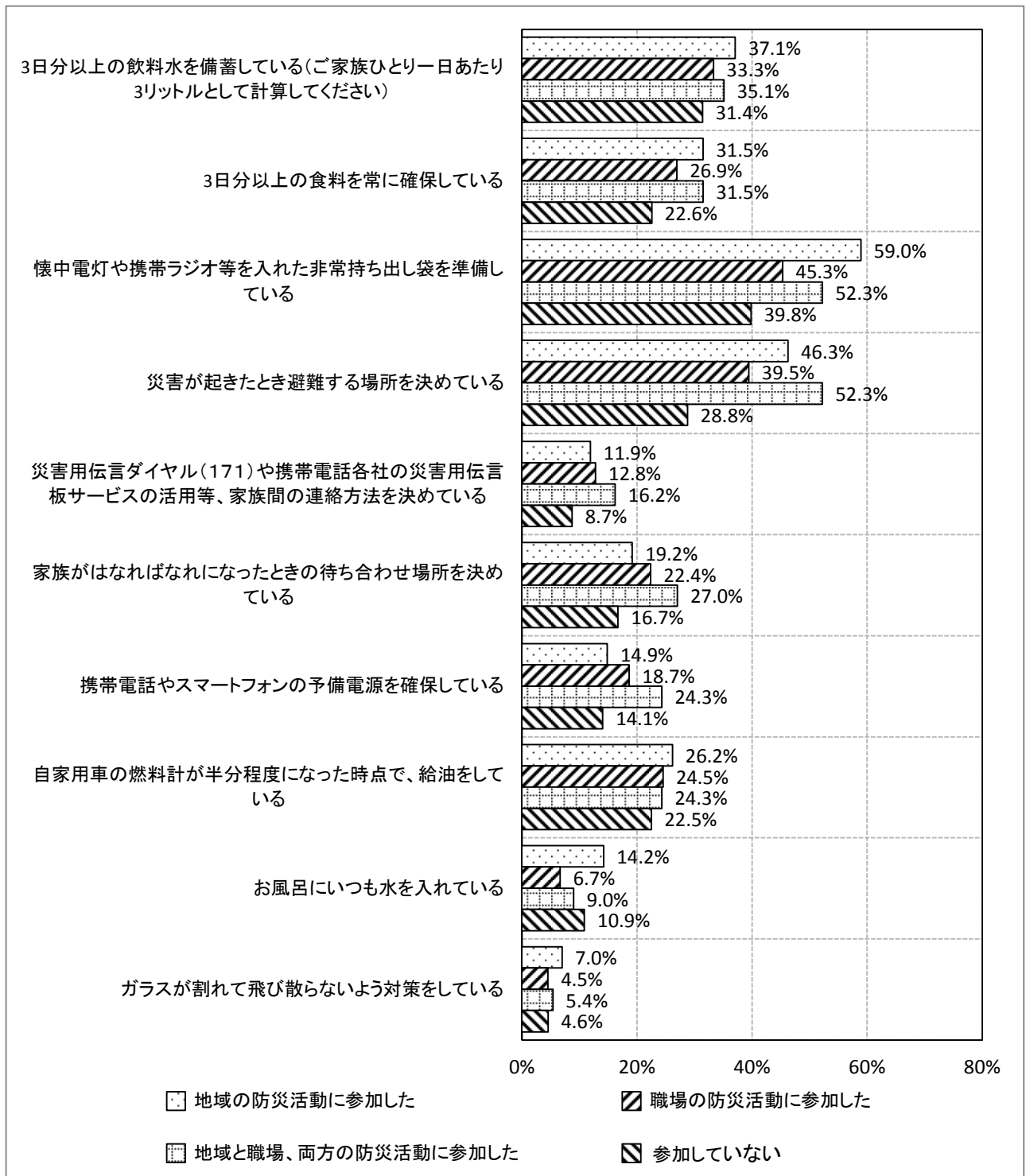
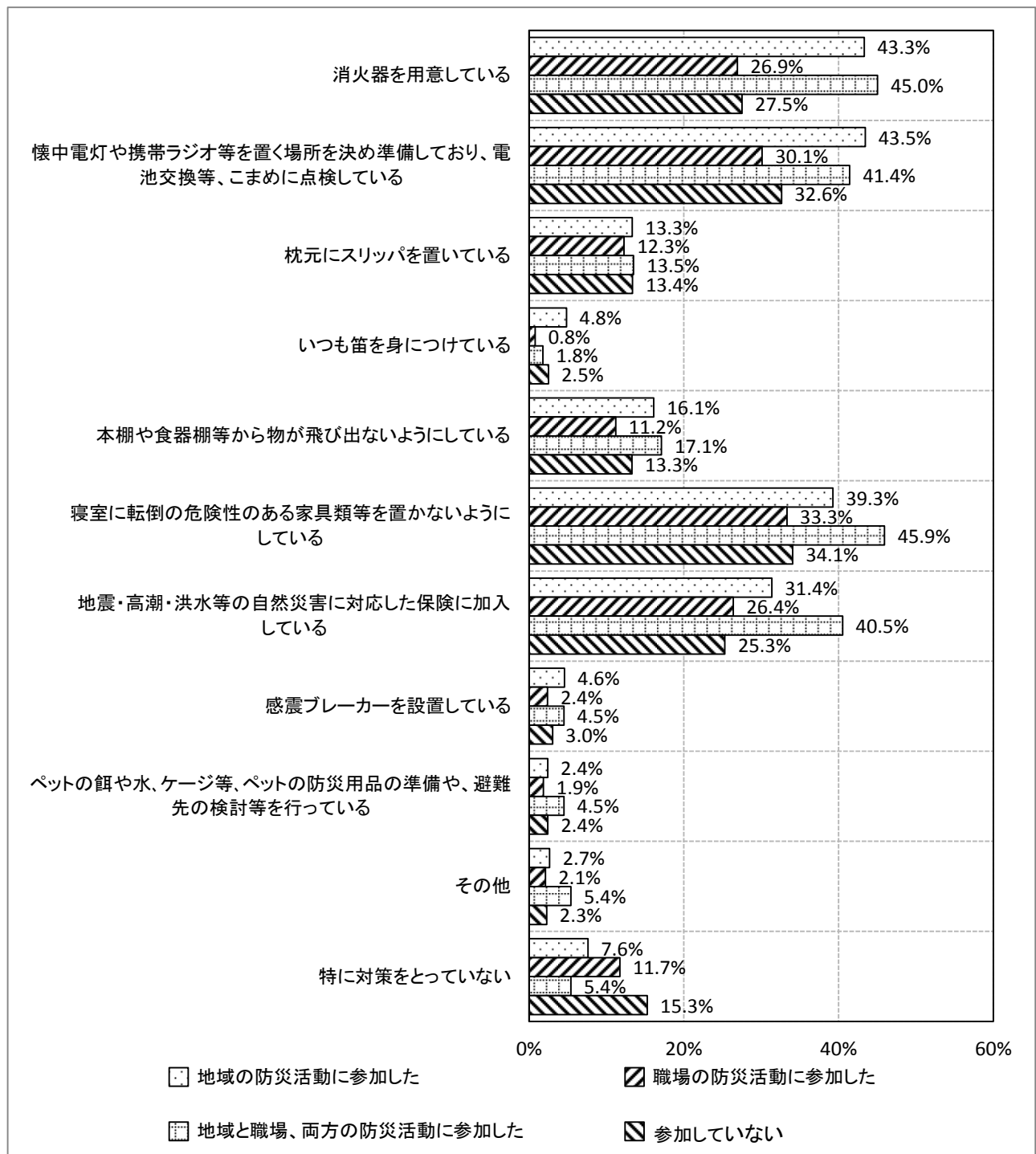


図 3.3.14 (5) ② 地域や職場での防災活動への参加状況

-問 10 (家庭での防災対策の状況) のクロス集計-



- 問 10 (家庭での防災対策の状況) とのクロス集計をみると、何らかの防災活動に参加している方の「災害時の備え」への取組状況が、参加していない方の取組状況を全般的に上回っている傾向にあります。

3.3.15 地域の防災活動に参加した内容

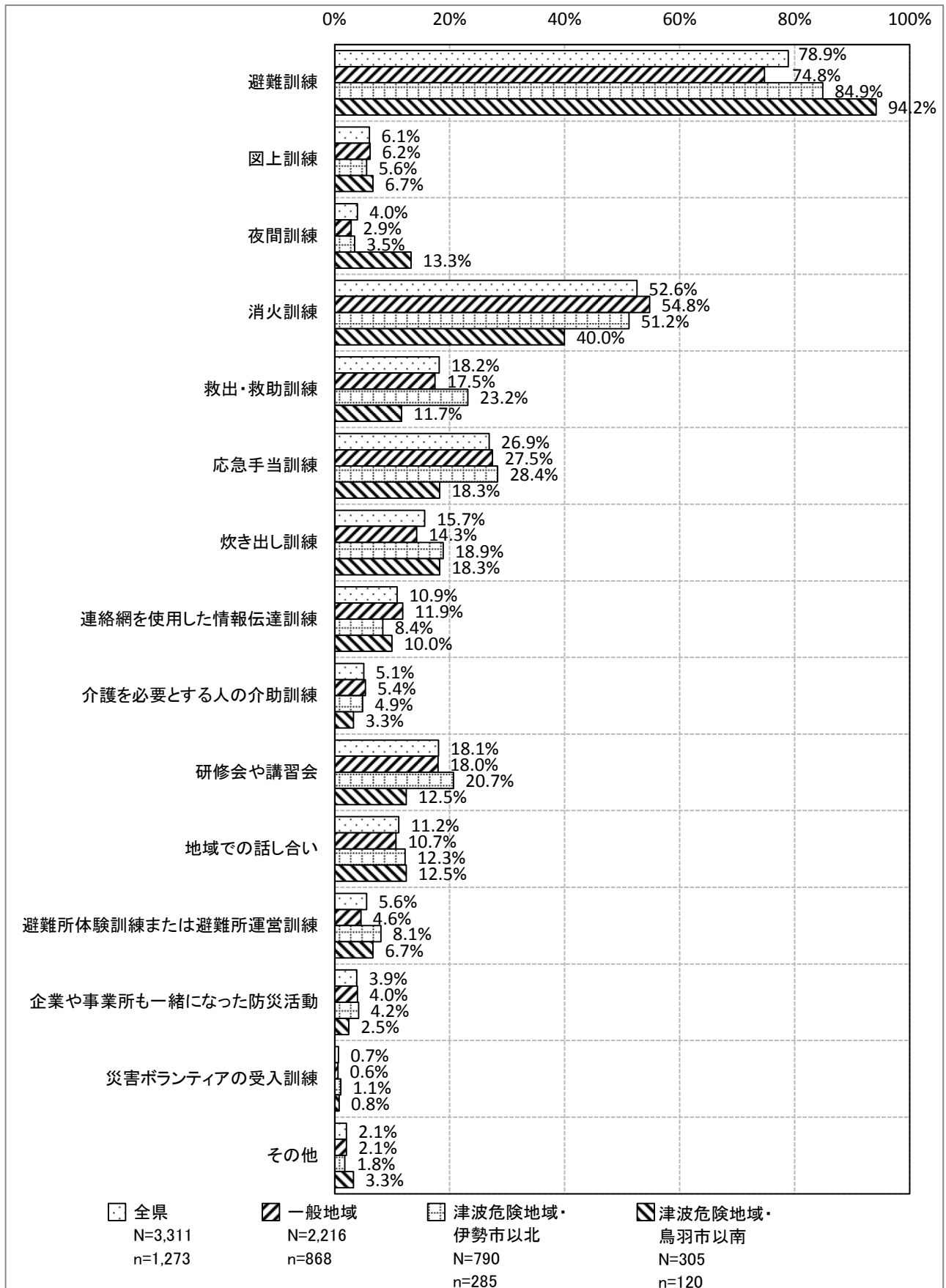
【問 19】 問 18 で「1.地域の防災活動に参加した」、「2.職場の防災活動に参加した」、「3.地域と職場、両方の防災活動に参加した」と答えた方にお尋ねします。

あなたが参加した地域の防災活動は、どのようなものでしたか。(いくつでも○)

1. 避難訓練
2. 図上訓練
3. 夜間訓練
4. 消火訓練
5. 救出・救助訓練
6. 応急手当訓練
7. 炊き出し訓練
8. 連絡網を使用した情報伝達訓練
9. 介護を必要とする人の介助訓練
10. 研修会や講習会
11. 地域での話し合い
12. 避難所体験訓練又は避難所運営訓練
13. 企業や事業所も一緒になった防災活動
14. 災害ボランティアの受入訓練
15. その他 具体的に：

問 19-1^

図 3.3.15 地域の防災活動に参加した内容 - 全県及び地域別- (複数回答)



- すべての地域でほぼ同じ傾向で、「避難訓練」が最も多く、次いで「消火訓練」「応急手当訓練」と実動する防災活動が多い傾向にあります。
- 特に、津波危険地域（鳥羽市以南）では、「夜間訓練」が 13.3%と他の地域より約 10 ポイント多くなっています。
- 「その他」の回答として、一般地域では「防災倉庫の点検、リヤカー、テント設営」、津波危険地域では、「高潮にそなえて、開放を予定している建物へ上がった」、「トイレ組み立ての説明会」などの回答がありました。

3.3.16 地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったか

【問 19-1】 あなたが参加した地域や職場の防災活動は、防災意識の向上に役立ちましたか。

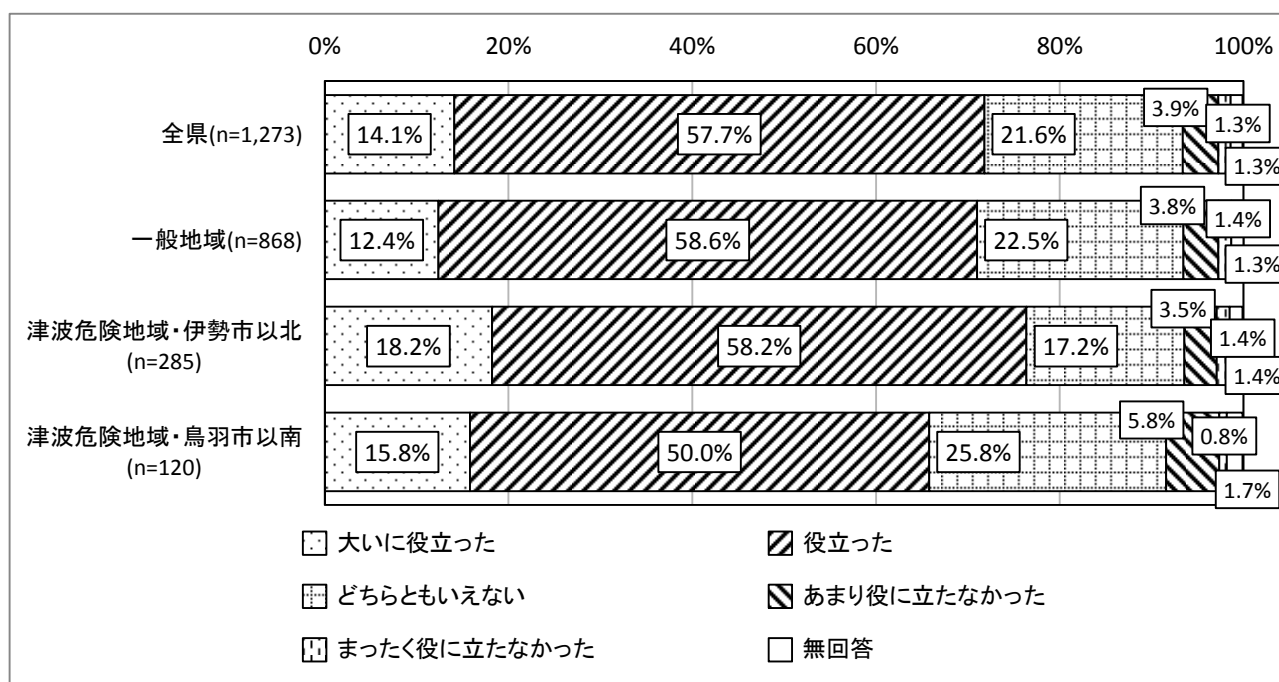
(一つだけ○)

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

問21へ

調査結果

図 3.3.16 地域や職場の防災活動に参加したことが役立ったか -全県及び地域別-



- 「大いに役立った」「役立った」と答えた方の割合の合計は、すべての地域で約7割となっていますが、津波危険地域（伊勢市以北）では76.4%と最も高くなっています。

3.3.17 防災活動に参加しなかった理由

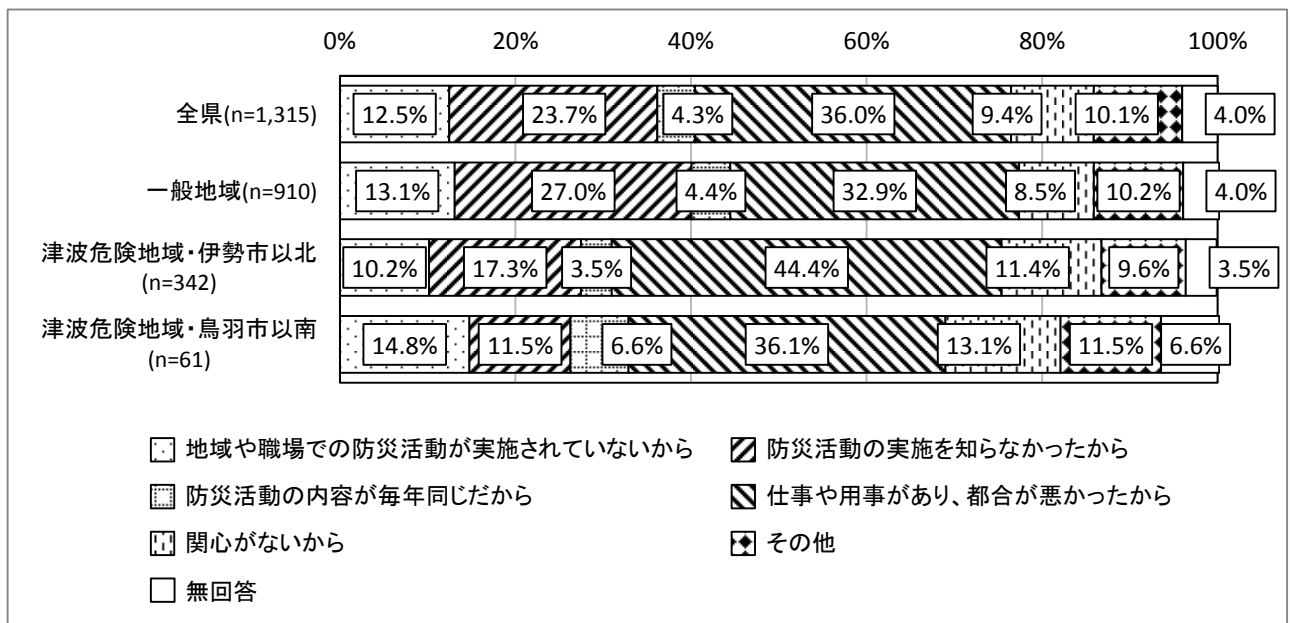
【問 20】 問 18 で、「4.参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたが防災活動に参加しなかった理由は何ですか。（一つだけ〇）

1. 地域や職場での防災活動が実施されていないから
2. 防災活動の実施を知らなかったから
3. 防災活動の内容が毎年同じだから
4. 仕事や用事があり、都合が悪かったから
5. 関心がないから
6. その他 具体的に：

問 20-1 へ

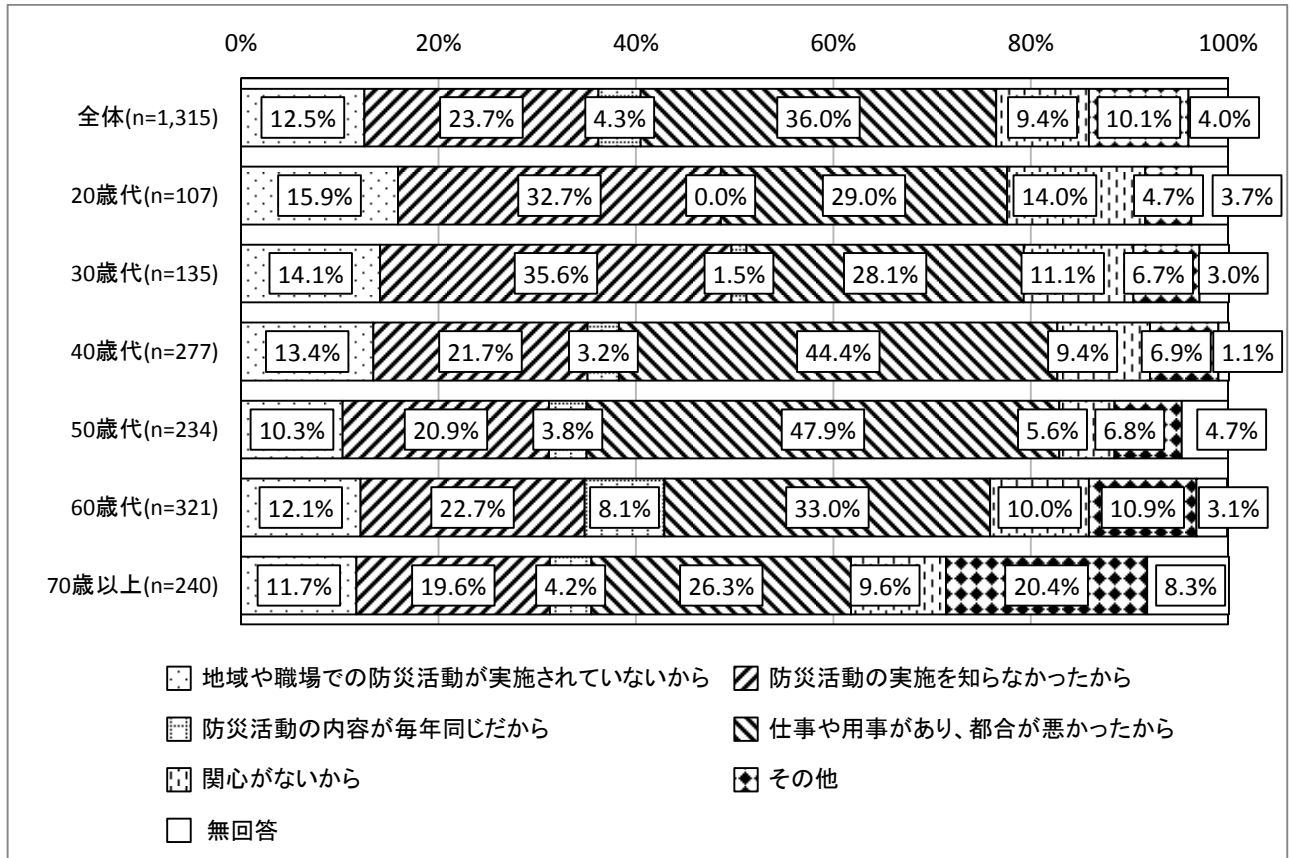
調査結果

図 3.3.17 (1) 防災活動に参加しなかった理由 -全県及び地域別-



- すべての地域で「仕事や用事があり、都合が悪かったから」と答えた方の割合が最も多くなっています。
- 「その他」として、「家族の中から代表者一名参加しているから」、「周りに参加している人がいないから」、「その年度の自治会の班長が代表として参加するので」等の回答がありました。

図 3.3.17 (2) 防災活動に参加しなかった理由 -全体及び年代別-



- 20歳代、30歳代では「防災活動の実施を知らなかったから」と答えた方の割合が、それぞれ32.7%、35.6%と最も多くなっています。
- 40歳代以上のすべての年代で「仕事や用事があり、都合が悪かったから」と答えた方の割合が最も多くなっています。

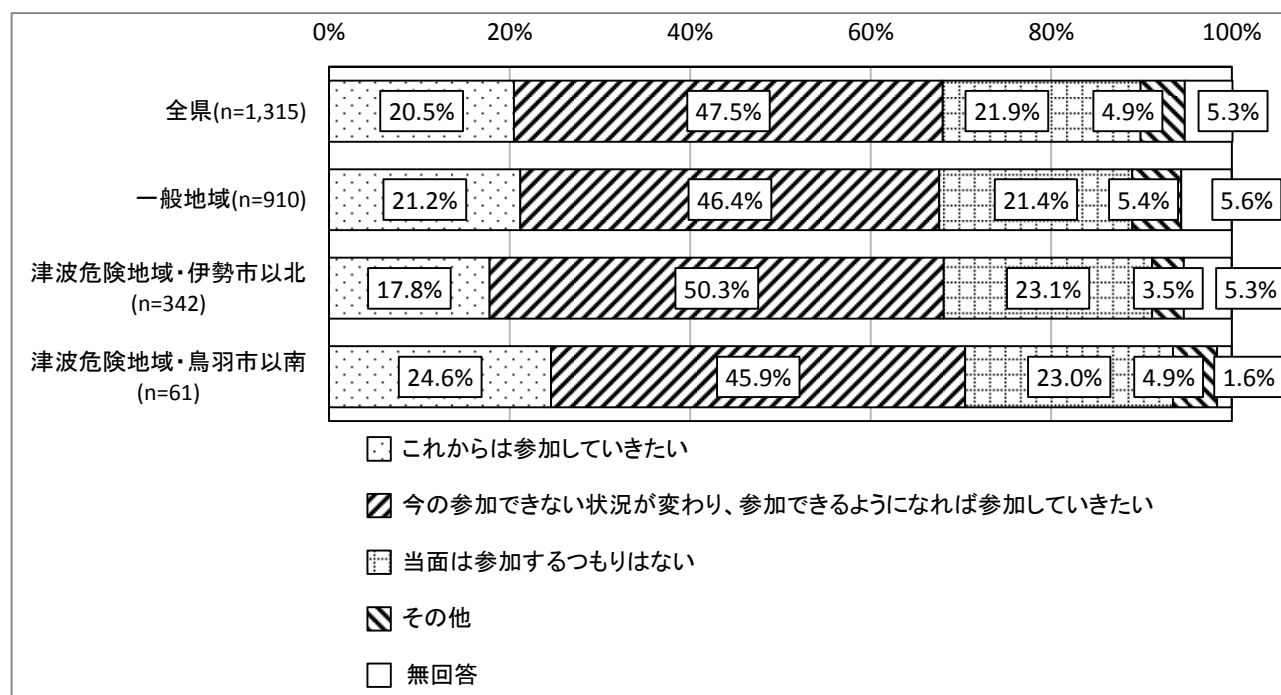
3.3.18 今後の地域の防災活動への参加

【問 20-1】 問 18 で、「4.参加していない」と回答された方にお尋ねします。今後の地域の防災活動への参加についてはどのようにお考えですか。（一つだけ〇）

1. これからは参加していきたい
2. 今の参加できない状況が変わり、参加できるようになれば参加していきたい
3. 当面は参加するつもりはない
4. その他 具体的に：

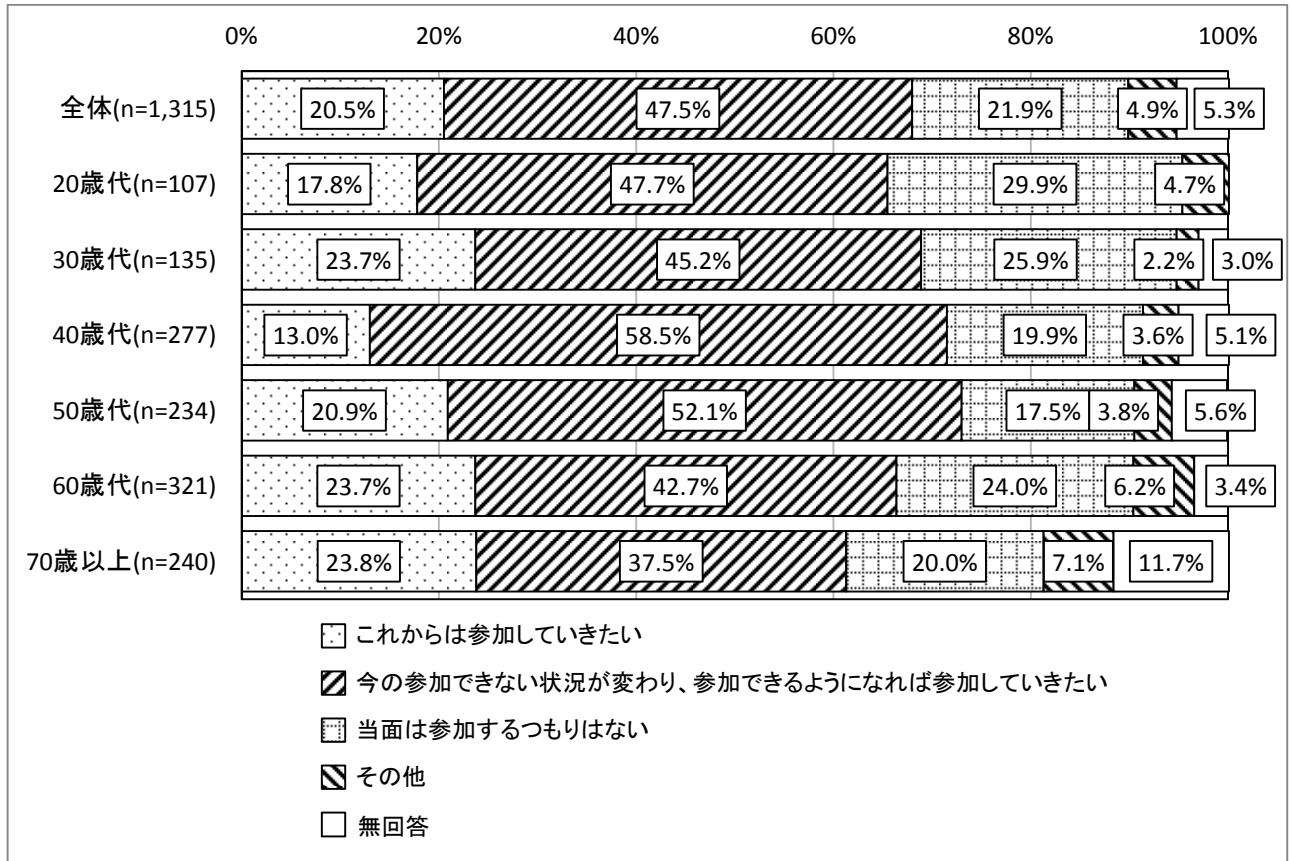
調査結果

図 3.3.18 (1) 今後の地域の防災活動への参加 -全県及び地域別-



- すべての地域でほぼ同じ傾向となっており、「これからは参加していきたい」「今の参加できない状況が変わり、参加できるようになれば参加していきたい」と答えた方の割合をみると、約7割の方が参加意欲を示しています。

図 3.3.18 (2) 今後の地域の防災活動への参加 -全体及び年代別-



- 年代別にみると、すべての年代で約6割から7割の方が「参加したい」と答えています。
- 「今の参加できない状況が変わり、参加できるようになれば参加していきたい」は40歳代、50歳代で5割を超えています。
- 「当面は参加するつもりはない」は20歳代で約3割となっています。
- 「その他」として、「実施されたら参加する。防災活動訓練の連絡を受けた事ない」、「参加してみたいけど、1人で参加が嫌なので皆が参加する様になってほしいと思います」等の回答がありました。

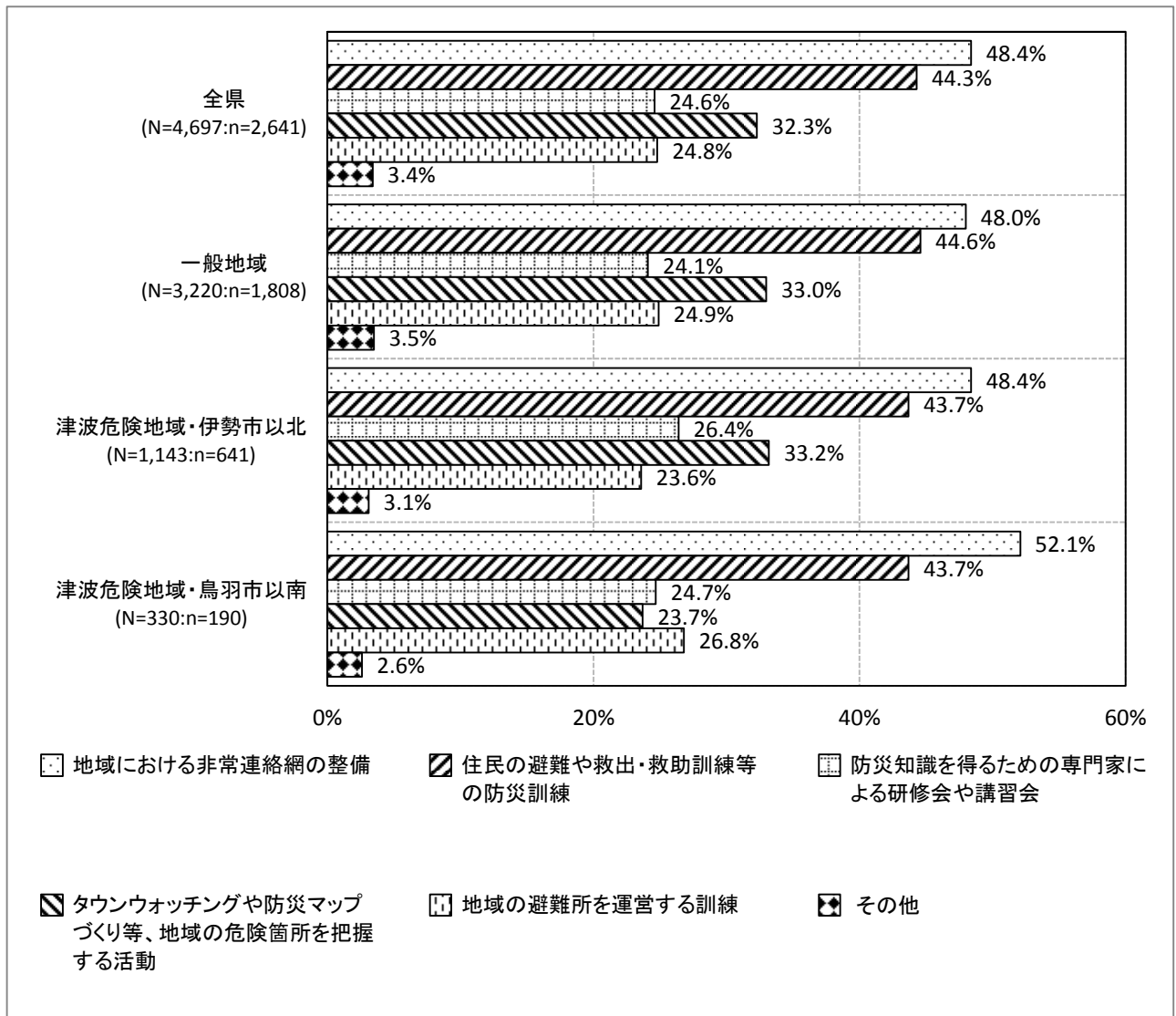
3.3.19 地域・職場で必要と思う防災活動

【問 21】 あなたは、こういった防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。
(いくつでも○)

1. 地域における非常連絡網の整備
2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
4. タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動
5. 地域の避難所を運営する訓練
6. その他 具体的に：

調査結果

図 3.3.19 地域・職場で必要と思う防災活動 - 全県及び地域別- (複数回答)



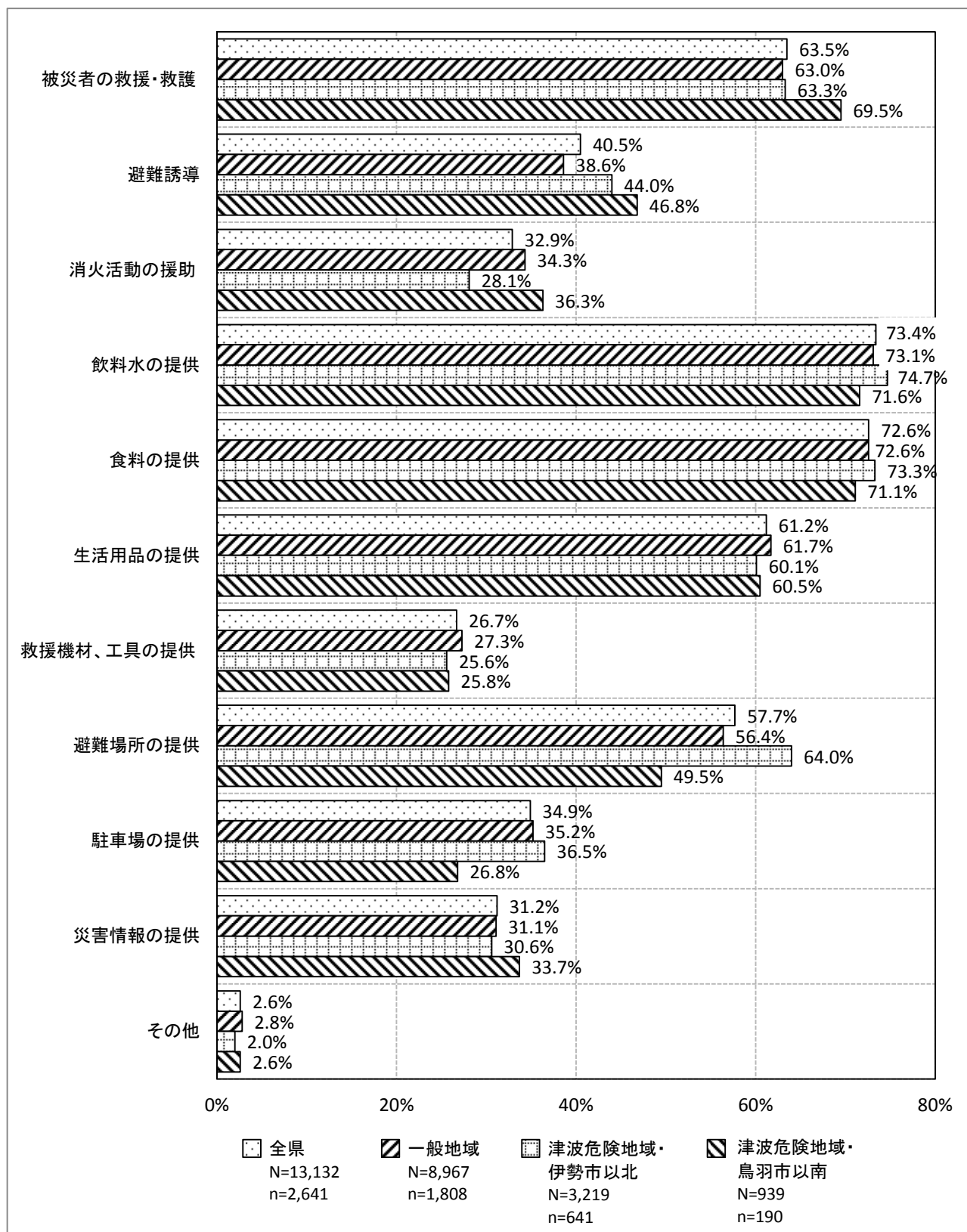
- すべての地域において「地域における非常連絡網の整備」が最も多く、次いで「避難や救出・救助訓練等の防災訓練」となっています。
- 「その他」の回答では、「ライフラインがなくなった時の想定」、「身近な物で出来る避難用具や非常食のおいしい食べ方のアイデア講習やロープの結び方の講習等」、「高齢者向けの避難訓練」の回答がありました。

3.3.20 防災活動や防災対策で企業・事業所に期待すること

【問 22】 地域の防災活動や防災対策について、地域の企業・事業所に期待することは何ですか。
(いくつでも○)

1. 被災者の救援・救護
2. 避難誘導
3. 消火活動の援助
4. 飲料水の提供
5. 食料の提供
6. 生活用品の提供
7. 救援機材、工具の提供
8. 避難場所の提供
9. 駐車場の提供
10. 災害情報の提供
11. その他 具体的に：

図 3.3.20 防災活動や防災対策で企業・事業所に期待すること
- 全県及び地域別（複数回答） -



- 地域別の大きな差はなく、すべての地域で「飲料水の提供」「食料の提供」が約7割となっており、次いで、「被災者の救援・救護」「生活用品の提供」が約6割と多くなっています。
- 「その他」の回答では、「ペット同伴避難所の提供」、「地域に企業・事業所がない」などの回答がありました。

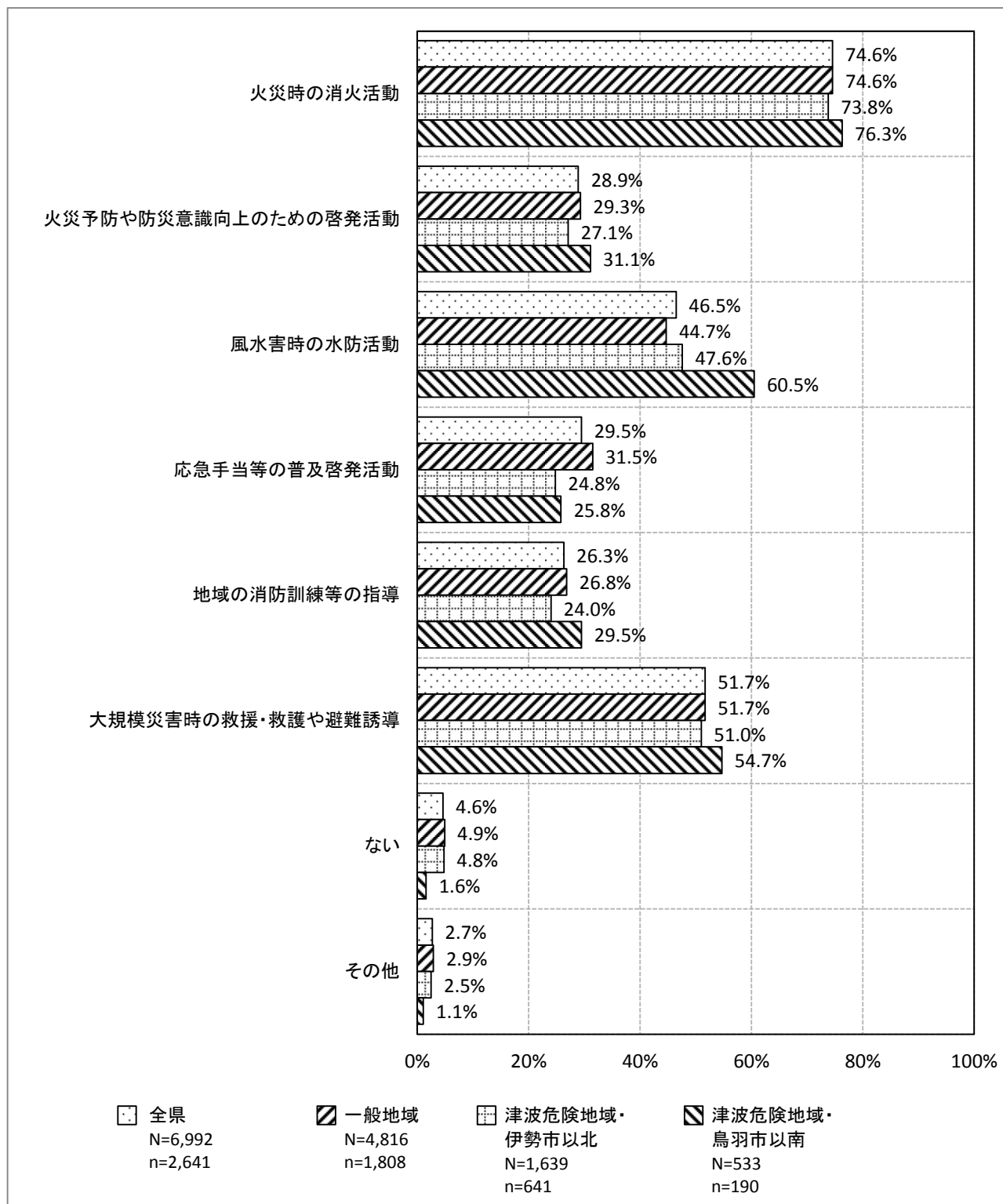
3.3.21 地域の消防団に期待する活動内容

【問 23】 あなたがお住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものがありますか。

(いくつでも○)

1. 火災時の消火活動
2. 火災予防や防災意識向上のための啓発活動
3. 風水害時の水防活動
4. 応急手当等の普及啓発活動
5. 地域の消防訓練等の指導
6. 大規模災害時の救援・救護や避難誘導
7. ない
8. その他 具体的に：

図 3.3.21 地域の消防団に期待する活動内容 -全県及び地域別- <複数回答>



- すべての地域でほぼ同じ傾向となっており、「火災時の消火活動」と答えた方の割合が約7割、次いで「大規模災害時の救援・救護や避難誘導」「風水害時の水防活動」が約5割から6割となっています。津波危険地域（鳥羽市以南）では「風水害時の水防活動」が60.5%と他の地域にくらべ10ポイント以上多くなっています。
- 「その他」の回答では、「もしお願いできるのであれば、夜間パトロール」、「人口が減ってきており、消防団に期待するのは無理かと思う」、などの回答がありました。

3.3.22 自主防災組織の有無と活動状況

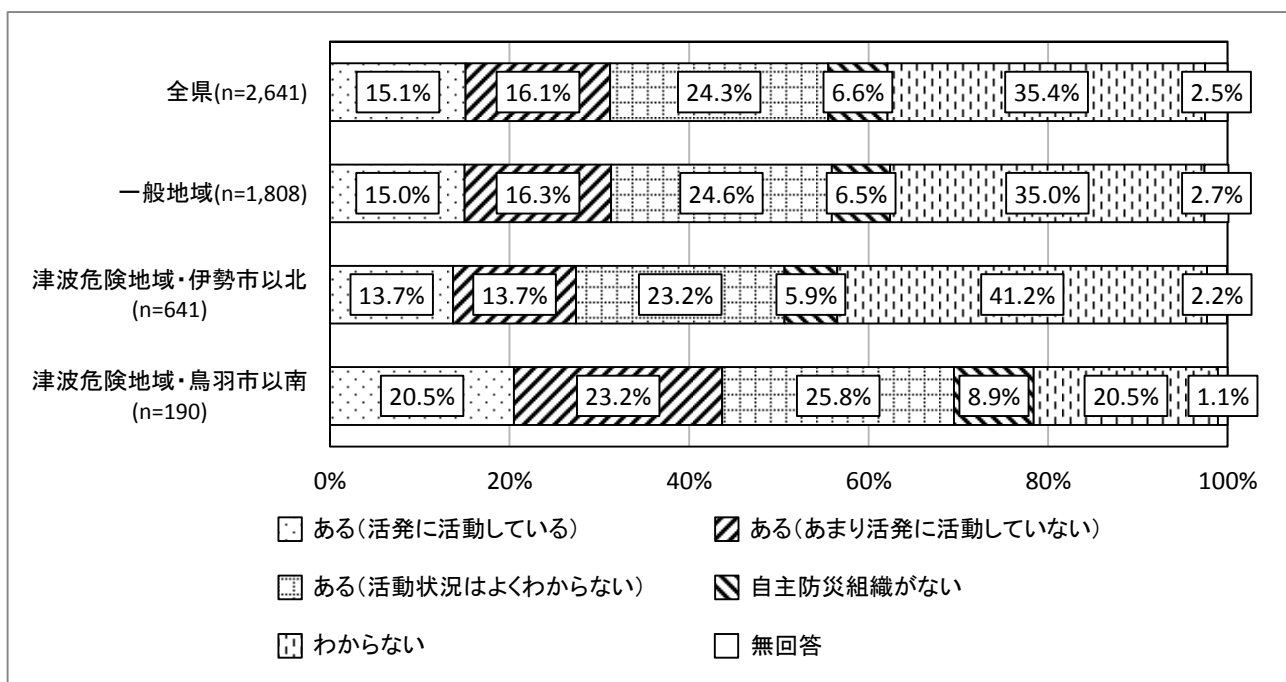
【問 24】 あなたのお住まいの地域は、自主防災組織（町内会・自治会等を母体とした地域の住民が防災活動をする組織）がありますか。また、活動状況はどうか。

（一つだけ〇）

1. ある（活発に活動している）
2. ある（あまり活発に活動していない）
3. ある（活動状況はよくわからない）
4. 自主防災組織がない
5. わからない

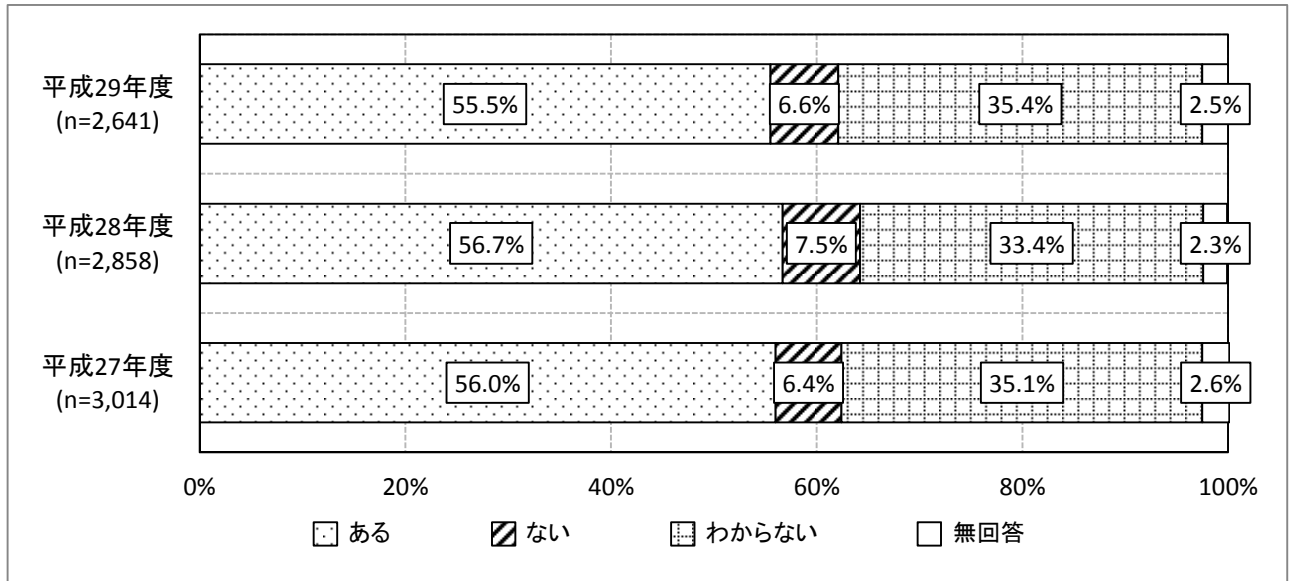
調査結果

図 3.3.22 (1) 自主防災組織の有無と活動状況 -全県及び地域別-



- 全県では、自主防災組織が「ある」と答えた方の割合の合計が、55.5%、「ない」が 6.6%、「わからない」が 35.4%となっており、津波危険地域（鳥羽市以南）を除く地域でほぼ同じ割合となっています。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）では、自主防災組織が「ある」と答えた方の割合の合計が、69.5%、「ない」が 8.9%、「わからない」が 20.5%となっており、自主防災組織についての認識度が、他の地域とくらべ大幅に高くなっています。
- 活動状況についても、自主防災組織についての認識度と同じ傾向で、「ある（活発に活動している）」と答えた方の割合は、津波危険地域（鳥羽市以南）が他の地域とくらべ約 5 ポイント多く、20.5%となっています。

図 3.3.22 (2) 自主防災組織の有無と活動状況 -全県経年変化-



- 経年変化でみると、自主防災組織あるか「わからない」と答えた方の割合が昨年度より増加し35.4%となりました。

3.3.23 就学している児童生徒の有無

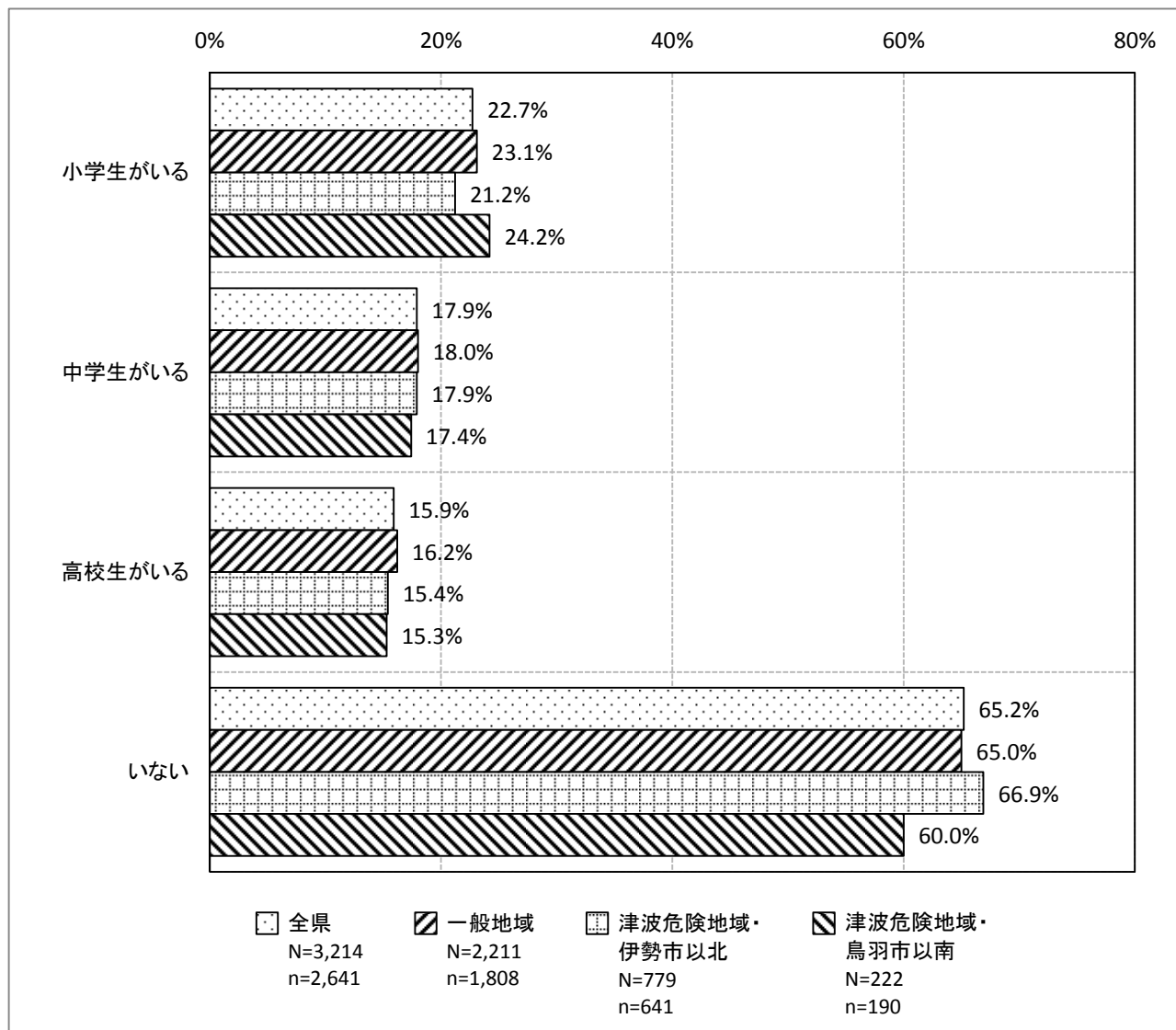
【問 25】 あなたのお住まいには、就学している児童生徒がいますか。(いくつでも○)

1. 小学生がいる
2. 中学生がいる
3. 高校生がいる
4. いない

} 問 25-1 へ
→問 25-2 へ

調査結果

図 3.3.23 就学している児童生徒の有無 -全県及び地域別- <複数回答>



【問 25-1】 以下の学校の防災教育にかかる設問のための基礎データとして収集しました。

3.3.24 学校の防災教育の家庭での認知度

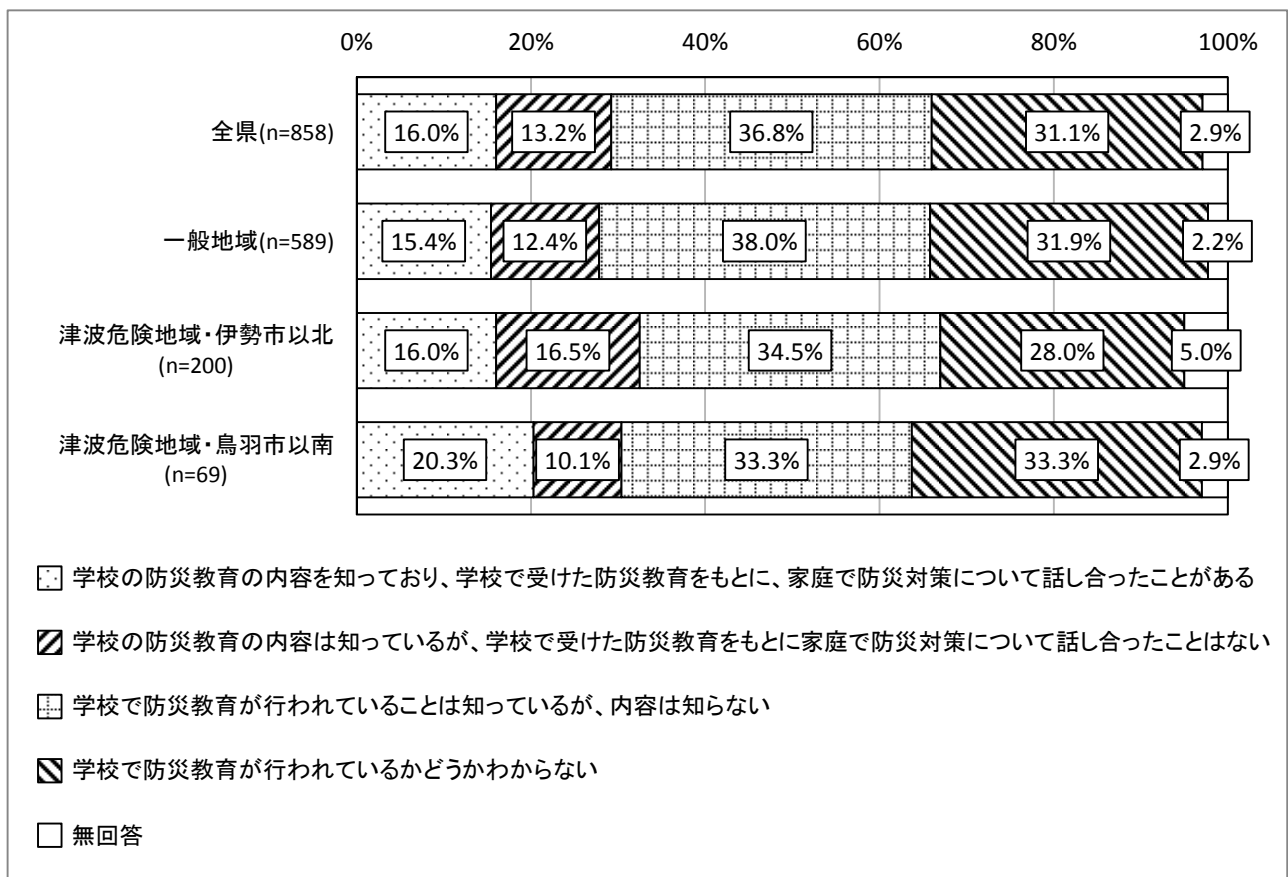
【問 25-1】 三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し、これらの教材を学校で活用するよう要請する等、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたのお住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育について、あなたはどの程度ご存知ですか。（一つだけ〇）

※複数の児童生徒がいる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
 2. 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
 3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
 4. 学校で防災教育が行われているかどうか分からない
- } 問 25-2 へ

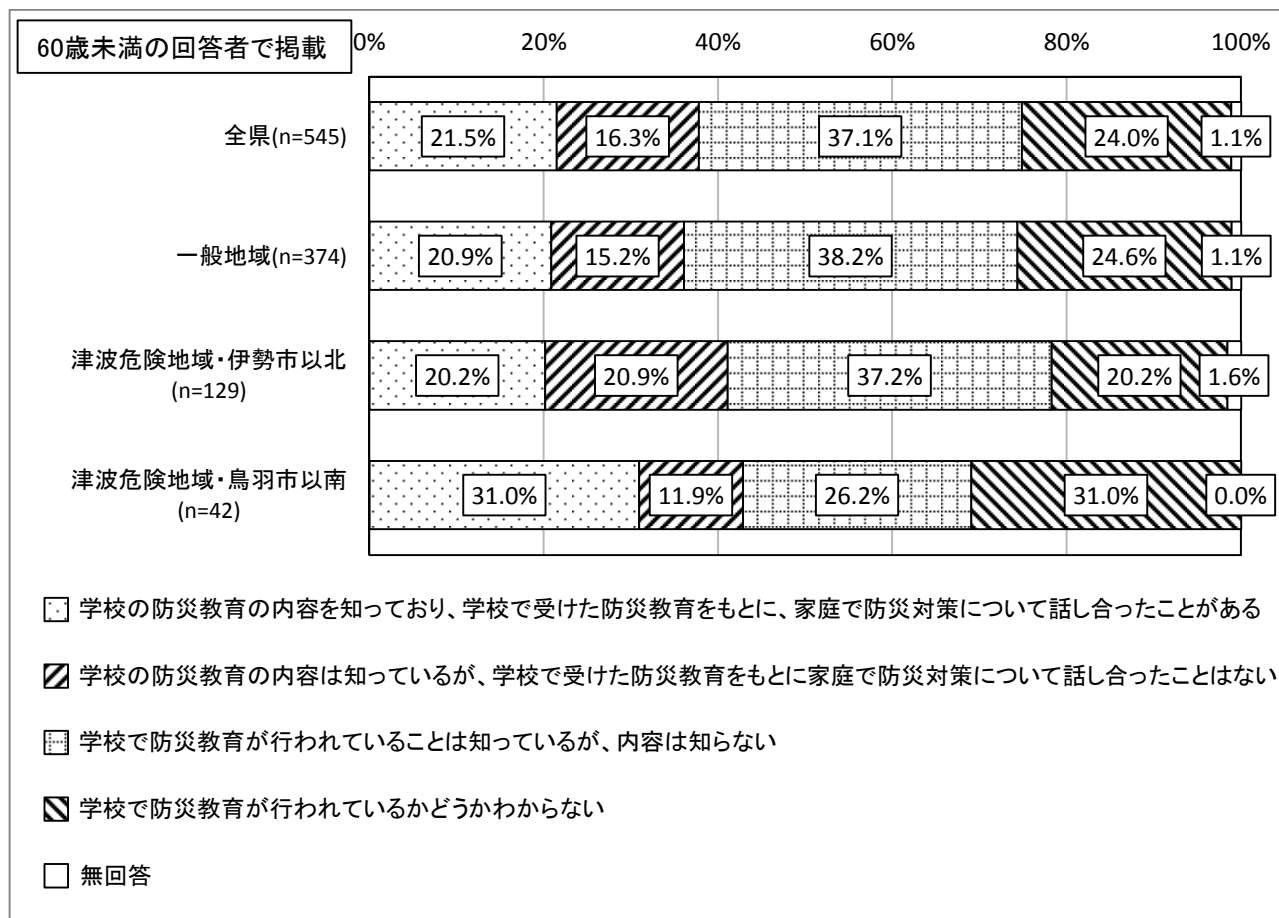
調査結果

図 3.3.24 (1) 学校の防災教育の家庭での認知度 -全県及び地域別-



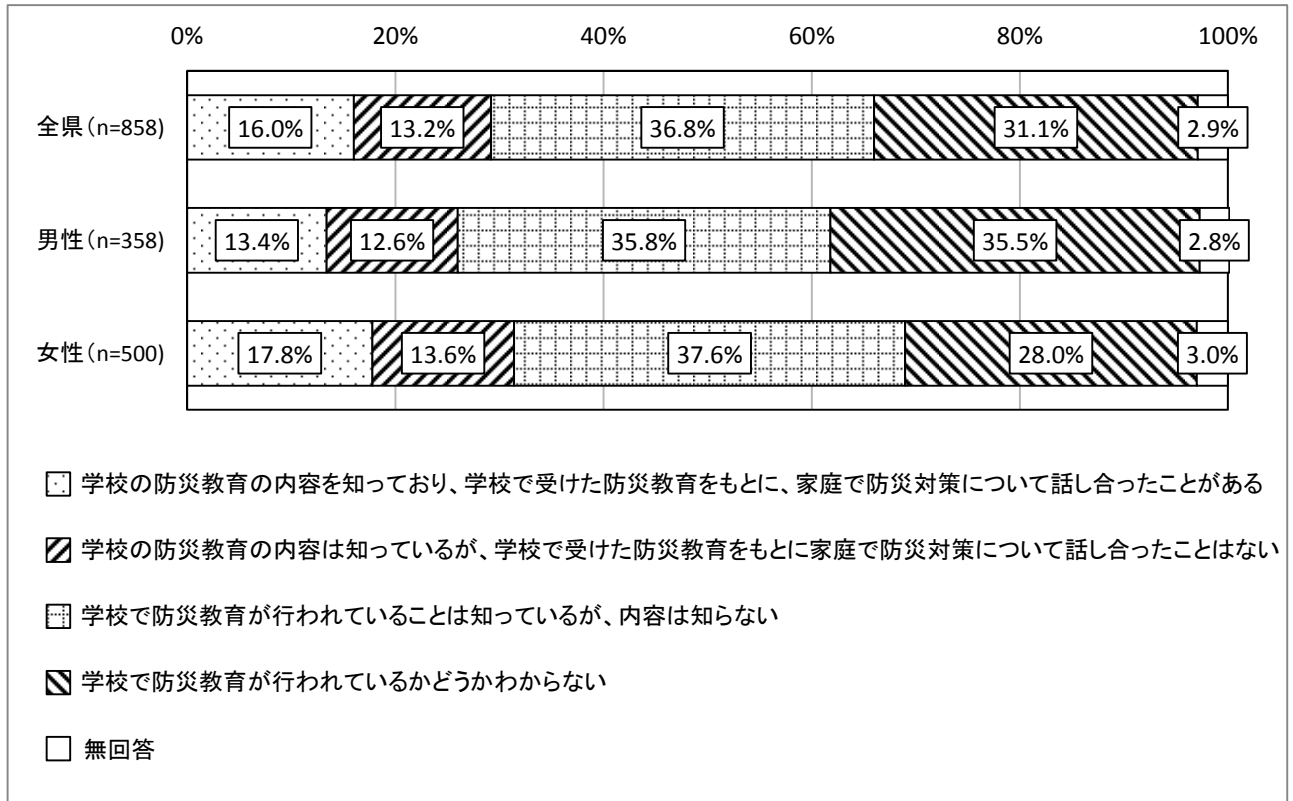
- すべての地域において、小学生から高校生までの児童生徒がいる家庭の約 7 割が「学校で防災教育を行っている」ことを認知しています。
- 特に津波危険地域（鳥羽市以南）では、「学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」と答えた方の割合が 20.3%と他の地域とくらべ多くなっています。

図 3.3.24 (2) 学校の防災教育の家庭での認知度 - 全県及び地域別 (60 歳未満の方) -



- 保護者である可能性が高い60歳未満の方のデータをみると、全年代と同様、すべての地域で約7割の方が「学校で防災教育が行われている」ことを認知しています。
- 認知度の傾向は全年代と同じですが、すべての地域で「学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」が全年代より多く、全県のデータでは約5ポイント多く21.5%となっています。
また、「学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない」とあわせた「学校の防災教育の内容を知っている」方の割合の合計は、全年代より約8ポイント多く37.8%となっています。

図 3.3.24 (3) 学校の防災教育の家庭での認知度 -全県及び性別-



- 性別で見ると、「学校の防災教育の内容を知っている」と答えた方の割合の合計は、男性が 26.0%、女性が 31.4%となっており、「学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」では、男性が 13.4%、女性が 17.8%と、いずれも女性が多くなっています。

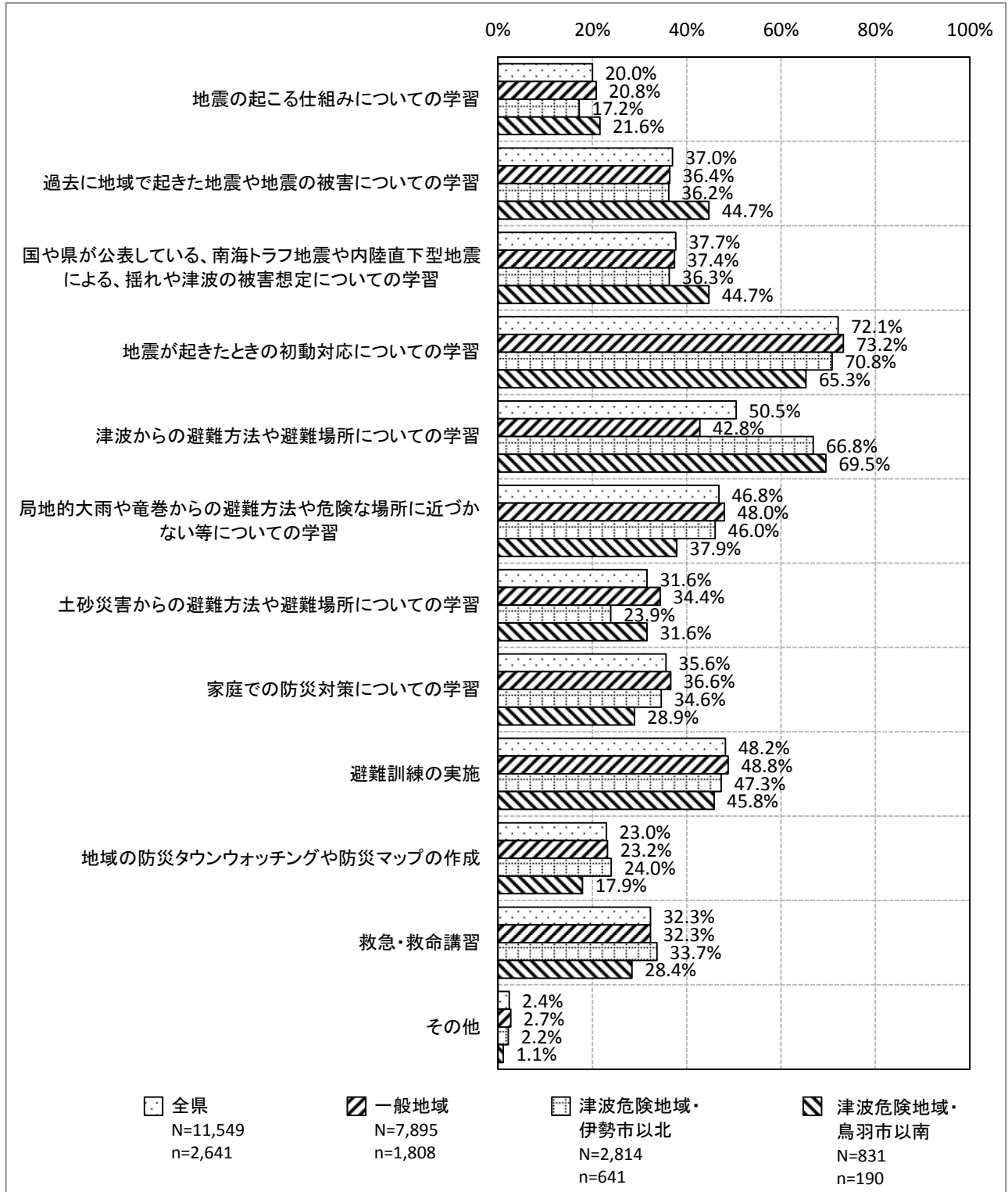
3.3.25 防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの

【問 25-2】 防災教育で、学校に特に力を入れて取り組んでほしいものは何ですか。

(いくつでも○)

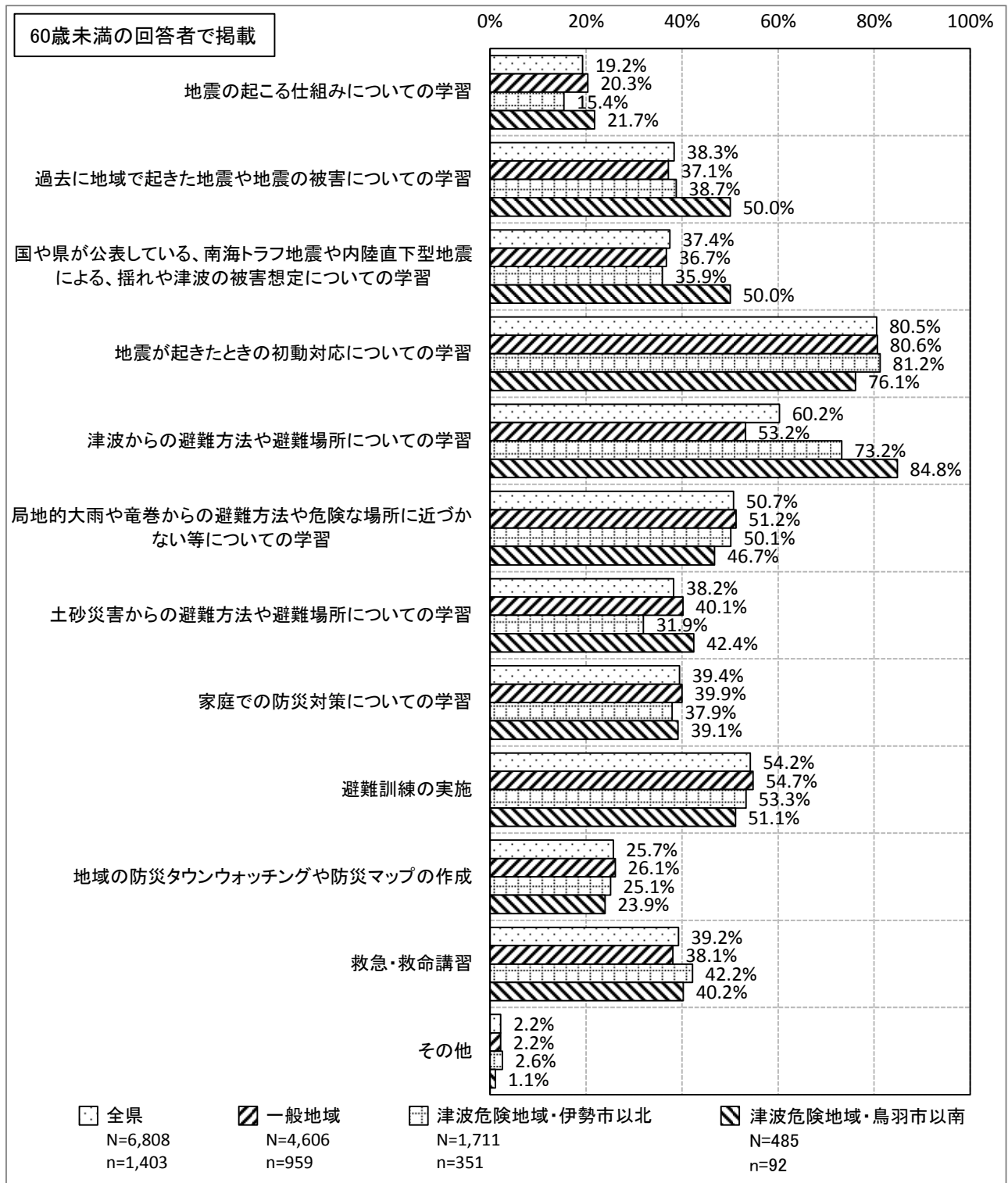
1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた地震や地震の被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフ地震や内陸直下型地震による、揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときの初動対応についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 局地的大雨や竜巻からの避難方法や危険な場所に近づかない等についての学習
7. 土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成
11. 救急・救命講習
12. その他 具体的に：

図 3.3.25 (1) 防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの
-全県及び地域別- (複数回答)



- 「地震が起きたときの初動対応についての学習」がすべての地域で約7割と多くなっています。津波危険地域（鳥羽市以南）では「津波からの避難方法や避難場所についての学習」が最も多く69.5%となっています。また、すべての地域で約5割の方が「避難訓練の実施」と答えています。
- 「その他」の回答では、「通学途中での避難方法や避難場所などについて」、「大人がいないとき、自分の命を自分で守れる行動が取れるよう、どうしたらよいか、日頃から色々な場面で考えさせてほしいです」等がありました。

図 3.3.25 (2) 防災教育で学校に特に力を入れて取り組んでほしいもの
-全県及び地域別（60歳未満の方）-



- 60歳未満の方に絞ったデータでも、すべての地域で全年代と同じ傾向となっていますが、数値をみると、例えば「地震が起きたときの初動対応についての学習」が全県で約8ポイント多いなど、全年代で割合が多い項目を中心に60歳未満ではさらに多くなっています。

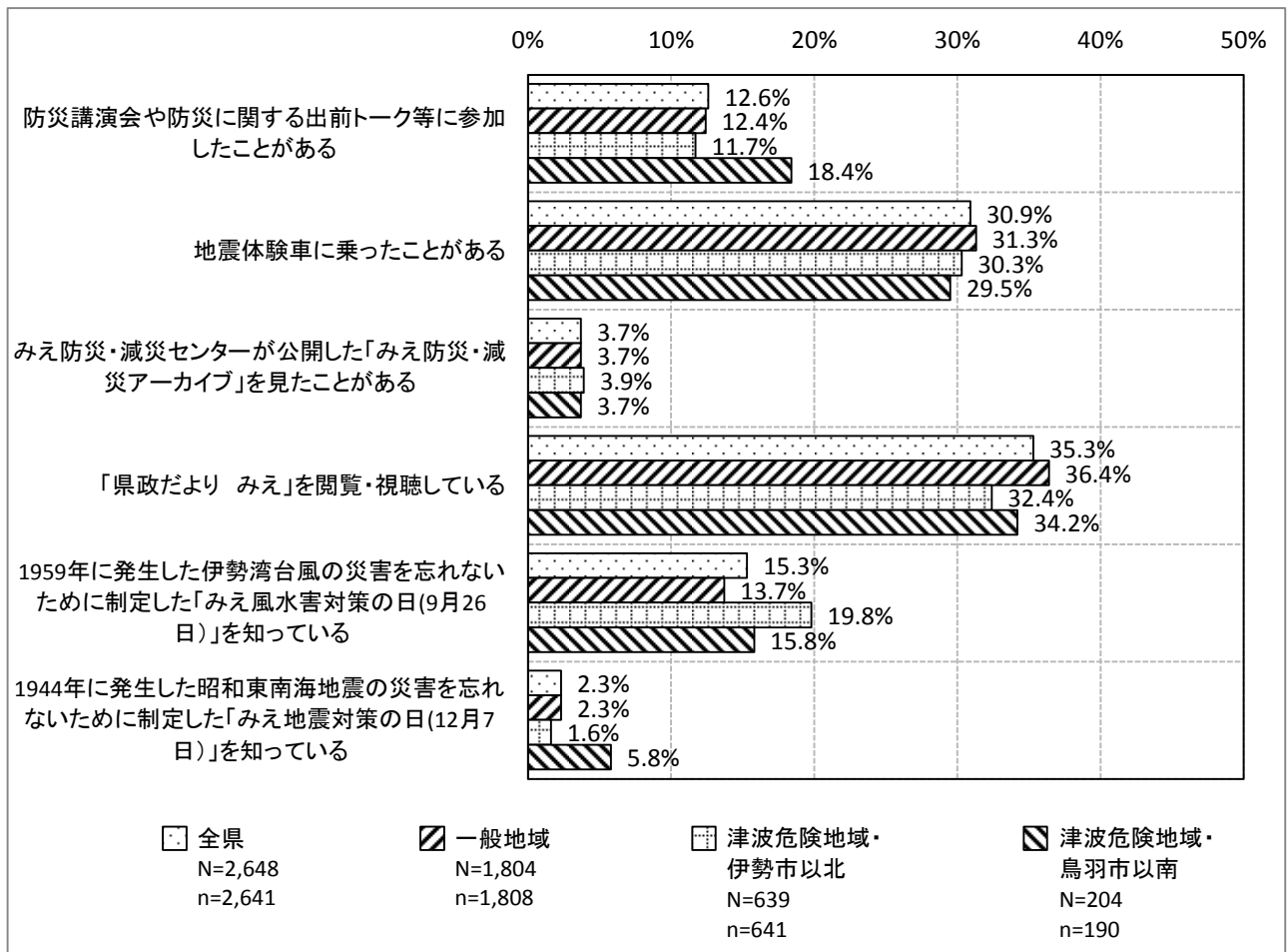
3.3.26 防災に関する啓発活動等の認知度

【問 26】 三重県や市町が取り組んでいる防災に関する啓発活動等についてどの程度ご存知ですか。(いくつでも〇)

1. 防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある →問 26-1 ハ
2. 地震体験車に乗ったことがある →問 26-1 ハ
3. みえ防災・減災センターが公開した「みえ防災・減災アーカイブ」を見たことがある →問 27 ハ
4. 「県政だより みえ」を閲覧・視聴している →問 27 ハ
5. 1959 年に発生した伊勢湾台風の災害を忘れないために制定した「みえ風水害対策の日(9月26日)」を知っている →問 27 ハ
6. 1944 年に発生した昭和東南海地震の災害を忘れないために制定した「みえ地震対策の日(12月7日)」を知っている →問 27 ハ

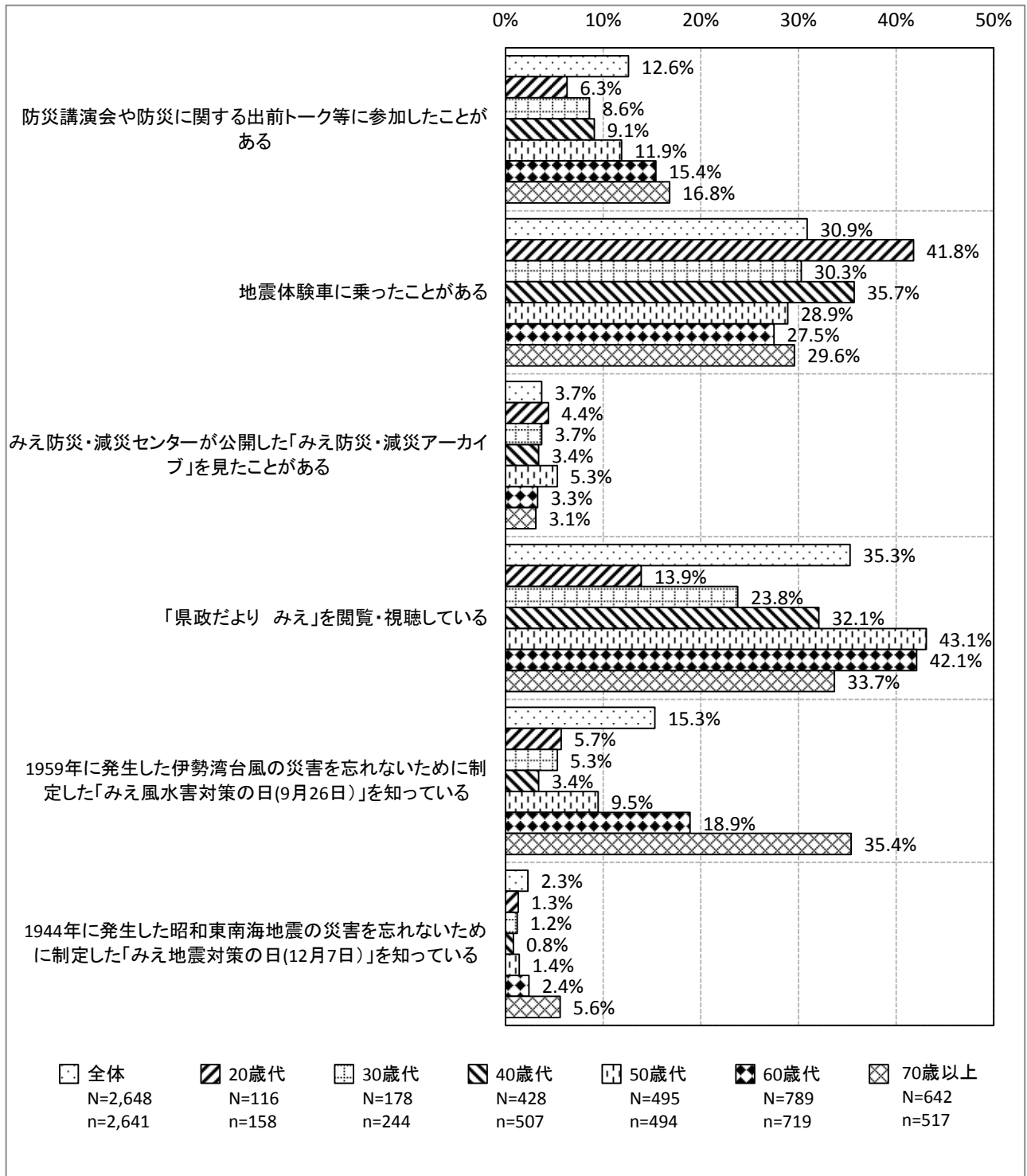
調査結果

図 3.3.26 (1) 防災に関する啓発活動等の認知度 -全県及び地域別- (複数回答)



- すべての地域で「『県政だより みえ』を閲覧・視聴している」が最も多く、次いで「地震体験車に乗ったことがある」が多くなっています。

図 3.3.26 (2) 防災に関する啓発活動等の認知度 -全体及び年代別-



- 年代別でそれぞれ最も割合が高い項目は、20歳代、30歳代、40歳代は「地震体験車」で、50歳代、60歳代では「県政だより みえ」、70歳以上では「みえ風水害対策の日(9月26日)」を知っている」となっています。

3.3.27 啓発活動は防災意識の向上に役立ったか

【問 26-1】 問 26 で 1～2 に○を一つ以上付けられた方にお尋ねします。これら防災に関する啓発活動は、あなたの防災意識の向上に役立ちましたか。

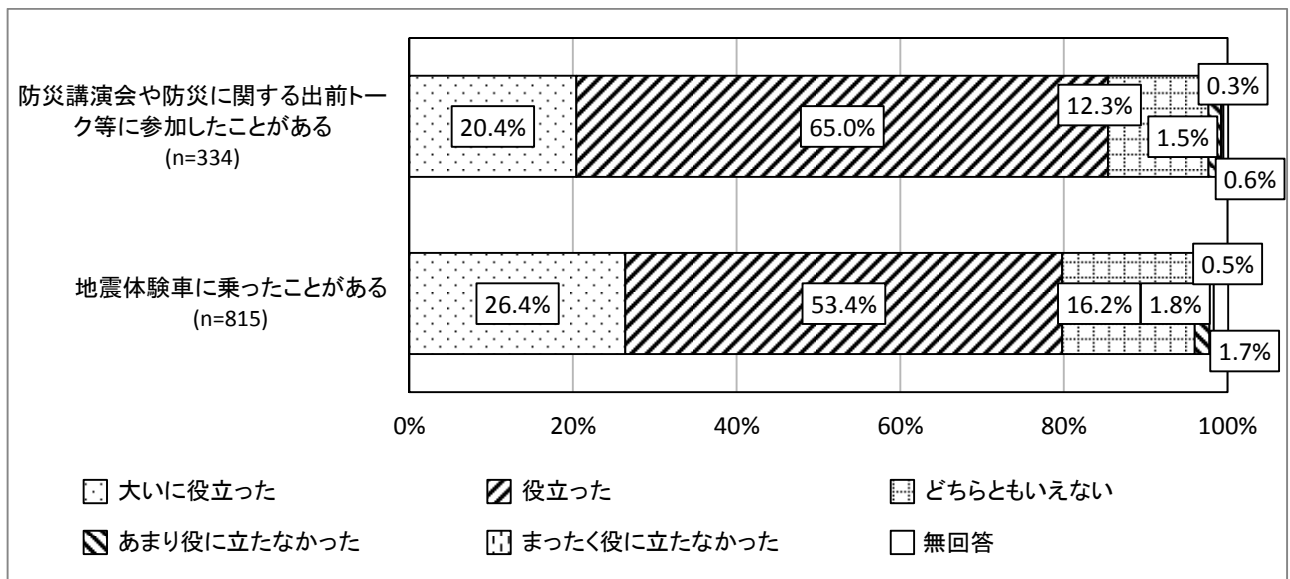
啓発活動（一つだけ○）

- * 防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある方
- * 「地震体験車」に乗ったことがある方

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

調査結果

図 3.3.27 啓発活動は防災意識の向上に役立ったか -全県-



- 「大いに役立った」「役立った」と答えた方の割合の合計は、「防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある方」が85.4%、「地震体験車に乗ったことがある方」が79.8%となっています。

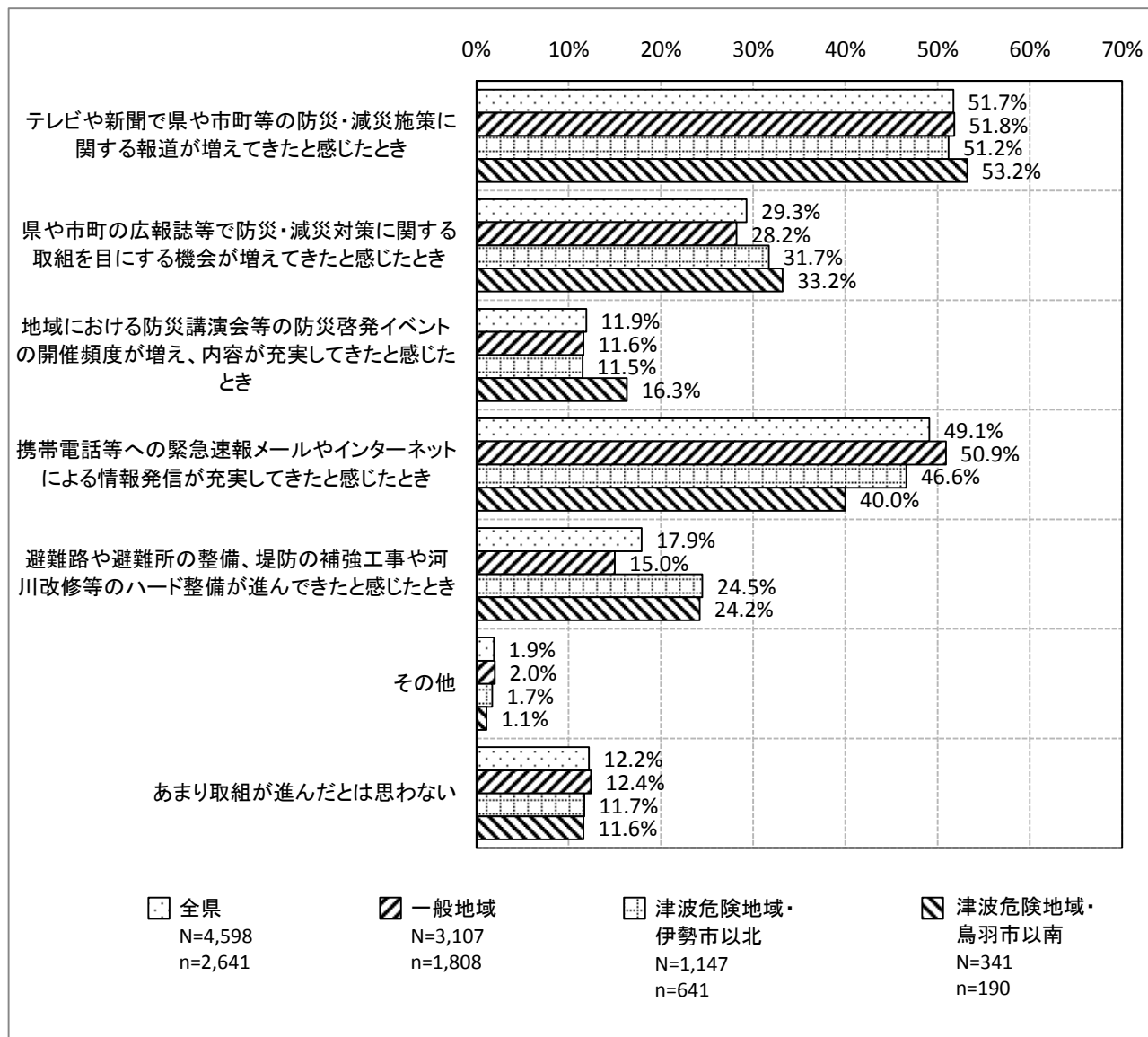
3.3.28 「公助」による防災・減災の取組

【問 27】 東日本大震災や紀伊半島大水害の発生を受け、三重県では防災・減災対策を県政の最重要課題に掲げて、国や市町等関係機関と連携しながらさまざまな取組を進めているところ
です。

あなたは、どのようなときに、以前よりも防災・減災の取組が進んできたと感じましたか。(いくつでも○)

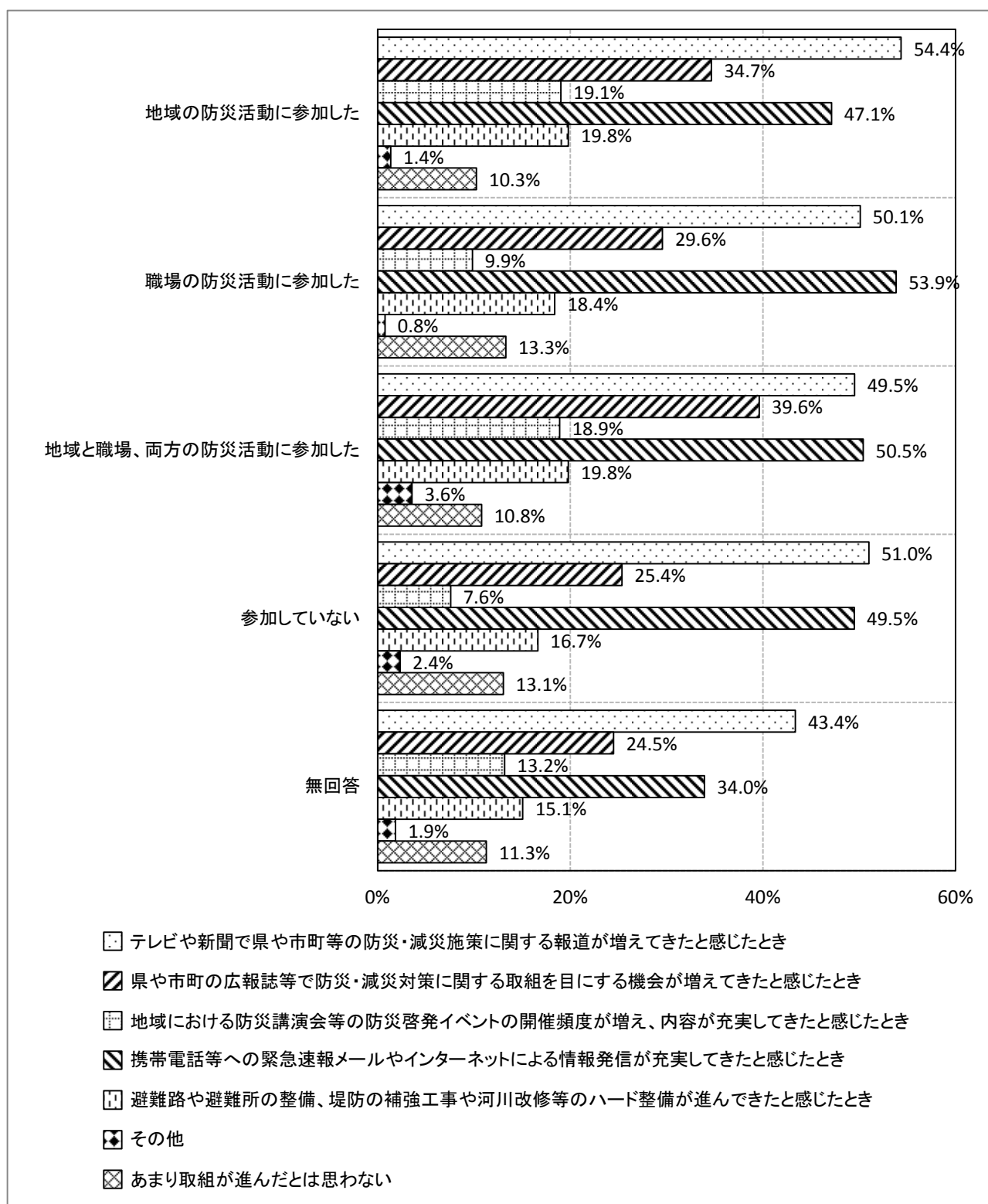
1. テレビや新聞で県や市町等の防災・減災施策に関する報道が増えてきたと感じたとき
2. 県や市町の広報誌等で防災・減災対策に関する取組を目にする機会が増えてきたと感じたとき
3. 地域における防災講演会等の防災啓発イベントの開催頻度が増え、内容が充実してきたと感じたとき
4. 携帯電話等への緊急速報メールやインターネットによる情報発信が充実してきたと感じたとき
5. 避難路や避難所の整備、堤防の補強工事や河川改修等のハード整備が進んできたと感じたとき
6. その他 具体的に：
7. あまり取組が進んだとは思わない

図 3.3.28 (1) 「公助」による防災・減災の取組 -全県及び地域別-



- すべての地域で「テレビや新聞による報道」が最も多く、次いで「メールやインターネットによる情報発信」「県や市町の広報誌等」が多くなっています。
- 「その他」の回答では、「市内の学校（下流地域）に避難用の階段塔が出来た時」「堤防の補強工事を見た」等がありました。
- 地域別にみると、津波危険地域では、一般地域に比べ「避難路や避難所の整備、堤防の補強工事や河川改修等のハード整備が進んできたと感じたとき」と答えた方の割合が約 10 ポイント多くなっています。

図 3.3.28 (2) 「公助」による防災・減災の取組
 -問 18 (地域や職場での防災活動への参加状況) とのクロス集計-



- 問 18 (地域や職場での防災活動への参加状況) とのクロス集計をみると、参加経験にかかわらず、「テレビや新聞による報道」「携帯メールやインターネットによる情報発信」と答えた方の割合が多い傾向にあります。

3.4 あなたのお住まいの耐震化について

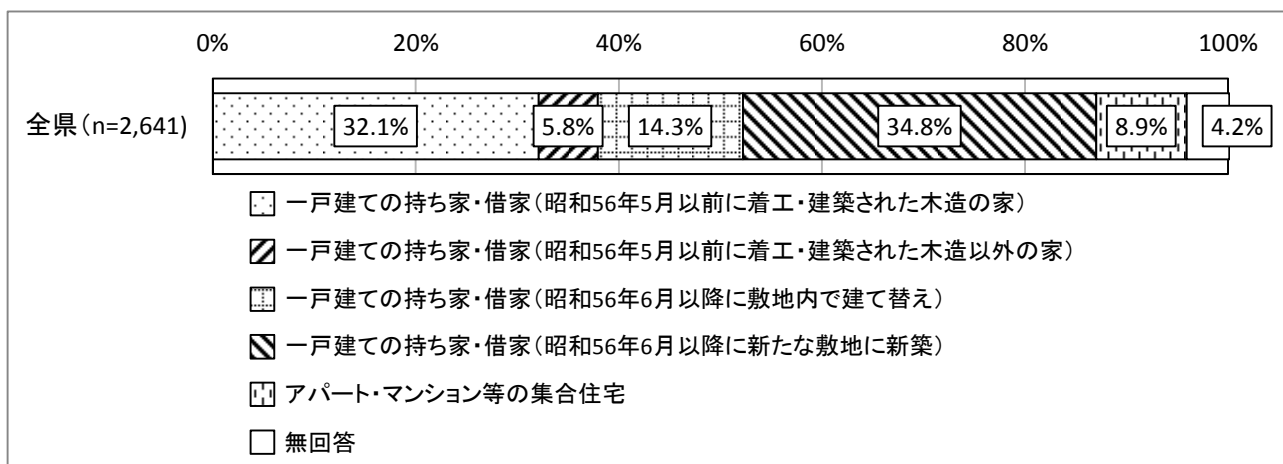
3.4.1 住まいの状況

【問 28】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ○)
 ※増築等がある場合は、一番古い建物でお答えください。

1. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家)	→問 29 へ
2. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造以外の家)	→問 30 へ
3. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 6 月以降に敷地内で建て替え)	→問 30 へ
4. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 6 月以降に新たな敷地に新築)	→問 36 へ
5. アパート・マンション等の集合住宅	→問 36 へ

調査結果

図 3.4.1 住まいの状況 -全県-



【問 29】 以下の設問のための基礎データとして収集しました。

3.4.2 耐震化に向けた補助制度の認知度

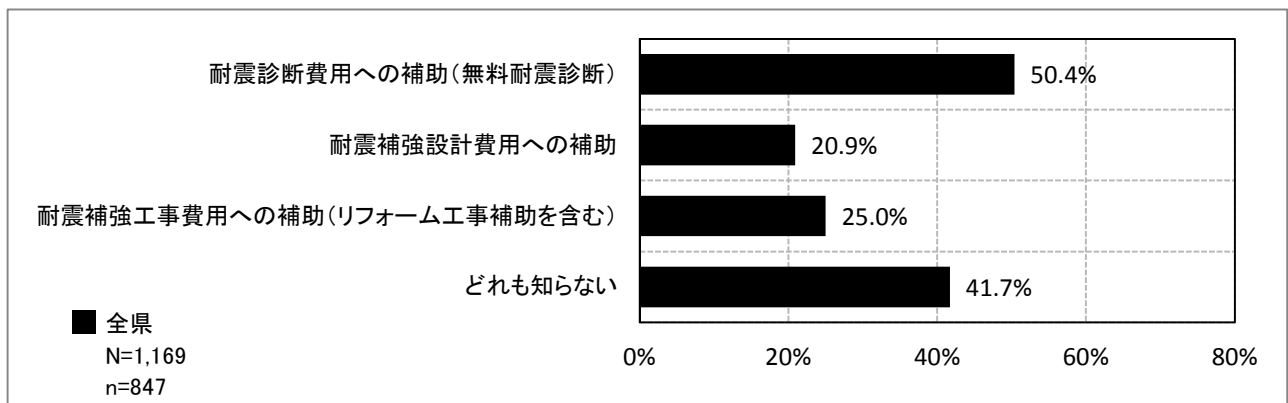
【問 29】 県及び市町では、昭和 56 年 5 月 31 日以前に建築された（着工を含む）木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度をご存知ですか。

（いくつでも○）

1. 耐震診断費用への補助（無料耐震診断）
2. 耐震補強設計費用への補助
3. 耐震補強工事費用への補助（リフォーム工事補助を含む）
4. どれも知らない

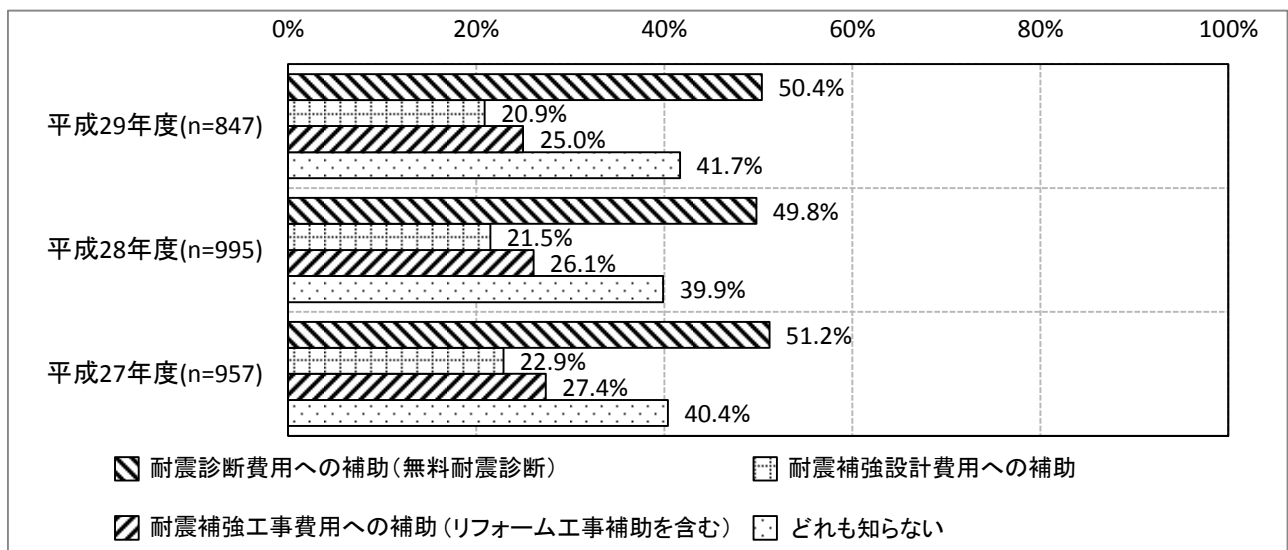
調査結果

図 3.4.2 (1) 耐震化に向けた補助制度の認知度 -全県-〈複数回答〉



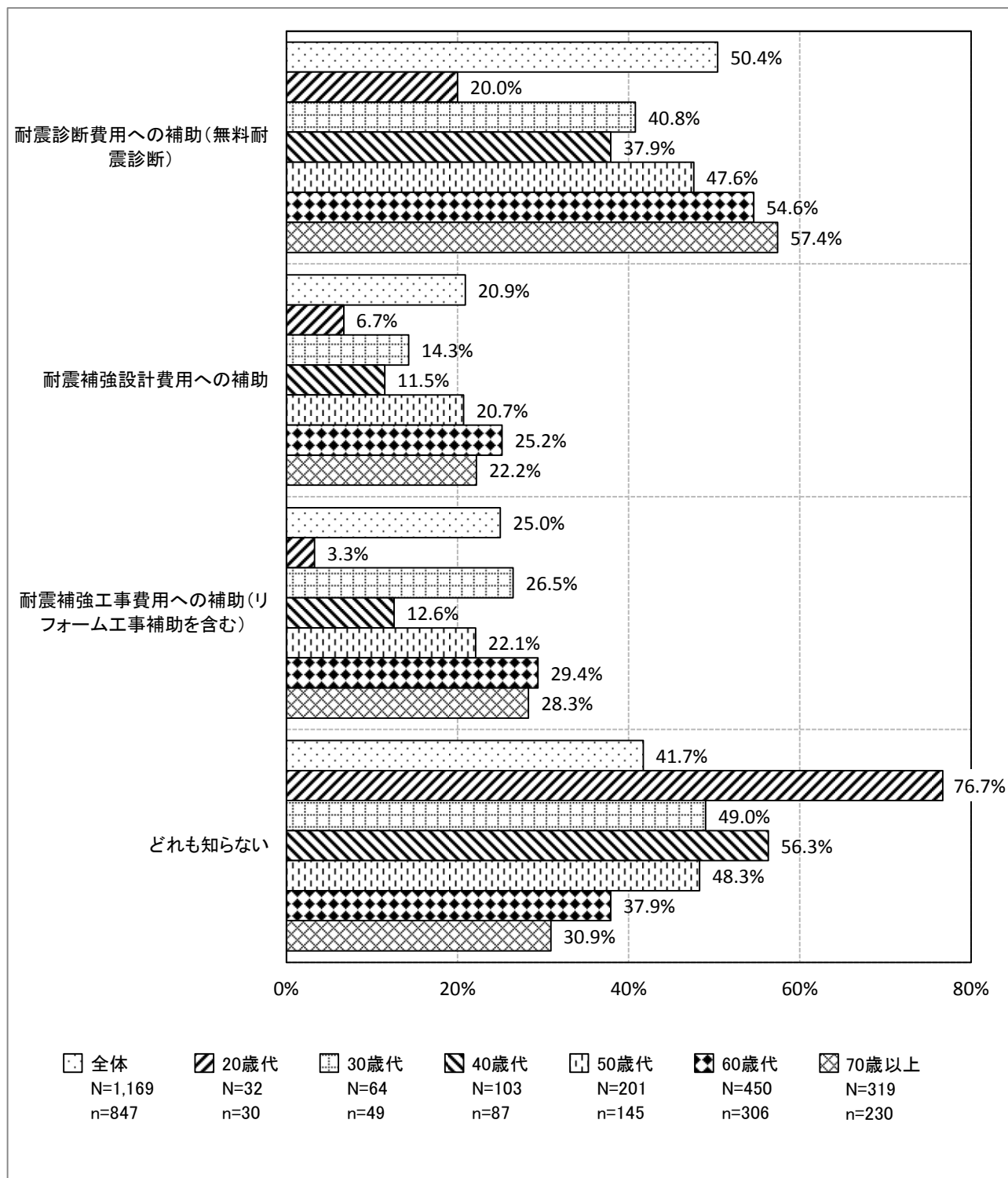
- 「耐震診断費用への補助（無料耐震診断）」と答えた方の割合が最も多く 50.4%と半数以上の方に認知されています。
- 一方、「どれも知らない」と答えた方の割合は約4割でした。

図 3.4.2 (2) 耐震化に向けた補助制度の認知度
木造住宅耐震診断費用補助制度の認知度 -全県経年変化-



- 経年変化でみると、すべての補助制度で大きな変化はありません。

図 3.4.2 (3) 耐震化に向けた補助制度の認知度 -全体及び年代別- <複数回答>



- 年代別にみると、すべての項目について、年代が高くなるにつれ認知度が高くなる傾向があります。20歳代で「どれも知らない」と答えた方の割合が約8割となっています。
- 「耐震診断費用への補助(無料耐震診断)」については、60歳代、70歳以上で半数を超える方が認知しています。

3.4.3 耐震診断の受診の有無と診断結果

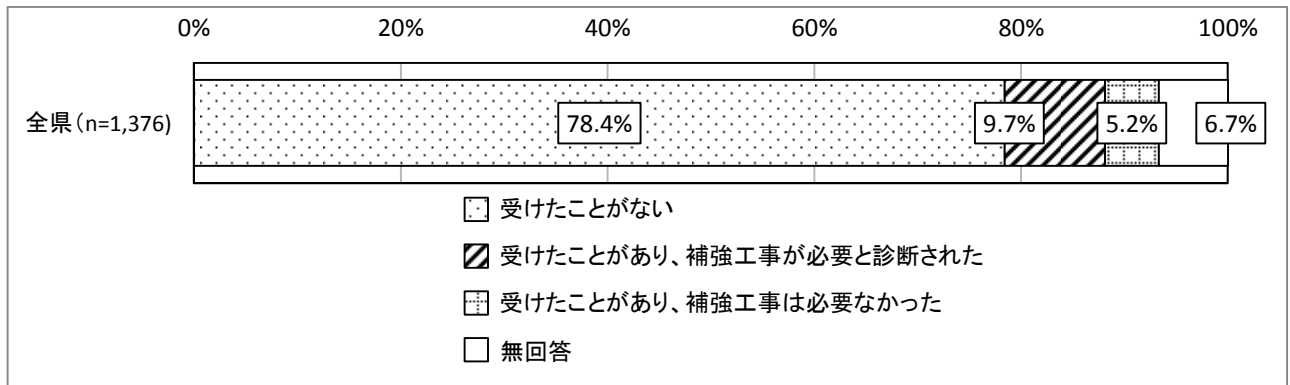
【問 30】 あなたのご自宅（同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む）は、耐震診断を受けたことがありますか。

受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。（一つだけ〇）

- 1. 受けたことがない →問 30-1 へ
- 2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された →問 30-2 へ
- 3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった →問 36 へ

調査結果

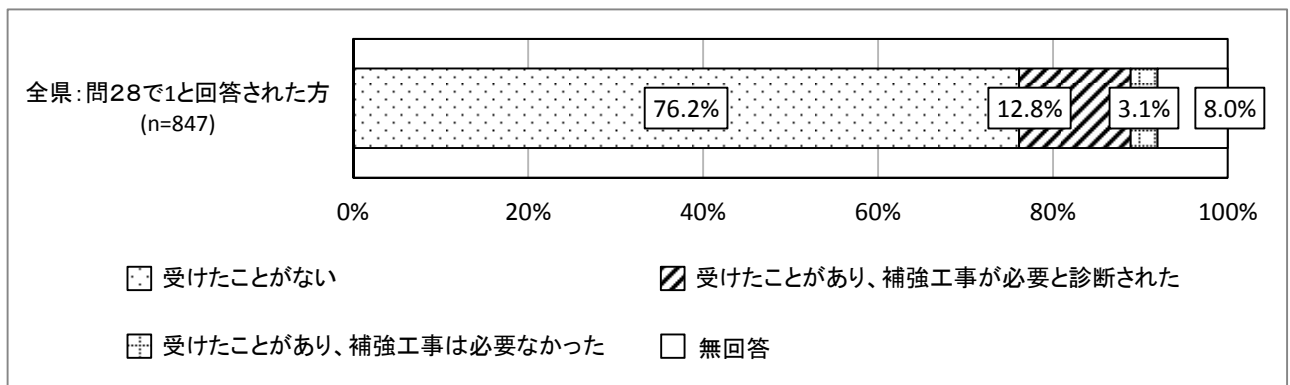
図 3.4.3 (1) 耐震診断の受診の有無と診断結果 -全県-



- 「受けたことがない」と答えた方の割合が約 8 割となっています。
- 一方、「受けたことがある」と答えた方の割合の合計は、14.9%でした。

図 3.4.3 (2) 耐震診断の受診の有無と診断結果

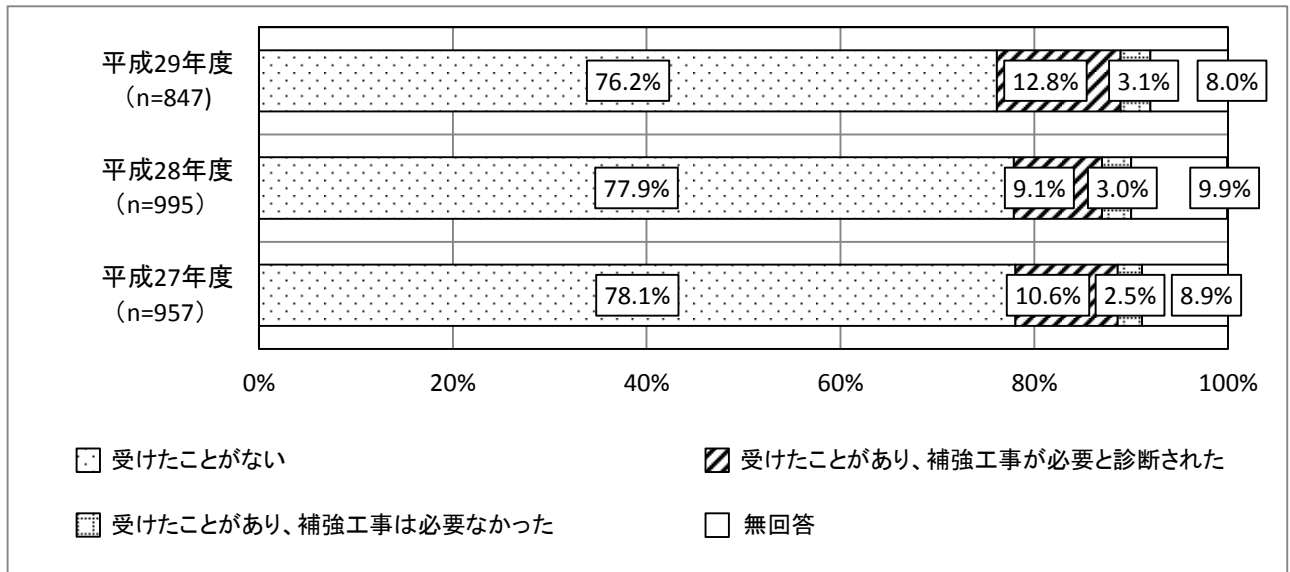
問 28 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方



- 問 28 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と答えた方に絞ったデータを見ると、「受けたことがない」と答えた方の割合は 76.2%と全体の 78.4%より約 2 ポイント少なく、また、「受けたことがある」と答えた方の割合は 15.9%と 1 ポイント多くなっていますが、全体の数値と大きな違いはありませんでした。

図 3.4.3 (3) 耐震診断の受診の有無と診断結果

問 28 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」
と回答された方 -経年変化-



- 問 28 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と答えた方の経年変化をみると、年度による顕著な変化はありませんが、年々「受けたことがない」と答えた方の割合がゆるやかですが減少しています。

3.4.4 耐震診断を受けない理由

【問 30-1】 問 30 で、「1.(耐震診断を)受けたことがない」と回答された方にお尋ねします。耐震診断を受けない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 近く建て替える予定だから(予定だったから)
2. 耐震化しても大地震の被害は避けられないと思うから
3. 診断を受けなくても地震に弱いことがわかっているから
4. 診断を受けなくても地震に強いことがわかっているから
5. 手間がかかるから
6. 部屋の中を見られるのがいやだから
7. 診断費用がかかるから
8. 診断の結果、補強が必要になっても費用が出せないから
9. 当分の間大地震は起きないと思うから
10. 診断の受け方がわからないから
11. 借家だから
12. 耐震診断を受けずに補強工事を行ったから
13. その他 具体的に：

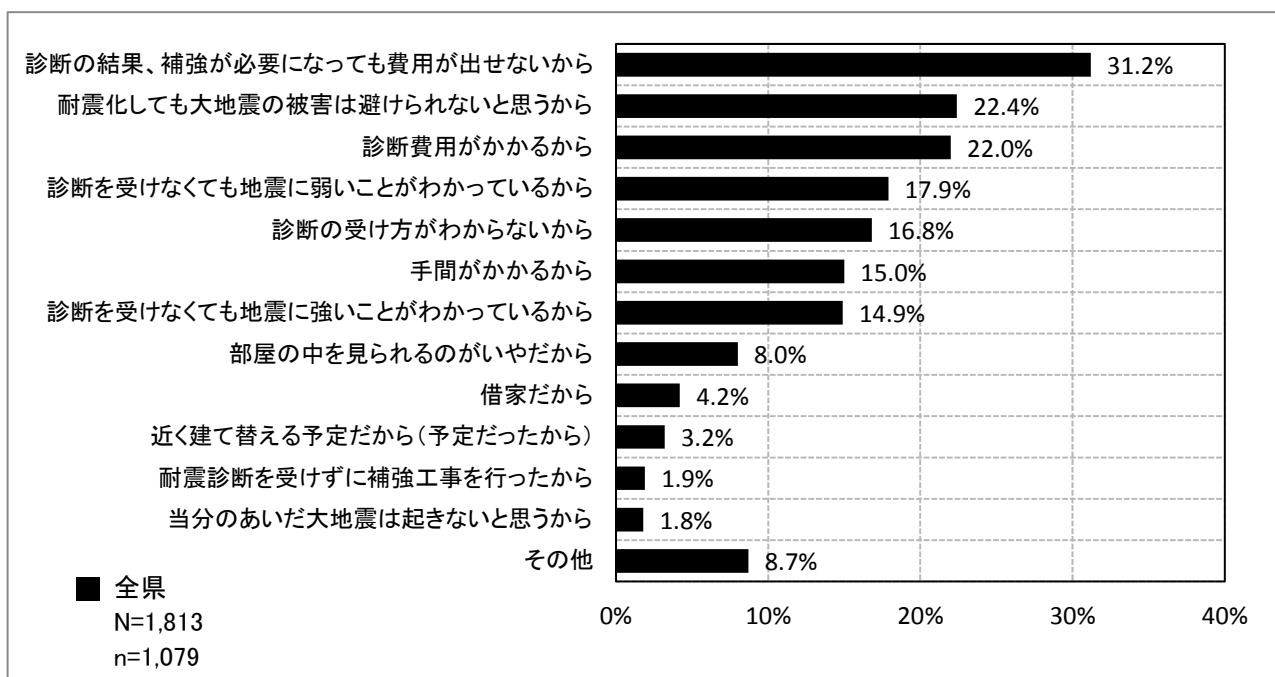
→問 36 へ

→問 31-1、問 31-2 へ

→問 36 へ

調査結果

図 3.4.4 耐震診断を受けない理由 -全県(多い順) - (複数回答)



- ・ 「診断の結果、補強が必要になっても費用が出せないから」が31.2%で最も多く、次いで「耐震化しても大地震の被害は避けられないと思うから」が22.4%、「診断費用がかかるから」が22.0%、「診断を受けなくても地震に弱いことがわかっているから」が17.9%となっています。
- ・ 「その他」の回答について見ると、一般地域では「診断を受けたくて市役所に行ったが築年数が古く何年かわからず受ける事が出来なかった」の回答が、津波危険地域では「耐震診断を申込んだが、「予算がない」と言われた。受けられなかった。」の回答がありました。

3.4.5 補強工事を行ったか

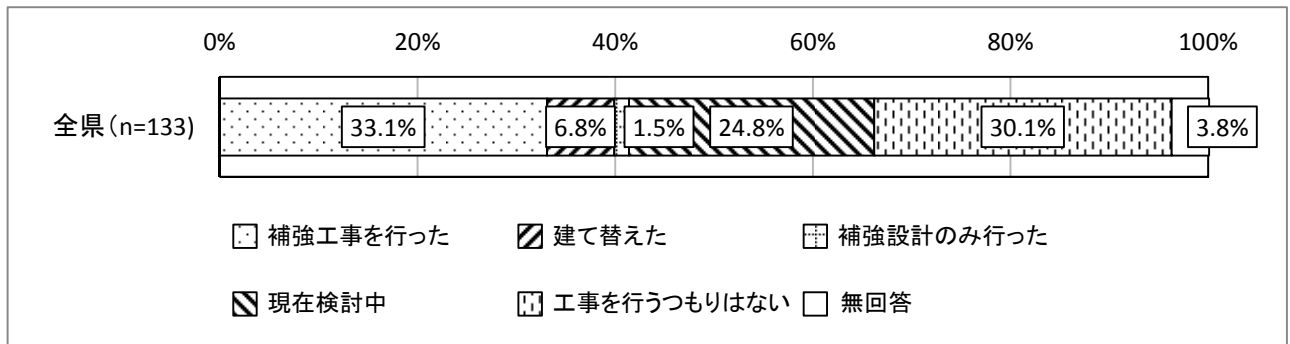
【問 30-2】 問 30 で「2.受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。

(一つだけ〇)

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 補強工事を行った | →問 31 へ |
| 2. 建て替えた | →問 36 へ |
| 3. 補強設計のみ行った | →問 36 へ |
| 4. 現在検討中 | →問 32 へ |
| 5. 工事を行うつもりはない | →問 32 へ |

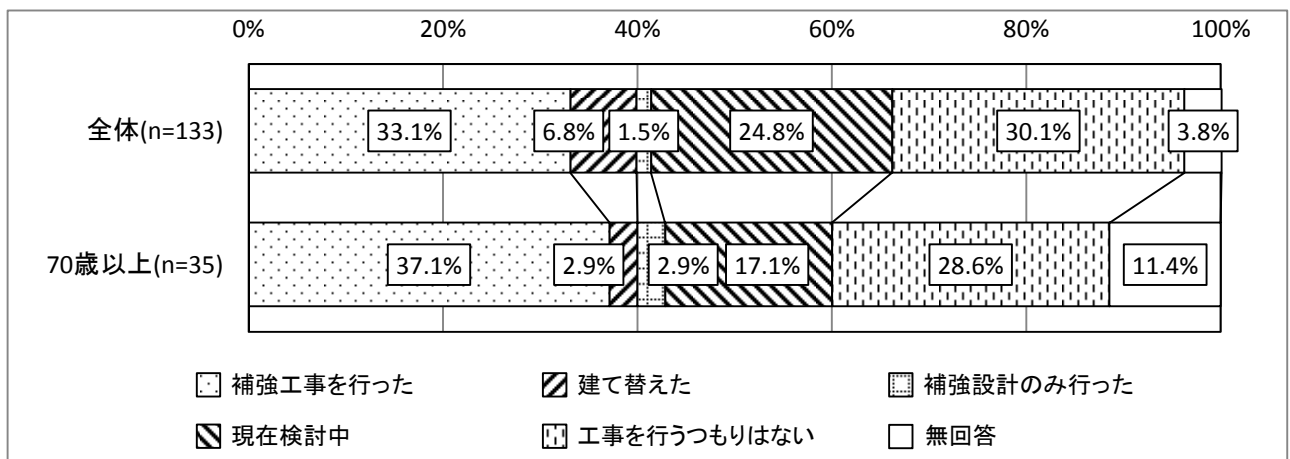
調査結果

図 3.4.5 (1) 補強工事を行ったか -全県- (すべての一戸建て)



- 「補強工事を行ったか」については、「補強工事を行った」が 33.1%、「建て替えた」が 6.8%となっており、耐震補強が必要と診断された方の約 4 割が住宅の耐震化を行っています。
- 一方、「工事を行うつもりはない」と答えた方の割合は 30.1%でした。

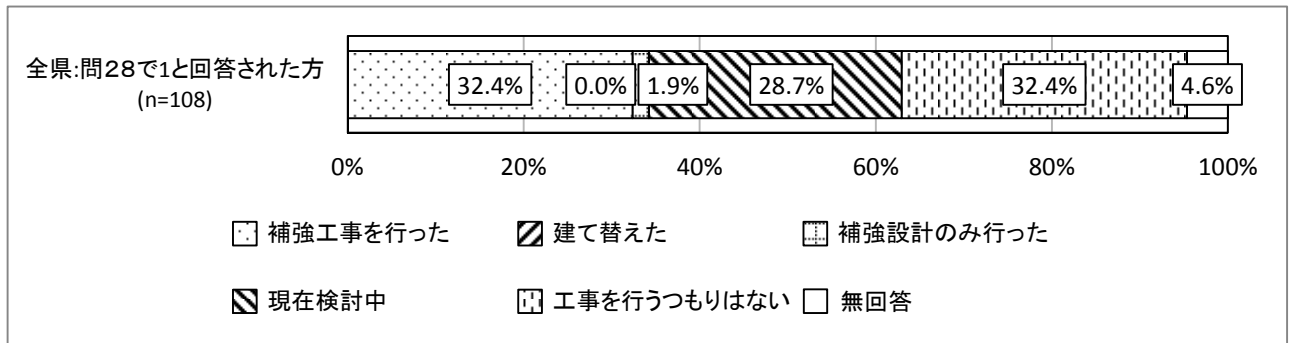
図 3.4.5 (2) 補強工事を行ったか -全体及び 70 歳以上-



- 「補強工事を行ったか」について、全体と 70 歳以上を比較すると「補強工事を行った」と「建て替えた」の合計はほぼ同じですが、「補強工事を行った」では全体が 33.1%であるのに対し、70 歳以上では 37.1%と 4 ポイント多くなっています。

図 3.4.5 (3) 補強工事を行ったか -全県-

問 28 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方 -全県-



- 問 28 で 1 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と回答された方」に絞ったデータでみると、「補強工事を行った」が 32.4%となっています。

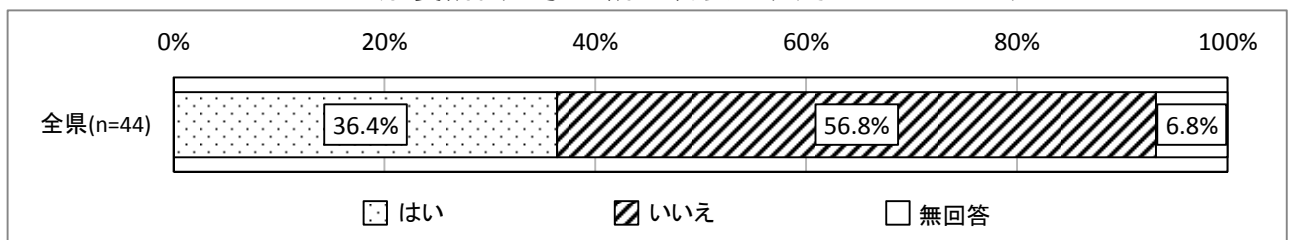
3.4.6 耐震補強工事の補助制度を利用したか

【問 31】 問 30-2 で、「1.補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事に対する行政の補助制度を利用されましたか。（一つだけ〇）

- はい →問 36 へ
- いいえ →問 31-1 へ

調査結果

図 3.4.6 耐震補強工事の補助制度を利用したか -全県-



- 補強工事を行った方で耐震補強工事の補助制度を利用した方の割合は約 4 割となっています。

3.4.7 どのような補強工事を行ったか

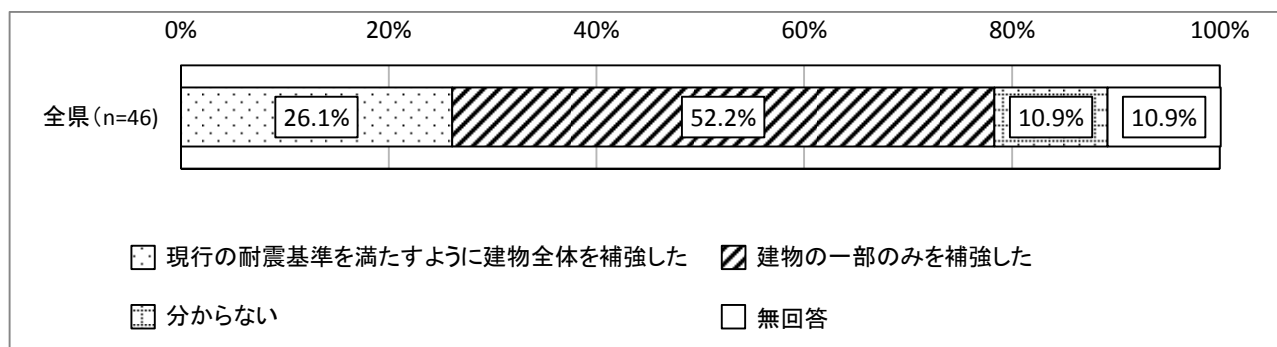
【問 31-1】 問 30-1 で「12.耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 31 で、「2.いいえ」と回答された方にお尋ねします。どのような耐震補強工事を行いましたか。
(一つだけ〇)

1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した
2. 建物の一部のみを補強した
3. 分からない

} 問 31-2 へ
→問 36 へ

調査結果

図 3.4.7 どのような補強工事を行ったか -全県-



- 問 30-1 で「12.耐震診断を受けずに補強工事を行った」と答えた方、および問 31 で、「2.いいえ」と答えた方がどのような補強工事を行ったかについてみると、「建物の一部のみを補強した」が 52.2%と最も多く、「現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」が 26.1%となっています。

3.4.8 耐震補強を行った時の工事費

【問 31-2】 問 30-1 で「12.耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 31-1 で、「1.現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、「2.建物の一部のみを補強した」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事費はいくら位かかりましたか。

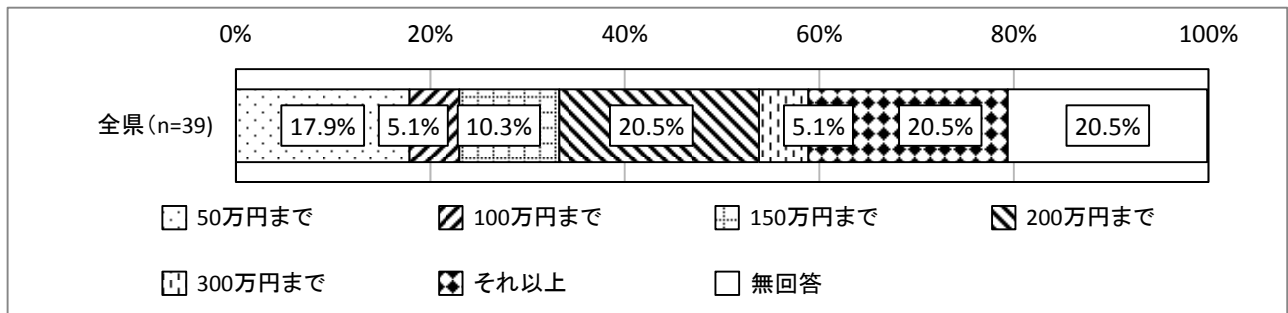
(一つだけ○)

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上 ()万円位

問 36 へ

調査結果

図 3.4.8 耐震補強を行った時の工事費 -全県-



- 問 30-1 で「12.耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 31-1 で、「1.現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」「2.建物の一部のみを補強した」と回答された方の耐震補強工事費については、「200万円まで」と「それ以上」が20.5%で最も多く、合計で41.0%となっています。

3.4.9 耐震補強をしない理由

【問 32】 問 30-2 で「4.現在検討中」、「5.工事を行うつもりはない」と答えた方にお尋ねします。
耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何ですか。

(いくつでも○)

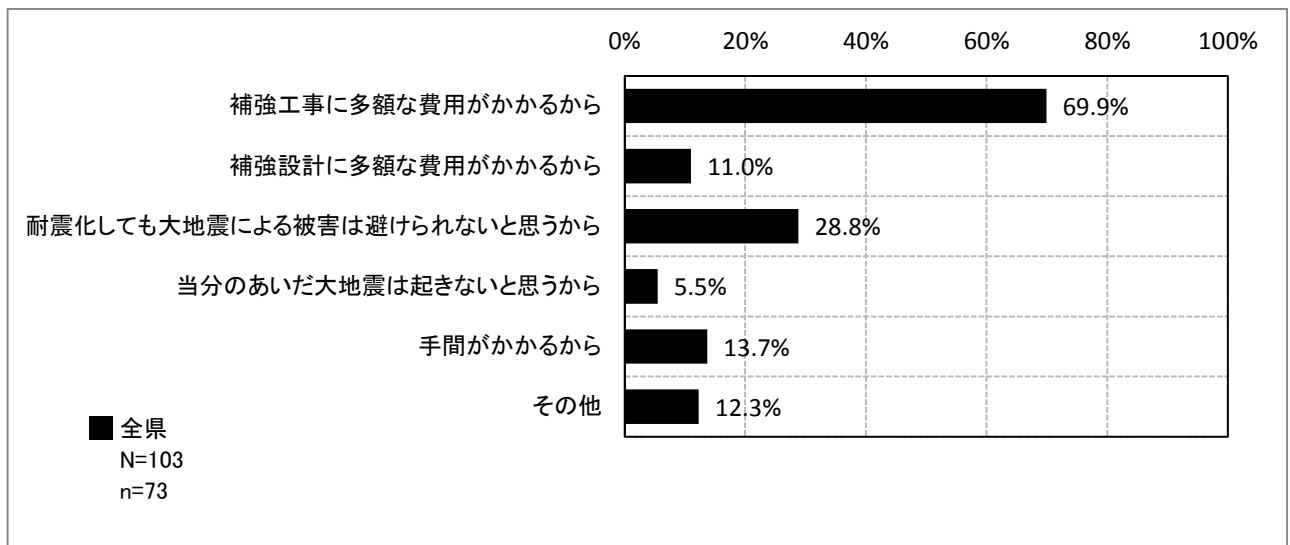
1. 補強工事に多額な費用がかかるから
2. 補強設計に多額な費用がかかるから
3. 耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから
4. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから
5. 手間がかかるから
6. その他 具体的に：

→問 33、問 34 へ

問 36 へ

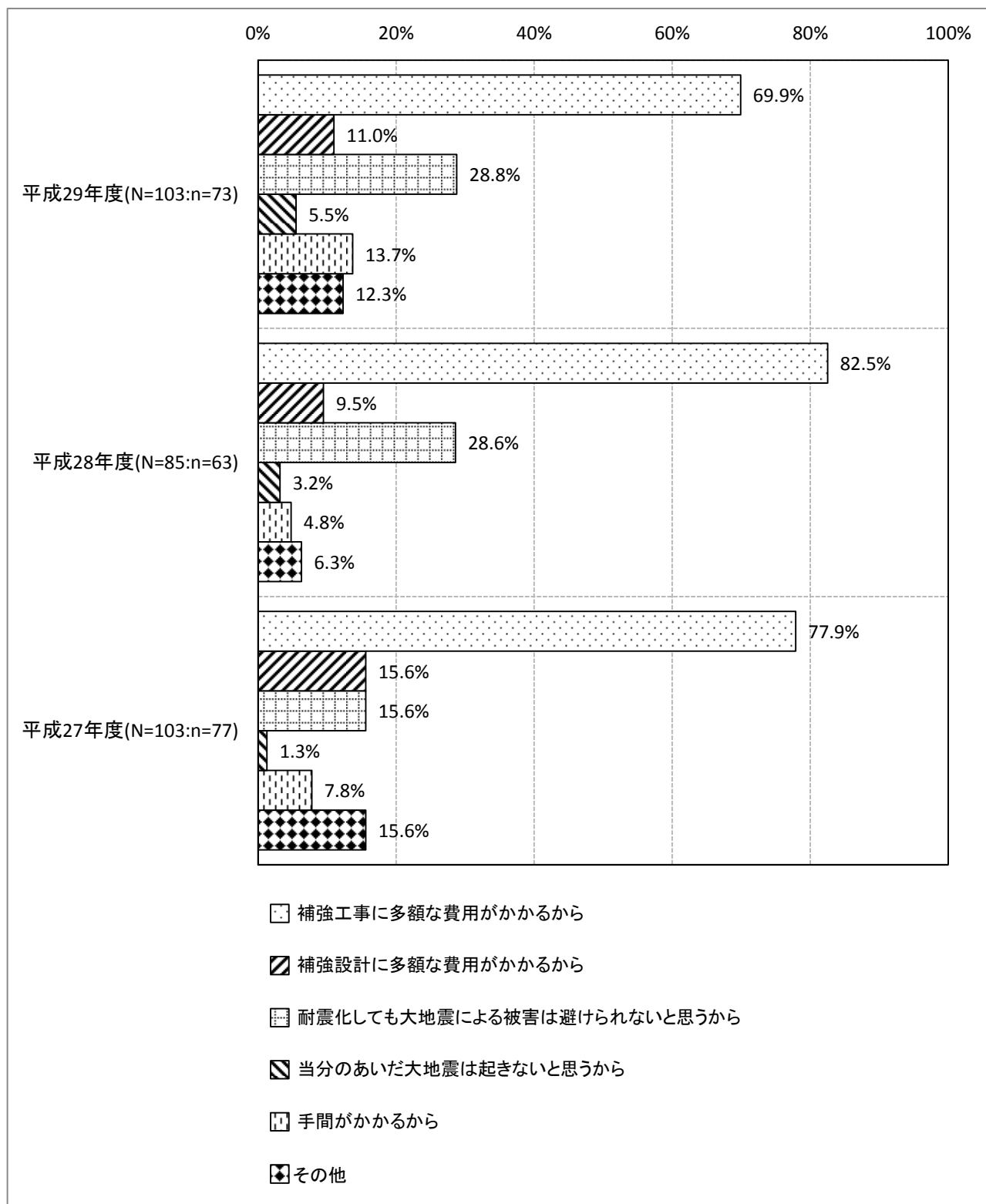
調査結果

図 3.4.9 (1) 耐震補強をしない理由 -全県- (複数回答)



- 問 30-2 で「4.現在検討中」、「5.工事を行うつもりはない」と答えた方の「耐震補強をしない理由」については、「補強工事に多額な費用がかかるから」が 69.9%と最も多く、次いで「耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから」が 28.8%でした。
- 「その他」の理由について、「将来、補強しても住人がいなくなるからお金を使わない方が良くかと。その分、老後単身になってお金が必要になった時のため、残しておきたいから。」の回答がありました。

図 3.4.9 (2) 耐震補強をしない理由 -全県経年変化- (複数回答)



- 耐震補強をしない理由を経年変化で見ると、「補強工事に多額な費用がかかるから」が昨年度より10ポイント以上減少しています。

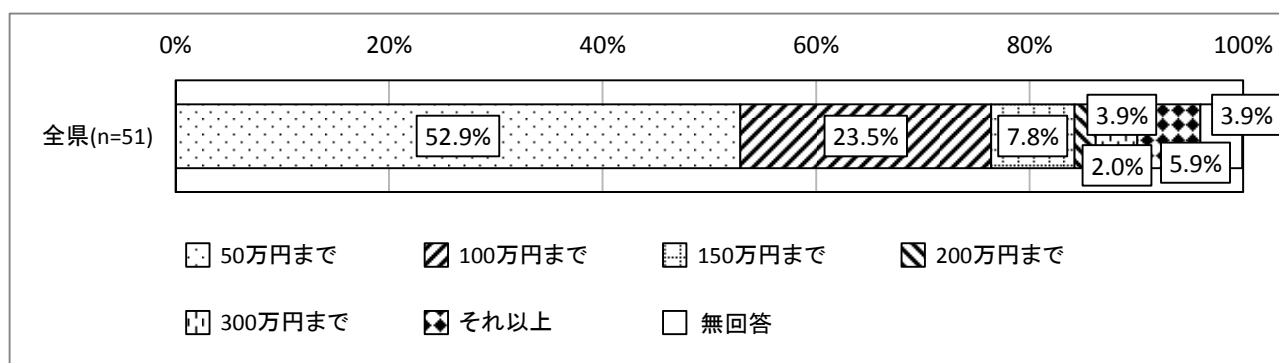
3.4.10 耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事）

【問 33】 問 32 で「1.補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方にお尋ねします。自己負担がいくら位までならご自宅の耐震補強を行いますか。（一つだけ〇）

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上（ ）万円位

調査結果

図 3.4.10 耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事） -全県-



- 耐震補強工事費の許容自己負担額（要補強工事）については、「50万円まで」が52.9%、「100万円まで」が23.5%で合計76.4%と、全体の4分の3以上を占めています。

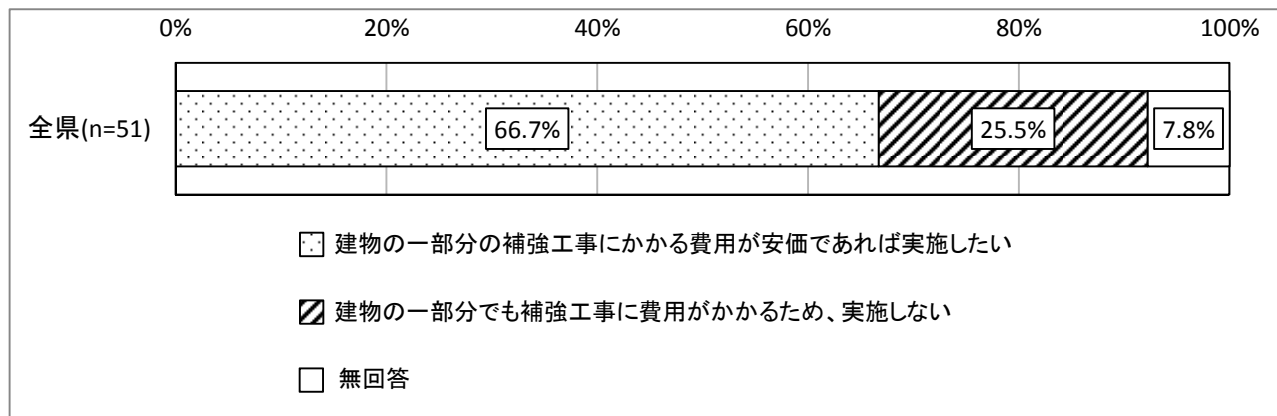
3.4.11 一部分のみの耐震補強工事

【問 34】 問 32 で「1.補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方にお尋ねします。建物全体の安全性は劣るものの建物の一部分（例えば壁 1 枚のみ）を耐震補強することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いますか。（一つだけ〇）

1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい →問 35 へ
2. 建物の一部分でも補強工事に費用がかかるため、実施しない →問 36 へ

調査結果

図 3.4.11 一部分のみの耐震補強工事 -全県-



- 問 32 で、「1.補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方の建物の部分耐震補強工事の実施に対する考え方については、「安価であれば、実施したい」と考えている方が 66.7%と、全体の 3 分の 2 を占めています。

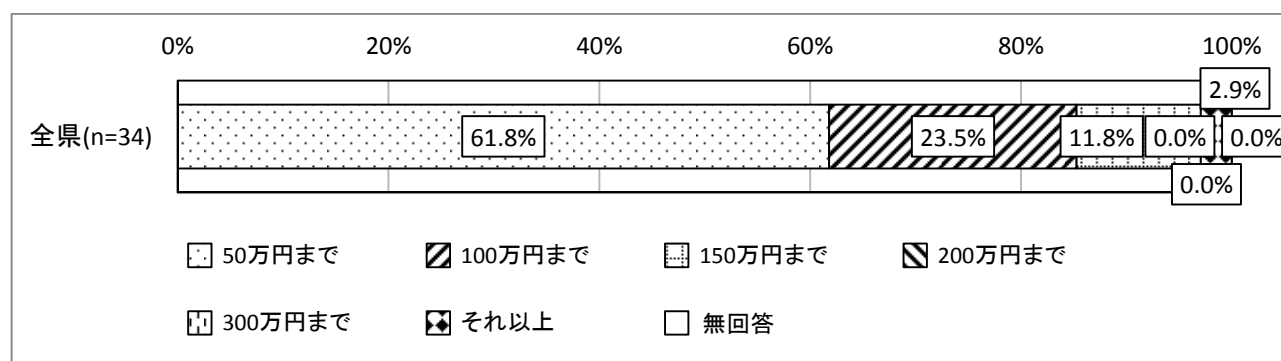
3.4.12 耐震補強工事費の許容自己負担額（一部分のみ）

【問 35】 問 34 で、「1.建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば実施したい」と回答された方にお尋ねします。自己負担がいくら位までならご自宅の耐震補強工事を行いますか。（一つだけ〇）

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上（ ）万円位

調査結果

図 3.4.12 耐震補強工事費の許容自己負担額 -全県-



- 問 34 で、「1. 建物の一部分の補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい」と答えた方の耐震補強工事費の許容自己負担額については、「50万円まで」が61.8%で最も多く、次いで「100万円まで」が23.5%と合計で85.3%の方が「100万円まで（50万円までを含む）」であれば一部分のみの補強工事を行うと答えています。

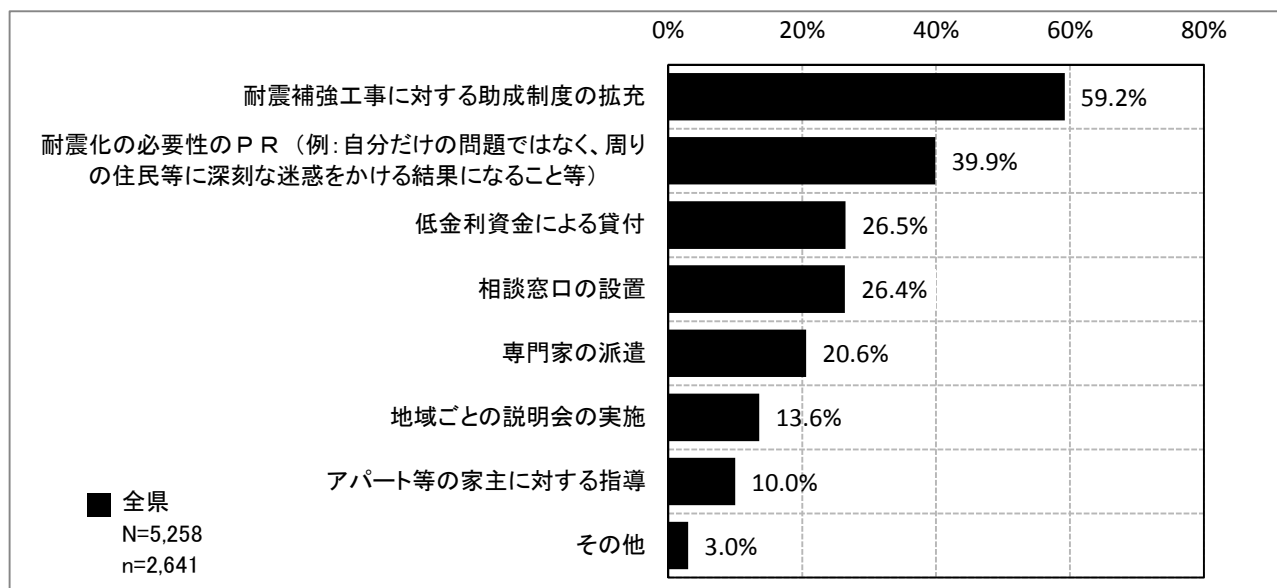
3.4.13 住まいの耐震化を進める取組

【問 36】 あなたは、どのような取組が住まいの耐震化を進めるにあたって効果が大きいと思いますか。（いくつでも〇）

1. 耐震化の必要性のPR（例：自分だけの問題ではなく、周りの住民等に深刻な迷惑をかける結果になること等）
2. 低金利資金による貸付
3. 専門家の派遣
4. 相談窓口の設置
5. 耐震補強工事に対する助成制度の拡充
6. アパート等の家主に対する指導
7. 地域ごとの説明会の実施
8. その他 具体的に：

調査結果

図 3.4.13 住まいの耐震化を進める取組 -全県（多い順）- （複数回答）



- 「耐震補強工事に対する助成制度の拡充」が59.2%で最も多く、次いで「耐震化の必要性のPR（例：自分だけの問題ではなく、周りの住民等に深刻な迷惑をかける結果になること等）」が39.9%、「低金利資金による貸付」が26.5%、「相談窓口の設置」が26.4%となっています。
- 「その他」の回答では、「時間はかかるが個別訪問して少しずつ根気よく減災につなげるか、空き家対策を何とかするよりない」、「耐震化を理由に不必要な工事をせまる業者の取り締まりと、県から信用性の高い業者の設定と市民全体への周知」などの回答がありました。

3.5 アンケート調査回答者の属性

3.5.1 住所

【F1】 ご自宅のある市町は
市町名 ()

図 3.5.1 住所

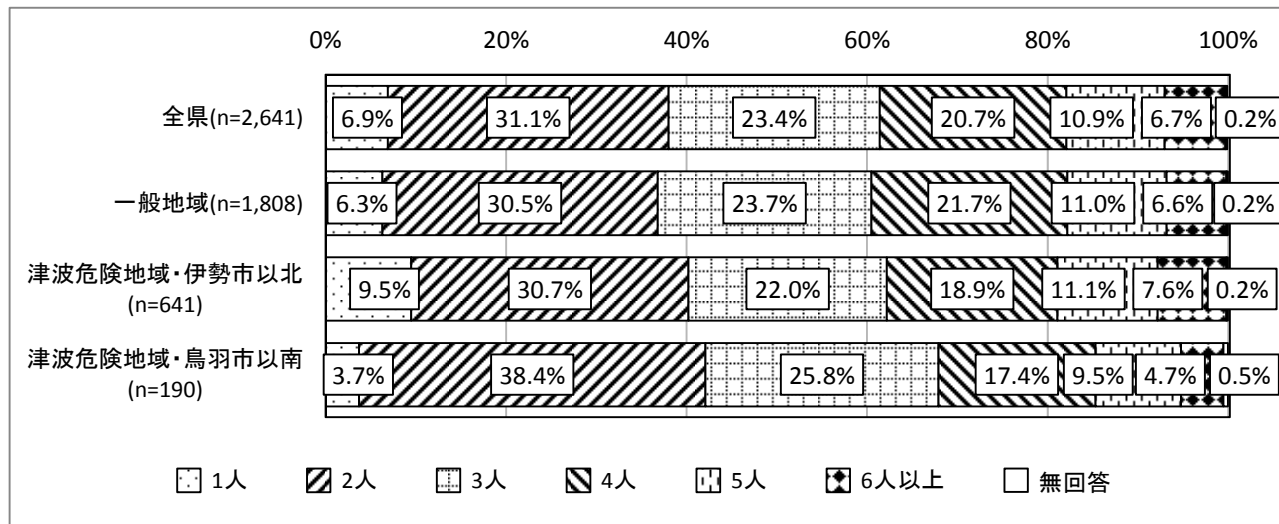


3.5.4 家族人員

【F4】 何人家族ですか

- | | | |
|-------|-------|---------|
| 1. 1人 | 2. 2人 | 3. 3人 |
| 4. 4人 | 5. 5人 | 6. 6人以上 |

図 3.5.4 家族人員



資 料

- 津波危険地域一覧
- 使用した調査票

○津波危険地域一覽

以下の「対象町名」は、三重県が平成24年3月に公表した予測において浸水が想定される町名（部分的な浸水を含む）で、平成24年度の調査の際に各市町確認の上で分類し、「津波危険地域」として統計しました。

市町名	対象町名
津市	白塚町、栗真小川町、栗真中山町、栗真町屋町、一身田中野、一身田豊野、一身田平野、栄町、桜橋、上浜町、江戸橋、島崎町、港町、海岸町、末広町、高洲町、住吉町、藤枝町、津興、藤方、高茶屋小森町、高茶屋小森上野町、雲出本郷町、雲出長常町、雲出伊倉津町、雲出鋼管町、河芸町中別保、河芸町一色、河芸町影重、河芸町上野、河芸町東千里、河芸町中瀬、香良洲町
四日市市	稲葉町、大協町1丁目、大協町2丁目、高砂町、尾上町、千歳町、末広町、東邦町、塩浜町、大字塩浜、石原町、三田町、川合町、天力須賀1丁目、天力須賀2丁目、天力須賀3丁目、天力須賀4丁目、天力須賀5丁目、住吉町、平町、松原町、富洲原町、富田一色町、天力須賀新町、富双1丁目、富双2丁目、東富田町、富田1丁目、富田2丁目、富田3丁目、富田4丁目、南富田町、茂福町、東茂福町、富田浜元町、富田浜町、浜園町、霞1丁目、霞2丁目、大字茂福、羽津町、午起3丁目、三郎町、楠町南五味塚、楠町北五味塚、楠町吉崎、楠町小倉
伊勢市	楠部町、下野町、竹ヶ鼻町、神社港、馬瀬町、大湊町、朝熊町、東豊浜町、榎原町、西豊浜町、磯町、有滝町、村松町、東大淀町、二見町松下、二見町江、二見町茶屋、二見町三津、二見町山田原、二見町溝口、二見町荘、二見町西、二見町今一色、二見町光の街、御園町上條、御園町小林、御園町新開
松阪市	大口町、東久保町、新松ヶ島町、町平尾町、獺師町、松崎浦町、松ヶ島町、六軒町、西黒部町、松名瀬町、高須町、東黒部町、柿木原町、土古路町、出間町、大垣内町、蓮花寺町、神守町、牛草町、垣内田町、乙部町、市場庄町、曾原町、中道町、小津町、喜多村新田町、笠松町、皇合町、五主町
桑名市	吉之丸、三之丸、片町、江戸町、川口町、船馬町、清水町、宝殿町、春日町、風呂町、本町、北魚町、三崎通、相生町、殿町、田町、南魚町、油町、職人町、宮通、京町、吉津屋町、鍛冶町、入江葎町、紺屋町、内堀、伊賀町、柳原、新屋敷、八幡町、外堀、萱町、伝馬町、新町、一色町、矢田磧、西鍋屋町、北鍋屋町、東鍋屋町、南寺町、北寺町、今片町、堤原、今中町、今北町、太一丸、住吉町、大字赤須賀、大字江場、掛樋、大字大福、大字桑名、中央町、中央町一丁目、中央町三丁目、中央町四丁目、中央町五丁目、新築町、常盤町、京橋町、三栄町、八間通、寿町一丁目、寿町二丁目、寿町三丁目、末広町、桑栄町、有楽町、駅元町、参宮通、蓮見町、福島新町、大字東方、大字播磨、大字東汰上、大字蠣塚新田、大字福島、大字上之輪、大字上深谷部、大字今島、大字安永、大字和泉、大字小泉、大字大貝須、大字小貝須、大字福地、大字福江、大字地藏、大字東野、大字萱町、大字立田町、大字太平町、大字福岡町、長島町長島萱町、長島町長島中町、長島町長島下町、長島町又木、長島町源部外面、長島町殿名、長島町東殿名、長島町押付、長島町小島、長島町大倉、長島町出口、長島町間々、長島町高座、長島町中川、長島町平方、長島町西外面、長島町十日外面、長島町大島、長島町駒江、長島町松ヶ島、長島町千倉、長島町下坂手、長島町上坂手、長島町杉江、長島町松之木、長島町新所、長島町西川、長島町鎌ヶ地、長島町葎ヶ須、長島町赤地、長島町福豊、長島町福吉、長島町白鷄、長島町横満蔵、長島町松蔭、長島町浦安、長島町老松
鈴鹿市	寺家町、寺家1丁目、寺家2丁目、寺家3丁目、寺家4丁目、白子1丁目、白子本町、江島本町、東江島町、南長太町、長太新町3丁目、長太新町4丁目、長太旭町6丁目、長太栄町4丁目、長太栄町5丁目、中箕田町、北堀江町、下箕田町、下箕田1丁目、下箕田2丁目、下箕田3丁目、南若松町、北若松町、若松中1丁目、若松東1丁目、若松東2丁目、若松東3丁目、若松北3丁目、磯山町、東磯山1丁目、東磯山2丁目、東磯山3丁目、東磯山4丁目、磯山1丁目、磯山2丁目、磯山3丁目

市町名	対象町名
尾鷲市	林町、中央町、朝日町、港町、中井町、栄町、中村町、野地町、坂場町、宮ノ上町、北浦町、大字天満浦、大字向井、大字大曾根浦、大字行野浦、須賀利町、九鬼町、早田町、三木里町、名柄町、小脇町、三木浦町、古江町、賀田町、曾根町、梶賀町、小川東町、瀬木山町、中川、矢浜1丁目、矢浜3丁目、矢浜4丁目、北浦西町、北浦東町、矢浜大道、国市松泉町
鳥羽市	鳥羽1丁目、鳥羽2丁目、鳥羽3丁目、鳥羽4丁目、鳥羽5丁目、小浜町、堅神町、池上町、安楽島町、大明東町、大明西町、船津町、相差町、国崎町、畔蛸町、千賀町、堅子町、石鏡町、浦村町、桃取町、答志町、菅島町、神島町、坂手町
熊野市	須野町、甫母町、二木島里町、二木島町、遊木町、新鹿町、波田須町、磯崎町、大泊町、木本町、井戸町、有馬町、久生屋町
志摩市	阿児町鶴方、阿児町神明、阿児町立神、阿児町志島、阿児町甲賀、阿児町国府、阿児町安乗、浜島町浜島、浜島町南張、浜島町檜山路、浜島町塩屋、浜島町迫子、大王町波切、大王町船越、大王町畔名、大王町名田、志摩町片田、志摩町布施田、志摩町和具、志摩町越賀、志摩町御座、磯部町下之郷、磯部町飯浜、磯部町穴川、磯部町坂崎、磯部町の矢、磯部町三ヶ所、磯部町渡鹿野
桑名郡木曾岬町	全域
三重郡朝日町	大字縄生、大字小向、大字柿
三重郡川越町	全域
多気郡明和町	大字川尻、大字北藤原、大字浜田、大字八木戸、大字根倉、大字養川、大字中村、大字南藤原、大字内座、大字大堀川新田、大字大淀甲、大字大淀乙、大字山大淀、大字大淀
度会郡大紀町	錦
度会郡南伊勢町	五ヶ所浦、船越、中津浜浦、飯満、内瀬、伊勢路、迫間浦、磯浦、相賀浦、田曾浦、宿浦、泉、神津佐、下津浦、木谷、棚橋竈、新桑竈、古和浦、栃木竈、小方竈、方座浦、神前浦、村山、河内、東宮、奈屋浦、贄浦、慥柄浦、道方、大江、道行竈、阿曾浦、大方竈
北牟婁郡紀北町	三浦、道瀬、海野、長島、東長島、相賀、引本浦、矢口浦、白浦、島勝浦、古里
南牟婁郡御浜町	大字阿田和、大字下市木、大字志原
南牟婁郡紀宝町	井田、鶴殿、北檜杖、成川、鮎田

【問 2-2】 問 2 で「2. しばらく様子を見てから避難する」と答えられた方にお尋ねします。あなたが避難を選らせる主な理由は何か。(いくつでも○)

1. テレビ等で地震の規模や津波の危険性等を確認してから避難の必要性を検討するから
2. 市町から避難勧告や避難指示(緊急)が出た段階で避難を検討するから
3. 近所の人たちと相談して避難の必要性を検討するから
4. 電気やガス、水道が止まり、生活できなくなっから避難を検討するから
5. その他(具体的に:)

→問 3へ

【問 2-3】 問 2 で、「3. 避難しない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(いくつでも○)

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから
5. 内地地であるから
6. 自宅が安全だから
7. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
8. ペットを残して避難することに抵抗があるから
9. 面倒だから
10. その他(具体的に:)

→問 3へ

このアンケートでは、避難場所と避難所の用語について、次のとおり使い分けをしています。

※避難場所：津波や大規模水災等から緊急かつ一時的に避難するための場所
 ※避難所：災害により短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う建物(避難所が避難場所を兼ねている場合もあります。)

【問 3】 三重県では、「三重県地震被害想定調査結果」として、各地の震度予測や津波浸水予測等を公表しています。あなたは、この調査結果をご存知ですか。(一つだけ○)

1. 県のホームページで確認し、調査結果を知っている
2. 防災訓練や研修会等で教えてもらい、ある程度知っている
3. TVや新聞等を見て、概要は知っている
4. 地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない
5. 地震被害想定調査が行われたことを知らなかった

【問 4】 問 3 の「三重県地震被害想定調査結果」では沿岸地域にある市町について、津波浸水予測図や津波により浸水深 30 c m に到達するまでの到達予測時間分布図(※1)を公表しています。あなたは、ご自宅や職場、親族や友人の家等がどのように浸水するかを確認しましたか。(一つだけ○)

1. 自宅を含め、職場、親族や友人宅等、幅広く浸水状況を確認した
2. 自宅周辺のみ確認した
3. 確認していない
4. そのような予測図が公表されていることを知らなかった

※ 津波浸水深 30c m 到達予測時間分布図：
 津波からの避難行動がとれなくなる(動くことができなくなる)一つの目安とされている津波浸水深 30 c m に、どの場所がどのくらいの時間で達するかを時間に応じて色分けした予測図です。

【問 5】 昨年は 4 月に熊本地震、10 月には鳥取県中部地震が発生しましたが、これらの地震を受け、あなたはお住まいの地域での内陸直下型地震の危険性についてどの程度知っていますか。(一つだけ○)

1. 熊本地震・鳥取県中部地震が発生する以前から、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知っていた。
2. 熊本地震・鳥取県中部地震が発生して、内陸直下型地震の危険性を実感したので、情報収集を行い、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知った。
3. 熊本地震・鳥取県中部地震が発生してから、内陸直下型地震の危険性を実感したが、自宅周辺に活断層があるかどうか、確認することはしていない
4. 内陸直下型地震の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えたことがない。

～風水害対策について～

【問6】 気象庁は、平成29年7月から大雨警報（浸水害）の危険度分布、洪水警報の危険度分布をホームページで提供しています。この情報について、あなたはどの程度ご存じですか。（一つだけ○）

1. 耳にしたことはあるが、実際に見たことはない
2. 「平成29年7月九州北部豪雨」等の際に、ニュースなどテレビ番組の解説で見たことがある
3. 実際の大雨時に、気象庁ホームページで危険度分布を確認した事がある
4. 知らない

※大雨警報（浸水害）、洪水警報の危険度分布：
 大雨警報や洪水警報が発表されるような重大な災害が発生するおそれがある状況で、お住まい等の地域における危険度の高まりを把握するための情報
 なお、気象庁ホームページの該当アドレスは次のとおりです。
 大雨警報（浸水害）の危険度分布 <http://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/ inund.html>
 洪水警報の危険度分布 <http://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/ flood.html>

【問7】 あなたがお住まいの地域の風水害（高潮や川のはん濫、土石流、がけ崩れ、地すべり等）の危険性について、どの程度ご存知ですか。（いくつでも○）

1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている
2. 川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている
3. 内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている
4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあることを知っている
5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている
6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らないまたはあまり考えたことがない

※内水はん濫：局地的大雨等で下水道施設や小河川の水位が増加し、排水が間に合わずに溢れ出した水により、建物や土埋、道路等が浸水する風水害

【問7-1】 問7で、「1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている」、「2. 川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「3. 内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあることを知っている」と回答されている」と回答された方にお尋ねします。あなたのお住まいの地域に危険があることを何でお知りになりましたか。（いくつでも○）

1. 過去に災害を経験しており、危険性を知っている
2. 行政機関が作成した防災マップ等で危険箇所を知っている
3. 地域の住民から危険箇所であることを教えてもらい、知っている
4. その他〔具体的に： 〕

【問8】 近年、国内では局地的な大雨が頻発し、甚大な浸水被害や土砂災害が発生しています。あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どのような避難行動を取りますか。（一つだけ○）

1. 移動が困難な状況であっても、自宅より安全な避難所等に避難しようとする
2. 周辺の様子を見て、避難するか自宅に留まるかを判断する
3. 気象情報等でこれまでの総雨量や今後の予報を確認して、避難するか自宅に留まるかを判断する
4. 市町から「避難勧告」や「避難指示（緊急）」等が出されてから避難するかしないかを考える
5. 避難しない（避難の必要がない）
6. わからない

【問9】 あなたは、台風や大雨等による避難勧告等がお住まいの地域に発表される等、身の回りに危険が近づいている状況で、自宅から離れた安全な場所に避難した経験がありますか。（一つだけ○）

1. 避難したことがある
2. 避難したことがない
3. そのような状況を経験したことがない

【問9-1】 問9で、「2. 避難したことがない」と回答された方にお尋ねします。あなたがお尋ねした理由として最も適切なものは次のうちどれですか。（一つだけ○）

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから
5. 自宅が安全だから（または、自宅の2階以上が安全であり、そこに移動するから）
6. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
7. ペットを残して避難することに抵抗があるから
8. 面倒だから
9. その他〔具体的に： 〕

～防災全般について～

★日頃の防災対策についてお尋ねします。

【問10】 あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。

(いくつでも○)

1. 3日分以上の飲料水を備蓄している(ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください)
2. 3日分以上の食料を常に確保している
3. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
4. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
5. 災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
6. 家族がはなればなれになつたときの待ち合わせ場所を決めている
7. 携帯電話やスマートフォンでの予備電源を確保している
8. 自家用車の燃料計が半分程度になった時点で、給油をしている
9. お風呂にいつも水を入れておく
10. ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
11. 消火器を用意している
12. 懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している
13. 枕元にスリッパを置いている
14. いつも笛を身につけている
15. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
16. 寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている
17. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
18. 感震ブレーカーを設置している
19. ペットの餌や水、ゲージ等、ペットの防災用品の準備や、避難先の検討等を行っている
20. その他(具体的に:)
21. 特に対策をとっていない

※感震ブレーカー:地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を遮断する器具

【問11】 ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビ等が転倒しないよう固定をしていますか。

(一つだけ○)

1. 大部分固定している →問12へ
2. 一部固定している
3. 固定していない →問11-1へ
4. 固定する必要がない

【問11-1】 問11で、「2.一部固定している」、「3.固定していない」、「4.固定する必要がない」と回答された方にお尋ねします。あなたのご自宅は、一部の家具固定や家具固定なしでも、けがをしない、家屋から脱出できなくなることがない等、安全な状態にありますか。(一つだけ○)

1. 安全な状態にある →問12へ
2. 安全な状態とは言えない →問11-2へ

【問11-2】 問11-1で「2.安全な状態とは言えない」と回答された方にお尋ねします。家具類の固定をしない理由は何か。(いくつでも○)

1. 大地震はすぐには起きないと思うから
2. 手間がかかるから
3. 費用がかかるから
4. 固定しても被害は出ると思うから
5. 固定の方法がわからないから
6. 借家だから
7. その他(具体的に:)

★防災情報の発信についてお尋ねします。

【問12】 「防災みえ.jp」ホームページをご存知ですか。(一つだけ○)

1. 知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時(以下「災害時」という。)に見たことがある →問13へ
2. 知っているが、災害時に見たことがない →問13-1へ
3. 知らない →問14へ
4. インターネットを使っていない →問14へ

【問13】 問12で「1.災害時に見たことがある」と答えた方にお尋ねします。「防災みえ.jp」ホームページのどのようなコンテンツを見られていますか。(いくつでも○)

1. 気象情報(天気・警報/注意報・雨量・水位等)
2. 避難情報(避難勧告・避難指示(緊急)等)
3. 避難所情報
4. 医療・救援情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン(電気・ガス・水道・電話通信)情報
7. 被害の個別情報(人的被害・建物被害等)
8. 火災情報
9. 土木施設被害情報
10. その他(具体的に:)

【問 13-1】 問 12 で「2. 知っているが、災害時に見たことがない」と答えた方にお尋ねします。災害時に「防災みえ.jp」ホームページを活用しない理由をお聞かせください。(いくつでも)

1. 他の手段 (TV、ラジオ、インターネット等) で必要な情報が入手できるから 2. 災害時に知りたい情報がないから 3. 必要な情報が探しにくいから 4. スマートフォン等では見にくいから 5. インターネットに接続できる環境がないから 6. 普段から災害情報を意識していないから 7. その他 (具体的に:)	→問 14 へ
--	---------

【問 14】 災害時にインターネットで、どのような情報をお知りになりたいかお答えください。(いくつでも)

1. 気象情報 (天気・警報/注意報・雨量・水位等) 2. 避難情報 (避難勧告・避難指示 (緊急) 等) 3. 避難所情報 4. 医療・救援情報 5. 交通・道路情報 6. ライフライン (電気・ガス・水道・電話通信) 情報 7. 被害情報 (詳細) : 文字による被害詳細情報 8. 被害情報 (概要) : 地図情報 9. ライブカメラ等の映像情報 10. 災害、天気に関するニュース 11. 県、市町からのお知らせ 12. その他 (具体的に:)
--

【問 15】 県では、大雨や洪水に関する注意報や警報発令等の気象情報や全国の地震情報等の防災情報を、「防災みえ.jp」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご存知ですか。(一つだけ)

1. メール配信の登録をしている 2. 知っているが、メール配信の登録はしていない 3. 以前にメール配信の登録をしていたが、やめた 4. 知らない

【問 15-1】 県では、大雨や洪水に関する注意報や警報発令等の気象情報や全国の地震情報等の防災情報を、「防災みえ.jp」の Twitter (ツイッター) で発信しています。あなたは、このことをご存知ですか。(一つだけ)

1. フォロワーになっている 2. 知っているが、フォロワーになっていない 3. 以前にフォロワーになっていたが、やめた 4. 知らない

【問 16】 気象や災害についての情報の入手先についてお尋ねします。【問 16-1】 現在どこから入手することが多いかお答えください。(「現在」欄に、該当するものを、いくつでも)

【問 16-2】 今後どこから入手したいかお答えください。(「今後」欄に、該当するものを、いくつでも)	現在 今後
1. テレビ 2. ラジオ 3. 新聞 4. 雑誌 5. 市町の防災行政無線 6. 県や市町の広報誌 7. インターネット (県の防災ホームページ「防災みえ.jp」) 8. インターネット (「防災みえ.jp」以外) 9. 携帯メール (「防災みえメール配信サービス」) 10. 携帯メール (「防災みえメール配信サービス」以外) 11. SNS (「防災みえ Twitter」) 12. SNS (Twitter/LINE/Facebook 等) (「防災みえ Twitter」以外) 13. 街頭の電光掲示板 14. 家族から 15. 友人、知人から 16. 町内会・自治会を通じて 17. 消防署・消防団を通じて 18. その他 (現在、入手している方法) (具体的に:) (今後、入手したい方法) (具体的に:) 19. (現在) どこからも入手していない (今後) 特に入手したいと思わない	選択肢

★避難場所・避難所についてお尋ねします。

【問 17】 あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存知ですか。(一つだけ)

1. 避難場所も避難所も知っている 2. 避難場所だけ知っている 3. 避難所だけ知っている 4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない 5. 知らない	→問 17-1 へ →問 18 へ
--	----------------------

【問 17-1】 問 17 で「1. 避難場所も避難所も知っている」、「2. 避難場所だけ知っている」、「3. 避難所だけ知っている」と回答された方にお尋ねします。
 あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度ご存知ですか。
 (一つだけ○)

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所のある無や通れないときの迂回路の有無等を知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

★地域・職場での防災活動についてお尋ねします。

【問 18】 あなたは、過去 1 年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問 19 の選択肢参照）に参加したことがありますか。(一つだけ○)

※ 今年の秋に開催される地域や職場の防災訓練等へ参加する予定がある場合は 1～3 に○をつけてください。

1. 地域の防災活動に参加した
2. 職場の防災活動に参加した
3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した
4. 参加していない

→問 19へ

→問 20へ

【問 19】 問 18 で「1. 地域の防災活動に参加した」、「2. 職場の防災活動に参加した」、「3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した」と答えた方にお尋ねします。
 あなたが参加した地域の防災活動は、どのようなものでしたか。(いくつでも○)

1. 避難訓練
2. 図上訓練
3. 夜間訓練
4. 消火訓練
5. 救出・救助訓練
6. 応急手当訓練
7. 炊き出し訓練
8. 連絡網を使用した情報伝達訓練
9. 介護を必要とする人の介助訓練
10. 研修会や講習会
11. 地域での話し合い
12. 避難所体験訓練または避難所運営訓練
13. 企業や事業所も一緒にあった防災活動
14. 災害ボランティアの受入訓練
15. その他（具体的に： _____）

→問 19-1へ

【問 19-1】 あなたが参加した地域や職場の防災活動は、防災意識の向上に役立ちましたか。(一つだけ○)

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

→問 21へ

【問 20】 問 18 で、「4. 参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたが防災活動に参加しなかった理由は何ですか。(一つだけ○)

1. 地域や職場での防災活動が実施されていないから
2. 防災活動の実施を知らなかったから
3. 防災活動の内容が毎年同じだから
4. 仕事や用事があり、都合が悪かったから
5. 関心がないから
6. その他（具体的に： _____）

→問 20-1へ

【問 20-1】 問 18 で、「4. 参加していない」と回答された方にお尋ねします。今後の地域の防災活動への参加についてはどのようにお考えですか。(一つだけ○)

1. これからは参加していききたい
2. 今の参加できない状況が変わり、参加できるようになれば参加していききたい
3. 当面は参加するつもりはない
4. その他（具体的に： _____）

【問 21】 あなたは、どういった防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。(いくつでも○)

1. 地域における非常連絡網の整備
2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
4. タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動
5. 地域の避難所を運営する訓練
6. その他（具体的に： _____）

【問 22】 地域の防災活動や防災対策について、地域の企業・事業所に期待することは何ですか。(いくつでも○)

1. 被災者の救援・救護
2. 避難誘導
3. 消火活動の援助
4. 飲料水の提供
5. 食料の提供
6. 生活用品の提供
7. 救援機材、工具の提供
8. 避難場所の提供
9. 駐車場の提供
10. 災害情報の提供
11. その他 (具体的に：)

【問 23】 あなたがお住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものがありますか。(いくつでも○)

1. 火災時の消火活動
2. 火災予防や防災意識向上のための啓発活動
3. 風水害時の水防活動
4. 応急手当等の普及啓発活動
5. 地域の消防訓練等の指導
6. 大規模災害時の救援・救護や避難誘導
7. ない
8. その他 (具体的に：)

【問 24】 あなたのお住まいの地域は、自主防災組織(町内会・自治会等を母体とした地域の住民が防災活動をする組織)がありますか。また、活動状況はどうですか。(一つだけ○)

1. ある (活発に活動している)
2. ある (あまり活発に活動していない)
3. ある (活動状況はよくわからない)
4. 自主防災組織がない
5. わからない

★学校の防災教育についてお尋ねします。

【問 25】 あなたのお住まいには、就学している児童生徒がいますか。(いくつでも○)

1. 小学生がいる
 2. 中学生がいる
 3. 高校生がいる
 4. いない
- 問 25-1へ
→問 25-2へ

【問 25-1】 三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し、これらの教材を学校で活用するよう要請する等、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたのお住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育について、あなたはどの程度ご存知ですか。(一つだけ○)
※ 複数の児童生徒がいる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
 2. 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
 3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
 4. 学校で防災教育が行われているかどうかかわからない
- 問 25-2へ

【問 25-2】 防災教育で、学校に特に力を入れて取り組んでほしいものは何ですか。(いくつでも○)

1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた地震や地震の被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフ地震や内陸直下型地震による、揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときの初動対応についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 局地的大雨や竜巻からの避難方法や危険な場所に近づかない等についての学習
7. 土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 地域の防災タウウンウォッチングや防災マップの作成
11. 救急・救命講習
12. その他 (具体的に：)

★防災啓発についてお尋ねします。

【問 26】 三重県や市町が取り組んでいる防災に関する啓発活動等についてどの程度ご存知ですか。(いくつでも○)

- 問 26-1へ
1. 防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある
 2. 地震体験車に乗ったことがある
 3. みえ防災・減災センターが公開した「みえ防災・減災アーカイブ」を見たことがある
 4. 「県政だより みえ」を閲覧・視聴している
 5. 1959年に発生した伊勢湾台風の災害を忘れないために制定した「みえ風水害対策の日(9月26日)」を知っている
 6. 1944年に発生した昭和東南海地震の災害を忘れないために制定した「みえ地震対策の日(12月7日)」を知っている

【問 26-1】 問 26で1~2に○を一つ以上付けられた方にお尋ねします。これら防災に関する啓発活動は、あなたの防災意識の向上に役立ちましたか。

防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある方 (一つだけ○)

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

「地震体験車」に乗ったことがある方 (一つだけ○)

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

★防災・減災の取組についてお尋ねします。

【問 27】 東日本大震災や紀伊半島大水害の発生を受け、三重県では防災・減災対策を県政の最重要課題に掲げて、国や市町等関係機関と連携しながらさまざまな取組を進めているところ です。

あなたは、どのようなときに、以前よりも防災・減災の取組が進んできたと感じましたか。(いくつでも○)

1. テレビや新聞で県や市町等の防災・減災施策に関する報道が増えたと感じたとき
2. 県や市町の広報誌等で防災・減災対策に関する取組を目的とする機会が増えたと感じたとき
3. 地域における防災講演会等の防災啓発イベントの開催頻度が増え、内容が充実してきたと感じたとき
4. 携帯電話等への緊急速報メールやインターネットによる情報発信が充実してきたと感じたとき
5. 避難路や避難所の整備、堤防の補強工事や河川改修等のハード整備が進んできたと感じたとき
6. その他(具体的に：)
7. あまり取組が進んだとは思わない

～あなたのお住まいの耐震化について～

【問 28】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ○)

※ 増築等がある場合は、一番古い建物でお答えください。

1. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家) →問 29 へ
2. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造以外の家) →問 30 へ
3. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 6 月以降に敷地内で建て替えた)
4. 一戸建ての持ち家・借家 (昭和 56 年 6 月以降に新たな敷地に新築)
5. アパート・マンション等の集合住宅 →問 36 へ

【問 29】 県及び市町では、昭和 56 年 5 月 31 日以前に建築された (着工を含む) 木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度をご存知ですか。(いくつでも○)

1. 耐震補強費用への補助 (無料耐震診断)
2. 耐震補強設計費用への補助
3. 耐震補強工事費用への補助 (リフォーム工事補助を含む)
4. どれも知らない

【問 30】 あなたのご自宅 (同じ敷地内で建て替えを行った場合、建て替え前の住宅を含む、借家も含む) は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。(一つだけ○)

1. 受けたことがない →問 30-1 へ
2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された →問 30-2 へ
3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった →問 36 へ

【問 30-1】 問 30 で、「1. (耐震診断を) 受けたことがない」と回答された方にお尋ねします。耐震診断を受けない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 近く建て替える予定だから (予定だったから)
2. 耐震化しても大地震の被害は避けられないと思うから
3. 診断を受けなくても地震に弱いことがわかっているから
4. 診断を受けなくても地震に強いことがわかっているから
5. 手間がかかると
6. 部屋の中を見られるのがいやだから
7. 診断費用がかかるから
8. 診断の結果、補強が必要になっても費用が出せないから
9. 当分の間大地震は起きないと思うから
10. 診断の受け方がわからないから
11. 借家だから
12. 耐震診断を受けずに補強工事を行ったから
13. その他 (具体的に：)

→問 36 へ

→問 31-1、問 31-2 へ

→問 36 へ

【問 30-2】 問 30 で「2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

1. 補強工事を行った →問 31 へ
2. 建て替えた →問 36 へ
3. 補強設計のみ行った
4. 現在検討中 →問 32 へ
5. 工事を行うつもりはない

【問 31】 問 30-2 で、「1. 補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事に対する行政の補助制度を利用されたか。(一つだけ○)

1. はい →問 36 へ
2. いいえ →問 31-1 へ

【問 31-1】 問 30-1 で「12. 耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 31 で、「2. いいえ」と回答された方にお尋ねします。どのような耐震補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した →問 31-2 へ
2. 建物の一部のみを補強した
3. 分からない →問 36 へ

【問 31-2】 問 30-1 で「12. 耐震診断を受けずに補強工事を行った」、問 31-1 で、「1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、「2. 建物の一部のみを補強した」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事はいくらかかりましたか。(一つだけ○)

1. 50 万円まで →問 36 へ
2. 100 万円まで
3. 150 万円まで
4. 200 万円まで
5. 300 万円まで
6. それ以上 () 万円位

【問 32】 問 30-2 で「4. 現在検討中」、「5. 工事を行うつもりはない」と答えた方にお尋ねします。耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 補強工事に多額な費用がかかるから →問 33、問 34 へ
2. 補強設計に多額な費用がかかるから
3. 耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから
4. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから
5. 手間がかかるから
6. その他 (具体的に：)

→問 36 へ

【問 33】 問 32 で「1. 補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方にお尋ねします。自己負担がいくら位までならご自宅の耐震補強を行いますか。(一つだけ○)

1. 50 万円まで
2. 100 万円まで
3. 150 万円まで
4. 200 万円まで
5. 300 万円まで
6. それ以上 (万円まで)

【問 34】 問 32 で「1. 補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方にお尋ねします。建物全体の安全性は劣るものの建物の一部分(例えば壁 1 枚のみ)を耐震補強することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いますか。(一つだけ○)

1. 建物の一部分の補強工事に費用がかかる費用があれば、実施したい → 問 35 へ
2. 建物の一部分でも補強工事に費用がかかるため、実施しない → 問 36 へ

【問 35】 問 34 で、「1. 建物の一部分の補強工事に費用がかかる費用が安価であれば実施したい」と回答された方にお尋ねします。自己負担がいくら位までならご自宅の耐震補強工事を行いますか。(一つだけ○)

1. 50 万円まで
2. 100 万円まで
3. 150 万円まで
4. 200 万円まで
5. 300 万円まで
6. それ以上 (万円まで)

【問 36】 あなたは、どのような取組が住まいの耐震化を進めるにあたって効果が大きいと思いますか。(いくつでも○)

1. 耐震化の必要性の PR (例：自分だけの問題ではなく、周りの住民等に深刻な迷惑をかける結果になること等)
2. 低金利資金による貸付
3. 専門家の派遣
4. 相談窓口の設置
5. 耐震補強工事に対する助成制度の拡充
6. アパート等の家主に対する指導
7. 地域ごとの説明会の実施
8. その他 (具体的に：)

○以下の項目に関してご意見、ご要望等がございましたらご自由にお書きください。

<p>■地震・津波対策について</p>	
<p>■風水害対策について</p>	
<p>■避難について</p>	
<p>■防災に関する啓発活動について</p>	
<p>■その他 (例：地域や企業の防災活動、災害時保護者対策、災害時の廃棄物処理等)</p>	

★ご協力ありがとうございました。
10月20日(金)までに、同封の返信用封筒(切手不要)に入れてご投函ください。

報告書名 平成 29 年度 防災に関する県民意識調査報告書

発行年月 平成 30 年 3 月

発行者 三重県防災対策部 防災企画・地域支援課

〒514-8570 津市広明町 13 番地

TEL 059-224-2184

FAX 059-224-2199

e-mail bosai@pref.mie.jp